

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	AIP5060E
Course Name	Colloquium II
Instructor	TAKADA Hirofumi／高田 寛文
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Fri 金／5
Credits	1

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

In this course, students in the ASEAN Initiatives Program will be provided with an opportunity to listen and discuss various topics in public administration and public policies with young government leaders and frontrunners in various fields, with the objectives of furnishing the students with profound knowledge and understanding on policy issues viewed from a broad perspective.

[Course Goals]

- Students can enlarge their knowledge and understanding on a wide range of public policy issues faced by Japanese society and economy.
- Students can also acquire leadership capability through encounters with leading professionals in government and other fields.

[Related Diploma Policy (DP)]

ASEAN Initiatives Program (AIP):

2. Ability to play an active role as a national leader in their country and ASEAN

2. Course Outline :

Each class will consist of one-hour lecture and half-hour discussion session.

Topics of each class will be provided by the respective guest speakers, and mainly focused on organizational structure, missions, issues and challenges of their organizations.

For the Spring term of AY2023, guest speakers are invited from Ministry of Economy, Trade and Industry, Board of Audit, Ministry of Internal Affairs and Communications, Ministry of Defense, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism. There are also a lecture by an expert in international economy, and a wrap-up lecture by the lecturer in the final class.

[Out-of-class Learning]

In principle, lecture materials will be distributed in advance of each class, and students have to read and learn the outline features of the topic.

After each class, students must review the materials of the class and, when necessary, refer to the additional materials to deepen understanding of the topics.

Students are also required to submit a report that summarizes and discusses the content of a lecture from a comparative and leadership perspective.

3. Grading :

Pass/Fail

[Grading Criteria]

Pass: Actively contribute to class discussion, and present understanding on class content in individual report.

Fail: Not contribute to class discussion, and cannot present understanding on class content in individual report

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1: Required

No required textbooks.

Handouts will be prepared by the lecturers.

4-2: Others

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	CUL1010J
授業名	文化産業と政策
担当者	TABUCHI Helga／田渕 エルガ
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Fri 金／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

国や地域において文化がもたらす価値や効用への期待が高まっていることを背景に、文化に関わる政策の意義・目的、運用、動向や課題について歴史的・国際的な視野も含めて学ぶ。文化に関わる政策は、文化そのものの振興を目的とするものから、文化を通じた産業振興や地域振興といった政策目的をもつものまで、多面的である。この授業では、営利か非営利かを問わず、主として経済活動として行われる文化活動を文化産業と整理し、これを対象とする政策と文化活動の実践との関わりについて広く考察する力を身につける。中央省庁の政策立案担当者を講師に招き、政策目的や手法、効果、課題などについて講義を受け、討論する。学期後半以降に履修者による発表と質疑を行う。

【到達目標】

- ・文化活動を支える政策の目的や手法を理解し、説明することができる
- ・文化活動を実践する上での課題と政策との関わりについて説明することができる

【関連するディプロマ・ポリシー】

文化産業・地域創造コース ディプロマ・ポリシー

- ①文化に関わる企画立案に関し必要な専門的知識を身に付け、事象を的確に分析して課題を抽出し、効果的な対応や実践に向けた提言を組み立てることができる能力
- ③定量的・定性的データ等も活用しつつ、文化に関わる課題に関する対応や実践に向けた提言について、説得力を持って説明ができる能力

2. 各授業のテーマ：

第1回	4月4日	オリエンテーション・序論（本授業の位置づけ・目的、対象範囲、進め方等について説明）
第2回	4月11日	日本の文化政策の概観
第3回	4月18日	文化産業政策の概観（中央省庁の政策立案担当者が特別講師として参加予定）
第4回	4月25日	地域振興政策における文化の役割（中央省庁の政策立案担当者が特別講師として参加予定）
第5回	5月2日	観光資源としての文化（中央省庁の政策立案担当者が特別講師として参加予定）
第6回	5月9日	まちづくり政策における文化の位置づけ（中央省庁の政策立案担当者が特別講師として参加予定）
第7回	5月16日	クールジャパン政策（中央省庁の政策立案担当者が特別講師として参加予定）
第8回	5月23日	食文化の振興と食料・農業・農村政策（中央省庁の政策立案担当者が特別講師として参加予定）

第9回	5月30日	文化産業とメディア政策（中央省庁の政策立案担当者が特別講師として参加予定）
第10回	6月6日	文化外交の概観（中央省庁の政策立案担当者が特別講師として参加予定）
第11回～ 第15回	6月13日 ～ 7月11日	履修者による発表 これまでの議論の総括

※ 講師の都合等により講義の内容・順番が変更となることがあり得る。

[授業外学修]

- ・ 参考文献・教材は事前に提示するので、講義に当たっては、あらかじめ目を通しておく。
- ・ 講義後は、復習により理解を定着させる。学期後半以降に履修者が選ぶ政策分野と実践課題との関わりについて、分析内容の発表を予定しているので、準備を進めるとともに、発表後の質疑も踏まえた内容をレポートとしてまとめ、学期末に提出する。

3. 成績の評価方法：

授業後半での発表 30%、発表内容をもとにしたレポート 40%、授業中の討議への貢献度 30%

[成績評価基準]

- A: 文化活動を支える政策の目的や現状を十分に理解し、実践課題との関わりについて論理的に説明することができる
- B: 文化活動を支える政策の目的や現状を理解し、実践課題との関わりについて説明することができる
- C: 文化活動を支える政策の目的や現状を概ね理解し、実践課題との関わりについて一定程度、説明することができる
- D: 文化活動を支える政策の目的や現状を最低限、理解し、実践課題との関わりについて最低限の説明をすることができる
- E: 文化活動を支える政策の目的や現状を理解しておらず、実践課題との関わりについて考察することができない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

毎回の授業で文献・教材を提示する

4-2:その他

河村健夫＝伊藤信太郎『文化芸術基本法の成立と文化政策』（水曜社、2018）

後藤和子＝勝浦正樹編『文化経済学：理論と実際を学ぶ』（有斐閣、2019）

デイヴィッド・スロスビー『文化政策の経済学』（ミネルヴァ書房、2014）

David Throsby, THE ECONOMICS OF CULTURAL POLICY, Cambridge University Press, 2010

小林真理編『文化政策の現在 1 文化政策の思想』（東京大学出版会、2018）

小林真理編『文化政策の現在 2 拡張する文化政策』（東京大学出版会、2018）

小林真理編『文化政策の現在 3 文化政策の展望』（東京大学出版会、2018）

河島伸子・生稲史彦編著『クリエイティブ・ジャパン戦略：文化産業の活性化を通して豊かな日本を創出する』（白桃書房、2024）

令和5年度 文部科学白書

(https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab202001/mext_02820.html)

文化芸術推進基本計画（第2期）－価値創造と社会・経済の活性化－（令和5年3月24日閣議決定）

(https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/hoshin/pdf/93856401_01.pdf)

新たなクールジャパン戦略（2024 年 6 月 4 日 知的財産戦略本部）

(https://www.cao.go.jp/cool_japan/aratana/pdf/honbun.pdf)

令和5年度「文化行政調査研究」文化芸術の経済的・社会的影響の数値評価に向けた調査研究

(https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/bunka_gyosei/pdf/94092701_01.pdf)
森田朗『現代の行政』（第一法規、2022）

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	CUL1020J
授業名	日本文化資源論
担当者	ASHIWA Yoshiko／足羽 與志子
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring, Summer 春、夏／Wed 水／5
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

本講義では、まず文化全般に共通する一般的特質、仕組み、影響を理解したうえで、とりわけグローバリゼーションとローカライゼーションが同時に進む現代における文化のあり方を、政治、外交、経済の側面から考える。次に、文化が日本の唯一無二の「資源」であることを確認し、日本文化の特殊性と世界に共通する普遍性を分析、さらにそれらを文化産業、外交、政策に繋ぐ方法を探る。

本講義は、講義に加えて演習形式を取る。各受講者が講義の最初に担当教員の指導を受け、それぞれの課題となるテーマを設定して、各自の研究を進めるゼミ形式を一部、取り入れる。講義での学びを生かしながら、課題の調査を行い、講義の後半では、その成果発表を行う。また後半は集中講義（夏学期）を行い、そこでは演習形式の文字以外のテキスト読解とディスカッションを重ね、さらに最後の方の講義では、それぞれの研究課題の調べた事柄について、研究発表を行うこととする。

価値創造である文化は、SDGsの根幹であることを理解する。文化に対する情熱を持ち、日本文化を唯一無二の「資源」として文化産業と地方創造をつなぎ、国内の活性化及び、日本発の文化事業に展開するアイディアと志を、受講生とともに養っていききたい。

[到達目標]

- ・文化の特性について、これまでの学識から深く、よく理解することができる。
- ・人間が関わるあらゆる事柄が文化に関わると捉え、例えば経済、政治、教育、外交等の分野に分断されている概念や行政が、実は文化に注目することで、連続した生活領域であること、そして文化活動とは価値創造そのものであることを理解することができる。
- ・日本の文化を既成概念に囚われることなく、広く、深く捉える自身の能力を養い、唯一無二の「資源」として、その特殊性と普遍性を正確に把握し、特定の文化を、文化産業と文化政策、そして地方創生に結びつける具体策を自らが立案する能力を身につけることができる。
- ・文化の活動は価値創造である。分断が進む世界で、特殊な文化のなかに、多くの人々が共通して感動する普遍性を探し当てることができれば、多文化主義が分断を招くことなく、相互理解の共生に繋がる。そのための知識、技法、配慮の一部を身につけることができる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

公共政策プログラム：文化産業・地域創造コース ディプロマ・ポリシー

- ①文化に関わる企画立案に関し必要な専門的知識を身に付け、事象を的確に分析して課題を抽出し、効果的な対応や実践に向けた提言を組み立てることができる能力
- ③定量的・定性的データ等も活用しつつ、文化に関わる課題に関する対応や実践に向けた提言について、説得力を持って説明ができる能力

2. 各授業のテーマ：

- 第1回 4/9 オリエンテーション 1（本講義の目的と進行について）
- 第2回 4/23 オリエンテーション 2（本講義の各自課題設定とスケジュール設定）
- 第3回 4/30 文化論1：文化の共通する属性
- 第4回 5/07 文化論2：文化、政治、外交
- 第5回 5/14 日本文化の特殊性と普遍性を探る 1 習合性と宗教性

- 第 6 回 5/21 日本文化の特性性と普遍性を探る 2
- 第 7 回 5/28 地方創生としての文化資源 実例 1
- 第 8 回 6/04 地方創生としての文化資源 実例 2
- 第 9 回 夏学期集中講義 第 1 日 8月4日 (予定) 演習 1
- 第10回 夏学期集中講義 第 1 日 8月4日 (予定) ディスカッション 1
- 第11回 夏学期集中講義 第 2 日 8月5日 (予定) 演習 2
- 第12回 夏学期集中講義 第 2 日 8月5日 (予定) ディスカッション 2
- 第13回 夏学期集中講義 第3日 8月6日 (予定) プレゼンテーション
- 第14回 夏学期集中講義 第3日 8月6日 (予定) プレゼンテーション
- 第15回 夏学期集中講義 第 3 日 8月6日 (予定) 総括

※事情により講義の内容・順番の変更もある。オリエンテーション時に日程の調整を行う。

[授業外学修]

- ・参考文献・教材は事前に提示する。また積極的に受講生が暮らす環境における文化活動の参与観察を行う。
- ・講義の最初で、教員との面談で設定した各自のテーマについて、それぞれ資料収集や調査を行い、講義の後半での発表の準備と、最終的に提出するレポートの作成に当たる。レポートの提出期限、方法等は講義中に指示する。

3. 成績の評価方法：

TBA

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

毎回の授業で文献・教材を提示する

4-2:その他

“Cultural Imperialism.” John Tomlinson, in the *Globalization Reader*, ed. Frank J. Lechner and John Boil, Blackwell, 2003. p.303-311.

Globalization of Culture. John Tomlinson, Polity Press, 1999

『苦海浄土』石牟礼道子 講談社文庫 2004

『文化とコミュニケーション』エドモンド・リーチ、青木保、宮坂敬造訳、紀伊國屋出版、1981

『すごい長崎：日本を創った「辺境の秘密」』下妻みどり、新潮社、2025

『戦争とプロパガンダ』エドワード・サイード、中野真紀子訳、みすず、2002

『容赦なき戦争』ジョン・ダワー、猿谷要監修、平凡社、2001

『日本宗教のクセ』釈哲宗、内田樹、みしま社、2023

『虚構のナチズム：「第三帝国と表現文化」

参考映像作品：「千と千尋の神隠し」「君たちはどう生きるのか」「SHOUGUN」「PERFECT DAYS」

その他：ソフトパワー系の入門書：例「文化立国論：日本のソフトパワーの底力」青柳正規、ちくま文庫、2015

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

Word, Excel 等 特別なソフトを使用する場合には講義中に指示する。

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

聴講は可能だが、他の履修者と同等のタスク（発表、レポート作成等）を行なうことを条件とする。
夏学期に集中講義が予定されているため、あらかじめの日程調整を確実にすること。

特段の事情で集中講義の一部の参加が難しい場合には、5月末までに申し出ること。

[戻る](#)

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	CUL1030J
授業名	文化産業と法制度
担当者	TABUCHI Helga／田渕 エルガ
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

〔本授業の概要〕

文化に関わる法制度には、国や国際社会の枠組における文化の位置づけや方向性を定めるもの、文化活動が行われる場やその運営に関するもの、文化財の保護に関するもの、文化活動を実施する者の保護やインセンティブの付与に関するものなどがある。この中には、文化活動のみを対象としたものではないものの、文化活動に関わる制度も含まれる。この授業は、営利か非営利かを問わず、主として経済活動として行われる文化活動を文化産業と整理し、これを対象とする法制度について理解を深め、今後の実務や研究に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。担当教員による講義と討論、事例を通じて、理論と実践を学ぶ。

〔到達目標〕

- ・文化に関わる法制度について、立法趣旨や制度の主たる内容、文化に関わる政策において果たす役割を理解する
- ・文化活動を実践する上での課題と法制度との関わりについて考察することができる

〔関連するディプロマ・ポリシー〕

文化産業・地域創造コース ディプロマ・ポリシー

- ①文化に関わる企画立案に関し必要な専門的知識を身に付け、事象を的確に分析して課題を抽出し、効果的な対応や実践に向けた提言を組み立てることができる能力
- ③定量的・定性的データ等も活用しつつ、文化に関わる課題に関する対応や実践に向けた提言について、説得力を持って説明ができる能力

2. 各授業のテーマ：

- 第1回 オリエンテーション・序論（本授業の位置づけ・目的、対象範囲、進め方等について説明）
- 第2回 文化産業に関わる法制度を俯瞰的に考察する
- 第3回 文化関連国際条約
- 第4回 文化に関わる基本的な法的枠組
- 第5回 公立文化施設と関連制度（博物館法、図書館法等）
- 第6回 公立文化施設と関連制度（指定管理者制度）
- 第7回 文化財保護
- 第8回 ユネスコ世界遺産
- 第9回 まちづくり関連制度
- 第10回 知的財産（著作権）
- 第11回 知的財産（商標、不正競争防止、地理的表示）
- 第12回 取引の適正化
- 第13回 メディア関連制度
- 第14回 文化関連税制
- 第15回 これまでの議論の総括

〔授業外学修〕

- ・参考文献・教材は事前に提示するので、講義に当たっては、あらかじめ目を通しておく。
- ・講義後は、復習により理解を定着させる。併せて、下記レポートの対象としてどの法制度を取り上げるかを検討し、当該法制度について理解を深める。

※ なお、講師の都合等により講義の内容・順番が変更となることがあり得る。

3. 成績の評価方法：

レポート 70%、授業中の発表・討議への貢献度 30%

[成績評価基準]

A: 文化産業に関わる法制度の趣旨や内容を十分に理解し、実践課題との関わりについて論理的に考察することができる

B: 文化産業に関わる法制度の趣旨や内容を十分に理解し、実践課題との関わりについて考察することができる

C: 文化産業に関わる法制度の趣旨や内容を概ね理解し、実践課題との関わりについて考察することができる

D: 文化産業に関わる法制度の趣旨や内容を最低限理解し、実践課題との関わりについて一定程度、考察することができる

E: 文化産業に関わる法制度の趣旨や内容を理解しておらず、実践課題との関わりについて考察できない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

毎回の授業で文献・教材を提示する

4-2:その他

後藤和子, 勝浦正樹編『文化経済学：理論と実際を学ぶ』（有斐閣、2019）

デイヴィッド・スロスビー『文化政策の経済学』（ミネルヴァ書房、2014）

David Throsby, The economics of cultural policy, Cambridge University Press, 2010

骨董通り法律事務所編『エンタテインメント法実務』（弘文堂、2021）

小林真理編『文化政策の思想』（東京大学出版会、2018）

小林真理編『拡張する文化政策』（東京大学出版会、2018）

小林真理編『文化政策の展望』（東京大学出版会、2018）

河村健夫＝伊藤信太郎『文化芸術基本法の成立と文化政策』（水曜社、2018）

河島伸子＝生稲史彦編著『クリエイティブ・ジャパン戦略：文化産業の活性化を通して豊かな日本を創出する』（白桃書房、2024）

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	DEV2040J
授業名	社会インフラと国土の政策論
担当者	IEDA Hitoshi／家田 仁
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／3
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本講義の概要】

人間の諸活動の基礎を担う国土とインフラというものの本質を探究するとともに、現代の課題と今後のあるべき方向性について広い視点に立って論じ、行政・民間企業・政界における行動者として、そして生活者・国民としても必須の現代的知見を養成する。なお、本講義では道路や公園などといったいわゆる「施設インフラ」のみならず、保険制度や金融制度など様々な「制度インフラ」や「国土・自然環境インフラ」、さらにはすべての基礎となる「理念インフラ」をも含めて「広義のインフラ」（即ち、社会を作って生きる人間が、外界と関わりながら社会的に創成・管理し、それを共同的に活用し、それに制約されながら行動する、そうした基盤をなす存在）として扱う。

【到達目標】

まず、第1部の「国土/インフラ原論」を通し、学生は国内外・歴史的視点を含めた俯瞰的視座から本質的ポイントを深掘りし、斯分野の原点に相当する見識を身につける。第2部の「現代の国土/インフラ各論」では、現代の重要課題やあるべき方向性について具体的題材を挙げてオムニバス講義で多面的に論じることにより、学生は俯瞰的知識を習得するとともに批判力を磨く。第3部の「総合ディスカッション」では、テーマを決めて学生を中心にグループディスカッションを行い、プロアクティブな討論力を養う。これらを通じて、社会インフラの基本的特性とその本質的課題に関する知識を習得し、なおかつ社会インフラをわがことに位置付けるメンタリティを身につける。なお、本講義では、講義における議論への履修者の積極的な参加・貢献を重視する。

【関連するディプロマポリシー】

公共政策プログラムインフラ政策コース①

公共政策プログラム防災・危機管理コース①②③

関連するディプロマポリシーは上記のとおりだが、本講義の内容は社会の構造とその課題に関わる汎用性・俯瞰性・統合性の高いものとなるよう設計しているので、上記コース以外の地域政策コースや総合政策コース、農業政策コースはじめ、本学のいずれの学生諸君にとっても得るところが多いものとなろう。

2. 各授業のテーマ：

第1部 国土/インフラ原論【家田仁】

4/8 1)人間社会と広義のインフラ

4/15 2)社会の基礎となる理念インフラ

4/22 3)社会科学とインフラの位置づけ

5/13 4)インフラの担い手論・組織論・民間力5/14 5)時間軸・不確実性・多元論と評価論

5/20 5)インフラの費用負担論

第2部 現代の国土/インフラ各論【オムニバス】

5/27 6) 「 未定 」 講師：塚田幸広（前土木学会専務理事・アジア航測）

6/3 7) 「地政学的視点から見たグローバルサプライチェーンの中の物流システム」講師：古市正彦（国際港湾協会・事務総長）

6/10 8) 「 未定 」 講師：山田邦博・客員教授

6/17 9) 「インフラ整備・インフラ経営と民間力」講師：富山和彦（経営共創基盤・グループ会長）

6/24 10) 「東日本大震災の教訓と防災」講師：徳山日出男・客員教授

7/1 11) 「社会課題の解決に貢献するインフラ政策」講師：徳山日出男・客員教授

7/8 12) 「社会インフラ整備の計画思想を探る」 家田仁

第3部 総合ディスカッション【家田仁】

7/15 13)インフラの水平展開と垂直展開（仮）

7/22 14)国土/インフラのマネジメントと国民の関係性（仮）

7/29 15)今後のインフラのあり方（仮）

【授業外学修】

各回ともに相応のディスカッションを行うが、テーマや論点は予め提示するので、履修者は各自適宜予習し自分なりの問題意識と考えを練っておくこと。また、講義中に紹介する文献や資料を自分で参照するなど復習しておくこと。そして、次の回の冒頭で行う「前回の振り返り」の際には各自身についているかどうかを確認すること。

3. 成績の評価方法：

第1部における講義ディスカッションへの参加・貢献度：計20点

第2部の7回の講義から2回分を選び、履修者が独自の論評を提出：計40点（採点は該当講師）

第3部におけるディスカッションへの参加・貢献度：計10点

最終レポート（7/23 出題）：計30点

【成績評価基準】

A 到達目標を高い水準で達成している

B 合格 到達目標を満足できる水準で達成している

C 合格 到達目標を概ね達成している

D 合格 到達目標を最低限の水準で達成している

E 不合格 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：（4-1:必携のテキスト 4-2:その他）

教科書は用いない。参考資料は講義でその都度紹介する。以下を施設インフラに関する入門図書として挙げておく。

中村英夫ほか「インフラストラクチャー概論」、日経BP社、2017年

中村英夫・家田仁編「東京のインフラストラクチャー」、技報堂

Hideo NAKAMURA, Kotaro NAGASAWA, et.al., "Principles of Infrastructure: Case Studies and Best Practices", Asian Development Bank Institute, 2019

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

必要に応じてZOOM及びTeamsを使用して、資料・情報の送受・共有を行う。

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

適宜、インストラクションを提供する。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	DEV2100E
Course Name	Transportation Planning and Policy
Instructor	HIBINO Naohiko／日比野 直彦
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Tue 火／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

In this course students will learn the fundamental principles of transportation planning and policy primarily focusing on railway, highway, and aviation. Topics to be covered include history of transportation network development, statistics, travel behavior analysis, demand forecast, and project evaluation. The course will also introduce students to recent research topics on transportation and tourism. In the second half of the course students will give group presentations based on the content of the lectures. All students should participate in the Q&A and class discussion following presentations.

[Course Goals]

*Students should understand basic terminology related to the course material.
Students should be able to explain the basics of transportation statistics.
Students should be able to discuss basic transportation issues and countermeasures.
Students should be able to understand fundamental quantitative analysis related to transportation planning and policy.
Students should be able to give presentations and handle Q&A on topics related to transportation.*

[Related Diploma Policy (DP)]

Public Policy Program, Infrastructure Policy Concentration: DP 1, 3, 4, and 5, AIP:DP1

2. Course Outline :

Part 1 – Course Lectures (Weeks 1-9)

Topics covered include: Issues in Transportation, Transportation Statistics, Demand Forecast, Travel Demand Modeling, Network Assignment, Intercity Transportation (HSR and Aviation), Tourism (Domestic and Inbound) etc.

Part 2 – Group Presentations and Discussions (Weeks 10-15)

One group will consist of 2-3 members. Each group will present on one topic assigned by the professor, and another transportation topic of their choice.

[Out-of-class Learning]

Pre-study

Part 1: Look over handouts before each course lecture

Part 2: Create presentation file and prepare for Q&A

Post-study

Review the basic terms and content of the previous lecture and prepare for short tests.

3. Grading :

1. Grading :

Presentations 50%
Q&A, Discussion 20%
Short Tests/Report 30%

[Grading Criteria]

A: Student has acquired sufficient basic knowledge and concepts of transportation planning and policy, and can explain how they work.

B: Student has acquired basic knowledge and concepts of transportation planning and policy, and can explain how they work.

C: Student has acquired basic knowledge and concepts of transportation planning and policy in general, and can explain how they work.

D: Student has acquired the minimum basic knowledge and concepts of transportation planning and policy, and can explain how they work.

E (Rejection): Student has not acquired the basic knowledge and concepts of transportation planning and policy, and cannot explain how they work.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

Moshe Ben-Akiva and Steven R.Lerman, Discrete Choice Analysis: Theory and Application to Travel Demand, The MIT Press, 1985.

Kenneth E.Train, Discrete Choice Methods with Simulation Second Edition, Cambridge University Press, 2009.

4-2:Others

Kenneth A. Small, Erik T. Verhoef et al., The Economics of Urban Transportation, Routledge, 2007

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	DMP8830E
Course Name	Advanced Hydrometeorology
Instructor	KOIKE Toshio, Rasmy Mohamed and USHIYAMA Tomoki／小池 俊雄, Rasmy Mohamed, 牛山 朋来
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

The objective of this subject is to establish a physical basis on the Earth's climate and weather systems and their prediction. This course introduces the hydro-meteorological processes associated with the energy and water cycle variability, and the numerical simulation of atmospheric dynamics including governing equations, weather forecasting, and data assimilation methodology. This course also introduces the several applications of numerical approaches for flood and drought forecasting as well as climate change projections. This course is related to the following SDGs: 6(Water and Sanitation), 11(Sustainable Cities and Communities and DRR), and 13(Climate Action).

[Related Diploma Policy (DP)] Disaster Management Program (DM) :

1. Ability to identify and delineate on-site problems by surveying the gap between the ideal state and the current state from multiple perspectives with the expertise in disaster management policies.
2. Ability to make maximum use of available tools, and/or develop new one to explore, collect, archive, search and integrate scientific data and information as well as information of experiences, including good practices and success/failure stories, and facilitate effective risk communications.
3. Ability to conduct policy analysis for problem solving based on academic analysis from multiple perspectives with the wide-range of knowledge on disaster management policies.
5. Ability to nurture creativity with which to help on-site stakeholders develop their ability to solve problems by themselves.

[Student Goals]

The aim of this course is to develop an understanding of the dynamics and physics of the earth climate system and of forecasting methods. Students will gain an understanding of the phenomena that cause water-related disasters and the effectiveness and limitations of forecasting methods, as well as the ability to use them to mitigate water-related disasters.

2. Course Outline :

- 15 lectures and 1 examination
- Students are requested to read the textbook before each class and make a short discussion about the assignments given after each class.

- (1) Climate system
- (2) Radiative processes
- (3) General circulations
- (4) Precipitation processes
- (5) Governing equations
 - 1)Equation for Mean Variables in a Laminar Flow
 - Ideal Gas Law and Conservation of Mass

- 2)Equation for Mean Variables in a Laminar Flow
 - Conservation of Momentum
- 3)Equation for Mean Variables in a Laminar Flow
 - Conservation of Moisture, Heat, and Scalar Quantity
- 4)Equation for Mean Variables in a Turbulent Flow
 - Ideal Gas Law and Conservation of Mass and Momentum
- 5)Equation for Mean Variables in a Turbulent Flow
 - Conservation of Moisture, Heat, and Scalar Quantity, and Simplification
- (6) Numerical Weather Prediction (NWP)
 - 1) General Circulation Models (GCMs) and regional climate modeling
 - 2) Data assimilation, cumulus parameterization.
- (7) Climate change
 - 1) Global warming and projections
 - 2) Dynamical downscaling and/or Bias correction methods
- (8) Flood forecasting
- (9) Drought forecasting

[Out-of-class Learning]

Read the lecture notes and related research papers distributed in this course in advance to understand the lecture outline and prepare questions to be asked. After the lecture, review the content and submit the assigned report by the due date. Students can learn about Advanced hydrometeorology by searching lecture notes and related research papers, and prepare themselves in relation to their own research objectives.

3. Grading :

Active discussion in the class (25%), Short Reports(25%), Final Examination(50%)

A: Good understanding of the Hydrometeorological processes and be able to discuss the mechanism and limitation of the numerical approaches for flood and drought forecasting.

B: Understanding of the Hydrometeorological processes and be able to discuss the mechanism and limitation of the numerical approaches for flood and drought forecasting.

C: Understanding of the basic Hydrometeorological processes and be able to discuss the basic mechanism and limitation of the numerical approaches for flood and drought forecasting.

D: Understanding of the minimum Hydrometeorological processes and be able to discuss minimum level of the numerical approaches for flood and drought forecasting.

E: Do not understand the minimum Hydrometeorological processes and be unable to discuss minimum level of the numerical approaches for flood and drought forecasting.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

J.R.Holton: An Introduction to Dynamic Meteorology, Academic Press.

Roland B.Stull: An Introduction to Boundary Layer Meteorology, KLUWER ACADEMIC PUBLISHERS.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

[Back](#)

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	DMP8840E
Course Name	Advanced Hydrodynamics
Instructor	HARADA Daisuke／原田 大輔
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

Course Description

The goal of this course is to understand hydrodynamics through a numerical model. This course provides river morphology as a basic understanding of sediment hydraulics, mathematical tool as well as technique of numerical simulation. Then students learn depth integrated 2D governing equations to understand sediment transport in river flow. Finally, they learn about sediment transport processes in watersheds.

In terms of policy implementation, students acquire skills such as 1) making maximum use of the tools learned in this lecture and developing new ones for future implementation in the students target area, 2) making policy recommendations for practical and on-the-ground solutions based on a deep understanding of the current state of theory and practice, and finally 3) fostering creativity with which to help on-the-ground stakeholders develop their ability to solve problems on their own.

[Related Diploma Policy (DP)] Disaster Management Program (DM) :

1. Ability to identify and delineate on-site problems by surveying the gap between the ideal state and the current state from multiple perspectives with the expertise in disaster management policies.
2. Ability to make maximum use of available tools, and/or develop new one to explore, collect, archive, search and integrate scientific data and information as well as information of experiences, including good practices and success/failure stories, and facilitate effective risk communications.
3. Ability to conduct policy analysis for problem solving based on academic analysis from multiple perspectives with the wide-range of knowledge on disaster management policies.
5. Ability to nurture creativity with which to help on-site stakeholders develop their ability to solve problems by themselves.

[Achievement]

By the end of this course, students will be able to achieve the following goals.:

- Understanding the types of sand waves depending on the shear stress
- Understanding the different types of sediment transport equations
- Understanding the equations, which is implemented in the numerical model: e.g., Nays2DH or etc

2. Course Outline :

1. River morphology
 - Characteristics of sand waves (1)(2)(3)
 - Hydraulic resistance on the alluvial channels (4)(5)
 - Characteristics of sand bars and braided channel (6)(7)
2. Mathematical tool to integrate partial differential equations
 - Leibniz rule and its simplification, etc (8)
3. Depth-integrated 2D governing equations to describe flood flow and sediment transportation

- An equation set to evaluate depth integrated 2D-flow, sediment transportation and bed variation
- Parameters associated with sediment transportation (9) (10)
4. Governing equations described in terms of several grid systems
 - Cartesian coordinate system (11)
 - General grid system (General coordinate system) (12)
 5. Sediment transport process in drainage basins (13)
 6. Review and Discussion of current topics about Hydrodynamics (14)(15)

[Out-of-class Learning]

Read the lecture notes and related research papers distributed in this course in advance to understand the lecture outline and prepare questions to be asked. After the lecture, review the content and submit the assigned report by the due date. Students can learn about Advanced hydrometeorology by searching lecture notes and related research papers, and prepare themselves in relation to their own research objectives.

3. Grading :

- 50 points for reports and short quizzes
 - 50 points for the examination at the end of semester
 - A: Acquire sufficient basic knowledge and concepts of Hydrodynamics, and can explain how it works.
B: Acquire basic knowledge and concepts of Hydrodynamics, and can explain how it works.
C: Acquire basic knowledge and concepts of Hydrodynamics in general, and can explain how it works.
D: Acquire the minimum basic knowledge and concepts of Hydrodynamics, and can explain how it works.
 - E: Not acquire the basic knowledge and concepts of Hydrodynamics, and cannot explain how it works.
- Rejection.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1 Required

Yorozuya, A. (2016):Advanced Hydrodynamics, Lecture Note

4-2 Others

Egashira, S. (2009): Mechanics of Sediment Transportation and River Changes, Lecture Note.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	DRM2000J
授業名	防災と復旧・復興
担当者	MUROTA Tetsuo, YAMAGUCHI Shinji／室田 哲男, 山口 真司
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Mon 月／4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

講義形式を基本とするが、受講者の意見発表等の機会も設けながら授業を進める。

防災と復旧・復興の意義、基本的考え方、法制度、組織・体制、計画、災害対策のフェーズ毎の対応の枠組み等の現状と課題について多角的に学び、実効性のある仕組みや政策を考える。その際、過去の様々な災害対応事例を取上げ、多角的に防災と復旧・復興の在り方を考えることにより、課題を発見・把握し、解決策を示す能力を身に付ける。

以上を通じ、防災と復旧・復興に関する政策の企画・立案・実施の能力を養う。

【到達目標】

- ・防災と復旧・復興について体系的に理解し、論理的に説明できる。
- ・防災と復旧・復興の在り方について課題を発見・把握のうえ、解決策を提示できる。

【関連するディプロマポリシー】

公共政策プログラム防災・危機管理コースディプロマポリシー①②③

2. 各授業のテーマ：

第1回 防災概論（防災・減災・レジリエンスの意義・概念、防災の基本理念（組織間連携、自助・共助・公助、ハード・ソフト対策の組合せ、フェーズフリーの考え方等））

第2回 災害対策法制（災害対策法制の体系、災害対策基本法・災害救助法の目的・概要と課題、国・地方間関係の特徴と課題）

第3回 防災計画（防災計画の体系、防災基本計画・防災業務計画の役割・特徴・構成、地域防災計画の構成・被害想定と減災目標・課題・作成上の留意点）

第4回 災害事前対策（災害に強いまちづくり、地域防災力の強化、災害予防対策、自治体の災害対応力強化の内容と留意事項）

第5回 災害応急対策(初動期)（災害情報の収集・分析・伝達・共有、災害対策本部の設置・運営、避難情報の発令等の内容と留意事項、初動対応の問題事例）

第6回 被災者支援、復旧・復興（被災者支援の内容と課題、ボランティアの受入れ・支援体制構築の現状と課題、復旧・復興の理念の確立、復興計画の意義・策定の留意点）

第7回 災害リスクコミュニケーション（災害リスクコミュニケーションの意義・手段・あり方・取組事例、住民の避難行動の課題、報道対応の留意点と課題）

第8回 自助・共助・公助と地域防災力の強化（自助・共助・公助の概念・取組事例、地域防災力の意義・概念、消防団・自主防災組織の現状と課題）

第9回 自然災害対応の基本

自然災害対策の基本となる被害想定や災害対応手法の基本的な内容について学ぶ

第10回 土砂災害における復旧・復興

激甚な土砂災害後の復旧復興の取り組みと現状について、近年の大規模土砂災害があった地域を事例として学ぶ

第11回 広域氾濫被害のその後

広域氾濫後の復旧復興の取り組みと現状について、近年の大規模氾濫があった流域を事例として学ぶ

第12回 地震災害からの復興

東北地方太平洋沖地震を中心とした地震災害からの復興の実際について学ぶ

第13回 災害サイクルマネジメントに沿った復旧・復興の実際

H30西日本豪雨等における運用実例を災害マネジメントサイクルに沿って説明し、運用と課題について学ぶ

第14回 災害復旧に対応する建設業の現状と課題

災害発生現場で実際に復旧・復興に携わる建設産業について、災害対応の根拠及び現状と課題について学ぶ

第15回 被害想定計画と対応の実践

被害想定計画の策定の考え方と災害対応の実践と課題について具体的事例を通じて学ぶ

【授業外学習】

- ・各授業前に講義資料を配布するので、資料を読んでおくこと。
- ・授業後は講義内容を復習し、レポートを2回提出すること。
- ・第1回～8回授業に係るもの(第8回の授業後に提出)
- ・第9回～15回授業に係るもの(第15回の授業後に提出)

3. 成績の評価方法：

・成績は、授業における意見表明・討議評価点を30%、レポート評価点を70%として算定する。レポートについては、授業の中で連絡する。

・4回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

【成績評価基準】

A(合格)：防災と復旧・復興について十分に理解し、的確に課題を発見・把握のうえ、独自の視点に立った実効性の高い解決策を提示できる。

B(合格)：防災と復旧・復興について理解し、的確に課題を発見・把握のうえ、実効性の高い解決策を提示できる。

C(合格)：防災と復旧・復興について概ね理解し、概ね的確に課題を発見・把握のうえ、解決策を提示できる。

D(合格)：防災と復旧・復興について最低限の理解をし、課題を発見・把握のうえ、解決策を提示できる。

E(不合格)：防災と復旧・復興について理解できておらず、課題の発見・把握、解決策の提示ができない。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

講義においては、テーマに応じ資料を配布し、それをもとに授業を行う。

4-2：その他の参考文献：

- ・室田哲男「自治体の災害初動対応—近年の災害対応の教訓を生かす—」近代消防社、2018
- ・片田敏孝「人に寄り添う防災」集英社新書、2020
- ・片田敏孝「人が死なない防災」集英社新書、2012
- ・目黒公郎「首都直下地震 国難災害に備える」旬報社、2023
- ・越野修三「自衛隊式 自治体の危機管理術」ぎょうせい、2020
- ・Nims Incident Command System Field Guide
- ・高橋和雄編「東日本大震災の復興に向けて」古今書院、2012
- ・建設未来研究会、日経コンストラクション、日経クロステック編「建設未来への挑戦 国土づくりを担うプロフェッショナルたちの経験」日経BP、2024

なお、以上の他の参考文献があれば、授業の中で適宜提示する。

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

生成AIによる生成物をそのまま自己の成果物として提出することは認められない。ただし、足りない視点を見つけ考察を深める等の目的で活用することは問題ない。

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

第1回～第8回は室田が、第9回～第15回は山口が担当する予定となっている。なお、変更があれば、その都度連絡する。

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	DRM3000J
授業名	災害対策各論 I
担当者	YAMAGUCHI Shinji／山口 真司
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／2
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

自然災害が多発する我が国においては、防災対策の実効性を高めるためには、まず各種の災害ごとに対応すべき現象及びその対応を理解することが必要である。そこで、本校教員及び防災政策に関わっている省庁や関係団体職員などの講師により、近年の災害状況をふまえた施策の動向や一般的な対応方策について、災害をもたらす現象ごとにできるだけ実現象についての資料を用いた講義により、主要な自然災害現象とその対応手法について学ぶ。その際、受講生が自分の担当している地域で発生している自然災害の実状と対応について考えることにより、対応に向けた課題の発見が可能となる種々の自然災害全般に対する知識や判断能力を身に付ける。こうした講義を通じて、種々の自然災害全般に対する基本的な知識、判断能力を身に付け、より合理的な災害対応が可能となる施策提案に向け、課題の提示ができる能力を養う。

【到達目標】

自然災害全般に対する基本知識を理解し、災害特性を踏まえた災害対応手法について課題の発見し考察・提示することができる。

【関連するディプロマ・ポリシー】

公共政策プログラム：防災・危機管理コースディプロマポリシー①②③

2. 各授業のテーマ：

第1回 災害対策概論(1)

我が国では豪雨、火山噴火、地震等の自然現象に伴って多様な災害が発生する。その自然災害の概要について学ぶ。

第2回 災害対策概論(2)

自然災害が頻発する日本における防災の基本的視点について学ぶ。

第3回 防災行政と政策

自然災害に対する防災事業（ハード対策・ソフト対策）について、時代の要請を概観しつつその推移について学ぶ。

第4回 気象災害と情報

豪雨、風、雪、竜巻などの気象災害のメカニズムと一般的な防災情報について学ぶ。

第5回 河川計画（河川氾濫）

豪雨に伴って発生する水害の実態及び対策を行うための河川計画論の基本について、具体的な災害事例をふまえて学ぶ。

第6回 水災害と水防行政

我が国で頻発する水災害の経験を踏まえて講じられてきた水防行政の取組の変遷について、具体的な災害事例をふまえて学ぶ。

第7回 砂防の歴史と法律

土砂災害対策である砂防の歴史を紹介し、我が国の土砂災害対策に必要とされた、ハード・ソフト両面の4つの法律の大枠について学ぶ。

第8回 豪雨に伴う土砂災害（土石流等）

豪雨に伴って発生する土石流災害や洪水時に多量の土砂が流れることに伴う河床上昇による災害について、そのメカニズムと一般的な対策について学ぶ。

第9回 地震に伴う土砂災害

地震によって発生する土砂災害について、発生現象、その危険度及び一般的な対策について学ぶ。

第10回 深層崩壊と天然ダム、土砂・洪水氾濫

気候変動による大雨によって発生することが多くなった深層崩壊とそれによって形成される天然ダム、土砂・洪水氾濫について学ぶ。

第11回 砂防計画

豪雨、地震、火山噴火等様々な誘因で発生する土砂災害への対策を行うための砂防計画論について、近年の災害を踏まえつつ学ぶ。

第12回 地すべり対策

地すべりは被害の発生形態が間欠的であったり発生原因の特定が困難なケースがあるので、専門的な調査や複合的な対策を含めた総合的な対応方法について学ぶ。

第13回 土砂災害防止法

土砂災害へのソフト対策を行うための土砂災害防止法について、その概要と課題について学ぶ。

第14回 植生と土砂災害

主に山地や自然斜面で発生する土砂災害に対して、植生の存在がどのような影響を与えるのかについて学ぶ。

第15回 複合災害

近年、1回の現象で被害が広域・連鎖化する、災害後に新たな災害が発生し復旧・復興に支障をきたす等の複合災害が顕著になっている。その複合災害の概要について学ぶ。

なお、評価の対象とするレポートについては、全講義終了後に実施する。

【授業外学修】

全授業を通じた授業外学習として学習として、各授業前に講義資料を配布するので授業範囲を予習し、専門用語を理解しておくこと。授業後は授業内容を復習し、レポートを1回提出すること。

3. 成績の評価方法：

- ・成績は、授業における意見表明・討議評価点を30%、レポート評価点を70%として算定する。
- ・4回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

【成績評価基準】

A 90-100 (合格)：自然災害の基本的な知識と対応への考え方を十分に修得し、的確に課題の発見及び独自の視点に立った実効性の高い解決策を提示できる。

B 80-89 (合格)：自然災害の基本的な知識と対応への考え方を修得し、的確に課題の発見及び実効性の高い解決策を提示できる。

C 70-79 (合格)：自然災害の基本的な知識と対応への考え方を概ね修得し、概ね的確に課題の発見及び解決策を提示できる。

D 60-69 (合格)：自然災害の基本的な知識と対応への考え方を最低限修得し、課題の発見及び解決策を提示できる。

E 0-59 (不合格)：自然災害の基本的な知識と対応への考え方を修得できておらず、課題の発見及び解決策の提示ができない。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

講義においては、テーマに応じ資料を事前配布し、それをもとに授業を行う。

4-2:その他

- ・「日本に住むための必須!! 防災知識 中学・高校・一般向け」土木学会
- ・虫明攻臣、太田猛彦監修「ダムと緑のダム」日経BP、2019
- ・“Sabo in Japan” JAPAN SABO ASSOCIATION, 2018

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

なし

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

受講者の予習成果を講義の材料とする場合がある。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	DRM3020J
授業名	危機管理政策
担当者	MUROTA Tetsuo, KAWAMURA Kazunori／室田 哲男, 河村 和徳
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Wed 水／4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

講義形式を基本とするが、受講者の意見発表等の機会も設けながら授業を進める。

（第1回～第8回）

巨大災害、国民保護、感染症対策、原子力災害対策等における危機管理について、意義、基本的考え方、法的枠組み、組織・体制、対処フォーマット等の現状と課題を学び、実効性のある仕組みや政策を考える。その際、過去の様々な危機事象を取上げ、多角的に危機管理の在り方を考えることにより、課題を発見・把握し、解決策を示す能力を身に付ける。

【到達目標】

- ・危機管理政策について体系的に理解し、論理的に説明できる。
- ・危機管理政策の在り方について、課題を発見・把握のうえ、解決策を提示できる。

【関連するディプロマポリシー】

公共政策プログラム防災・危機管理コースディプロマポリシー①③

（第9回～第15回）

東日本大震災から見た日本の政治・行政の特徴を把握するとともに、被災地における復旧・復興過程における課題、被災地における住民意識などについて学ぶ。

【到達目標】

- ・被災地の現状と課題を理解し、論理的に説明できる。
- ・住民との協働による復興の在り方について、課題を提示することができる。

【関連するディプロマポリシー】

公共政策プログラム防災・危機管理コースディプロマポリシー②

以上を通じ、危機管理に関する政策の企画・立案・実施の能力を養う。

2. 各授業のテーマ：

第 1 回：危機管理概論①（リスク・クライシスの概念、危機管理の概念、危機管理（事前対策段階）の流れ・ポイント）

第 2 回：危機管理概論②（危機管理（応急対応段階）の流れ・ポイント、オールハザードアプローチと災害対応標準化、リスク認知、リスクコミュニケーション）

第 3 回：危機管理法制と緊急事態条項（危機管理法制の体系、主な危機管理法制の制定の背景・目的・概要、比較・相違点、緊急事態条項）

第 4 回：危機管理の組織・体制（危機管理組織の在り方・求められる機能、政府の危機管理組織・体制、自治体の危機管理組織・体制）

第 5 回：巨大災害と危機管理（南海トラフ巨大地震・首都直下地震・首都圏大規模水害等のリスク・被害想定・対策の考え方）

第 6 回：国民保護（国民保護の概念、国民保護法の制定の背景・目的・概要、Jアラート、国民保護訓練、危機管理のポイント）

第 7 回：新型コロナウイルス感染症と危機管理（新型コロナウイルス感染症対策の経緯・概要、危機管理の視点から見た課題、新型インフルエンザ等対策特別措置法の概要・課題）

第 8 回：原子力災害と危機管理（放射線、原子力発電所等に関する基礎知識、原子力災害対策の制度・概要、地域防災計画・避難計画）

第 9 回：震災対応に対する評価と民主制下における災害対応・復興の課題（多数決民主主義・市場経済を前提に

した場合の課題、マクロ・メゾ、ミクロで異なってくる政策評価)

第 10 回：東日本大震災からみた日本の中央地方関係（市町村第一主義による危機対応、中央集権的な被災地支援）

第 11 回：東日本大震災からみた市町村合併・広域行政（非常時における自治体の規模、平時の広域行政が抱える災害対応の課題、災害支援協定の課題）

第 12 回：復旧・復興に対する力の支援・知恵の支援（ボランティアによる支援の意義、長期的な視野でのNPO等による被災地支援）

第 13 回：被災地における「足」の確保と復旧への課題（道路の強靱化、鉄道の復旧における合意形成、カーシェアなどの課題）

第 14 回：復旧・復興を遅らせるもの（住民参加）（熟議による復興計画作成の意義と課題、住民参加の形態による復旧・復興のスピード感の違い、意向調査を実施する問題点）

第 15 回：復旧・復興を遅らせるもの（訓練された無能力）（公務員制度の抱える宿痼、平時の行政過程を非常時に用いる際の留意点）

【授業外学習】

- ・各授業前に講義資料を配布するので、資料を読んでおくこと。
- ・授業後は講義内容を復習し、レポートを2回提出すること。
- ・第1回～8回授業に係るもの(第8回の授業後に提出)
- ・第9回～15回授業に係るもの(第15回の授業後に提出)

3. 成績の評価方法：

- ・成績は、授業における意見表明・討議の評価点を30%、レポートの評価点を70%として算定する。レポートについては、授業の中で連絡する。
- ・4回以上欠席した場合は成績評価の対象としない。

【成績評価基準】

A(合格)：危機管理政策について十分に理解し、的確に課題を発見・把握のうえ、独自の視点に立った実効性の高い解決策を提示できる。

B(合格)：危機管理政策について理解し、的確に課題を発見・把握のうえ、実効性の高い解決策を提示できる。

C(合格)：危機管理政策について概ね理解し、概ね的確に課題を発見・把握のうえ、解決策を提示できる。

D(合格)：危機管理政策について最低限の理解をし、課題を発見・把握のうえ、解決策を提示できる。

E(不合格)：危機管理政策について理解できておらず、課題の発見・把握、解決策の提示ができない。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

講義においては、テーマに応じ資料を配布し、それをもとに授業を行う。

(4-2：その他の参考文献)

- ・ 室田哲男「自治体の災害初動対応」近代消防社、2018
- ・ 室田哲男「国難災害と緊急消防援助隊」近代消防社、2022
- ・ 林春男、危機対応標準化委員会編「世界に通じる危機対応」日本規格協会、2014
- ・ 伊藤哲朗「国家の危機管理」ぎょうせい、2014
- ・ 武田康裕「論究 日本の危機管理体制」芙蓉書房出版、2020
- ・ Samuels, R. J. 2013. 3.11: Disaster and Change in Japan. Cornell University Press.
- ・ Aldrich, D. P. 2012. Building Resilience: Social Capital in Post-Disaster Recovery. The University of Chicago Press.
- ・ 村松岐夫・恒川恵市〔監修〕辻中豊〔編〕『大震災に学ぶ社会科学第1巻 政治過程と政策』東洋経済新報社、2016
- ・ 河村和徳「東日本大震災と地方自治」ぎょうせい、2014

なお、以上の他の参考文献があれば、授業の中で適宜提示する。

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

生成AIによる生成物をそのまま自己の成果物として提出することは認められない。ただし、足りない視点を見つけ考察を深める等の目的で活用することは問題ない。

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

第1回～第8回は室田が、第9回～第15回は河村が担当する予定となっている。なお、変更があれば、その都度連絡する。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	DRM4010J
授業名	防災・危機管理政策論文演習
担当者	Various／関係教員
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring through Fall 春～秋
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

防災・危機管理政策論文演習の目的は、コース関係教員の指導のもとに、各学生が自らの関心のある研究課題に関して研究論文を作成する能力を涵養することにある。演習の具体的な形式については、論文ゼミ、中間発表会、最終発表会等の各自の論文内容に関する集団指導などによって行う。なお、提出された論文は、政策研究大学院大学図書館に保存される。

【到達目標】

- (1) 防災・危機管理に関する現実の政策課題について学術的方法論を用いて特定し、問題点を解明することができる。
- (2) 取りあげた政策課題について解決策、対処方法を学術的方法論とエビデンスに立脚して提案することができる。
- (3) 政策課題の背景とその分析内容、および、解決のための政策課題を、論理的に論文としてまとめることができる。
- (4) 政策課題の背景とその分析内容、および、解決のための政策課題を、限られた時間の中で論理的かつ分かりやすく発表することができる。

【関連するディプロマポリシー】

公共政策プログラム防災・危機管理コースディプロマポリシー①～⑤

2. 各授業のテーマ：

- (1) 第1回論文ゼミ(6月)：学生が自らの研究の構想案を発表し、関係教員との質疑応答・意見交換を通じて、テーマの設定、研究の進め方等の確認を行う。
- (2) 第2回論文ゼミ(7月)：学生が第1回ゼミを踏まえた研究の構想案を発表し、関係教員との質疑応答・意見交換を通じて、テーマの設定、研究の進め方等の確認を行う。
- (3) 第3回論文ゼミ(9月)：学生が研究計画や調査・分析方法方等を発表し、関係教員との質疑応答・意見交換を通じて、研究の進め方や方向性等の確認を行う。
- (4) 第4回論文ゼミ(10月)：学生が調査、データ収集・分析等の状況を発表し、関係教員との質疑応答・意見交換を通じて、研究の進捗状況や方向性等の確認を行う。
- (5) 第5回論文ゼミ(11月)：学生が調査、データ収集・分析等の状況を発表し、関係教員との質疑応答・意見交換を通じて、研究の進捗状況や方向性等の確認を行う。
- (6) 第6回論文ゼミ(12月)：学生が調査、データ収集・分析等の状況を発表し、関係教員との質疑応答・意見交換を通じて、論文作成の方向性等の確認を行う。
- (7) 中間発表会(1月)：学生が研究成果の中間発表を行う。その発表会でなされた関係教員との質疑応答・意見交換を参考にして、学生は論文執筆を進める。
- (8) 最終発表会および判定(2月)：学生が研究成果の最終発表を行う。その発表会でなされた関係教員との質疑応答・意見交換を参考にして、学生は論文を修正し、提出する。

＊ ゼミ及び発表会の所要時間は、4時間半を目途とする。

＊ 9月に、研究計画書を作成する。研究計画書には、研究課題、問題意識、具体的な研究方法、使用するデータ、文献などを明記すること。また、学生の研究計画、希望を考慮し、適任と考える主・副指導教官を決定する。

【授業外学習】

- ゼミ等において発表を行う際には、事前に投影・配布資料(パワーポイント等)を用意して、短い時間であっても報告を通じて自己の研究の骨子を理解してもらうとともに、その改善すべき点について適切なコメントをもらえるように十分に備える。

- 質疑応答・意見交換で出された点について、追加の調査・研究を行ったり、論文の記述について必要な修正を行う。ほかの学生の報告等から自己の研究に行かせるものを探し出し、さらに研究を改善していくことが求められる。

3. 成績の評価方法：

執筆した論文の評価点を80%、ゼミ又は発表会における発表の評価点を20%として算定する。

【成績評価基準】

執筆した論文や発表等の成果を審査し、それらが到達目標に照らして、

- A: 到達目標を高い水準で達成している
- B: 到達目標を満足できる水準で達成している
- C: 到達目標を概ね達成している
- D: 到達目標を最低限の水準で達成している
- E: 到達目標を達成していない

とする。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

学生は研究テーマに関する既往研究をレビューすること。

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

- ゼミ等のプレゼンテーションのためにパワーポイント等を利用する。
- 生成AIによる生成物をそのまま自己の成果物として提出することは認められない。ただし、足りない視点を見つけ考察を深める等の目的で活用することは問題ない。

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

防災・危機管理コースの学生は、必ず履修すること。また、他コースの学生は履修できない。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	ECO2640J
授業名	官民連携・PPP/PFIファイナンス論
担当者	ADACHI Shinichiro／足立 慎一郎
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Wed 水／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

〔本授業の概要〕

国・地域において、人口減少・財政状況悪化・公共インフラ老朽化等の課題が進展する中、官民連携・PPP/PFIの必要性が叫ばれて久しい。一方、各地域におけるその普及・推進については、質的にも量的にも未だ発展途上の段階にあると考えられる。

本授業では、地域課題解決・地域活性化の手法としてのPPP/PFIをメインテーマに、主に金融の視点からまちづくりやインフラ再生を考える。

特に、具体事業分野における取組・事例や、官・民・金それぞれの立場からの取組・視点等について、各地域や第一線の実務で活躍している方々をゲストスピーカーとしてできる限り招聘し、履修後に受講者が具体の実践へ移すことを念頭に、推進の要諦や志を含めて学ぶ。

〔到達目標〕

- ・ 地域課題解決や地域活性化を推進する手段・手法としてのPPP/PFIの主要なスキームや効果、金融の役割等について適切に理解・習得し、論理的に説明することができる。
- ・ 学んだ内容をベースに、所属する組織や地域での具体的な課題に照らして、そのPPP/PFI等による解決方策や関連して必要となる取組・施策等について整理・提起することができる。

〔関連するディプロマ・ポリシー〕

- ・ 公共政策プログラム地域創造・金融コース ディプロマポリシー①②③

本科目は地域創造・金融コースのコース指定科目。他のコースの学生で、官民連携・PPP/PFIに関心を持つ幅広い学生の履修も歓迎する。

2. 各授業のテーマ：

【第1回】イントロダクション：講座の趣旨・全体像・構成、PPP/PFIの四半世紀サーベイ等

【第2・3回】概論：基本概念、主な手法と参考事例、PFIの基本スキームと金融の役割、活用の現状、政府のアクションプラン、推進のあり方等（ゲストスピーカー：PFI推進機構）

【第4回】具体分野①：公共施設マネジメントの現在地・課題・方向性とPPP/PFI（同：日本経済研究所）

【第5回】具体分野②：スポーツ／スマートベニューによるまちづくり・地域活性化（同上）

【第6回】主体別取組①：地方自治体による公共施設マネジメントとPPP/PFIの取組（同：習志野市）

【第7回】主体別取組②：民間事業者によるまちづくり等PPP/PFIの取組（同：大和リース）

【第8回】主体別取組③：地域金融機関による地域創生やPPP/PFIの取組（同：足利銀行）

【第9回】具体分野③：地域資源（工芸・古民家等）を活かした活性化（同：日本政策投資銀行）

【第10回】地域の推進態勢/体制：地域プラットフォーム総論・事例・要諦等（同：日本経済研究所）

【第11回】具体分野④-1：水道インフラ分野の現状・課題・方向性

【第12回】具体分野④-2：水道インフラの課題解決へ向けた広域化と官民連携の取組（同：奈良市）

【第13回】応用編：成果連動型民間委託-Pay For Success/Social Impact Bond-（同：日本経済研究所）

【第14回】ハード/ソフトの官民協働：最適な地域経営へ向けた官民協働の取組・態勢（同：川崎市）

【第15回】まとめ（地域課題解決へ向けPPP/PFI活用に期待される方向性・施策や各者取組等）

（※ 場合により、順序や一部内容が変更となる可能性あり）

評価の時期：全15回の授業終了後の適切な時期に実施（各回の授業における発言等の貢献度と、全15回終了後に提出頂くレポートの内容により実施）。

[授業外学修]

- ・ 各回の講義資料に事前に目を通しておくこと。
- ・ 各回の題材・内容について、事前・事後に能動的な吸収につとめることに加え、常に自身の所属する組織や地域にあてはめて考え、具体的にどのように活かせるのか、そのための課題は何か、等を思考・検討することを習慣化すること。

3. 成績の評価方法：

- ・ 期末レポート（70%）、授業における発言等の貢献度（30%）により評価。
- ・ レポートを期限までに提出しなかった場合は不合格とする。

[成績評価基準]

- A: 到達目標を高い水準で達成している
B: 到達目標を満足できる水準で達成している
C: 到達目標を概ね達成している
D: 到達目標を最低限の水準で達成している
E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

特になし。パワーポイント資料等を使用予定。

4-2:その他

- ・ 「日本の先進技術と地域の未来」（松原宏・地下誠二編、各者共著、東京大学出版会2022年）
 - ・ 「地域創生と未来志向型官民連携」（日本政策投資銀行等編著、ダイヤモンド社2020年）
 - ・ 「水道事業の経営改革」（日本政策投資銀行編著、ダイヤモンド社2017年）
 - ・ 「持続可能な水道経営を考える」（日本政策投資銀行等編著、ダイヤモンド社2025年）
 - ・ 「改正PFI法解説」（福田隆之・赤羽貴・黒石匡昭・日本政策投資銀行編著、東洋経済2011年）
 - ・ 「公有資産改革」（宮脇淳編集代表、佐野修久編著、各者共著、ぎょうせい2009年）
 - ・ 「PPPの進歩形 市民資金が地域を築く」（日本政策投資銀行編著、ぎょうせい2007年）
 - ・ 「スマートベニューハンドブック」（日本政策投資銀行等編著、ダイヤモンド社2020年）
 - ・ 「観光DMO設計・運営のポイント」（日本政策投資銀行等編著、ダイヤモンド社2017年）
 - ・ 「アートの創造性が地域をひらく」（日本政策投資銀行等編著、ダイヤモンド社2020年）
 - ・ 「地域経済循環分析の手法と実践」（価値総合研究所等編著、ダイヤモンド社2019年）
 - ・ Engel, E., Fischer, R. D. and Galetovic, A. : The Economic of Public-Private Partnerships, Cambridge University Press, 2014
- 等

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

インタラクティブな運営を目指す。

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	ECO2700J
授業名	計量経済学
担当者	KUROSAWA Masako／黒澤 昌子
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／5
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

1-1. 講義の概要

経済現象を表す唯一の情報であるデータという混沌を解釈し、経済現象の姿を帰納的に推論するための統計的手法を学びます。最終的には、経済学実証研究分野の学術論文に挑戦できる能力を養うことが狙いです。科学実験とランダム化実験の話から始め、確率的概念を踏まえた回帰分析論を扱います。すなわちモデル・ビルディング、パラメータ推定および各種仮説の検定、さらに理論モデルとリアル・フィールドとの間の乖離問題への対処法の基礎論について学習します。コンピューター上の統計ソフト（STATA）を用いたデータの基礎統計処理や回帰分析の手法についても講義で説明し、宿題での実践を通して身に着けます。

1-2. 到達目標

- ランダム化実験、大数の法則、因果推論のコンセプトを理解できる。
- 記述統計を用いたデータ分析ができる。
- 因果推論を行う上での諸問題を理解し、それへの基本的な対処ができる。
- STATAを用いて実際のデータで回帰分析を行い、操作変数法などの発展的手法も適用することができる。
- 経済学実証研究分野の学術論文が理解できる。

1-3. 関連するDP

- 公共政策プログラム：
- 地域政策コース：②公共政策に係る幅広い知識を持ち、的確な分析、総合的な判断、効果的な実践を行うことができる能力。
- インフラ政策コース：②インフラをとりまく他分野の広範な知識を有し、それらを踏まえて俯瞰できる能力
- 防災・危機管理コース：④課題の解決に向けて、データの収集・分析等により、研究論文や政策提言としてまとめ、発表することができる能力。⑤公共政策に係る多角的な知識や各行政分野の現状・課題に深い理解を持ち、視野の広いリーダーとして活躍することができる能力。
- 医療政策コース：②医療政策にかかる幅広い知識を持ち、多角的な視野から学術的な分析に基づいた課題解決に向けた政策分析ができる能力。
- 農業政策コース：②農林水産政策にかかる幅広い知識を持ち、多角的な視野から学術的な分析に基づいた課題解決に向けた政策分析ができる能力。
- 科学技術イノベーション政策コース：②公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力。
- 国際協力コース：②公共政策に係る幅広い知識に基づき、多角的な視野から問題解決を図ることのできる能力。
- まちづくり政策コース：②公共政策に係る幅広い知識を持ち、学術的な知見に基づいて多角的に政策分析ができる能力。③まちづくりに係る政策課題について、データや現地調査結果等の様々なエビデンスを用いた分析・評価を行い、その結果に基づいた政策立案（EBPM）ができる能力。
- 地域創造・金融コース：①地域経済、地域金融、官民連携に関する必要な専門知識を持ち、関心や関係する地域の様々な特性に即して課題を適切に設定できる能力 ②公共政策に関する幅広い基礎知識を持ち、学術的な知見や理論に加えて、地域経済の実情とそこにおける金融機能の貢献を踏まえた実践的アプローチを通じて、多角的に地域の課題を分析できる能力

- 文化産業・地域創造コース：②文化を含め多様な政策領域に共通する基礎的な知識や課題解決・社会実装の手法を踏まえて、事象を的確に分析して課題を抽出し、効果的な対応や実践に向けた提言を組み立てることができる能力

2. 各授業のテーマ：

【全授業を通した授業外学修について】

- 授業外学修として、各授業前には、以下4. に示すTeams上にアップロードする講義ノートおよび参考文献の授業範囲を読み、各授業後には講義ノートおよび参考文献を用いて復習を行ってください。
- Teams上にアップする宿題は、原則として、翌週の講義開始時に教室にて提出してください。

【授業のテーマ】

(カッコ内は参考書のうち、田中隆一(2015)の該当章番号)

第 1 回：計量経済学はなぜ必要か（因果関係とは、科学実験とランダム化実験、大数の法則）、相関と単回帰（田中：1～2章）

第 2～3 回：標本と母集団（データの種類、標本から母集団へ、記述統計、標本から母集団を推定する、推定量の望ましさ）（田中：2-3章）

第 4～5 回：t統計量と仮説の検定（確率分布、中心極限定理、仮説の検定、t検定と信頼区間、グループ間平均差異の検定）（田中：3、4章）

第 6～7 回：単回帰モデル（因果関係を示すための条件、最小二乗推定法、標本分布、パラメータの解釈）（田中：5章）

第 8～9 回：重回帰モデル（非線形モデル、ダミー変数と交差項、t検定とF検定）（田中：6章）

第 10～11 回：重回帰分析の応用（検定、マルチコ、不均一分散）（田中：7章）

第 12～13 回：操作変数法（欠落変数バイアス、内生性とそれへの対応）（田中：8章）

第 14～15 回：パネルデータ分析、DID推定、尤度推定法（田中：9、11章）

第 16 回：最終試験

※全ての授業はハイブリッド方式で講義室にて実施します。講義は毎回ビデオに収録します。そのリンクは、復習や出席できなかった場合に活用できるよう、Teams上で履修生に共有します。

3. 成績の評価方法：

3-1. 成績の評価方法

宿題の提出(30%)、ミニテストおよび最終試験（70%）によって評価します。

上記1-2の到達目標に達していることが合格の要件となります。

3-2. 成績評価基準

- A: 合格、到達目標について高い水準で達成している
- B: 合格、到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 合格、到達目標について概ね達成している
- D: 合格、到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 不合格、到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1. 必携のテキスト

特にありません。講義は毎回Teams上で配布される講義ノートに基づいて行います。

4-2. その他

必須ではありませんが、必要に応じて以下のような参考文献を用いて予習・復習を行ってください。特に、「2. 各授業のテーマ」には、田中隆一（2015）の該当章番号を記しています。講義では以下のAngrist(2015)の内容も扱います。

＜統計学の基礎＞ 田中勝人（1996）「経済統計」岩波書店

<計量経済学>

- 田中隆一（2015） 「計量経済学の第一歩：実証分析のススメ」有斐閣ストゥディア
- Wooldridge, J (2000) *Introductory Econometrics: A modern approach*, South-Western College Publishing
- Stock J. and Watson M (2003) *Introduction to Econometrics*, Addison Wesley.
- Joshua D. Angrist & Jorn-Steffen Pischke (2015) *Mastering 'Metrics: the path from cause to effect*, Princeton University Press.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

簡単な記述統計までならExcelでもできますが、本授業では主に宿題を通してSTATAという統計ソフトを用いたデータの基礎統計処理や回帰分析を実践していただきます。Teams上に教務担当よりアップロードされるアクセス情報に沿って、各自のPC（Windows、MacいずれでもOK）にSTATAをダウンロードしてください（「教育ソフト」のSharePointにアクセスしていただくことになると思います）。使い方についての簡単なマニュアルもTeams上にアップロードします。

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

[聴講に関して]

Teams上に講義ノートや授業の録画ビデオのリンクをアップしますので、必要に応じてご活用ください。宿題の提出はありません。

特にありません。本講義は計量経済学や統計学の知識を前提としていません。当該科目履修後は、夏学期開講の「ECO3700J計量経済学の応用と実践」を是非履修していただきたいと思います。また「データサイエンス基礎」（または「政策科学のためのデータサイエンスと情報数理I」）や「実践データサイエンス」（または「政策科学のためのデータサイエンスと情報数理II」）などの科目も同時並行履修をお勧めします。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO2790E
Course Name	Data Science for Public Policy
Instructor	GOTO Jun／後藤 潤
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Fri 金／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

As social issues become increasingly complex in both developed and developing nations, data analysis methods are evolving to meet these challenges. This lecture focuses on unstructured data, introducing techniques for its analysis using machine learning models and advanced statistical algorithms. The course offers a solid theoretical foundation paired with practical, hands-on experience in applying these methods.

Key topics include:

- **Automated Data Collection:** Techniques such as web scraping to build empirical datasets.
- **Causal Inference with Machine Learning:** Integrating modern machine learning methods with causal analysis.
- **Classification Methods:** Approaches for categorizing and interpreting complex data.
- **Text Analysis:** Methods for processing and analyzing textual data.

By the end of the course, you will be equipped with the skills to independently conduct machine learning analyses to address critical questions in economics and the social sciences. Instruction will be delivered using R and Python.

[Course Goals]

After completing the course, you will be able to:

1. Evaluate and apply appropriate analytical methods for a variety of data types.
2. Transform unstructured data into tidy, analysis-ready datasets.
3. Understand various machine learning models and statistical algorithms, and design research studies that leverage their unique characteristics.

[Related Diploma Policy (DP)]

Young Leaders Program: DP(2)

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy): DP(1)

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Economics): DP(1)

Macroeconomic Policy Program (MEP2): DP(1)

Public Finance Program (PF): DP(2)(4)

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP): DP(2)(3)

GRIPS Global Governance Program (G-cube): DP(4)

2. Course Outline :

We will cover the following topics:

- (1) Introduction: Data Availability and Diversified Research Design
- (2)-(3) Basic Introduction to R and Python
- (4)-(5) Data Collection with Web Scraping Methods

- (6) Data Construction: Unstructured to Tidy Datasets
- (7) Causal Inference with Machine Learning
- (8)-(13) The Natural Language Processing Approach (NLPA)
NLPA includes the following specific topics:
 - (a) Tokenization
 - (b) Non-machine learning methods
 - (c) Supervised machine learning
 - (d) Unsupervised machine learning
 - (e) Semi-supervised machine learning
 - (f) Frontiers in empirical studies with machine learning methods
- (14)-(15) How to Organize Empirical Projects with Github: Ensuring Replicability

[Out-of-class Learning]

All lecture materials are original and will be posted on Teams one week before each class. Students are expected to review these materials thoroughly prior to class and prepare any questions or points of confusion. The materials will include references to essential papers, which should also be read in advance. After each lecture, you should revisit the course materials to reinforce your understanding and clarify any remaining uncertainties with the instructor. A supplemental reading list will be provided for those interested in exploring the topics further.

3. Grading :

Homework assignments (40%), Term paper (60%)

Homework assignments are designed to evaluate your understanding of the theoretical frameworks presented in class and to give you hands-on experience with statistical analyses. Completing these assignments after class will help you identify and address any areas that remain unclear regarding both the theory and the practical application of the statistical algorithms.

As a term paper, students will be required to submit a research plan that applies the methods covered in the course, or their advanced variations, to analyze real-world unstructured data. This term paper will be evaluated based on whether the aforementioned course goals have been achieved. In particular, the appropriateness of data handling, the validity of the research question, and the appropriateness of the choice of methods will be emphasized when determining whether the course goals have been met.

[Grading Criteria]

Total scores of homework assignments and a term paper will be considered:

- A 90–100 Pass: Achieved the goal at a high level
- B 80–89 Pass: Achieved the goal at a satisfactory level
- C 70–79 Pass: Achieved the goal at an acceptable level
- D 60–69 Pass: Achieved the goal at a minimum acceptable level
- E 0–59 Fail: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

Original lecture materials will be shared on Teams one week before each lecture. Students are required to read the lecture materials and go through the assigned literature before participating in the class. The reading list will also be provided in the first class.

4-2:Others

Aurelien Geron, Hands-on Machine Learning with Scikit-Learn, Keras, and TensorFlow (2019)

5 . Software Used in Lectures :

This course will utilize R and Python. In the first two classes, we will cover the essential programming basics for these languages. Students are permitted to use generative AI tools exclusively for producing and modifying code; however, such tools may not be used to write a term paper.

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO2880E
Course Name	Trade and Industrial Development
Instructor	SONOBE Tetsushi／園部 哲史
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Thu 木／1
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course offers an introduction to the process of economic development. There are surprisingly many commonalities and similarities in the process of economic development, especially industrial development, between countries with different economic and political systems as well as cultural differences. To understand the reason why and explore policy implications, we begin by studying standard theories of international trade, market failures, transaction costs, contracts and incentives, spatial economics, and business management. The second half of the course will be devoted to the review of case studies of industrial development in different industries in different countries. Because of the great technological progress, globalization, and the fourth industrial revolution, we are observing significant changes in the process of economic development and the relative importance of agriculture, manufacturing, and service sectors in the process today. Because of the upcoming green transformation, we will observe more fundamental changes in the future. The materials provided by this course will give you insights into these changes and hence necessary responses. Toward the end of the course, you are encouraged to develop a strategy for economic development in your country, about which you will make a presentation during the last session or describe as an answer to a part of the final exam. The method of instruction is characterized by class discussion and group work, especially in the second half of the course, which is fun according to many GRIPS graduates who took this course.

[Course Goals]

The objective of this course is twofold. First, the course enables students to assess the potential and constraints of an economy to achieve industrial development. Second, it helps students to identify strategies for addressing development challenges of the economies of their home countries.

[Related Diploma Policy]

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP)

DP.2 Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of theory and practice

DP.3 Ability to analyze related data, etc. on a issue, using tools in economics, politics, administration, etc., to compile and present research papers and policy proposals

Macroeconomic Policy Program (MEP1) (MEP2)

DP.2. Ability to analyze and present optimal policies from a cross-sectoral perspective with broad knowledge of applied fields in economics and public policy

DP.3 Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of macroeconomic policy theory and practice and the systems and examples of countries around the world

One-year Master's Program of Public Policy (MP1) / Two-year Master's Program of Public Policy (MP2)
DP.3 3. Ability to analyze international development policies that lead to economic development and make practical policy recommendations based on the analysis
DP.5 Ability to analyze interdisciplinary and broad public policies and make practical policy recommendations based on the analysis

2. Course Outline :

1. Basic concept of trade and development (the division of labor, gains from trade, etc.)
 2. Comparative advantage, scale economies, and patterns of international trade
 3. International finance, foreign direct investment, and global value chains
 4. Trade negotiation and national interests
 5. Market competition and market failures
 6. Agglomeration economies and hierarchical structure of cities
 7. Simple theory of cluster-based industrial development
 8. Cases of merchant-led industrial development
 9. Cases of engineer-led industrial development
 10. Global value chains and foreign direct investment
 11. More cases from Asia and Africa
 12. Management in the private and public sectors
 13. Conventional arguments on protectionism and industry promotion
 14. Wrap-up
 15. Class discussion on the strategy for industrial development
- Final exam

[Out-of-class Learning]

In class, there will be guidance from the instructor about the papers or chapters that should be read by the next class. There will also be some suggestions about the questions that each student should consider so as to be able to actively participate in class discussion in the next week.

3. Grading :

Based on participation in class discussion and group work (50%) and performance in final exam (50%). The final exam will be a take-home exam. Details about the exam will be explained during the 13th to 15th classes. The schedule will be decided in consultation with the students taking the course.

[Evaluation Criteria]

Student's achievement of the Course Goals is evaluated as

- A (Outstanding) if the student develops a sound policy idea based on the major concepts, arguments, and empirical findings discussed in this course
- B (Superior) if the student shows potential to develop policy ideas based on the major concepts, arguments, and empirical findings discussed in this course
- C (Satisfactory) if the student understands the major concepts, arguments, and empirical findings discussed in the course
- D (Minimum acceptable) if the student shows a general understanding of the major concepts and arguments discussed in the course
- E (Below the acceptable level) if the student does not reach D

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

Books (Enjoy reading as many as you like)

1. Krugman and Obstfeld, International Economics: Theory and Policy (many editions are available). More recent editions have been written by Krugman, Obstfeld, and Melitz. For our purpose, any edition

after 3rd will do.

2. Sonobe and Otsuka (2006) *Cluster-Based Industrial Development: An East Asian Model*, Palgrave Macmillan. [This and the next books are available at the GRIPS library. The manuscripts for their introductory chapters are also available from the GRIPS Repository. Variants of most of the other chapters were published as journal articles. Some of them are included in the list below.]
3. Sonobe and Otsuka (2011) *Cluster-Based Industrial Development: A Comparative Study of Asia and Africa*, Palgrave Macmillan
4. Otsuka, Jin, and Sonobe, eds. (2018) *Applying Kaizen in Africa*, Palgrave Macmillan [This is an Open Access book, downloadable free of charge from the Palgrave Macmillan's site <https://www.palgrave.com/gp/book/9783319913995>]
5. Takagi, Kanchochat, and Sonobe, eds. (2019) *Developmental State Building*, Springer [This is an Open Access book, freely downloadable from the Springer's website <https://www.springer.com/gp/book/9789811329036>]
6. Asian Development Bank (2020) *Asia's Journey to Prosperity: Policy, Market, and Technology Over 50 Years* [This is also freely downloadable from ADB's website <https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity>]

Papers (The papers without * below will be used as materials for group work and class discussion)

- 1*. Long and Zhang "Cluster-based Industrialization in China: Financing and Performance" *Journal of International Economics*, Vol. 84, Issue 1, May 2011, 112-123.
- 2*. Long and Zhang "Patterns of China's Industrialization: Concentration, Specialization, and Clustering" *China Economic Review*, Vol. 23, Issue 3, September 2012, 593-612.
3. Sonobe, Kawakami, and Otsuka "Changing Roles of Innovation and Imitation in Industrial Development: The Case of the Machine Tool Industry in Taiwan" *Economic Development and Cultural Change*, October 2003, Vol. 52, No. 1, pp. 103- 128. DOI: 10.1086/380105
4. Sonobe, Hu, and Otsuka "From Inferior to Superior Products: An Inquiry into the Wenzhou Model of Industrial Development in China" *Journal of Comparative Economics* Vol. 32, Issue 3, September 2004, pp. 542-563, doi:10.1016/j.jce.2004.05.001
5. Yamamura, Sonobe, and Otsuka "Time Paths in Innovation, Imitation, and Growth: The Case of the Motorcycle Industry in Postwar Japan" *Journal of Evolutionary Economics* DOI:10.1007/s00191-004-0239-3
6. Sonobe, Akoten, and Otsuka "Growth Process of Informal Enterprises in Sub-Saharan Africa: A Case Study of a Jua Kali Cluster in Nairobi" *Small Business Economics*, 36 (3), April 2011, pp. 323-335. DOI: 10.1007/s11187-009-9222
7. Mottaleb and Sonobe "An Inquiry into the Rapid Growth of the Garment Industry in Bangladesh" *Economic Development and Cultural Change*, Vol. 60, No.1, October 2011, pp. 67-89. DOI: 10.1086/661218
8. Mano, Iddrisu, Yoshino, and Sonobe "How Can Micro and Small Enterprises in Sub-Saharan Africa Become More productive? The Impacts of Experimental Basic Managerial Training" *World Development*, Vol. 40, Issue 3, March 2012, pp. 458-468. Doi:10.1016/j.worlddev.2011.09.013
- 9.* Bloom, Eifert, Mahajan, McKenzie, and Roberts "Does Management Matter? Evidence from India" *Quarterly Journal of Economics*, Vol. 128, Issue 1, February 2013, pp. 1-51.
10. Higuchi, Yuki, Vu Hoang Nam, and Tetsushi Sonobe. "Sustained Impacts of Kaizen Training", *Journal of Economic Behavior and Organization* 120, 2015, pp.189 -206. doi:10.1016/j.jebo.2015.10.009
11. Higuchi, Mhede, and Sonobe "Short- and Medium-run Impacts of Management Training: An Experiment in Tanzania" *World Development*, Vol. 114, February 2019, pp. 220-36. <https://doi.org/10.1016/j.worlddev.2018.10.002>
- 12.* McKenzie et al. *Training entrepreneurs VoxDevLit*
Training Entrepreneurs: Issue 3 | VoxDevLit | VoxDev

5. Software Used in Lectures :

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO3104E
Course Name	Political Economy
Instructor	IZUMI Yutaro／泉 佑太朗
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Political economy applies the framework of economic analysis to examine the behavior of political agents such as voters, politicians, and governments, aiming for a better understanding of the policy-making process.

In this course, we will review recent developments in the literature of political economy by reading and discussing the latest empirical studies in the literature. Since many of these studies employ econometric analysis, the course welcomes students who may not specialize in political economy but have an interest in empirical research.

[Course Goals]

At the end of this course, students should be able to:

1. Acquire a solid understanding of basic concepts and key findings in the field of political economy
2. Understand econometric methods commonly used in the literature
3. Effectively summarize and present findings from research articles
4. Critically evaluate empirical research

[Related Diploma Policy (DP)]

Public Finance Program (PF): 1,5

One-year Master's Program of Public Policy (MP1):3

Two-year Master's Program of Public Policy (MP2):3

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy):2

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Economics):2

Macroeconomic Policy Program (MEP2):2

公共政策プログラム:地域政策コース:2

:インフラ政策コース:2,4

:防災・危機管理コース:4,5

:医療政策コース:1,2

:科学技術イノベーション政策コース:2

:国際協力コース:2,3

:まちづくり政策コース:2

:地域創造・金融コース:1

:文化産業・地域創造コース:2

2. Course Outline :

1. Introduction
2. Voter turnout
3. Electoral competition I
4. Electoral competition II

5. Political selection and performance I
6. Political selection and performance II
7. Media and politics I
8. Media and politics II
9. Political protest
10. Democratization
11. Conflict I
12. Conflict II
13. Corruption
14. Political decentralization
15. Student presentations

Notes:

The course content is subject to change depending on the progress and students' interest.

[Out-of-class Learning]

Before each lecture, students are expected to read assigned papers and prepare for class discussion.

3. Grading :

- Participation in class discussion (10%)
- Paper summary (30%)
- Presentation (20%)
- Take-home final exam (40%)

PhD students may submit a research proposal in lieu of the final exam.

The final exam will be after Lecture 15.

The overall grade will be determined on a curve and will follow the GRIPS assessment policy.

[Grading Criteria]

- A : Achieved the goal at a high level
- B : Achieved the goal at a satisfactory level
- C : Achieved the goal at a generally acceptable level
- D : Achieved the goal at a minimum acceptable level
- E : Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

No textbook is required. Instead, students are expected to read the assigned papers in the reading list carefully and actively participate in class discussions. The reading list will be distributed in the first class.

4-2:Others

- A. Merlo, Political Economy and Policy Analysis, Routledge
- T. Persson, and G. Tabellini, Political Economics: Explaining Economic Policy, MIT Press
- J.A. Robinson, and D. Acemoglu, Economic Origins of Dictatorship and Democracy, Cambridge University Press

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

- Introductory-level knowledge of econometrics is required.
- As for auditing students must give a presentation at the end of the course.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO3135E
Course Name	Tax Policy Analysis
Instructor	MATSUDA Naoki／松田 直樹
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／5
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

The participating students will learn through this course some policy options on countermeasures against taxpayers' noncompliant actions (mainly tax evasion, tax avoidance and nonpayment of taxes).

Taxpayers' noncompliant actions take various forms and so do countermeasures against them. The class looks into typical methods of taxpayers' noncompliant actions and countermeasures against them. Such noncompliant actions of taxpayers include their utilization of schemes to avoid tax assessment, delinquent taxpayers' transfer of assets to third parties to avoid payment of tax, and so forth. Moreover, those actions are frequently carried out on a cross-border basis. Tax authorities usually have measures to cope with those actions but such measures vary from country to country and some are more stringent than others. The class compares those countermeasures in some representative countries and discusses their merits and demerits to see which ones are realistic policy options for the countries of the participating students.

[Related diploma policies]

Public Finance Program:

1. The ability to understand the administrative, institutional, and legal aspects in the historical context surrounding public policies in general, tax and customs policies in particular, so as to provide practical solutions in reforming tax or customs administration in respective countries.
2. The ability to have a deep understanding of different values and systems in a global society and to play an active role as a balanced leader.

[Course Goals]

Students can gain more knowledge on various issues (such as measures to counteract tax avoidance/evasion and measures to prevent delinquent taxpayers' nonpayment of taxes) that may also be important in formulating reform policies in their countries. Those issues are to be analyzed from multiple perspectives through various relevant rules, practices and court cases/judgments of major countries as well as those countries represented by the participating students.

2. Course Outline :

- Spring Class 1: Countermeasures against various tax evasion strategies on individual income tax
- Class 2: Countermeasures against various tax avoidance/strategies on individual income tax
- Class 3: Countermeasures against various tax avoidance/strategies on corporate income tax (I)
- Class 4: Countermeasures against various tax avoidance/strategies on corporate income tax (II)
- Class 5: Countermeasures against various tax evasion strategies on inheritance tax (I)
- Class 6: Countermeasures against various tax avoidance/strategies on inheritance tax (II)
- Class 7: Countermeasures against various tax evasion strategies on VAT
- Class 8: Countermeasures against various tax avoidance strategies on VAT
- Class 9: Countermeasures against various strategies to avoid the payment of taxes (I)
- Class 10: Countermeasures against various strategies to avoid the payment of taxes (II)

Class 11 to Class 13: Comparative Analysis of Countermeasures

Class 11 to Class 13 give the participating students opportunities to choose topics for their presentations and receive feedback from the other students. Based on what the participating students have learned from the Class 1 to Class 10, they may do their presentation on the countermeasures adopted in their countries and compare them with some of the comparable ones in some other countries. Attempts will also be made to facilitate exchange of opinions among the participating students to shed light on what possible policy options could be available for dealing effectively with noncompliant actions of taxpayers in their countries.

[Out-of-class Learning]

Students are recommended to read the distributed materials and/or the relevant book before the class to grasp the outline and questions to ask in class.

If the participating students wish, the lecturer will take them to the Tax Library in Tokyo which keeps in Japan the largest number of English tax journals and books issued abroad by leading foreign publishers. It should help gather materials that are not obtainable from the resources on the WEB.

3. Grading :

Grades will be given based mainly on the contribution to class discussions (40%) as well as presentations at the class (30%) while considerations are also to be given to the respective participating student's degree of attainment of the goals set for the class (30%).

[Grading Criteria]

- A: Achieved the goal at a high level
- B: Achieved the goal at a satisfactory level
- C: Achieved the goal at a generally acceptable level
- D: Achieved the goal at a minimum acceptable level
- E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

The textbook for the class is "Tax Strategy VS Countermeasures" written by the lecturer and published in 2015 by Xlibris. The Japanese version of the book is "Sozei Senryaku no Kaimei" written by the lecturer and published by Nihon Hyouron Sha in 2015. Both of them are put in storage in the GRIPS Library. At every class, handouts (including copies of the relevant parts of the book) will be distributed to the participating students to help understand the lecture better.

5. Software Used in Lectures :

Please specify the necessary software, how to obtain it, restrictions on use of generative AI, etc.

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Those students with some knowledge of taxes and taxation (especially those who are thinking of writing theses on tax issues) as well as Japanese students interested in tax issues are strongly encouraged to take the course.

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO3160E
Course Name	Reform of Economic Policy in Japan
Instructor	OTA Hiroko／大田 弘子
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

In this course, we will discuss important topics in Japan's economic policy, which include current conditions and weaknesses in Japan's economy. Japan's economy has three major weaknesses: lagging in globalization, low productivity in the service sector, and inflexibility in the labor market. We will discuss the structural problems behind these weaknesses and issues to be addressed.

Economic structural reforms to achieve an increase in productivity or labor market reform will be useful to many Asian countries in which population ageing will proceed rapidly. In addition, we will discuss the role of the government from the viewpoint of economic growth, such as tax reform for economic growth, and the relationship between fiscal consolidation and economic growth.

Students will learn how to approach specific policy issues through examples of Japan's various economic policy initiatives, both successful and unsuccessful.

In addition, each student will give a presentation on his/her country's economic policy in this course. By presenting and discussing their own country's economic policies while learning about examples of Japanese economic policies, students will deepen their understanding of their country's approach to economic issues.

[Course Goals]

Students can:

- (1) understand the issues facing the Japanese economy and present opinions on where the problems lie and how to solve them,
- (2) theoretically explain the concept of productivity, macroeconomic policies, regulatory policies, etc.
- (3) clearly explain the economic policies of one's own country, its problems and solutions

[Related Diploma Policy (DP)]

Public Finance Program (PF):③,⑤

Economics, Planning and Public Policy Program(EPP):②,③

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy):②,③

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Economics) ②,③

Macroeconomic Policy Program (MEP2):②,③

2. Course Outline :

- 1 : Introduction and brief history of Japan's economy
- 2 : Structural change of the world economy since the 1990s
- 3 : Demographic change and its economic significance
- 4 : Lagging in globalization (the first weakness of Japan's economy)
- 5 : Asian growth and the Japanese economy
- 6 : Low productivity in the service sector (the second weakness of Japan's economy)

- 7 : Deregulation in Japan
- 8 : Inflexible labor market (the third weakness of Japan's economy)
- 9 : Competitive power of Japanese companies
- 10 : Local economy and decentralization
- 11 : Tax reform for economic growth
- 12 : Fiscal consolidation and economic growth
 - Special lecture by Prof. Hideaki Tanaka of Meiji University -
- 13 : Macroeconomic policy for economic growth
- 14 : Redistribution policy and economic growth
- 15 : Policy-making process in Japan

[Out-of-class Learning]

No preparation is required. After each lecture, students are required to review relevant economic policies and relevant economic data in their home country on each topic. In addition, students are expected to be interested in the Japanese economy and economic policy developments, and to check the news, etc.

3. Grading :

Evaluation methods and content are as follows

1. Active participation in class by speaking up, asking questions, etc. (20%)
2. A concise and targeted presentation (10 minutes) on the economic policy of the student's own country and answers to questions from the students (30%)
3. Term paper on one of the following themes (50%)
 - Analyzing issues related to economic reform in Japan or in your country
 - Comparing issues related to economic policies in your country with that of JapanTerm papers are due one week after the last class

[Grading Criteria]

- A: Achieved the goal at a high level
- B: Achieved the goal at a satisfactory level
- C: Achieved the goal at a generally acceptable level
- D: Achieved the goal at a minimum acceptable level
- E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1: Required

Materials concerning each topic will be provided in class.

4-2: Others

Mitsuru Taniuchi, "The Japanese Economy", Cengage Learning, 2014

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

[Back](#)

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO3200E
Course Name	Economics of Law
Instructor	HATANAKA Kaori／畠中 薫里
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Tue 火／3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

1-1 Course Description

This course is designed to have the students understand the significance of laws from an economic perspectives. By the intuitive explanation and the simple models of microeconomics, I will show how each law can increase the social welfare by making effects on incentive or action of each party.

I will treat Property Law including Intellectual Property Right, Contract Law and Criminal Law. In addition, I will treat the problems of corruption. Each provision of laws is not treated in this course. I will not use equations as much as I can and explain the intuitive logic by using figures.

1-2 Course Goals

The course goals are to obtain the ability

1. to explain why each law is necessary to increase the social welfare.
2. to consider whether the existent policies or the laws increase the social welfare or not and its reason also.
3. to consider how the government should amend policies or the laws to increase the social welfare.

1-3 Related Diploma Policy

Public Finance Program(PF) [DP1][DP2]

MEP1 [DP2]

MEP2 [DP2]

2. Course Outline :

Class	Contents	Textbook
1-3	I Economics of Property Law 1. Coase Theorem	Chap. 4 of C & U
4-5	2. Topics of property Law(Title of stolen goods, First Possession vs. Tied Ownership etc)	Chap.5 of C&U
6-7	3. Economics of Land Transfer	Chap. 6-7 of Miceli
8-10	4. Intellectual Property Right	Chp 24 of V.V.H..
11-12	II Contract Law	Miceli Chap.4

13-14	III Economic of Criminal Law 7 Economic theory of crime and punishment	Chap.12-13 of C&U
15	IV Corruption 6 Economics of Corruption	Shleifer and Vishny. (1993) Svensson(2005

***I can change the contents of the classes according to the preference of the participants in the first class. The tort law and PL Law can be covered.**

[out of class learning]

1. I will offer you the problem sets of Homework once in 2 weeks. You should submit HW once in 1 month.
2. By reading the textbook or the article I assigned before each class, you can grasp the contents of each class.

3. Grading :

Homework 30%(3 times)

Final Examination 70% : Open Book. (You cannot bring your computer.)

[Grading Criteria]

- A: Achieved the goal at a high level
- B: Achieved the goal at a satisfactory level
- C: Achieved the goal at a generally acceptable level
- D: Achieved the goal at a minimum acceptable level
- E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1 Required

Cooter,R. and Ulen,T (2000)"Law and Economics" 6th ed. Addison-Wesley

4-2 Others

- (1)Miceli, Thomas J.(1997) "Economics of the Law" Oxford University Press
- (2)Shavell, Steven. (2004) "Foundations of Economic Analysis of Law"
The Belknap Press of Harvard University Press
- (3)Hirsch, Werner Z.(1999) "Law and Economics" 3rd ed. Academic Press
- (4)Viscusi, Vernon and Harrington .JR. (2005)"Economics of Regulation and Antitrust"
4th ed. MIT Press
- (5)Jean-Jacques Laffont(2005) "Regulation and Development" Cambridge U.P.
- (6)Buscaglia,E and Ratliff, W(2000) "Law and Economics in Developing Countries" Hoover Press
- (7)Susan Rose-Ackerman(1999)"Corruption and Government" Cambridge U.P.
- (8)Dixit(2004) "Lawlessness and Economics" Princeton University Press
- (9)Shleifer A. and Vishny, R.(1993) "Corruption" *Quarterly Journal of Economics* vol.108 pp.599-617)
- (10)Svensson J.(2005) "Eight Questions about Corruption" *Journal of Economic Perspectives* vol.19 No.3 pp.19-42
- (11) Lambsdorff, Johann(2007) *The institutional economics of corruption and reform: theory, evidence and policy* Cambridge University Press

5. Software Used in Lectures :

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Understanding of elementary microeconomics is desirable

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO3210E
Course Name	Competition and Regulatory Economics
Instructor	TANAKA Makoto／田中 誠
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Tue 火／3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

This course examines firms and industries from the perspectives of industrial organization and regulatory economics. First, students learn oligopoly and monopoly, with an emphasis on oligopoly theory. Our primary focus will be the strategic behavior of firms. Students next learn the effect of government regulations, focusing on price regulation of public utilities. This course also serves as a foundation course to prepare students for further study in the broad area of industrial organization and regulatory economics.

[Course Goals]

Students can analyze economic models of industrial organization and regulation.

Students can derive policy implications from economic models of industrial organization and regulation.

[Related Diploma Policy (DP)]

MP1 and MP2, DP 3;

MEP1 and MEP2, DP 2.

Regardless of the above, students from all the programs are welcome to register for this course.

2. Course Outline :

1. Perfect Competition
2. Monopoly
3. Dominant Firm with Competitive Fringe
4. Games and Strategy
5. Oligopolistic Competition 1
6. Oligopolistic Competition 2
7. Comparison of Different Market Structures
8. Measures of Market Concentration
9. Multi-period Game and Leader-follower Model
10. Cartel and Tacit Collusion
11. Natural Monopoly
12. Price Regulation
13. Ramsey Pricing
14. Incentive Regulation
15. Effects of Deregulation

The above course topics and schedule are subject to change.

[Out-of-class Learning]

After class, students review the contents of the lecture, specifically, economic issues raised, economic models analyzed, and policy implications discussed in each lecture.

Students are assigned homework, i.e., practice problems, for each topic to better understand the contents of the lecture. Students derive solutions to exercise problems. Students examine policy implications of their results and try to find real-world applications from the perspectives of firms and governments.

3. Grading :

Course grades are based on a final written exam. It evaluates whether students can analyze and derive policy implications from economic models of industrial organization and regulation.

[Evaluation Criteria]

A: Achieved the goal at a high level

B: Achieved the goal at a satisfactory level

C: Achieved the goal at a generally acceptable level

D: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1 Required

None

4-2 Others (References)

Dennis W. Carlton and Jeffrey M. Perloff, Modern Industrial Organization, Addison-Wesley

Luis M. B. Cabral, Introduction to Industrial Organization, MIT Press

Don E. Waldman and Elizabeth J. Jensen, Industrial Organization: Theory and Practice, Addison-Wesley

Lynne Pepall, Daniel J. Richards and George Norman, Industrial Organization: Contemporary Theory & Practice, South-Western

W. Kip Viscusi, John M. Vernon and Joseph E. Harrington, Economics of Regulation and Antitrust, MIT Press

Kenneth E. Train, Optimal Regulation: The Economic Theory of Natural Monopoly, MIT Press

5. Software Used in Lectures :

None

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	ECO3330J
授業名	都市政策の空間分析
担当者	KANEMOTO Yoshitsugu, KAWABATA Mizuki and YASUDA Shohei／金本 良嗣, 河端瑞貴, 安田 昌平
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Fri 金／2
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

本講義では、GIS（地理情報システム）と空間データを用いて、都市・地域の空間に関わる政策を分析評価する能力を養うことを目的とする。まず、GIS（地理情報システム）の基礎を習得します。次に、Rを用いて計量分析手法を習得します。最後に、習得したツールを用いて都市・地域の政策分析を行います。

[到達目標]

- GIS（地理情報システム）を用いてデータを可視化できる。
- R（プログラミング言語）を用いて計量分析ができる。
- 習得したツールを用いて都市・地域の政策分析を行うことができる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

公共政策プログラム：地域政策コース②

地域創造・金融コース②③

文化産業・地域創造コース②

インフラ政策コース②

防災・危機管理コース④⑤

医療政策コース①②

農業政策コース②

科学技術イノベーション政策コース②

国際協力コース②④

まちづくり政策コース①②③

2. 各授業のテーマ：

（変更の可能性あります）

- 第1回 GISと都市の政策分析
- 第2回 GISの基礎（QGISの基礎、人口分布図の作成）
- 第3回 GISの基礎（人口分布図の作成）
- 第4回 GISの基礎（高齢者分布と医療施設）
- 第5回 GISの基礎（高齢者分布と医療施設）
- 第6回 GISの基礎（保育所の立地分析）
- 第7回 GISの基礎（保育所の立地分析）
- 第8回 GISの基礎（統計データと境界データの結合）
- 第9回 GISの基礎（地震リスクと地価）
- 第10回 GISの基礎（地震リスクと地価）
- 第11回 都市・地域の政策分析
- 第12回 GISの応用（都市・地域の政策分析の最終レポート課題）
- 第13回 GISの応用（水害リスクと地価）
- 第14回 GISの応用（水害リスクと地価）
- 第15回 GISの応用：都市・地域の政策分析課題 発表

[授業外学修]

授業外学修として、GISの基礎に関する小課題についてレポートを提出すること。また、第15回の講義で発表してもらうために第12回の講義で出す課題について最終レポートをまとめること。

3. 成績の評価方法：

平常点（20%）、課題レポート・発表（80%）によります。
課題提出遅延時は減点のペナルティがあります。

[成績評価基準]

- A: 到達目標を高い水準で達成している
- B: 到達目標を満足できる水準で達成している
- C: 到達目標を概ね達成している
- D: 到達目標を最低限の水準で達成している
- E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

河端瑞貴（編著）（2022）『事例で学ぶ経済・政策分析のためのGIS入門: QGIS, R, GeoDa対応』古今書院。

4-2:その他

河端瑞貴（編著）『経済・政策分析のためのGIS入門 2 [二訂版]：空間統計ツールと高精度地理空間情報 ArcGIS ProとQGIS対応』古今書院（4月中旬発売予定）

今木洋大・伊勢 紀（編著）（2022）『QGIS入門 第3版』古今書院。

Comber, L, Brunson, C. (2020) *Geographical Data Science and Spatial Data Analysis: An Introduction in R*. (Spatial Analytics and GIS)

Islam, S. Miles, S., Pirelli, L. (2019) *Mastering Geospatial Development with QGIS 3.x: An In-Depth Guide to Becoming Proficient in Spatial Data Analysis Using QGIS 3.4 and 3.6 with Python*, 3rd Edition. Packt Publishing.

Mdry, S. (2021) *Introduction to QGIS: Open Source Geographic Information System*. Locate Press

その他、講義において適宜指示します。

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

QGIS、R、RStudio

※いずれもネットから無料でインストール可能

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

第2回以降の授業では、河端瑞貴（編著）(2022)『事例で学ぶ経済・政策分析のためのGIS入門 QGIS、R、GeoDa対応』古今書院、およびQGIS、R（baseとRtools）、RStudio（いずれも無料）をインストールしたパソコンを持参してください。

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO3480E
Course Name	Theory and Practice of Central Banking: Japanese and Global Experience
Instructor	KINOSHITA Tomohiro／木下 智博
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Mon 月／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

The series of financial crises we have experienced in the past two decades have expanded the roles central banks play in the global economy. In this light, students will be instructed to grasp the factual description of modern-day central banks and their policy actions.

The lecture will primarily cover the practical, operational and institutional aspects of central banking, based on the instructor's experience working at the Bank of Japan. To facilitate and deepen the understanding of the issues, students will also be instructed to compare real world central banking with academic thinking on monetary economics.

The students who have mastered the course content will have acquired the ability to learn and apply practical skills for central bank policy making based upon extensive understanding of institutional setting, data analysis and theoretical reasoning. Therefore, this course is recommended not only for students who intend to seek their career in the field of central banking or public finance, but also for those who are interested in other areas of economic policies or social policies. Many aspects of central banking decision making are applicable to a broad range of public policy, because many challenges facing central banks are similar to those facing policy makers in other areas of the public sector.

[Course Goals]

Students will be able to explain, propose and review specific monetary policy actions for purposes of price stability.

Students will be able to explain, propose and review specific policy actions for purposes of restoring and maintaining financial system stability.

Students will be able to explain, propose and review specific central bank policy actions for public policy purposes other than price stability or financial system stability.

[Related Diploma Policy (DP)]

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy):

2. Ability to analyze a wide range of public policy issues from a multidisciplinary perspective
3. Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of macroeconomic policy theory and practice and the systems and examples of countries around the world

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Economics):

2. Ability to analyze and present optimal policies from a cross-sectoral perspective with broad knowledge of applied fields in economics and public policy
3. Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of macroeconomic policy theory and practice and the systems and examples of countries around the world

Macroeconomic Policy Program (MEP2):

2. Ability to analyze and present optimal policies from a cross-sectoral perspective with broad knowledge of applied fields in economics and public policy

3. Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of macroeconomic policy theory and practice and the systems and examples of countries around the world

2. Course Outline :

- Lecture #1: Introduction and a Primer on Central Bank Balance Sheet
- Lecture #2: Money, Monetary Base, Cash and Seigniorage
- Lecture #3: Policy Transmission Mechanism
- Lecture #4: Payment Systems, Banking and Central Banking
- Lecture #5: Monetary Policy: Its Purposes and Decision Making
- Lecture #6: Open Market Operations and Financial Markets
- Lecture #7: Foreign Exchange Markets and Central Banks
- Lecture #8: Financial Crises and Policy Actions
- Lecture #9: Lessons Learned from the Recent Financial Crises
- Lecture #10: Financial System Stability and Lender of Last Resort
- Lecture #11: Bank of Japan, the Pioneer in Monetary Policy
- Lecture #12: Review of Quantitative and Qualitative Easing with Yield Curve Control
- Lecture #13: COVID-19 and Central Banks
- Lecture #14: Lean or Clean?
- Lecture #15: Independence, Transparency and Democracy

[Out-of-class Learning]

Before each of the fifteen classes, the students are expected to invest two hours for thoroughly reading lecture materials posted on Microsoft Teams as well as for preparing three questions and/or comments for active contribution to discussions during class. After each class, the students are expected to invest one hour to reorganize the policy lessons learned during the class and to prepare for term paper writing.

In addition, when students are planning to provide a short presentation regarding the central bank of their home country or economy, they are expected to invest five to ten hours to gather information and analyze data.

3. Grading :

The level of achievement of the learning objectives will be assessed based on the following three components.

1. Short presentation regarding the central bank of their home country or economy (worth 30% of grade). The instructions for this short presentation will be provided during the 1st lecture. First ten minutes of each ECO3480E class will be allocated for the presentation session and each student will indicate her or his preferred dates and coordinate the schedule with the instructor.

2. Active contribution to discussions during class (worth 20% of grade). Student contribution to class discussions in the form of oral questions and/or oral comments is strongly encouraged.

3. Term paper (worth 50% of grade). The instructions for this term paper, a paper report required to submit at term-end, will be provided during the 7th, 8th, and 9th lectures. The deadline for the term paper is expected to be set on the day one week after the last class.

[Grading Criteria]

A: 90–100 Pass: Achieved the goal at a high level

B: 80–89 Pass: Achieved the goal at a satisfactory level

C: 70–79 Pass: Achieved the goal at an acceptable level

D: 60–69 Pass: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E: 0–59 Fail: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1: Required

No required textbook. Materials will be posted on Microsoft Teams in advance of each class.

4-2: Others

The following is the list of references recommended for reading.

- Bagehot, Walter (1999) *Lombard Street : A Description of the Money Market*, Wiley,
- Bernanke, Ben S. (2022) *21st Century Monetary Policy: The Federal Reserve from the Great Inflation to COVID-19*, New York: W. W. Norton & Company, Inc.
- Chancellor, Edward (1999) *Devil Take the Hindmost : A History of Financial Speculation*, Farrar Strauss and Giroux
- Greenspan, Alan (2007) *The Age of Turbulence : Adventures in a New World*, Penguin Press
- King, Mervyn (2016) *The End of Alchemy: Money, Banking, and the Future of the Global Economy*, New York: W. W. Norton & Company, Inc.
- Lewis, Mervyn K. and Paul D. Mizen (2000) *Monetary Economics*, Oxford University Press
- Lowenstein, Roger (2000) *When Genius Failed: The Rise and Fall of Long-Term Capital Management*, New York: Random House
- Reinhart, Carmen M. and Kenneth S. Rogoff (2009) *This Time is Different: Eight Centuries of Financial Folly*, Princeton University Press
- Scott, Hal S. (2016) *Connectedness and Contagion: Protecting the Financial System from Panics*, Cambridge: MIT Press
- Shiller, Robert J. (2000) *Irrational Exuberance*, Princeton University Press
- Shirakawa, Masaaki (2021) *Tumultuous Times: Central Banking in an Era of Crisis*, New Haven: Yale University Press
- Shultz, George P. et al. (2009) *The Road Ahead for the Fed*, Hoover Institution Press
- Taylor, John B. (2009) *Getting Off Track: How Government Actions and Interventions Caused, Prolonged, and Worsened the Financial Crisis*, Hoover Institution Press
- Turner, Adair (2016) *Between Debt and the Devil*, Princeton University Press

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Lecture materials will be made available on Microsoft Teams before each class.

The lecturer of this course is Tomohiro KINOSHITA (Prof.), who belongs to Faculty of Economics, Otomon Gakuin University in Osaka. If you have any questions, please feel free to directly contact the following address.

t-kinoshita (insert "at" mark here) otemon.ac.jp

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO3490E
Course Name	International Economic Policy Analysis
Instructor	KAWASAKI Kenichi／川崎 研一
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Tue 火／4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

The objective of this course is to learn the quantitative studies of economic policies mainly those of international trade.

Economic model simulations are applied to selected key issues under the recent development of global economy based on basic economic theories using economic data in practice.

The introduction of the methodology of a readily available economic model could be included where appropriate. (Students would not necessarily collect data and build an own model for simulations)

The subject of case studies partly relates to the “13 climate action” in the Sustainable Development Goals (SDGs).

[Course Goals]

Students would be expected to be able to conduct quantitative analysis using the methods of economic modeling.

Students would be expected to be able to use research results to make evidence-based policy recommendations.

Students would be expected to be able to understand and communicate the limitations of research evidence for policy making.

[Relevant Diploma Policy (DP)]

GRIPS Global Governance Program (G-cube)Program 1 and 4.

2. Course Outline :

1) Introduction

2)-4) Part 1 Economic Model

To understand the framework of economic model analysis, macro-econometric model and computable general equilibrium (CGE) model.

(Reference)

Corong, E. L., T. W. Hertel, R. A. McDougall, M. E. Tsigas and D. van der Mensbrugghe (2017), “The Standard GTAP Model, Version 7,” *Journal of Global Economic Analysis* 2(1), 1-119, Centre for Global Trade Analysis, Department of Agricultural Economics, Purdue University.

5)-7) Part 2 Trade Data

To look at the development of trade and tariff rates, and to understand the ad valorem equivalents (AVEs) of non-tariff measures (NTMs).

(References)

Aguiar, A., M. Chepeliev, E. Corong and D. van der Mensbrugghe (2022), “The GTAP Data Base: Version

11," *Journal of Global Economic Analysis*, 7(2), 1-37, Center for Global Trade Analysis, Department of Agricultural Economics, Purdue University.

Market Access Map, International Trade Centre. <https://www.macmap.org/>

UNCTAD and WB (2018), *The Unseen Impact of Non-Tariff Measures: Insights from a new database*, United Nations Conference on Trade and Development (UNCTAD) and World Bank (WB).

8)-11) Part 3 Impact of Trade Liberalization

To understand the theory of trade and tariff, and to investigate the economic impact of global trade liberalization, Asia-Pacific Economic Cooperation (APEC), Trans-Pacific Partnership (TPP), Regional Comprehensive Economic Partnership (RCEP), and Japan-EU Economic Partnership Agreement (EPA).
(References)

USITC (2016), *Trans-Pacific Partnership Agreement: Likely Impact on the U.S. Economy and on Specific Industry Sectors*, United States International Trade Commission (USITC).

EC (2018), *The Economic Impact of the EU - Japan Economic Partnership Agreement, An analysis prepared by the European Commission's Directorate-General for Trade*, European Commission (EC).

12)-14) Part 4 Case Studies

To study the economic impact of US tariff hikes, trade sanction on Russia, rises in commodity prices (mining, agriculture and food), and climate change (carbon tax, carbon border adjustment mechanism (CBAM)).

(References)

USDOC (2018), *The Effect of Imports of Steel on the National Security, An investigation conducted under section 232 of the trade expansion act 1962, as amended*, U.S. Department of Commerce (USDOC), Bureau of Industry and Security, Office of Technology Evaluation.

EC (2021), *Commission Staff Working Document, Impact Assessment Report, Accompanying the document, Proposal for a regulation of the European Parliament and of the Council establishing a carbon border adjustment mechanism*, European Commission (EC).

15) Summary and Conclusion

[Out-of-class learning]

After class, review the content of the class, read the reference papers including those above, where necessary, and try possible economic model simulations.

3. Grading :

Essentially a term paper (100%).

Contributions to discussions could complementarily be considered as time allows.

[Grading Criteria]

A: Acquire sufficient knowledge and concepts of economic modeling studies, and can explain how it works for policy implication.

B: Acquire basic knowledge and concepts of economic modeling studies, and can explain how it works for policy implication.

C: Acquire basic knowledge and concepts of economic modeling studies in general, and can explain how it works for policy implication.

D: Acquire the minimum knowledge and concepts of economic modeling studies, and can explain how it works for policy implication.

E: Not acquire required knowledge and concepts of economic modeling studies, and cannot explain how it works for policy implication. Rejection.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

See above.

5 . Software Used in Lectures :

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

The schedule is subject to change.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO3640E
Course Name	Financial Economics
Instructor	KASHIWAGI Masanori／柏木 昌成
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Tue 火／1
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course introduces key concepts required to understand the financial market and discusses valuation of bonds and stocks using economic frameworks. Further, this course also studies the foreign exchange market, focusing on the theory of exchange rate determination. Throughout the course, students will find that the notion of (no-)arbitrage can be adopted as a unifying idea and are expected to learn the material from that point of view.

[Course Goals]

After successful completion of the course, students will be able to:

- analyze the financial market through economic frameworks
- extend the idea of arbitrage and equilibrium to the foreign exchange market
- relate the notion of interest rates to exchange rates

[Related Diploma Policy (DP)]

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy): 2

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Economics): 2

Macroeconomic Policy Program (MEP2) : 2

2. Course Outline :

Session 1: Introduction

Session 2: Arbitrage and the Law of One Price

Session 3: The Time Value of Money

Session 4: Interest Rates

Session 5: Valuing Bonds

Session 6: Valuing Stocks

Session 7: Capital Markets and the Pricing of Risk

Session 8: Optimal Portfolio Choice

Session 9: Midterm Exam and Review Lecture

Session 10: Exchange Rates and the Foreign Exchange Market

Session 11: Interest Parity

Session 12: Monetary Approach to Exchange Rates (1) - Purchasing Power Parity

Session 13: Monetary Approach to Exchange Rates (2) - Money Market Equilibrium

Session 14: Asset Approach to Exchange Rates

Session 15: Unification of the Monetary and Asset Approaches

The final examination will be held on Friday, August the 1st, in period 2 (which is later than Session 15).

[Out-of-class Learning]

- Read the relevant part of the textbook after each class.
- Review the lecture material.
- Work on exercise questions provided by the instructor.

3. Grading :

- Midterm Exam (30%): The midterm exam will be held in Session 9. In that session, the exam will be followed by a review lecture.
- Final Exam (70%): The final exam is cumulative. As mentioned above, the final exam will be held on Friday, August the 1st, in period 2.

[Grading Criteria]

A: Achieved the goal at a high level

B: Achieved the goal at a satisfactory level

C: Achieved the goal at a generally acceptable level

D: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

- Jonathan Berk and Peter DeMarzo, *Corporate Finance*, 6th edition, Pearson.
- Robert Feenstra and Alan Taylor, *International Macroeconomics*, 5th edition, Worth Publishers.

4-2:Others

- Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, *International Finance: Theory and Policy*, 12th edition, Pearson.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO3860E
Course Name	Development History of Asia: Policy, Market and Technology
Instructor	NAKAO Takehiko／中尾 武彦
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Mon 月／4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

Students study through this course 1) how Asian developing economies have developed over the last half century, 2) what were the reasons that many of them could achieve success in terms of growth, poverty reduction, and social progress such as health, education, and gender, and 3) what are remaining challenges going forward.

Lecture is both theoretical and empirical, based on the book *Asia's Journey to Prosperity: Policy, Market, and Technology over 50 Years* published by Asian Development Bank (ADB) in January 2020.

Lecture reflects the lecturer's long experiences in development and international finance, including as Chairman of the Center for International Economy & Strategy (Advisor to Sumitomo Corporation) (current), President of ADB (April 2013-January 2020), long service at the Ministry of Finance, Japan since 1978 including Vice-Minister for International Affairs (2011-2013), and Advisor at the International Monetary Fund (1994-1997).

The goals of this course:

Students can

- explain reasons for the success of Asian economic development, various aspects of the evolution of the Asian economy, and remaining challenges for sustainable and equitable growth;
- apply those ideas to the policies in their home countries in both public and private sectors.

Students are encouraged to actively participate in class discussion and share their understanding of experiences of their home countries.

Students must have forward-looking attitude about how they can use the knowledge and insights obtained through this class for making contribution in each area of their work after the graduation.

Related Diploma Policy:

Public Finance DP5

Macroeconomic Policy (1 year) DP2

Macroeconomic Policy (2 year) DP2

Public Policy Program, International Cooperation Concentration DP2

Public Policy Program, Open Concentration DP2

2. Course Outline :

1. Guidance (Monday Apr 14 15:00-16:30)
2. Roles of market and government (Apr 21)
3. Industrial transformation and agricultural modernization (April 28)
4. Technology and economic growth (May 12)

5. Education and health (May 19)
6. Impacts of demography (May 26)
7. Investment, saving, financial sector, infrastructural development, trade and direct investment (June 2)
8. Macroeconomic policies and foreign exchange rate system (June 9)
9. Global financial crisis and Asian financial crisis (June 16)
10. Poverty reduction and income inequality (June 23)
11. Gender equality (June 30)
12. Environment protection and climate change (July 7)
13. Global governance (July 14)
14. Free discussion on remaining challenges (Thursday July 31 13:20-14:50 instead of holiday June 21)
15. Overall review of the course and the examination (Thursday July 31 15:00-16:30 instead of July 28)

No classes on April 7 (due to my business trip to the United States) and May 5 (holiday).

The above schedule and contents are subject to change after consultation with the students.

Studying outside the class

Students must devote approximately twice as much time the class hours for reading the textbooks and required reading so that they understand the lecture more clearly and participate in the class discussion more proactively.

3. Grading :

- Examination (75%)
- Contribution in the class by making assigned presentation and participating in discussions (25%)

[Evaluation Criteria]

Student's achievement of the Course Goals is:

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Below the acceptable level: E

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1. Textbook

Asia's Journey to Prosperity: Policy, Market, and Technology over 50 Years published by Asian Development Bank (ADB) in January 2020.

It can be downloaded from the HP of ADB.

4-2. Required reading for each class (Materials to be uploaded for class participants)

1) Foreword and Chapter 1 of the textbook. "Is There a Unique Asian Consensus for Development?" Presentation by Takehiko Nakao at GRIPS Seminar, December 21, 2020.

Address by Takehiko Nakao, At the Graduation Ceremony of the GRIPS, September 14, 2017.

2) Chapter 2.

3) Chapters 3 & 4.

4) Chapter 5.

5) Chapter 6.

6) Chapter 6.

7) Chapters 7, 8 & 9.

8) Chapter 10. "Reforming the International Monetary System" Speech by Takehiko Nakao at the Institute

for International Monetary Affairs, March 18, 2010

9) Chapter 10. "Response to the Global Financial Crisis and Future Policy Agenda" Keynote Address by Takehiko Nakao at the symposium by Harvard Law School and the International House of Japan, October 23, 2010.

"Challenges in International Finance and Japan's Responses" Speech for delivery by Takehiko Nakao at the symposium by the Institute for International Monetary Affairs, March 15, 2012

10) Chapter 11.

11) Chapter 12.

12) Chapters 13, 14 & 15.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Auditing (participating in classes without registering) is welcome.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO3920E
Course Name	Economic History and Institutions
Instructor	IZUMI Yutaro／泉 佑太朗
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Why are some countries rich while others remain poor? This course explores the process of economic and political development through a long-term perspective, with a particular focus on the influence of institutions and culture. We will discuss recent empirical studies at the cutting edge of the literature. Since many of these studies employ econometric analysis, the course welcomes students who may not specialize in historical development but have an interest in empirical research.

[Course Goals]

At the end of this course, students should be able to:

1. Acquire a solid understanding of basic concepts and key findings in the literature on institutions, culture, and long-term development
2. Understand econometric methods commonly used in the literature
3. Effectively summarize and present findings from research articles
4. Critically evaluate empirical research

[Related Diploma Policy (DP)]

G-Cube (1)(2)

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy) (2)

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Economics) (2)

Macroeconomic Policy Program (MEP2) (2)

公共政策プログラム:地域政策コース (2)

:インフラ政策コース (2)(4)

:防災・危機管理コース (5)

:医療政策コース (2)

:科学技術イノベーション政策コース (2)

:国際協力コース (1)(2)(3)

:まちづくり政策コース (2)(5)

:地域創造・金融コース (1)

;文化産業・地域創造コース (2)

2. Course Outline :

1. Introduction
2. Institutions and Development: Macro-level Analysis I
3. Institutions and Development: Macro-level Analysis II
4. Institutions and Development: Micro-level Analysis I
5. Institutions and Development: Micro-level Analysis II
6. Institutional Change
7. Culture and Development

8. Historical Origins of Culture
9. Religion and Development
10. Gender Norms
11. Interaction of Culture and Institutions
12. Geography and Development
13. State Capacity
14. Nation Building
15. Student presentations

Notes:

The course content is subject to change depending on the progress and students' interest.

[Out-of-class Learning]

Before each lecture, students are expected to read assigned papers and prepare for class discussion.

3. Grading :

- Participation in class discussion (10%)
- Paper summary (30%)
- Presentation (20%)
- Take-home final exam (40%)

PhD students may submit a research proposal in lieu of the final exam.

The final exam will be after Lecture 15.

The overall grade will be determined on a curve and will follow the GRIPS assessment policy.

[Grading Criteria]

- A : Achieved the goal at a high level
- B : Achieved the goal at a satisfactory level
- C : Achieved the goal at a generally acceptable level
- D : Achieved the goal at a minimum acceptable level
- E : Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

No textbook is required. Instead, students are expected to read the assigned papers in the reading list carefully and actively participate in class discussions. The reading list will be distributed in the first class.

4-2:Others

- Daron Acemoglu and James Robinson. "Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity, and Poverty." Crown Publishers.
- Mark Koyama and Jared Rubin, "How the World Became Rich: The Historical Origins of Economic Growth." Polity Press.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

- Introductory-level knowledge of econometrics is required.
- Auditing students must give a presentation at the end of the course.

[Back](#)

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO5910E
Course Name	Guided Self-Study I
Instructor	Various／関係教員
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

PA students who have received approval from both the director and their advisors are eligible to enroll in this course. The purpose of this course is to give PhD students the opportunity to acquire advanced knowledge of a subject that is relevant to their PhD research.

[Course Goals]

Students will be able to:

- Know in depth an area that is relevant to the PhD research of the student.
- Learn in depth a subject by reading specialized references.
- Evaluate critically the literature by interacting with the course instructor during the meetings.
- Use in practice the acquired knowledge for their own research ideas.
- Summarize and communicate effectively and in simple terms advanced academic literature.
- Improve their presentation skills.

[Related Diploma Policy (DP)]

Policy Analysis Program (PA)

DP 2.(MA) The ability to apply quantitative methods to economic and social data

DP 2. (PhD)The ability to conduct quantitative analysis using the methods of modern economics

DP 4. (MA) Policy recommendations. The ability to use research results (their own and that done by others) to make evidence-based policy recommendations, as well as the ability to understand and communicate the limitations of research evidence for policy.

DP 4. (PhD) Policy recommendations. The ability to use research results (their own and that done by others) to make evidence-based policy recommendations, as well as the ability to understand and communicate the limitations of research evidence for policy.

2. Course Outline :

Week 1: Project Design and Planning

Week 2-14: Weekly Progress Report and Consultation

Week 15: Concluding Session and Presentation

Under the instructor's supervision, students study the material outlined in the syllabus provided by the instructor at the beginning of the term. For example, the instructor might select some chapters in a book (or other learning materials), and appropriate exercises to improve and demonstrate the understanding of the materials. The course has no lectures, but it offers time for consultation every week. While 15 weekly meetings are supposed to be a standard format of supervision, their frequency and arrangements are flexible, depending on the progress and activities required between meetings. The learning materials must be equivalent to a 2 credits course.

[Out-of-class Learning]

This course puts special emphasis on out-of-class learning. Students need to study the material first, complete the homework and consult the instructor with questions during the meetings.

3 . Grading :

At the end of the term, the professor will evaluate the knowledge of the students. The methods of assessment will be provided by the instructor of the course. The method of assessment could be for example a written or oral examination on the materials learned in the course. Alternatively, assessment could be based on a series of exercises or essays written during the course and that demonstrate a satisfactory level of learning.

[Grading Criteria]

Pass: Achieved the goals at a sufficient level

Fail: Did not achieve the goal

4 . Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

The textbook and references will be provided by the instructor of the course.

5 . Software Used in Lectures :

To be decided by the instructor of the course.

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO5920E
Course Name	Guided Self-Study II
Instructor	Various／関係教員
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

PA students who have received approval from both the director and their advisors are eligible to enroll in this course. The purpose of this course is to give PhD students the opportunity to acquire advanced knowledge of a subject that is relevant to their PhD research.

[Course Goals]

Students will be able to:

- Know in depth an area that is relevant to the PhD research of the student.
- Learn in depth a subject by reading specialized references.
- Evaluate critically the literature by interacting with the course instructor during the meetings.
- Use in practice the acquired knowledge for their own research ideas.
- Summarize and communicate effectively and in simple terms advanced academic literature.
- Improve their presentation skills.

[Related Diploma Policy (DP)]

Policy Analysis Program (PA)

DP 2.(MA) The ability to apply quantitative methods to economic and social data

DP 2. (PhD)The ability to conduct quantitative analysis using the methods of modern economics

DP 4. (MA) Policy recommendations. The ability to use research results (their own and that done by others) to make evidence-based policy recommendations, as well as the ability to understand and communicate the limitations of research evidence for policy.

DP 4. (PhD) Policy recommendations. The ability to use research results (their own and that done by others) to make evidence-based policy recommendations, as well as the ability to understand and communicate the limitations of research evidence for policy.

2. Course Outline :

Week 1: Project Design and Planning

Week 2-14: Weekly Progress Report and Consultation

Week 15: Concluding Session and Presentation

Under the instructor's supervision, students study the material outlined in the syllabus provided by the instructor at the beginning of the term. For example, the instructor might select some chapters in a book (or other learning materials), and appropriate exercises to improve and demonstrate the understanding of the materials. The course has no lectures, but it offers time for consultation every week. While 15 weekly meetings are supposed to be a standard format of supervision, their frequency and arrangements are flexible, depending on the progress and activities required between meetings. The learning materials must be equivalent to a 2 credits course.

[Out-of-class Learning]

This course puts special emphasis on out-of-class learning. Students need to study the material first, complete the homework and consult the instructor with questions during the meetings.

3 . Grading :

At the end of the term, the professor will evaluate the knowledge of the students. The methods of assessment will be provided by the instructor of the course. The method of assessment could be for example a written or oral examination on the materials learned in the course. Alternatively, assessment could be based on a series of exercises or essays written during the course and that demonstrate a satisfactory level of learning.

[Grading Criteria]

Pass: Achieved the goals at a sufficient level

Fail: Did not achieve the goal

4 . Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

The textbook and references will be provided by the instructor of the course.

5 . Software Used in Lectures :

To be decided by the instructor of the course.

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7 . Note :

Guided Self-Study I is not a prerequisite for taking Guided Self-Study II.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO6810E
Course Name	Advanced Development Economics
Instructor	NAGASHIMA Masaru／永島 優
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／4
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Academic research has accumulated rigorous scientific evidence on how public policies work and why. A key driver of this growing body of evidence has been the increasing use of social experiments. This course teaches how experimental evidence can inform and improve public policies. To do so, the course reviews the methodological aspects of social experiments that help produce reliable evidence for policy-making purposes. Then, it examines some social experiments that have influenced real-world public policies. About half of the course resources are devoted to studying the methodological aspects of social experiments using the textbook indicated below, while the rest is to learning from academically evaluated social experiments and deriving implications for public policies.

[Course Goals]

At the end of the course, students are expected to be able to (a) explain how social experiments work, (b) derive and synthesise useful policy implications from experimental evidence, and (c) design a social experiment to answer relevant policy questions.

[Related Diploma Policy (DP)]

GRIPS Global Governance Program (G-cube)

Diploma Policy 1. Ability to plan, formulate, implement, and analyze policies from a broad perspective, based on expert knowledge in economics and politics, while referring to history and field senses

Diploma Policy 2. Ability to explore solutions to a variety of policy issues from a long-term, multi-faceted perspective

2. Course Outline :

- Chapter 1 Introduction and Recap of Relevant Statistics Concepts
- Chapter 2 Causal Inference and Experimentation
- Chapter 3 Sampling Distributions, Statistical Inference, and Hypothesis Testing
- Chapter 4 Using Covariates in Experimental Design and Analysis
- Chapters 5 & 6 One-Sided and Two-Sided Noncompliance
- Critical Review of Recent Experimental Studies 1
- Chapter 7 Attrition
- Chapter 8 Interference between Experimental Units
- Critical Review of Recent Experimental Studies 2
- Chapter 9 Heterogeneous Treatment Effects
- Chapter 11 Integration of Research Findings
- Chapter 12 Instructive Examples of Experimental Design
- Critical Review of Recent Experimental Studies 3
- Student Presentation and Evaluation 1
- Student Presentation and Evaluation 2

[Out-of-class Learning]

To prepare: Read the related chapters of the assigned textbook (approximately one to two hours per week). To review: submit assignments (approximately one to two hours per week).

3. Grading :

Online quiz 50%: students will be provided with the textbook's end-of-chapter problem sets every week. Presentation 50%: students will discuss an experimental paper during class. Detailed instructions will be provided in class.

[Grading Criteria]

- A: Achieved the goal at a high level
- B: Achieved the goal at a satisfactory level
- C: Achieved the goal at a generally acceptable level
- D: Achieved the goal at a minimum acceptable level
- E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

Alan S. Gerber and Donald P. Green. Field Experiments: Design, Analysis, and Interpretation. W. W. Norton & Company, Inc. 2012.

4-2:Others

A reading list will be provided in class.

5. Software Used in Lectures :

There will be no software to be used in class. However, students can use presentation makers such as Microsoft PowerPoint and Tex Live Beamer. Using generative AI will not be permitted at any point except for English language editing. If used, it must be clearly stated as such at the beginning of the online quiz and/or presentation.

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

• While the course will review related concepts of statistics and econometrics, students are recommended to have completed basic courses in quantitative analyses. Knowledge of concepts including, but not limited to, arithmetic mean, variance, and linear regression will be essential. • Auditing is permitted upon approval.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO7010E
Course Name	Graduate Seminar I
Instructor	YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro, GOTO Jun and KITAO Sagiri / 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤, 北尾 早霧
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Wed 水/5
Credits	4

1. Course Description and the Learning Objectives :

1. Course Description and the Learning Objectives :

This is a required course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exams (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students are welcome to attend.

Students will learn how to

- 1) conduct their own research for their dissertation,
- 2) critically and constructively assess research presented by external speakers and fellow students.

Related Diploma Policy:

Policy Analysis Program (PA): 3,5

2. Course Outline :

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage. We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

Most of your time studying for this course will be out-of-class. First, you need to find a broad research area you are interested in and then identify a specific research question. You may have to learn new methodologies to answer that question. Most importantly, you need to be explicit about why this question is important and how your study will contribute to existing literature.

3. Grading :

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: You need to attend at least 6 seminars with external speakers and all work-in-progress presentations by your fellow students.

(2) Work-in-progress presentation: You need to give a short presentation followed by comments and discussion (total about 45 minutes).

(3) External speaker proposal: You need to propose at least two working papers by external speakers you would like to come give a seminar in the next term.

(4) Comments/discussion of external presentation: You need to give comments during or after a presentation by an external speaker of your choice.

4 . Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

None.

5 . Software Used in Lectures :

None.

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO7020E
Course Name	Graduate Seminar II
Instructor	YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro, GOTO Jun and KITAO Sagiri / 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤, 北尾 早霧
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Wed 水/5
Credits	4

1. Course Description and the Learning Objectives :

1. Course Description and the Learning Objectives :

This is a required course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exams (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students are welcome to attend.

Students will learn how to

- 1) conduct their own research for their dissertation,
- 2) critically and constructively assess research presented by external speakers and fellow students.

Related Diploma Policy:

Policy Analysis Program (PA): 3,5

2. Course Outline :

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage. We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

Most of your time studying for this course will be out-of-class. First, you need to find a broad research area you are interested in and then identify a specific research question. You may have to learn new methodologies to answer that question. Most importantly, you need to be explicit about why this question is important and how your study will contribute to existing literature.

3. Grading :

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: You need to attend at least 6 seminars with external speakers and all work-in-progress presentations by your fellow students.

(2) Work-in-progress presentation: You need to give a short presentation followed by comments and discussion (total about 45 minutes).

(3) External speaker proposal: You need to propose at least two working papers by external speakers you would like to come give a seminar in the next term.

(4) Comments/discussion of external presentation: You need to give comments during or after a presentation by an external speaker of your choice.

4 . Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

None.

5 . Software Used in Lectures :

None.

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO7030E
Course Name	Graduate Seminar III
Instructor	YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro, GOTO Jun and KITAO Sagiri / 山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤, 北尾 早霧
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春 / Wed 水 / 5
Credits	4

1. Course Description and the Learning Objectives :

1. Course Description and the Learning Objectives :

This is a required course for Policy Analysis students who passed at least one subject of the Basic Qualifying Exams (Microeconomics, Macroeconomics, and/or Econometrics). Other students are welcome to attend.

Students will learn how to

- 1) conduct their own research for their dissertation,
- 2) critically and constructively assess research presented by external speakers and fellow students.

Related Diploma Policy:

Policy Analysis Program (PA): 3,5

2. Course Outline :

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage. We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

Most of your time studying for this course will be out-of-class. First, you need to find a broad research area you are interested in and then identify a specific research question. You may have to learn new methodologies to answer that question. Most importantly, you need to be explicit about why this question is important and how your study will contribute to existing literature.

3. Grading :

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

(1) Attendance: You need to attend at least 6 seminars with external speakers and all work-in-progress presentations by your fellow students.

(2) Work-in-progress presentation: You need to give a short presentation followed by comments and discussion (total about 45 minutes).

(3) External speaker proposal: You need to propose at least two working papers by external speakers you would like to come give a seminar in the next term.

(4) Comments/discussion of external presentation: You need to give comments during or after a presentation by an external speaker of your choice.

4 . Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

None.

5 . Software Used in Lectures :

None.

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO7040E
Course Name	Graduate Seminar IV
Instructor	YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro, GOTO Jun and KITAO Sagiri／山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤, 北尾 早霧
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／5
Credits	4

1. Course Description and the Learning Objectives :

This is an elective course following the same format as the required Graduate Seminars I, II and III.

Students will learn how to

- 1) conduct their own research for their dissertation,
- 2) critically and constructively assess research presented by external speakers and fellow students.

Related Diploma Policy:

Policy Analysis Program (PA): 3,5

2. Course Outline :

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage. We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

Most of your time studying for this course will be out-of-class. First, you need to find a broad research area you are interested in and then identify a specific research question. You may have to learn new methodologies to answer that question. Most importantly, you need to be explicit about why this question is important and how your study will contribute to existing literature.

3. Grading :

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

- (1) Attendance: You need to attend at least 6 seminars with external speakers and all work-in-progress presentations by your fellow students.
- (2) Work-in-progress presentation: You need to give a short presentation followed by comments and discussion (total about 45 minutes).
- (3) External speaker proposal: You need to propose at least two working papers by external speakers you would like to come give a seminar in the next term.
- (4) Comments/discussion of external presentation: You need to give comments during or after a presentation by an external speaker of your choice.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

None.

5 . Software Used in Lectures :

None.

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO7050E
Course Name	Graduate Seminar V
Instructor	YAMAZAKI Akio, IZUMI Yutaro, GOTO Jun and KITAO Sagiri／山崎 晃生, 泉 佑太郎, 後藤 潤, 北尾 早霧
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／5
Credits	4

1. Course Description and the Learning Objectives :

This is an elective course following the same format as the required Graduate Seminars I, II and III.

Students will learn how to

- 1) conduct their own research for their dissertation,
- 2) critically and constructively assess research presented by external speakers and fellow students.

Related Diploma Policy:

Policy Analysis Program (PA): 3,5

2. Course Outline :

You can keep posted on the most update schedule of the classes / seminars by visiting the class webpage. We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

Most of your time studying for this course will be out-of-class. First, you need to find a broad research area you are interested in and then identify a specific research question. You may have to learn new methodologies to answer that question. Most importantly, you need to be explicit about why this question is important and how your study will contribute to existing literature.

3. Grading :

The course will be graded on a pass/fail basis. The requirements for passing the course include:

- (1) Attendance: You need to attend at least 6 seminars with external speakers and all work-in-progress presentations by your fellow students.
- (2) Work-in-progress presentation: You need to give a short presentation followed by comments and discussion (total about 45 minutes).
- (3) External speaker proposal: You need to propose at least two working papers by external speakers you would like to come give a seminar in the next term.
- (4) Comments/discussion of external presentation: You need to give comments during or after a presentation by an external speaker of your choice.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

None.

5 . Software Used in Lectures :

None.

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	ECO7881E
Course Name	Trade and Industrial Development
Instructor	SONOBE Tetsushi／園部 哲史
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Thu 木／1
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course offers an introduction to the process of economic development. There are surprisingly many commonalities and similarities in the process of economic development, especially industrial development, between countries with different economic and political systems as well as cultural differences. To understand the reason why and explore policy implications, we begin by studying standard theories of international trade, market failures, transaction costs, contracts and incentives, spatial economics, and business management. The second half of the course will be devoted to the review of case studies of industrial development in different industries in different countries. Because of the great technological progress, globalization, and the fourth industrial revolution, we are observing significant changes in the process of economic development and the relative importance of agriculture, manufacturing, and service sectors in the process today. Because of the upcoming green transformation, we will observe more fundamental changes in the future. The materials provided by this course will give you insights into these changes and hence necessary responses. Toward the end of the course, you are encouraged to develop a strategy for economic development in your country, about which you will make a presentation during the last session or describe as an answer to a part of the final exam. The method of instruction is characterized by class discussion and group work, especially in the second half of the course, which is fun according to many GRIPS graduates who took this course.

[Course Goals]

The objective of this course is twofold. First, the course enables students to assess the potential and constraints of an economy to achieve industrial development. Second, it helps students to identify strategies for addressing development challenges of the economies of their home countries.

[Related Diploma Policy]

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP)

DP.2 Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of theory and practice

DP.3 Ability to analyze related data, etc. on a issue, using tools in economics, politics, administration, etc., to compile and present research papers and policy proposals

Macroeconomic Policy Program (MEP1) (MEP2)

DP.2. Ability to analyze and present optimal policies from a cross-sectoral perspective with broad knowledge of applied fields in economics and public policy

DP.3 Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of macroeconomic policy theory and practice and the systems and examples of countries around the world

One-year Master's Program of Public Policy (MP1) / Two-year Master's Program of Public Policy (MP2)
DP.3 3. Ability to analyze international development policies that lead to economic development and make practical policy recommendations based on the analysis
DP.5 Ability to analyze interdisciplinary and broad public policies and make practical policy recommendations based on the analysis

2. Course Outline :

1. Basic concept of trade and development (the division of labor, gains from trade, etc.)
 2. Comparative advantage, scale economies, and patterns of international trade
 3. International finance, foreign direct investment, and global value chains
 4. Trade negotiation and national interests
 5. Market competition and market failures
 6. Agglomeration economies and hierarchical structure of cities
 7. Simple theory of cluster-based industrial development
 8. Cases of merchant-led industrial development
 9. Cases of engineer-led industrial development
 10. Global value chains and foreign direct investment
 11. More cases from Asia and Africa
 12. Management in the private and public sectors
 13. Conventional arguments on protectionism and industry promotion
 14. Wrap-up
 15. Class discussion on the strategy for industrial development
- Final exam

[Out-of-class Learning]

In class, there will be guidance from the instructor about the papers or chapters that should be read by the next class. There will also be some suggestions about the questions that each student should consider so as to be able to actively participate in class discussion in the next week.

3. Grading :

Based on participation in class discussion and group work (50%) and performance in final exam (50%). The final exam will be a take-home exam. Details about the exam will be explained during the 13th to 15th classes. The schedule will be decided in consultation with the students taking the course.

[Evaluation Criteria]

Student's achievement of the Course Goals is evaluated as

- A (Outstanding) if the student develops a sound policy idea based on the major concepts, arguments, and empirical findings discussed in this course
- B (Superior) if the student shows potential to develop policy ideas based on the major concepts, arguments, and empirical findings discussed in this course
- C (Satisfactory) if the student understands the major concepts, arguments, and empirical findings discussed in the course
- D (Minimum acceptable) if the student shows a general understanding of the major concepts and arguments discussed in the course
- E (Below the acceptable level) if the student does not reach D

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

Books (Enjoy reading as many as you like)

1. Krugman and Obstfeld, International Economics: Theory and Policy (many editions are available). More recent editions have been written by Krugman, Obstfeld, and Melitz. For our purpose, any edition after 3rd will do.

2. Sonobe and Otsuka (2006) *Cluster-Based Industrial Development: An East Asian Model*, Palgrave Macmillan. [This and the next books are available at the GRIPS library. The manuscripts for their introductory chapters are also available from the GRIPS Repository. Variants of most of the other chapters were published as journal articles. Some of them are included in the list below.]
3. Sonobe and Otsuka (2011) *Cluster-Based Industrial Development: A Comparative Study of Asia and Africa*, Palgrave Macmillan
4. Otsuka, Jin, and Sonobe, eds. (2018) *Applying Kaizen in Africa*, Palgrave Macmillan [This is an Open Access book, downloadable free of charge from the Palgrave Macmillan's site <https://www.palgrave.com/gp/book/9783319913995>]
5. Takagi, Kanchoochat, and Sonobe, eds. (2019) *Developmental State Building*, Springer [This is an Open Access book, freely downloadable from the Springer's website <https://www.springer.com/gp/book/9789811329036>]
6. Asian Development Bank (2020) *Asias Journey to Prosperity: Policy, Market, and Technology Over 50 Years* [This is also freely downloadable from ADB's website <https://www.adb.org/publications/asias-journey-to-prosperity>]

Papers (The papers without * below will be used as materials for group work and class discussion)

- 1*. Long and Zhang "Cluster-based Industrialization in China: Financing and Performance" *Journal of International Economics*, Vol. 84, Issue 1, May 2011, 112-123.
- 2*. Long and Zhang "Patterns of China's Industrialization: Concentration, Specialization, and Clustering" *China Economic Review*, Vol. 23, Issue 3, September 2012, 593-612.
3. Sonobe, Kawakami, and Otsuka "Changing Roles of Innovation and Imitation in Industrial Development: The Case of the Machine Tool Industry in Taiwan" *Economic Development and Cultural Change*, October 2003, Vol. 52, No. 1, pp. 103- 128. DOI: 10.1086/380105
4. Sonobe, Hu, and Otsuka "From Inferior to Superior Products: An Inquiry into the Wenzhou Model of Industrial Development in China" *Journal of Comparative Economics* Vol. 32, Issue 3, September 2004, pp. 542-563, doi:10.1016/j.jce.2004.05.001
5. Yamamura, Sonobe, and Otsuka "Time Paths in Innovation, Imitation, and Growth: The Case of the Motorcycle Industry in Postwar Japan" *Journal of Evolutionary Economics* DOI:10.1007/s00191-004-0239-3
6. Sonobe, Akoten, and Otsuka "Growth Process of Informal Enterprises in Sub-Saharan Africa: A Case Study of a Jua Kali Cluster in Nairobi" *Small Business Economics*, 36 (3), April 2011, pp. 323-335. DOI: 10.1007/s11187-009-9222
7. Mottaleb and Sonobe "An Inquiry into the Rapid Growth of the Garment Industry in Bangladesh" *Economic Development and Cultural Change*, Vol. 60, No.1, October 2011, pp. 67-89. DOI: 10.1086/661218
8. Mano, Iddrisu, Yoshino, and Sonobe "How Can Micro and Small Enterprises in Sub-Saharan Africa Become More productive? The Impacts of Experimental Basic Managerial Training" *World Development*, Vol. 40, Issue 3, March 2012, pp. 458-468. Doi:10.1016/j.worlddev.2011.09.013
- 9.* Bloom, Eifert, Mahajan, McKenzie, and Roberts "Does Management Matter? Evidence from India" *Quarterly Journal of Economics*, Vol. 128, Issue 1, February 2013, pp. 1-51.
10. Higuchi, Yuki, Vu Hoang Nam, and Tetsushi Sonobe. "Sustained Impacts of Kaizen Training", *Journal of Economic Behavior and Organization* 120, 2015, pp.189 -206. doi:10.1016/j.jebo.2015.10.009
11. Higuchi, Mhede, and Sonobe "Short- and Medium-run Impacts of Management Training: An Experiment in Tanzania" *World Development*, Vol. 114, February 2019, pp. 220-36. <https://doi.org/10.1016/j.worlddev.2018.10.002>
- 12.* McKenzie et al. *Training entrepreneurs VoxDevLit*
Training Entrepreneurs: Issue 3 | VoxDevLit | VoxDev

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GEN4000J
授業名	政策研究演習
担当者	MASUYAMA Mikitaka／増山 幹高
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

このクラスでは、社会現象の実証的な分析方法を習得し、履修者各自の問題意識から、政策的に効果のある提案をいかに実現していくかという実践的な研究を行います。とくに履修者独自の研究企画を策定し、仮説を実際のデータから検証し、分析結果を取りまとめることに重点を置きます。

[到達目標]

学生が身に着けるべき資質・能力の目標は次の通りです：

学生が研究成果を説得力のあるプレゼンテーションによって発表することができるようになる。

学生が、研究成果を批判的に評価することができるようになる。

[ディプロマポリシー]

公共政策プログラム：地域政策コース②

インフラ政策コース②

防災・危機管理コース④⑤

医療政策コース①②③④⑤

科学技術イノベーション政策コース②

まちづくり政策コース②

地域創造・金融コース③

文化産業・地域創造コース②

総合政策コース②

2. 各授業のテーマ：

週毎に主要な論争点を取り上げていきます。履修者の関心や希望に応じて課題文献を選定し、参加者の報告、議論を中心としたゼミ形式で進めていきます。

授業前半では履修者それぞれの研究企画を策定することに重点を置きます（第1週から第5～7週）。後半では履修者それぞれが仮説を立て、実際のデータから検証し、分析結果をとりまとめていきます（第6～8週から第15週）。

[事前事後学習]

前半では履修者は事前に課題文献を読み、授業後には議論について論点整理することが求められます。後半では履修者は事前に報告者の課題について検討し、授業後には報告者の課題について論点整理することが求められます。

3. 成績の評価方法：

授業における報告内容（60%）、議論への貢献度（40%）で評価します。

【成績評価基準】

A: 到達目標について高い水準で達成している

B: 到達目標について満足できる水準で達成している

C: 到達目標について概ね達成している

D: 到達目標について最低限の水準は達成している

E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

授業前半では、日本語の課題文献を読んできてもらいます。課題文献は週毎に授業で案内します。

参考文献：

Brady, Henry E., 2009. Causation and Explanation in Social Science. in Goodin, Robert Edward (ed.) *The Oxford Handbook of Political Science*. New York: Oxford University Press, 1054-1107.

King, Gary, Robert O. Keohane, and Sidney Verba. 1994. *Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research*. Princeton Univ Press.

Alexander L. George. 2005. *Case Studies and Theory Development in the Social Sciences*. The MIT Press.

Henry E. Brady. 2010. *Rethinking Social Inquiry: Diverse Tools*. Rowman & Littlefield Publishers.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

スケジュールの詳細は初回のクラスで相談します。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GEN5030J
授業名	GRIPS Forum I
担当者	IWAMA Yoko, IIZUKA Michiko／岩間 陽子, 飯塚 倫子
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Mon 月／5
単位数	1

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

GRIPS Forum I（春学期）及びGRIPS Forum II（秋学期）は、国内外の指導的立場にある方々を招いて行われる特別講演シリーズである。世界や日本が直面する様々な政策課題について多角的な知識を習得し、幅広く公共政策を議論し、グローバルな視野を備えたリーダーとして活躍できる能力を身につける。日本人学生にとっては、普段は別のプログラムに属する外国人学生と一緒に授業を受ける貴重な機会であり、グローバルな視野と併せて総合的英語力を習得することを目標とする。（日本語から英語への通訳はあるが英語から日本語への通訳はない。）なお、GRIPS Forumは学生だけでなく、教職員、さらには外部の者にもオープンで行われる。

[到達目標]

- ・学生は、世界や日本が直面する様々な政策課題について多角的な知識を習得する。
- ・学生は、幅広く公共政策を議論し、グローバルな視野を備えたリーダーとして活躍できる能力を身につける。
- ・日本人学生にとっては、普段は別のプログラムに属する外国人学生と一緒に授業を受ける貴重な機会であり、グローバルな視野と併せて総合的英語力を習得することを目標とする。

[関連するディプロマ・ポリシー]

公共政策プログラムインフラ政策コース②、
公共政策プログラム防災・危機管理コース⑤、
公共政策プログラム医療政策コース①・②、
公共政策プログラム農業政策コース②、

公共政策プログラム科学技術イノベーション政策コース②・⑤、
公共政策プログラム国際協力コース②・③、
公共政策プログラムまちづくりコース②・⑤、
公共政策プログラム地域創造・金融コース①、
公共政策プログラム文化産業・地域創造コース②、
戦略研究プログラム①、②、⑤、
Young Leaders Program①、
Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy)⑤、
Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Economics)⑤、
Macroeconomic Policy Program (MEP2)⑤、
AIP②

2. 各授業のテーマ：

第一回目の月曜日には、履修ガイダンスが行われる。

GRIPS Forum II（2025年度春学期）の特別講演は7回程度を予定。講演者とテーマは決まり次第通知される。講義の方法・場所（対面、オンライン、ハイブリッド等）は回ごとに案内するので、その都度、通知を確認すること。

[授業外学修]

- ・履修生は、各講義前に講演者の発表資料を読み、講演テーマに関する専門用語を予習するとともに、講演者の経歴・業績等を事前にきちんと把握しておくこと。
- ・講義後には内容をポイントとしてまとめておくこと。

3. 成績の評価方法：

学生は、授業登録を行うとともに、以下の要件を満たした場合に単位（1単位）を与えられる。

- ・GRIPS Forum講演者から多様な政策課題についての視座を学ぶため、出席5回は必須とする。
- ・一番印象深かった講演を1つ取り上げターム・ペーパー（A4版で3～5枚）を提出すること。ターム・ペーパーでは、①取り上げたテーマについて、講師の講演内容を要約するとともに、②テーマに関連する文献・資料も引用しながら、自分自身の考え・意見をまとめることが求められる。

[成績評価基準]

P: 到達目標を達成している（合格・不合格を指定する授業科目の場合）

F: 到達目標を達成していない（合格・不合格を指定する授業科目の場合）

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

特定のテキストはなく、各回の参考文献は、Teamsを通じて連絡される。さらにターム・ペーパー作成時には、講師の講演に加えて、講師が執筆した文献や関連する資料等を読んだ上で、自分の考えをまとめることが必要である。

4-2:その他

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

- ・最低限5回は出席しなければ単位は与えられない。
- ・16：50以降に参加した場合は欠席とみなす。
- ・講演中の退席は不可（Q&A含む）。退席した場合は欠席とみなす。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GEN5040E
Course Name	GRIPS Forum II
Instructor	IWAMA Yoko and IIZUKA Michiko／岩間 陽子, 飯塚 倫子
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Mon 月／5
Credits	1

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

GRIPS makes use of its network to invite eminent Japanese and foreign leaders in various fields as guest speakers to present lectures at GRIPS Forum I (Fall) and GRIPS Forum II (Spring). Students will learn multifaceted knowledge of various policy issues facing the world and Japan, discuss a broad range of public policy issues, and acquire the ability to act as a leader with a global perspective. These forums are not only for all GRIPS students but also for faculty members and those coming from outside of GRIPS. Simultaneous interpretation from Japanese to English is provided in case that a guest speaker provides his/her lecture in Japanese.

[Course Goals]

Students will be able to hear the lectures of leading experts in today's Japan and the region.

Students will acquire broad knowledge which will help them understand the region.

Students will learn leadership quality by actually seeing leading personnel in each field.

[Related Diploma Policy (DP)]

YLP(1),

MEP1, Master of Public Policy (5),

MEP1, Master of Public Economics(5),

MEP2(5),

AIP(2)

PF (5),

EPP (5),

G-Cube (1)(2)

2. Course Outline :

Session 1: On the first Monday of the beginning of the semester, general guidance session will be provided where students will be given broad outline, attending instructions, out-of- class learning, and also term paper writing.

From session 2 onwards, notice will be provided through Teams, so students are required to check Teams regularly and follow the instructions. The course could be held in person or online, this will also be notified through Teams.

[Out-of-class Learning]

- Students are expected to read the listed reading materials before each class.
- After each session, students are required to read through the materials.

3. Grading :

Students can get 1 credit by registering to attend GRIPS Forum and satisfying the following requirements.

- To attend the forum five times or more, in order to gain perspectives on a broad range of policy issues from GRIPS Forum speakers.
- To submit a term paper on the lecture each student thinks most impressive. The length of term paper is expected to be of 3~5 page long in A4 format. It should include: (i) summary of the lecture covering key points; and (ii) discussion of these points by using relevant references/citations and articulating respective thoughts/opinions.
- Evaluation will be made based on the pass/fail basis.

[Grading Criteria]

Pass: Achieved goal at adequate level

Fail: Adequate level not achieved

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

There will be no fixed textbook for the entire course. Reading materials will be specified by each lecturer. In addition, you are expected to do additional research when you write your term paper and provide the list of materials you used.

4-2:Others

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

- You are required to attend minimum 5 sessions in total.
 - If you come later than 16:50, it will NOT count as an attendance.
 - You are not allowed to leave the forum early including the Q & A session.
 - The modality/venue of the lectures (face-to-face, online, hybrid, etc.) will be announced each time.
- Please check Teams notice.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GEN5050E
Course Name	Social Issue Workshop: Lessons from Japanese Experiences
Instructor	IEDA Hitoshi, ONO Taichi, SHINODA Kunihiro and HARADA Shiho／家田 仁, 小野 太一, 篠田 邦彦, 原田 志保
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Tue 火／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

As a “Frontrunner of Issues Faced by Governments Worldwide”, Japan has implemented policy measures in various areas, including Land and Infrastructure Management, Industry Promotion, as well as Health and Welfare. Many similarities are found in such Japanese policies that has been taken with the policies that are/will be conducted by other countries. These experiences of trial and errors are full of lessons, both positive and negative, that should be learned by the future leaders in each respective country. This course will provide opportunities to learn such experiences through discussion and dialogue with fellow students, so that the students can take back these lessons to their home country with deeper and more concrete understanding. Also, by listening to the various opinions of colleagues, including the students from Japan, the class will also provide the students the opportunities to know socioeconomic contexts of other countries mutually, and reflect their own country through the views of fellows.

[Course Goals]

By taking the course, following outcomes are expected.

- The student will learn various policy lessons from the experiences of Japan in relevant fields, and by extracting the lessons learned, the students will be able to apply such lessons upon policy making in each respective field back in your home country.
- The students will be able to discuss in a proactive and constructive way, with respect to the opinions with other participants.
- The students will enhance their understanding of socioeconomic contexts in countries other than their own, and reflect the case of own country in objective way based on such understanding.

[Related Diploma Policy (DP)]

YLP(2)(3), MP1(1), MP2(1), MEP1(3), MEP2(3), EPP(1)(2)(4)

公共政策プログラム地域政策コース(2), インフラ政策コース(2), 防災・危機管理コース(5), 医療政策コース(2), 農業政策コース(2), 国際協力コース(2)(3), まちづくり政策コース(2), 地域創造・金融コース(2), 文化産業・地域創造コース(2), 総合政策コース

2. Course Outline :

Course Outline :

Class 1 (April 8th): Method of Group Discussion

(Special lecture by Associate Professor Ayano Hirose (College of Business Department, Rikkyo University))

Class 2 (April 15th): Practical Training of Group Discussion (by Lecturer HARADA)

Classes 3 to 14 (April 22nd to July 22nd):

Lecture and discussion on the following 6 themes

(2 classes for 1 theme, i.e., lecture in Week 1, discussion in Week 2)

<Tentative Lineup>

1. Healthcare Finance for the Elderly (By Professor ONO) (Apr. 22, May 13)
 2. Response against COVID-19 (By Professor ONO) (May 20, 27)
 3. Watershed Water Management: Challenges in "River Basin Disaster Resilience and Sustainability by All" (By Professor CHIBANA) (Jun. 3, 10)
 4. Construction and Management of Expressway Network: An Essential Conflict in its Expected Functions and Financial Arrangement (By Professor IEDA) (Jun. 17, 24)
 5. Small and Medium Enterprises Policy (By Professor SHINODA, with inviting guest) (Jul.1, 8)
 6. Content Industry Policy (By Professor SHINODA, with inviting guest) (Jul. 15, 22)
- Class 15: Wrap-up (July 29th)

[Out-of-class Learning]

Read materials related to group discussions and methodologies (posted in the Textbooks section.)

Familiarize yourself with the outline of the case and theme prior to the class. If your country encounters a comparable social issue, research previous projects that tackled the issue and obstacles that surfaced during such projects.

3. Grading :

Active engagement during class sessions and group discussions will carry the greatest weight. At the end of the class, submit a term paper of approximately 1000 words addressing your thoughts after participating in six cases and discussions.

[Evaluation Criteria]

P (Pass: Achieved the goals)

F (Fail: Did not achieve the goals)

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

UNSW Sydney, Guide to Discussion Skills (<https://www.student.unsw.edu.au/discussion-skills>)

Reference materials

"The Student Guide to the Case Method" IVEY School of Business Foundation.

(Available from GRIPS library.)

Other materials may be distributed by the lecturer providing the case.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GEN5080E
Course Name	Cybersecurity
Instructor	ETO Masashi／衛藤 将史
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Fri 金／1
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

Cyber threats have become a significant concern in our IT-driven society, necessitating effective countermeasures. This course explores both cybersecurity and resilience. Cybersecurity focuses on protecting our digital environments from various cyber threats, while resilience involves reducing the impact of these threats and recovering from any attacks. We will start by examining cyber threats, introducing the concept of the cyber kill-chain, and discussing relevant technology, regulations, and international standards. Additionally, we will assess the effectiveness and shortcomings of various countermeasures.

You might have a holistic view of cybersecurity and cyber resilience. You then see the stakeholders of today's cyberspace the aspects of the attack and defense strategies, and finally, get insights of technical, human, and organizational factors for cyber resilience.

[Related Diploma Policy (DP)]

Young Leaders Program: DP2

One-year Master's Program of Public Policy (MP1): DP1

Two-year Master's Program of Public Policy (MP2): DP1

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy): DP2, DP4

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Economics): DP2

Macroeconomic Policy Program (MEP2): DP2

Public Finance Program (PF):

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP): DP2

2. Course Outline :

Overview

#1 Introduction / Setting the scene.

Threat Landscape

#2 Social Engineering

#3 Malware

#4 Remote Code Execution

#5 Exercise: Cyber Attacks

#6 Denial of Service

#7 Web Security

#8 Industrial Cybersecurity / Emerging threats

Cybersecurity and Cyber Resilience

#9 Security Management

#10 Incident Response

#11 Cyber Resilience and Society

#12 Exercise: Risk Scenario-based Desktop Exercise

#13 Exercise: Design of the exercises

3. Grading :

1) Your score will be based on the Final Report (approximately 70%) and Intermediate Report (approximately 30%)

Grading policy is as follows.

A: Students who have knowledge on many types of cyber threats and the characteristics of the countermeasures, and effective recovery methods, aspect from technical, human and organizational factors.

B: Students who have knowledge on several types of cyber threats, the characteristics of the countermeasures, and effective recovery methods aspect from two of three, technical, human, and organizational factors.

C: Students who have knowledge on several types of cyber threats, the characteristics of the countermeasures, and effective recovery methods aspect from one of three, technical, human, and organizational factors.

D: Students who know the definitions of cyber threats and cybersecurity and cyber resilience and can explain a particular instance of them.

E: Students who did not understand the definitions of cyber threats and cybersecurity and cyber resilience and cannot explain them in any context.

2) Students who fail to submit the Intermediate Report will be evaluated based solely on the Final Report.

Delays in submitting the Final Report are generally not accept, except in unavoidable reasons.

3) None

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:

4-2:

Sidney Dekker, "Just Culture: Balancing Safety and Accountability", CRC Press, 2012.

World Economic Forum, "The Cyber Resilience Index: Advancing Organizational Cyber Resilience", 2022.

(Available at: https://www3.weforum.org/docs/WEF_Cyber_Resilience_Index_2022.pdf)

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

A basic understanding of information systems and network protocols, such as TCP/IP, will be beneficial for comprehending the course material.

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GGG6000E
Course Name	Executive Seminar
Instructor	TAKAHASHI Kazushi and AIZAWA Nobuhiro／高橋 和志, 相澤 伸広
Email Address	
Term／Day／Period	Spring, Summer 春、夏
Credits	1

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course is a required course for G-cube students, and auditing by students in other programs are also welcomed.

The primary objective of this course is to deepen the knowledge and understanding of various policy issues in the world. We invite eminent Japanese and foreign leaders in various fields as guest speakers to present lectures. This is one of the most important leadership training programs to meet the diploma policies of G-cube described below.

[Course Goals]

Students can understand characteristics of world crisis and opportunities.

Students can understand the behavior of the top leaders in the face of world crisis and opportunities, and suggest relevant policies to resolve problems and enhance opportunities.

[Related Diploma Policy (DP)]

G-cube program (G-cube M3&P3)

2. Course Outline :

This is a 1-credit course held in the spring to summer terms. The lectures by invited speakers will be held in total 7 times. Speakers and subjects will be announced as soon as they become available. We will also provide you with advanced notice by email about our meeting days.

1 Introduction: Course objectives

2-8 TBA

[Out-of-class Learning]

Students should read materials related to guest speakers in advance and after the class make a summary of presentations and show how you will behave in the face of similar challenges.

3. Grading :

Students can get 1 credit by actively participating in class discussion and submit two term papers on the lecture each student thinks most impressive. The length of the term paper is expected to be of 5~10 page long.

The course will be graded on a pass/fail basis. Grading is based on the quality of term papers, and classroom discussion (30%).

[Grading Criteria]

Pass: Achieved the goal at a high level

Fail: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

4-2:Others

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GGG6050E
Course Name	G-cube Workshop
Instructor	IWAMA Yoko, KIJIMA Yoko, TAKAGI Yusuke／岩間 陽子, 木島 陽子, 高木 佑輔
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This is one of the most important required courses for the G-cube students. Only those who have passed the Qualified Exam earn credits from taking this course, while other students are welcome to participate in this course. The students taking the course for credits should make presentations of their research in progress in front of fellow students and professors twice and submit a part of the dissertation at the end of the term you make a presentation.

The course will help presenters improve their presentation skills and research quality. The presenters should be precise but creative in their presentation so that they can induce critical and constructive comments from other participants.

Students other than the presenter of the day will also benefit a lot if they try to learn from the mistakes and successes made by the presenter. The participants can learn new things by listening to others, making constructive (and hence impressive) comments, asking valuable questions, and so on. Impressive comments at meetings and conferences are highly valued. Having a PhD allows you to attend various international conferences or workshops. If you cannot ask any good questions or make any good comments, however, you will be ignored at the reception, make no new friends, and feel miserable. This course offers invaluable opportunities to be a bona fide researcher who excels at doing research, presenting their findings, and enriching communication in the academic community.

[Course Goals]

Students can:

- (1) be precise but creative in their presentation so that they can induce critical and constructive comments from other participants,
- (2) be an active academic audience by making constructive (and hence impressive) comments and nurturing the skills to ask valuable questions
- (3) enrich and deepen their research project through interactions with instructors and students who do not necessarily share the area of expertise with the student.

[Related Diploma Policy (DP)]

【GRIPS Global Governance Program (G-cube)】

The course is related to G cube diploma policy no. 1 and 4.

2. Course Outline :

The students are required to join the session, make presentations, and contribute to classroom discussion by asking critical questions and providing constructive comments. The students taking this course for credit must make presentations in the Workshop and submit a part of their dissertation draft twice. Other students are recommended to participate in the workshop as the proactive audience.

Lecture 1: Introduction

Lecture 2: Student presentation and discussion
Lecture 3: Student presentation and discussion
Lecture 4: Student presentation and discussion
Lecture 5: Student presentation and discussion
Lecture 6: Student presentation and discussion
Lecture 7: Student presentation and discussion
Lecture 8: Student presentation and discussion
Lecture 9: Student presentation and discussion
Lecture 10: Student presentation and discussion
Lecture 11: Student presentation and discussion
Lecture 12: Student presentation and discussion
Lecture 13: Student presentation and discussion
Lecture 14: Student presentation and discussion
Lecture 15: Wrap-up

[Out-of-class Learning]

Before class: do the necessary research and prepare for the presentation

After class, reflect on what you have learned from the presentation and discussion, revise your drafts based on the feedback and classroom discussion, and submit the revised papers to the instructors.

3. Grading :

The course will be graded on a pass/fail basis.

To get a pass, the student must present a part of their ongoing research and submit the revised draft paper/chapter of the dissertation in this course twice.

Note that making a presentation is merely a necessary condition. The instructor decides whether to give a pass, taking into account the quality of the presentation, the quality of research, participation, contribution to the workshop, and etiquette and manner.

[Grading Criteria]

Pass: Achieved the goal

Fail: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

None.

4-2:Others

McCloskey, Donald. "Economical Writing." *Economic Inquiry*, April 1985, 23 (2), pp. 187-222. Harvard Writing Project. "Writing Economics."

(<https://writingproject.fas.harvard.edu/files/hwp/files/writingeconomics.pdf>)

Strunk, William J. and White, E. B. *The Elements of Style*, New York: Macmillan, 1979.

Van Evera, Stephen W. *Guide to Methods for Students of Political Science*, Ithaca: Cornell University Press, 1997.

5. Software Used in Lectures :

Not applicable

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

The students are required to pass the QE before taking this course's credit.

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GLD1060J
授業名	外交アカデミー II
担当者	WATANABE Masato and MATSUNAGA Masaei／渡邊 正人, 松永 正英
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／6 Thu 木／6
単位数	5

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

1. 著名な学識経験者や経験に富む実務家を講師としてオムニバス方式で授業を行う。
2. 外交アカデミー I（1年目秋冬学期）と外交アカデミー II（2年目春学期）を通して全体のプログラムを組むため、実際の講義は各講師と調整し順不同で行われる。（下記に記載のある外交アカデミーII（2年目春学期）を想定した講義の中には、既に外交アカデミー I（1年目秋冬学期）において実施済みのものがある。外交アカデミー Iに記載されていた講義が外交アカデミーIIにおいて実施される場合もある。）
3. ついては、講師及び講義名を含む詳細な講義日程は、事前に通知するので必ず確認すること。
4. 「必読文献」や「推薦文献」ほか事前課題などは各講師の判断により提示される。通知される内容を確認のうえ、事前事後の研鑽に活用し授業外学修に努めること。
5. 講義形式を中心として行うが、質疑応答・討議の時間も十分確保することとし、出席者の積極的な議論参加を求める。

【到達目標】

履修者が日本外交の課題や我が国の発展と技術開発について、分析的・批判的に吟味・評価することで素養として身に付け、将来の国際交渉を行う際に世界的課題を広い視点から自分の頭で考え、発信できるようになることを目指す。

【関連するディプロマ・ポリシー】

国際的指導力育成プログラム①～⑤

2. 各授業のテーマ：

概要に記載のとおり、外交アカデミー I と II を通して各講師と調整するため、順不同での実施となるほか、タイトル変更の可能性もある。1回の授業は2時間。

【日本外交の系譜】（（1）～（5）は2024年外交アカデミー I のシラバスを参照）

（6）「TICADとアフリカ外交」

1990年代から対アフリカ外交をTICADプロセスとして重視してきた日本は、2022年の第8回TICADを経て2025年のTICAD9を日本で開催するにあたり、どのようなメッセージを発していくべきかを論じる。

【日本の社会と文化】

（1）日本経済と金融政策

日本の経済と金融がどのように動かされているのか、平成の経済を中心に豊富な実例を引きながら、多くの俗説を排し、実像を実証的に解き明かすとともに、今後の課題を論じる。

（2）日本における政官関係の特徴と転換

政治制度の変遷とその力学を論じつつ、日本の政治制度の特色と課題は何か、政治家及び公僕である者はそれぞれどのように務めを果たしていくべきかを論考する。

（3）地方創生の現状と課題

地方創生を実際に担う側の視点から、地方創生が上手くいかない理由、成功事例から得られるレッスン、価値の創造や伝統の創造の重要性やビジネスモデルの転換の重要性などを実証的に論じる。

(4) 仏教・近代・普遍性

多様な形で日本に根付いた仏教について、その根源である古典仏教にまでさかのぼり、その思想・哲学の変化を追いつつ、現代の知識人にまで影響を及ぼした仏教の力を論じる。

【国・地域と日本の外交課題】

(1) 中国政治情勢

経済の成長鈍化や災害・疾病などに起因する国内政治の緊張を読み解きつつ、米中対立をはじめとする中国の対外関係への影響を見極め、日本としての対応につき論じる。

(2) 中国経済情勢

これまで中国自身の安定と中国による対外関係を支えてきた中国経済の動向を、最新の情報を基に予断を持つことなく分析し、どのように日本の国益を最大化できるかを論じる。

(3) 朝鮮半島情勢

予断の難しい北朝鮮の瀬戸際外交と米中両大国とのほざまで揺れる韓国が、どのような外交オプションを持っているのか、基軸となる分析を示しつつ論じる。

(4) インドと南西アジア

中長期的に日本をGDP規模で追い越し世界第3位の経済大国となるとされるインドが、如何に現下の政治、経済的苦境に立ち向かうのか、中国と近隣諸国との関係の変化も踏まえ論じる。

(5) インド経済

近年変貌を遂げているインドの経済に関し、日本企業がインドの産業発展に果たしてきた、あるいはこれから果たし得る役割についての考察を含め、今後のインドの経済発展が及ぼすグローバルな影響についても論考する。

(6) 中東情勢を見る視点

宗教・宗派、民族、経済的利害が混在し、混乱を続ける中東情勢について、基本的視点を示しつつ分析し読み解くとともに、日本としてどのように対応していくべきかを論じる。

(7) 新興国（グローバスサウス）の動向

冷戦後終焉後に出現した米国が率いる西側世界優位の国際秩序が多極的多元的な国際秩序に移行する中、新興国の存在感が高まっている近年の国際社会の現状について分析し、日本として求められるグローバルサウス外交を考察する。

(8) 米国政治情勢

大統領選後の米国の政治的動向や外交政策の動向を、具体的資料を基に分析し、米国の社会や世界への影響力がどう変わるのか、米国と日本がどのように関係を発展させることができるかを論じる。

(9) 米国対外政策

米中のいわば力勝負の対立関係がどのような歴史的背景や国内政治の力学で生まれてきて、どこに向かおうとしているのか、長年の研究・観察に基づき論じる。

(10) 台湾情勢

台湾を巡る緊張を読み解きつつ、米中関係及び中国内政などが台湾に及ぼし得る影響を見極め、日本としての対応につき論じる。

(11) 欧州（EUの将来）

反EU政治勢力の台頭、混迷化するウクライナ紛争への対応、米欧間に緊張をもたらす可能性のある第二次トランプ政権発足などの環境下において欧州の将来について考察する。

（12）ロシア政治情勢

経済的には苦境にあるが、プーチン政権下で軍事的な存在感を増しているロシアの政治・外交の方向性や思惑を読み解き、日本としてどのように対応すべきかを論じる。

【世界の課題と日本】

（1）食料安全保障

世界人口の増加と気候変動による食糧生産の不確実性に加え、ロシアのウクライナへの侵略等により引き起こされた食料供給の不安定化及び肥料不足により農業生産が阻害されるなど同時多発する食糧危機どう備えるべきかを論じる。

（2）SDGs

我が国自身の課題さらには援助供与国である我が国の課題として、我々はどのようにSDGsを理解し、対応策を実施していくべきかを論じる。

（3）法に基づく国際秩序について

法に基づく国際秩序の観点から、ウクライナ問題など国際社会が直面する諸課題に対して、どのような対応がとられるべきかを俯瞰し論じる。

（4）リベラル国際秩序への挑戦

世界のパワーバランスが大きく変化する中、これまでの「リベラル国際秩序」が権威主義体制国家やポピュリズムの動きによってさまざまな形で挑戦を受けていることを分析し、日本としての対応を論じる。

（5）世界経済の分断化と国際金融への影響

米国のドルを基軸とする戦後の国際経済体制（ブレトンウッズ体制）が崩壊する中、国際社会及び日本はどのように対処していくべきかを考察する。

（6）構造的課題への取り組み～気候変動～

異常気象の増加など気候変動対策の強化が求められ国際的な対応も劇的に変化する中、日本の対応と国際的議論への貢献を論じる。

（7）世界の構造変化と日本

貧富の格差拡大、新興国・途上国の債務のリスク、日本を含む先進諸国における人口減、ジェンダー不平等の世界及び日本が直面する構造的な問題が加速化・深刻化する状況をエビデンスに基づき分析し根本的な対策について考察する。

（8）世界の課題と日本の貢献

気候変動、環境、エネルギー、農業・食糧、感染症、保健医療、教育、貧富の格差、災害等の様々な国際社会が直面する諸課題に対し、日本としてどのように向かいODAなどの政策手段を通じて解決に向けて貢献していくかについて議論を深める。

【英語講義シリーズ】※7月に集中して実施予定（一部は日本語での講義になる可能性あり）

（1）～（6）調整中

[授業外学修]

- ・可能な限り資料は事前配布するので、事前に目を通して出席のこと
- ・各講師より提示される書籍、参考WEBサイトなどを活用して予復習に努めること

3. 成績の評価方法：

(1) 発言・質問等を通じた講義への貢献（70%）

発言・質問等の評価は量と質の両方が対象となる。基本的な質問を行うことは高い評価にはつながらないかも知れないが、分かりにくい点を出席者全員に理解しやすくするという意義があれば、肯定的に評価される。

(2) 期末レポート（30%）

A4縦の用紙に横書きで2,000字以上

受講した講義のいずれかに関連する1つのテーマについて、以下の点に言及しつつ執筆すること。

当該テーマの全体像についての簡単な説明

当該テーマの重要性あるいは当該テーマが重要である理由

当該テーマについて3点以上の重要な論点

当該テーマについての今後の展望あるいは課題解決の方法

英語による講義に関するテーマを選んだ場合でも、レポートは日本語で提出すること。

[成績評価基準]

A: 到達目標を高い水準で達成している

B: 到達目標を満足できる水準で達成している

C: 到達目標を概ね達成している

D: 到達目標を最低限の水準で達成している

E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

各回の講師による資料を配布する

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

(1) 聴講は要相談とするので希望者は必ず事前連絡してください。聴講においてもほかの履修登録者と同等の講義への貢献が求められます。

(2) 概要に記載のとおり、外交アカデミーⅠ（1年目秋冬学期）と外交アカデミーⅡ（2年目春学期）を通して全体のプログラムを組むため、各講義の順番はあくまで仮の設定であり、実際は各講師と調整のうえ順不同で行います。外交アカデミーⅠとⅡ両方のシラバスに目を通すとともに、配布する講義スケジュールを必ず事前に確認してください。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GLD2100J
授業名	国際関係の理論と研究方法
担当者	TANAKA Akihiko／田中 明彦
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Sat 土／1
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

「国際関係の理論と研究方法」と「国際関係の理論と研究方法演習」の二つの継続する授業は、GLD所属学生にとって必修であり、英語でそれぞれの関心分野の修士論文を執筆するために必要な能力と認識を獲得することを支援するダイナミックなプロセスである。「国際関係の理論と研究方法」では、学術論文のあり方、科学的方法の概観を行ったのち、国際関係に関する古典的・代表的な英語論文を読み、どのような理論や業績が存在するかの認識を高める。次いで、さまざまな研究論文に触れることによって、学術論文のさまざまなあり方に触れる。この授業はさまざまなSDGsに関係しているが、とくにSDG16、17におもに関連している。

この授業を通して、受講者は、学術論文のあり方全般、具体的には問題設定、理論検討、仮説構築、仮説検証のあり方を理解するとともに、修士論文で取り組むことを想定した第一段階のリサーチ・プロポーザルを書き上げる。また、国際関係および社会科学の主要な理論や代表作についての理解をするとともに、一流の英文論文を理解する英語能力を身につけ、自ら英語による学術論文を執筆する英語能力の基礎を身につけることを目標としている。

【関連するDP】国際的指導力育成プログラム:DP①

2. 各授業のテーマ：

第1回 授業の概観

田中明彦『新しい中世 相互依存の世界システム』（講談社、2017）

田中明彦『ポストモダンの「近代」 米中「新冷戦」を読み解く』（中央公論新社、2020）

Joseph S. Nye, Jr. and David Welch. *Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History, 10th Edition*. Boston: Pearson, 2017. (田中明彦・村田晃嗣訳『国際紛争——理論と歴史（原書第10版）』有斐閣、2017年）

第2回 方法論

田中明彦「概念構築と実証に関する方法論」（メモ）

第3回 国際関係理論

Stephen M. Walt, "International Relations: One World, Many Theories," *Foreign Policy* (Spring, 1998), pp.29-46.

第4回 パワー

Michael Beckley, "The Power of Nations: Measuring What Matters," *International Security*, Vol.43, No.2 (Fall 2018), pp.7-44.

第5回 政策決定のモデル

Graham T. Allison, "Conceptual Models and the Cuban Missile Crisis," *The American Political Science Review*, Vol. 63, No. 3 (Sep., 1969), pp. 689-718

第6回 プロスペクト理論

Daniel Kahneman and Amos Tversky, "Prospect Theory: An Analysis of Decision under Risk," *Econometrica*, Vol. 47, No. 2 (Mar., 1979), pp. 263-292

第7回 交渉・対立

Robert D. Putnam, "Diplomacy and Domestic Politics: The Logic of Two-Level Games," *International Organization*, Vol. 42, No. 3 (Summer, 1988), pp. 427-460.

James D. Fearon, "Domestic Political Audiences and the Escalation of International Disputes," *The American Political Science Review*, Vol. 88, No. 3 (Sep., 1994), pp.577-592

第8回 民主主義平和論

Michael W. Doyle, "Kant, Liberal Legacies, and Foreign Affairs," *Philosophy & Public Affairs*, Vol. 12, No. 3 (Summer, 1983), pp. 205-235

Michael W. Doyle, "Kant, Liberal Legacies, and Foreign Affairs, Part 2," *Philosophy & Public Affairs*, Vol. 12, No. 4 (Autumn, 1983), pp. 323-353

第9回 冷戦後の世界

John J. Mearsheimer, "Back to the Future: Instability in Europe after the Cold War," *International Security*, (Summer 1990), Vol.15, No.1, pp.5-56.

Charles Krauthammer, "The Unipolar Moment," *Foreign Affairs*, 1990/1991, Vol. 70, No. 1, pp. 23-33

第10回 観念と国際政治

Francis Fukuyama, "The End of History?" *The National Interest*, No. 16 (Summer 1989), pp. 3-18

Alexander Wendt, "Anarchy is what States Make of it: The Social Construction of Power Politics," *International Organization*, Vol. 46, No. 2 (Spring, 1992), pp. 391-425

第11回 研究事例: 質的分析

Walter Russell Mead, "The Jacksonian Tradition: And American Foreign Policy," *The National Interest*, No. 58 (Winter 1999/2000), pp. 5-29

Douglas J. Macdonald, "Communist Bloc Expansion in the Early Cold War: Challenging Realism, Refuting Revisionism," *International Security*, vol. 20, No. 3 (Winter, 1995-1996), pp. 152-188.

第12回 研究事例: 数量的分析

Abhijit V. Banerjee, Shawn Cole, Esther Duflo and Leigh Linden, "Remedying Education: Evidence from Two Experiments in India," *The Quarterly Journal of Economics*, (August 2007), pp.1235-1264.

Daron Acemoglu, Simon Johnson, James A. Robinson, and Pierre Yared, "Income and Democracy," *The American Economic Review*, Jun., 2008, Vol. 98, No. 3 (Jun., 2008), pp. 808-842.

第13回 研究事例: 質的分析

Mark L. Haas, "Prospect Theory and the Cuban Missile Crisis," *International Studies Quarterly*, Vol.45, No.2 (June 2001). pp.241-270.

Abigail S. Post, "Words Matter: The Effect of Moral Language on International Bargaining," *International Security*, Vol.48, No.1 (Summer 2023), pp. 125-165.

第14回 研究事例: 数量的分析

Helen V. Milner with Keiko Kubota, "Why the Move to Free Trade? Democracy and Trade Policy in the Developing Countries," *International Organization*, 59 (Winter 2005), pp.107-143.

Sarah Zukerman Daly, "A Farewell to Arms? Election Results and Lasting Peace after Civil War," *International Security*, vol. 46, No.3 (Winter 2021/22), pp. 163-204.

第15回 研究事例: 質的分析・数量的分析

Jennifer Lind, "Back to Bipolarity: How China's Rise Transformed the Balance of Power," *International Security*, Vol.49, No.2 (Fall 2024), pp. 7-55.

Claas Mertens, "Carrots as Sticks: How Effective Are Foreign Aid Suspensions and Economic Sanctions?" *International Studies Quarterly* (2024) 68, pp.1-15.

【授業外学修】

各授業の予定に掲載した論文はすべて必読。

3. 成績の評価方法：

- 各論文についての問題提起発表（30%）： 論文についての問題提起的発表を3回行う。論文を正確に読解し、その主張の学問的位置づけ、問題となりうる論点などを明快に提示し、授業の議論をリードする
- 授業中の質問・発言など（30%）： 論文を正確に読解し、問題提起発表に対して適切な質問、論点の追加や論点への見解の表明などにより議論を深化させる。原則としてすべての授業に出席する。欠席する場合は、事前に指定論文についての疑問や論点をまとめたメモを提出し、授業の議論に貢献する
- 学期末に提出するリサーチ・プロポーザル（40%）： 修士論文を想定し、学問的貢献が期待でき、実施可能性も高いリサーチ・プロポーザルを作成する

[成績評価基準]

- A: 到達目標を高い水準で達成している
B: 到達目標を満足できる水準で達成している
C: 到達目標を概ね達成している
D: 到達目標を最低限の水準で達成している
E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

各授業の予定に掲載した論文はすべて必読。

その他参考文献は

田中明彦『新しい中世 相互依存の世界システム』（講談社、2017）

田中明彦『ポストモダンの「近代」 米中「新冷戦」を読み解く』（中央公論新社、2020）

Joseph S. Nye, Jr. and David Welch. Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History, 10th Edition. Boston: Pearson, 2017. (田中明彦・村田晃嗣訳『国際紛争——理論と歴史（原書第10版）』有斐閣, 2017年)

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

授業は、参加者全員が毎回の指定文献を事前に読んでいることを前提に、論文の内容について議論する形式となる。ただ議論の端緒を作るために、論文についての発表者をきめておき、発表者は、15分程度で、論文の主張と特徴を指摘し、首肯しうる点、批判しうる点、あるいは疑問点など議論の論点を提示する。全員が論文を読破していることが前提であるので、論文の単なる要約でなく、ポイントを絞って問題提起する必要がある。発表用の資料（レジュメ）は、wordファイルで作成し、事前にa-tanaka@grips.ac.jpおよび k-ikeda@grips.ac.jpに送付すること。当方で、参加者分プリントアウトして授業の際、配布する。他の参加者は、発表者の提示した論点についての意見を提起し議論を進める。発表者の問題提起が論文の内容を十分反映していないと見られる場合は、違う形の特徴づけを提起することが望まれる。

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GLD2520J
授業名	国家戦略論
担当者	BANSHO Koichiro／番匠 幸一郎
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Thu 木／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

日本の置かれている地政学的特性と国際戦略環境の変遷、および日本の国家安全保障・防衛政策の特徴と決定過程を概観するとともに、戦後の日本の安全保障の根幹をなす日米同盟の意義と変遷について考察する。また、日本の安全保障戦略と政治レベル・政府レベルにおける政策決定のプロセス、および政策遂行のための具体的な施策の実態や課題などについて検討する。更に、冷戦後に開始された日本の国際平和協力活動、特にPKOや対テロ支援などについても国家レベルの政策決定と現場のオペレーションの関係などについて考察する。最後に、外交安全保障の実行者として直面する危機管理やリーダーシップの在り方について、事例研究を交えて考察し、国家戦略の概要を総合的に習得させる。

この講義は、SDGsの目標1、10、16（貧困、不平等、平和）に関連する。

[到達目標]

全15回の授業を通じ、国家戦略の要点を総合的に理解することにより、今後国際社会で活躍する人材として必要とされる幅広い視野と多角的視点に基づく高い識能を習得させる。

[関連するDP] 国際的指導力育成プログラム:DP②③④⑤

2. 各授業のテーマ：

第1講 ガイダンス・・・講義の構成と各講義の狙いの徹底、学生の関心事項の確認

第2講 日本の地政学的特性と国際戦略環境

第3講 日本の外交・防衛政策の特徴と国家安全保障戦略

第4講 日米同盟の意義と課題・・・日米安保条約、ガイドライン、トモダチ作戦等

第5講 日本の国際安全保障協力の特性と取り組み・・・PKO参加の意義と特性

第6講 自衛隊のイラク派遣・・・外交と防衛の関係、現場の実態と課題

第7講 日本の危機管理態勢の現状と課題・・・危機管理の定義、制度、特色

第8講 危機におけるリーダーシップ・・・リーダーの責務、統率の事例研究

第9講 日本の防衛戦略・・・南西防衛態勢検討の経緯と課題を例示

第10講 核抑止戦略と日本の安全保障・・・核軍縮と核抑止

第11講 新たな脅威への対応と非伝統的安全保障・・・サイバー・宇宙・電磁波・認知領域等

第12講 国家と情報・・・戦略情報と作戦情報、情報活動の特性

第13講 21世紀の国際安全保障環境と日本の役割（事例研究その1）

第14講 21世紀の国際安全保障環境と日本の役割（事例研究その2）

第15講 まとめ・・・講義を通じての問題意識を討議、総括的フィードバック

[授業外学修について]

参考文献を参照。

3. 成績の評価方法：

講義への参画や質疑における積極性・貢献度などに関する部分を20%、講義における個人ごとのプレゼンテーションと質疑応答に関する部分を40%、期末レポート40%の割合で評価する。

[成績評価基準]

以下の通り、A～Eで評価する。

- A: 到達目標を高い水準で達成している
- B: 到達目標を満足できる水準で達成している
- C: 到達目標を概ね達成している
- D: 到達目標を最低限の水準で達成している
- E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

『防衛白書』（防衛省 2023年）
防衛大学校安全保障学研究会編『安全保障学入門』（亜紀書房 2020年）
庄司潤一郎編著『地政学原論』（日本経済新聞出版 2020年）
兼原信克『安全保障戦略』（日本経済新聞出版 2021年）
番匠幸一郎共著『核兵器について本音で話そう』（新潮新書 2022年）
野中郁次郎編著 番匠幸一郎共著『「失敗の本質」を超えて 安全保障を現場から考える』
（日本経済新聞出版 2024年）

4-2:その他

Koichiro Bansho「Japan's New Defense Strategy in the Southwest Islands and Development of Amphibious Operations Capabilities」(RAND Corporation, 2018)

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

- 自らを国家のリーダーの立場に置き、日本政府全体の運営を視野に入れて考えること
- 国家安全保障上、政策的優先的事項は何かを常に考えること
- 「政治/外交/経済/軍事/価値」を一つの問題として考えること
- 国際情勢、近現代史の大きな常識的知識を持つこと
- 政策遂行の現場リーダーとしての「責任感と見識」をリアルに考えること
- Factに基づく冷静・客観的な思考に心がけること
- 幅広い意見を聞き、受容する知的包容力と判断力を持つよう努めること

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GLD2600J
授業名	安全保障論
担当者	TSUKAMOTO Katsuya／塚本 勝也
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Wed 水／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

本講義は、安全保障問題を議論する際に不可欠な基礎的概念について基本的なテキストを踏まえて理解することを目的とする。そうした理解の基に、日本が直面する安全保障問題について理論・実践の双方からアプローチする素養を培うことを目指す。

本講義において履修者が獲得すべき知識や能力は以下の通りである。

- ①インド太平洋地域を中心とする安全保障の諸問題に関する知識
- ②上記の知識に基づき、各種の問題を分析的・批判的に理解する能力
- ③安全保障上の政策課題について、基本的な政策のあり方を提案する能力

関連するディプロマポリシー：

国際的指導力育成プログラム DP①⑤

2. 各授業のテーマ：

第1回 オリエンテーション

第2回 日本の安全保障戦略

- ・「国家安全保障戦略」、「国家防衛戦略」、「防衛力整備計画」
- ・ Narushige Michishita, “Japan’s New National Security Strategy: Getting Committed to the Defense of Taiwan,” in CSIS Strategic Japan 2023: Japan’s Realism Diplomacy, June 8, 2023, <https://www.csis.org/analysis/japans-new-national-security-strategy>.
- ・ エルブリッジ・コルビー『拒否戦略——中国覇権阻止への米国の防衛戦略』（日本経済新聞出版、2023年）5～11頁。

第3回 日本を取り巻く安全保障問題——中国、北朝鮮、ロシア

- ・ オリアナ・スカイラー・マストロ「ロシア・北朝鮮同盟と中国の立場——不安定な権威主義連合の行方」『フォーリン・アフェアーズ・リポート』（2024年4月）。
- ・ 「台湾を守る曖昧戦略——いかに壊滅的事態を防ぐか」『フォーリン・アフェアーズ・リポート』（2024年12月）。
- ・ ロバート・E・ケリー、キム・ミンヒョン「韓国の核武装を認めよ——北朝鮮の脅威とアメリカの干渉」『フォーリン・アフェアーズ・リポート』（2025年2月）。
- ・ 防衛省『令和6年度版 防衛白書』（防衛省、2024年）64～144頁。

第4回 新たな安全保障領域——サイバー、宇宙、電磁波

- ・ 笹川平和財団新領域研究会編『新領域安全保障——サイバー・宇宙・無人兵器をめぐる法的課題』（ウェッジ、2024年）第1章、第3章、第4章。
- ・ 福島康仁『宇宙と安全保障——軍事利用の潮流とガバナンスの模索』（千倉書房、2020年）第1章。
- ・ 防衛省『令和6年度版 防衛白書』（防衛省、2024年）175～192頁。

第5回 作戦領域の拡大——ハイブリッド戦、グレーゾーン、認知戦

- ・ 防衛省『令和6年度版 防衛白書』（防衛省、2024年）39頁。
- ・ 土屋大洋「作戦領域の拡大と技術の役割」『KCS Report』（No. 1、2024年）1～11頁。

- ・ 防衛研究所編『中国安全保障レポート2023』（防衛研究所、2023）第2章、第3章。
- ・ 高橋杉雄「平和安全法制とグレーゾーン」『国際安全保障』（第47巻第2号）。

第6回 安全保障の概念

- ・ 神谷万丈「安全保障の概念」防衛大学校安全保障学研究会編著『安全保障学入門 新訂第5版』（亜紀書房、2018年）第1章。
- ・ 村田晃嗣「安全保障」村田晃嗣他編『国際政治学をつかむ 新版』（有斐閣、2015年）。
- ・ 土山実男『安全保障の国際政治学——焦りと傲り 第2版』（有斐閣、2014年）第3章。

第7回 シビリアン・コントロールと政軍関係

- ・ 河野仁「政軍関係論」防衛大学校安全保障学研究会編著『安全保障学入門 新訂第5版』（亜紀書房、2018年）第11章。
- ・ カール・フォン・クラウゼヴィッツ『全訳 戦争論・下』（日経BP、2024年）362～370頁。
- ・ エリオット・コーエン『戦争と政治とリーダーシップ』（アスペクト、2003年）第6章、第7章。

第8回 戦争と平和をめぐる国際関係理論

- ・ 土山実男『安全保障の国際政治学——焦りと傲り 第2版』（有斐閣、2014年）第2章。
- ・ スコット・セーガン、ケネス・ウォルツ『核兵器の拡散——終わりなき論争』（勁草書房、2017年）第1章。
- ・ 石川卓「対立と協調——リベラリズム、ネオリベラリズム」村田晃嗣他編『国際政治学をつかむ 新版』（有斐閣、2015年）。
- ・ 来栖薫子「規範と制度——コンストラクティビズム」村田晃嗣他編『国際政治学をつかむ 新版』（有斐閣、2015年）。

第9回 軍事力の役割

- ・ Robert J. Art, "The Four Functions of Force," in *The Use of Force: Military Power and International Politics*, 4th ed., ed. Robert J. Art and Kenneth N. Waltz (Lanham: University Press of America, 1993).
- ・ ポール・ゴードン、ローレン・ゴードン、ゴードン・A・クレイグ、アレキサンダー・L・ジョージ『軍事力と現代外交——現代における外交的課題 原書第4版』有斐閣、2009年）第9章、第10章。
- ・ 道下徳成「戦略論の将来」道下徳成、石津朋之他編『現代戦略論——戦争は政治の手段か』勁草書房、2000年）139-186ページ。

第10回 核兵器の役割

- ・ 石川卓「核」村田晃嗣他編『国際政治学をつかむ 新版』（有斐閣、2015年）。
- ・ 秋山信将「『秩序の兵器』としての核と分裂する世界」秋山信将・高橋杉雄編『「核の忘却の終わり——核兵器復権の時代』勁草書房、2019年。
- ・ ブラッド・ロバーツ『正しい核戦略とは何か——冷戦後アメリカの模索』（勁草書房、2022年）終章。
- ・ 戸崎洋史「ポストINF時代の軍備管理」森本敏・高橋杉雄編著『新たなミサイル軍拡競争と日本の防衛』（並木書房、2020年）。

第11回 戦争と技術

- ・ 道下徳成「戦争と技術」加藤朗他編『戦争——その展開と抑制』（勁草書房、1997年）第4章。
- ・ エリオット・コーエン「技術と戦争」ジョン・ベイリス他編『戦略論——現代世界の軍事と戦争』（勁草書房、2013年）第7章。
- ・ アレックス・ローランド『戦争と技術』（創元社、2020年）第4章。
- ・ 塚本勝也「軍事における革命(RMA)の理論的考察——変革の原動力としての技術、組織、文化」『防衛研究所紀要』第15巻第1号（2012年）。

第12回 経済と安全保障

- ・ クリス・ミラー『半導体戦争——世界最重要テクノロジーをめぐる国家間の攻防』（ダイヤモンド社、2023年）第49～54章。

- ・ 滝沢茂樹「経済安全保障をめぐる日本政府の取組」『グローバル・ガバナンス』（第9号、2023年）。
- ・ 川崎剛「日本の大戦略における経済安全保障推進法」『グローバル・ガバナンス』（第9号、2023年）。
- ・ 公安調査庁「経済安全保障の確保に向けて2022——技術・データ・製品等の流出防止」（公安調査庁、2022年5月）。

第13回 戦争と情報

- ・ ロジャー・ジョージ「インテリジェンスと戦略」ジョン・ベイリス他編『戦略論——現代世界の軍事と戦争』（勁草書房、2013年）第8章。
- ・ カール・フォン・クラウゼヴィッツ『全訳 戦争論・上』（日経BP、2024年）102～107頁。
- ・ 『新訂 孫子』（岩波文庫、2000年）44～53頁。
- ・ リチャード・J・サミュエルズ『特務——日本のインテリジェンス・コミュニティの歴史』（日本経済新聞出版、2020年）第7章。

第14回 軍事バランスとネット・アセスメント

- ・ アンドリュー・クレピネヴィッチ・バリー・ワッツ『帝国の参謀——アンドリュー・マーシャルと米国の軍事戦略』（日経BP社、2016年）第4章、第6章。
- ・ Paul Bracken, "Net Assessment: A Practical Guide," *Parameters* (Spring 2006).
- ・ Eliot A. Cohen, "Toward Better Net Assessment: Rethinking the European Conventional Balance," *International Security*, Vol. 13, No. 1 (Summer 1988), pp. 50-89.

第15回 総括

第16回 期末試験

3. 成績の評価方法：

質疑・議論への参加・貢献度（50%）
 期末試験（Essay Question）（50%）

4. テキスト、参考文献等：（4-1:必携のテキスト 4-2:その他）

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

参考文献はGRIPS図書館から入手するか、適宜配布する。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GLD2900E
Course Name	Principles of Effective Communication
Instructor	PETCHKO Katerina, et al.
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Sat 土/2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

This modular course covers the basic principles of effective English communication in an environment of multiple stakeholders. Participants will learn the language and techniques for conducting meetings, engaging in negotiations, participating in discussions, making presentations, and writing emails. Both oral and written communication will be covered.

Achievement Goals

Students will be exposed to, and will have an opportunity to learn and become familiar with, the following aspects of English communication:

- Linguistic vs. pragmatic competence and their role in effective communication
- Politeness strategies in English communication
- Email writing skills
- Meeting and discussion skills
- Negotiation and conflict resolution skills
- Presentation skills

Relevant DP

国際的指導力育成プログラム(GLD) DP2,4,5

2. Course Outline :

Date	Topic	Instructor
April 5	Professional Writing: email Fundamentals	O'Neill
April 12	Professional Writing: Politeness in email	O'Neill
April 19	Professional Writing: Advanced techniques	O'Neill
April 26	Professional Writing: Wrap-up and Performance	O'Neill
May 10	Meetings and discussion: Opinions and agreement	O'Neill
May 17	Meetings and discussion: Interaction strategies and disagreement	O'Neill
May 24	Meetings and discussion: Clarifying meaning	O'Neill
May 31	Meetings and discussion: Wrap up and Performance	O'Neill
June 7	Cultural Variation in Communication 1	Petchko
June 14	Cultural Variation in Communication 2	Petchko

June 21	Presentation: Content & language	Petchko
June 28	Presentation: Visual aids, delivery, & Q&A	Petchko
July 5	TED talk analysis	Petchko
July 12	Mini-presentations	Petchko
July 19	Group presentations	Petchko

Out-of-Class Learning

Students are expected to review materials distributed in class and be prepared for in-class discussion of key topics covered in the course

3. Grading :

Grading will be based on assessing four components of English communication covered in the course, i.e., email writing, discussion, negotiation, and presentation. Each component is worth 25% of the final grade. These components will be assessed through the following assignments.

- Email writing task
- Discussion task
- Negotiation simulation
- Final presentation

Grading criteria

A: The student has demonstrated the use of most of the skills and concepts taught in the course.

B: The student has demonstrated the use of many skills and concepts taught in the course.

C: The student has demonstrated the use of some of the skills and concepts taught in the course.

D: The student has demonstrated the use of only a few skills and concepts taught in the course.

E (Fail): The student has failed to demonstrate the use of the skills and concepts taught in the course or the students has missed more than 50% of the course.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

Course materials will be provided by the instructors.

5. Software Used in Lectures :

PowerPoint

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GLD3900E
Course Name	Effective Communication for Global Leaders
Instructor	PETCHKO Katerina, et al.
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Sat 土/3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

This is a capstone, simulation-based course that brings together the concepts, language, and communication skills that participants have learned in Principles of Effective Communication. Participants will go through a series of assignments to develop, present, and negotiate a policy proposal in response to a set of specified requirements.

Achievement Goals

Students will be exposed to, and will have an opportunity to learn and become familiar with, the following aspects of English communication:

- Making effective arguments
- Establishing credibility and providing logical support
- The difference between positional bargaining and principled negotiation
- Negotiation strategies and tactical decisions

Relevant DP

国際的指導力育成プログラム(GLD) DP2,4,5

2. Course Outline :

Date	Topic	Instructor
April 5	Professional Writing: Review & Dealing with Issues	O'Neill
April 12	Review of Meeting and Discussion Skills & Expressing Concerns	O'Neill
April 19	The Language of Negotiations: Establishing Credibility in Negotiations: Ethos & Probing Questions	O'Neill
April 26	The Language of Negotiations: Logical Support for Positions: Logos and Challenging Positions	O'Neill
May 10	The Language of Negotiations: Impactful Arguments: Pathos and Linguistic Assertiveness	O'Neill
May 17	The Language of Negotiations: Resolution I: Making Proposals	O'Neill

May 24	The Language of Negotiations: Conflict Resolution II: Reaching a compromise	O'Neill
May 31	The Language of Negotiations: Wrap-Up and Performance	O'Neill
June 7	Principles of Effective Communication: Getting to Yes	Petchko
June 14	Simulation 1: English Education (Part 1)	Petchko
June 21	Simulation 1: English Education (Part 2)	Petchko
June 28	Simulation 2: The Aging Population (Part 1)	Petchko
July 5	Simulation 2: The Aging Population (Part 2)	Petchko
July 12	Simulation 3: Harborco (Part 1)	Petchko
July 19	Simulation 3: Harborco (Part 2)	Petchko

Out-of-Class Learning

Students are expected to review materials distributed in class and be prepared for in-class discussion of key topics covered in the course.

3. Grading :

Grading will be based on assessing student performance in class activities (e.g., discussion simulations and negotiation simulations).

Grading criteria

A: The student has demonstrated the use of most of the skills and concepts taught in the course.

B: The student has demonstrated the use of many skills and concepts taught in the course.

C: The student has demonstrated the use of some of the skills and concepts taught in the course.

D: The student has demonstrated the use of only a few skills and concepts taught in the course.

E (Fail): The student has failed to demonstrate the use of the skills and concepts taught in the course or the students has missed more than 50% of the course.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

Course materials will be provided by the instructors.

5. Software Used in Lectures :

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :
Allow

7 . Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GOV2100J
授業名	政策過程論
担当者	IIO Jun／飯尾 潤
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Thu 木／2
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

政策過程論は、政策が発案され、決定されて、それが実施に移され、さらに見直されるという一連の過程を解明することにより、政策のあり方そのものを研究する分野である。この講義は、政策過程論において蓄積されてきた多様な知見を提供し、現代日本の政策過程を参照しつつ、現実的・具体的な政策課題について、広く考察するための基盤となる知識を提供することを目指している。そして実地に即した理論理解を進め、受講者が政策過程論関連の知識を吸収するだけでなく、自らの課題について構想力を養うことが最終的な目的である。講義形式が基本となるが、受講者とのやりとりができるように配慮して、授業を進めていく予定である。

なお、本講義は、SDGsに関しては、目標16あるいは目標17が関係しているが、具体例の中には、それ以外の目標に関連するものも含まれている。

[到達目標]

- （１）政策過程論の基礎的概念やさまざまな分析枠組みを習得する。
- （２）概念や分析枠組みが、具体的な場面にそれらがどのように適用されるのかを学ぶことで、政策あるいは政策過程を理解する能力を身につける。
- （３）自らの関心のある政策問題について政策過程の観点から理解を深め、政策問題を多面的に把握する能力を付ける。
- （４）独自の切り口で政策に関わる事象を把握し、代替案を考えるための枠組みを身につける。

[関連するディプロマ・ポリシー]

公共政策プログラム地域政策コースDP②、
 公共政策プログラムインフラ政策コースDP②、
 公共政策プログラム防災・危機管理コースDP④⑤、
 公共政策プログラム医療政策コースDP②、
 公共政策プログラム農業政策コースDP②、
 公共政策プログラム科学技術イノベーション政策コースDP②、
 公共政策プログラム国際協力コースDP②、
 公共政策プログラムまちづくり政策コースDP②、
 公共政策プログラム地域創造・金融コース①、
 公共政策プログラム文化産業・地域創造コース②

2. 各授業のテーマ：

第1回：政策研究と政策過程論の意義（講義の説明）

政策研究の発展経路を回顧するなかで、政策の概念を確認し、政策過程を研究することがいかなる意味を持つのかを検討し、政策過程論の意義を検討する。

第2回：政策類型論と政策循環（ポリシー・サイクル）論

政治制度論・政策類型論などを検討したうえで、政策過程を簡明に枠づける思考法としての政策循環論を包括的に論じ、次回以降の講義の構成について説明する。

第3回：政策課題の発見とアジェンダ設定

政策循環が開始される段階であるアジェンダ設定について論じ、争点の設定と隠れた権力あるいは価値観と政策などの問題を検討する。

第4回：政策立案Ⅰ（社会集団と政策ネットワーク）

政策の具体的な内容を作成する段階としての政策立案に関連して、政策を取り巻くネットワークの重要性と、その具体的なあり方を紹介する。

第5回：政策立案Ⅱ（政策立案における政策分析）

政策立案における思考法に関して専門家の役割を検討し、行政官および政策研究者にとっての政策立案に関する課題を具体的に検討する

第6回：政策決定Ⅰ（合理性に基礎をおく枠組み）

政策決定は、政策を正統化し確定する段階であり、長らく政策過程論の中心的な研究対象であった、この段階に関する古典的な理論として合理的決定論と漸变的決定論を検討する。

第7回：政策決定Ⅱ（合理性を前提にしない枠組み）

歴史的記述やゴミ缶モデルの系譜にある政策の窓モデルなど、アクターの合理性を前提にしない枠組みを検討する。

第8回：政策決定Ⅲ（理念や言説に基づく枠組み）

理念や人々の信条の変化を基礎にして政策の変化を理解しようとする枠組みについて検討を加える。

第9回：政策実施の諸条件

政策を実際に実現する段階（政策実施）において生じる問題を、理論の発展に沿って紹介し、政策実施現場の問題を検討する。

第10回：政策実施と多様な組織

政策実施と密接に関係する中央地方関係、新公共経営論、ガヴァナンス論などを議論する。

第11回：政策評価と政策転換・終了

政策評価の概念の検討とともに、評価に関わる政策過程参加者の動機を検討し、さらに政策が終了するメカニズムについて検討する。

第12回：政権運営Ⅰ（政策の統合と運営）

個別の政策過程を統合する主体として政権の役割を検討し、その課題について論じる中で、総合的に政策過程のあり方を検討する。

第13回：政権運営Ⅱ（政治制度と政策過程）

政策を支える制度の類型を紹介したうえで、政権のあり方を中心に政策過程と制度との関係を説明し、日本における具体的な制度運用を検討する。

第14回：政権運営Ⅲ（民主政と政策転換）

政権への評価を出発点に、政策の正統化という民主政の課題をめぐる問題をまとめて議論し、意識的変革としての政策と民主政の関係を検討する。

第15回：政策関連知識の総合：政策的構想力論

政策に関わる政策分析や政策規範論、執務知識の役割を検討したうえで、政策過程の研究が、政策にとっていかなる意味を持つのかを考察し、政策的構想力の可能性について論じる。

[授業外学修]

受講生は、あらかじめ配布するテキストや資料を一読し、講義を受ける前に概要を把握した上で、積極的に授業に参加し、授業後にはテキストを精読するとともに、指定した参考文献等を読んで、さらに理解を深めることが求められる。より具体的な学習方法については、初回に説明する。

3. 成績の評価方法：

成績は、レポートに関する評価点を基準に算定する。レポートは、小課題を2回出題して、それぞれの点数を合計したうえで評価する。課題の締め切りは、ほかの授業との関係もあるので、講義中で支障を確認した上で、最終決定して通知する。受講者は、積極的に授業に参加することが求められているので、4回以上の欠席は特別の事情がある限り認められない。特別の事情のある場合には、代替課題を課すので、担当教員と相談すること。

[成績評価基準]

A: 政策過程論の基礎概念や分析枠組みについて十分に理解し、関係事象を構造化して独自の切り口で表現することができる。

B: 政策過程論の基礎概念や分析枠組みを理解し、それを自ら関心のある事例に適用することができる。

C: 政策過程論の基礎概念や分析枠組みを概ね理解し、具体的な場面での適用例をある程度示すことができる。

D: 政策過程論の基礎概念や分析枠組みについて最低限の習得をしている。

E: 政策過程論の基礎概念や分析枠組みを理解して、それを説明することができない。不合格。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

担当者が執筆した独自のテキスト（および講義資料）は、毎回事前に入手できるように、配布する

4-2:その他

参考文献は、毎回の講義で紹介して、参照を求める。しばしば言及するのは、次の書籍である。

- * Michael Howlett, M. Ramesh, and A. Perl, *Studying Public Policy 4th ed.*, Oxford University Press, 2020
- * Christopher M. Weible, eds., *Theories of The Policy Process 5th ed.*, Routledge, 2023
- * John W. Kingdon, *Agendas, Alternatives, and Public Policy 2nd ed.*, Pearson Education, inc., 2011,

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

聴講する際、資料を入手したい場合には、予め教員に連絡すれば、提供方法を考える。

日本の国や自治体などに詳しくない受講者には、それらを理解するための文献を、講義の中で示すので、それを用いて、知識を補ってほしい。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GOV2110J
授業名	日本政治と理論分析
担当者	TAKENAKA Harukata／竹中 治堅
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Mon 月／3
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【概要】

現在、日本における権力構造と政策決定は急速に変化しつつある。「日本政治と理論分析」は、現代日本における権力構造、特に議院内閣制のあり方と政策決定過程についての理解し、現在起きている変化を理解できるようにすることを目的とする。現在の日本の統治構造の最大の特徴は、1990年代に政治制度が大きく変更された結果、首相の指導力が制度的に拡大したことである。

第一部では、理解の前提として、民主主義の下で、政治制度、特に、統治制度と選挙制度が権力構造に及ぼす影響についての一般的な議論を紹介する。以後、この議論を応用し、戦後日本において権力構造や政策決定過程がどのように変化してきたか分析する。第二部では、年体制のもとにおける変化を、第三部では、政治改革・行政改革が権力構造や政策決定過程に及ぼした影響を分析する。第四部では、まず現代日本の政治過程として、長期政権となった安倍内閣に注目し、内閣が実施した制度改革と政策決定過程について議論する。さらに岸田内閣の政策決定過程を分析する。なお、本講義を理解する上で、戦後日本政治の展開の基本的知識を持っていることが望ましい。従って、受講希望者は、第5回講義までに、北岡伸一『自民党』中公文庫を読むことが望ましい。この講義は、の目標（平和と公正）に関連する。近年、現実の政治が急速に変化すること（あるいはしていることが判明すること）があり、変化を踏まえて授業の内容をある程度変える場合がある。

【到達目標】

- ・民主主義における基本的な統治制度のあり方や統治機構が政治過程に及ぼす一般的な影響を理解すること。
- ・日本の基本的な統治制度について理解すること。
- ・1990年代以降、実施されてきた統治制度改革について理解すること。
- ・一連の改革以前の権力構造や政治過程について理解すること。
- ・一連の改革が原因となって起きた権力構造の変化や政治過程の変化について理解すること。
- ・現在の政治過程における主な政治アクターについて理解すること。
- ・近年のいくつかの政権のもとにおける政策決定過程の考察を通じて、現代日本の政策決定過程の特徴について理解すること。

関連するディプロマポリシー：

公共政策プログラム

- ・地域政策コース①②③
- ・文化政策コース②③④
- ・防災・危機管理コース③④⑤
- ・医療政策コース②
- ・農業政策コース②
- ・科学技術イノベーション政策コース②
- ・国際協力コース②
- ・地域創造・金融コース②
- ・文化産業・地域創造コース②
- ・総合政策コース①②③

科学技術イノベーション政策プログラム②

戦略研究プログラム③

2. 各授業のテーマ：

第1回 ガイダンス日本の議院内閣制の変容と首相権力の増大

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

竹中治堅. 2023.「岸田内閣、長期政権の条件」『中央公論』2023年11月号, 116-123.

竹中治堅. 2017.「安倍政権と民主党政権の継続性」竹中治堅『二つの政権交代 政策は変わったのか』勁草書房、273-289.

竹中治堅. 2018.「議院内閣制の変容と『忖度』」『中央公論』2018年6月号, 40-49.

【講義内容】年代以降の日本政治の変化を概観する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第2回 統治制度：大統領制と議院内閣制

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

飯尾潤. 2007.『日本の統治構造』中公新書 139-172.

濱本真輔. 2018.「第5章 議院内閣制と首相」『日本政治の第一歩』91-110.

竹中治堅. 2006.『首相支配』中公新書 第6章 185-202.

【講義内容】民主主義のもとでの基本的統治機構である大統領制と議院内閣制について説明する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第3回 議院内閣制の構造：選挙制度と国会制度と政治化

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

上神貴佳. 2018.「第4章 政党と政治家」『日本政治の第一歩』69-90.

【講義内容】日本の議院内閣制の特徴、議院内閣制と選挙制度の関係、国会のあり方などについて説明する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第4回 1955年体制下の政党と派閥の変容

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

飯尾潤. 2007.『日本の統治構造』77-104.

北岡伸一. 2008.『自民党』中公文庫』9-220.

【講義内容】55年体制のもとで政党と派閥のあり方がいかに変化したか説明する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第5回 1955年体制下の自民政権：連立内閣、族議員、事前審査制

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

飯尾潤. 2007.『日本の統治構造』77-104.

北岡伸一. 2008.『自民党』221-306.

【講義内容】55年体制のもとで首相の指導力のあり方がいかに変化したか説明する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第6回 政治改革と自民党の変容の始まり

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

竹中治堅. 2006.『首相支配』中公新書139-184.

中北浩嗣. 2017.『自民党』中公新書47-134.

【講義内容】政治改革の経緯について説明し、自民党に及ぼした影響を分析する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第7回 中央省庁再編と小泉内閣、地方分権改革

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

竹中治堅. 2006.『首相支配』35-78, 139-184, 203-236.

中谷美穂. 2018.「第10章 地方自治」『日本政治の第一歩』185-204.

待鳥聡史.2020.『政治改革再考』新潮社 232-280.

【講義内容】政治改革に続いて行われた省庁再編と地方分権改革について説明し、小泉内閣のもとの政治過程について議論する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第8回 小泉政権後三政権の混迷と政権交代

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

竹中治堅.2012.「民主党代表と政策の変容」飯尾潤・荻部直・牧原出『政治を生きる』中央公論新社, 71-128.

竹中治堅.2013.「民主党政権と日本の議院内閣制」飯尾潤編『政権交代と政党政治』中央公論新社, 139-180.

【講義内容】小泉内閣以降の自民党政権のあり方と民主党政権について説明する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第9回 安倍政権の制度改革公務員制度改革との導入と官邸

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

濱本真輔.2018.「第5章 議院内閣制と首相」『日本政治の第一歩』91-110.

竹中治堅.2018.「議院内閣制の変容と『忖度』」『中央公論』2018年6月号, 40-49.

【講義内容】公務員制度改革と国家安全保障会議設置について議論する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第10回 政治家、大臣、自民党、非自民勢力

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

上神貴佳・三浦まり.2018.「第4章 政党と政治家」『日本政治の第一歩』69-90.

中北浩爾.2017.『自民党』155-180.

竹中治堅.2021.「与党統制 首相支配の浸透」アジアパシフィックイニシアティブ『検証安倍政権』265-306.

【講義内容】主要な政治アクターである議員、大臣について説明し、自民党と非自民勢力の現状について議論する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第11回 政官関係、利益集団、マスメディア

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

中北浩爾.2017.『自民党』181-228.

【講義内容】政治家と官僚の関係、利益集団の在り方、メディアの役割について説明する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第12回 第二次安倍政権の下での政策決定過程：官邸主導と安保政策と金融政策

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

田崎史郎.2014.『安倍官邸の正体』講談社現代新書.

中北浩爾.2022.「官邸主導」アジアパシフィックイニシアティブ『検証安倍政権』113-151.

竹中治堅.2022.「与党統制 首相支配の浸透」アジアパシフィックイニシアティブ『検証安倍政権』265-306.

【講義内容】安倍政権の下での政策決定過程について安保政策や金融政策を事例として説明する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第13回 第二次安倍政権・菅政権の下での政策決定過程：成長戦略、社会・労働政策、コロナ危機対応

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

竹中治堅.2020.『コロナ危機の政治:安倍政権vs.知事』中公新書.283-319.

竹中治堅.2020.「菅政権、混乱の対応を読み解く」『中央公論』2021年2月.

【講義内容】安倍政権の下での政策決定過程について成長戦略や社会・労働政策を事例として説明する。また安倍政権と菅政権のコロナ危機対応について論じる。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第14回 岸田政権の政策決定過程：ウクライナ、新しい資本主義、経済安全保障

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

竹中治堅.2021.「『新しい資本主義』の鍵はデジタル化、シェアリング化だ：衆院選直後から始まる岸田政権の正念場」『中央公論2021年12月号』（2021年11月）96-103.

兼原信克.2023.「経済安全保障を論じる視座」玉井克哉・兼原信克編『経済安全保障の深層』日経BP、3-22.

國分俊史.2023.「経済安保のキーワードはデリスキングとリマニュファクチュアリング」玉井克哉・兼原信克編『経済安全保障の深層』日経BP、23-46。

【講義内容】岸田政権の下の政策決定過程について説明する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

第15回 政治改革30周年、残された課題。

【事前準備】下記のテキスト読むこと。

待鳥聡史.2020.『政治改革再考』新潮社 232-280.

【講義内容】政治改革以降の30年の政治の歩みを総括し、日本政治の課題について議論する。

【講義後】授業内容を振り返り、さらに疑問が生じた際は質問を送る。

3. 成績の評価方法：

3.1 評価方法

(1)レポート（40%）、(2)試験（50%）、(3)授業参加(10%)

3.2 評価基準

A 90-100 合格 到達目標を高い水準で達成している

B 80-89 合格 到達目標を満足できる水準で達成している

C 70-79 合格 到達目標を概ね達成している

D 60-69 合格 到達目標を最低限の水準で達成している

E 0-59 不合格 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4.1

上神貴佳・三浦まり『日本政治の第一歩』有斐閣

中北浩嗣..2017.『自民党』中公新書.

飯尾潤『日本の統治構造』中公新書

北岡伸一.2008.『自民党』中公文庫.

竹中治堅『首相支配—日本政治の変貌』中公新書

竹中治堅編『二つの政権交代政策は変わったのか』勁草書房

竹中治堅『コロナ危機の政治—安倍政権知事』中公新書

4.2

各回毎の読書課題は列記した通り。

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

特別なソフトは使用せず

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

授業に積極的に参加することを期待する。

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GOV2205J
授業名	国際政治経済
担当者	IIDA Keisuke／飯田 敬輔
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／3
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

本授業の目的は、国際政治経済論（IPE）の骨格とその応用を明らかにし、各受講生がそれぞれの関心にしたがって、おのずから分析する視点を獲得する力を養うことができるようにすることである。理論的視点はリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムに限るが、これ以外にも有用な理論は多数ある。必要があれば、それらにも言及する。

応用分野としては、通商や通貨など、スタンダードなものから、環境や移民なども含む。

教科書には飯田敬輔著『国際政治経済』（東京大学出版会、2007年）を基本書として使うが、これだけでは十分ではないため、適宜参考文献を掲載している。これらも併せて読むとより内容への理解が深まる。

[到達目標]

- IPEの主要理論を理解し、自分の言葉で説明できる
- 目的に応じて適当な理論を選択しそれを応用した分析ができる
- ②に従って、適切な政策に関する意見を述べることができる

[関連するディプロマ・ポリシー]

公共政策プログラム

- ・地域政策コース②
- ・インフラ政策コース②
- ・医療政策コース②・農業政策コース②
- ・科学技術イノベーション政策コース②
- ・まちづくり政策コース②
- ・地域創造・金融コース②
- ・文化産業・地域創造②

2. 各授業のテーマ：

第1部：国際政治経済論の基礎

第1回: 導入

教科書序章

第2回: 理論I：リアリズムI

教科書第1章

Henry Farrell and Abraham Newman, "Weaponized Interdependence," *International Security*, 44, 1 (2019)

第3回: 理論II：リアリズムII

教科書第1章

Stephen D. Krasner, "State Power and the Structure of International Trade," *World Politics*, Vol. 28, No. 3 (April 1976), pp. 317-47.

第4回: 理論III : リベラリズムI

教科書第2章

Robert O. Keohane, "The Demand for International Regimes," *International Organization*, Vol. 36, No. 2 (Spring 1982), pp. 325-55.

第5回 : 理論IV:リベラリズムII

教科書第2章

Andrew Moravcsik, "Taking preferences Seriously: a Liberal Theory of International Politics," *International Organization*, Vol. 51, No. 4 (1997), pp. 513-53.

第 6回 : 理論V : コンストラクティビズム

教科書第3章

Martha Finnemore and Kathryn Sikkink, "International Norm Dynamics and Political Change," *International Organization*, Vol. 52, No. 4 (Autumn, 1998), pp. 887-917.

第7回 : 第 1 部小括

第 2 部 : 国際政治経済論の応用

第8回 : 貿易I

教科書第4章

Michael J. Hiscox, "Class vs. Industry Cleavages: Inter-Industry Factor Mobility and the Politics of Trade," *International Organization*, 55, 1 (2001).

第9回 : 貿易II

教科書第4章

Dani Rodrik, "Why Does Globalization Fuel Populism? Economics, Culture, and the Rise of Right-Wing Populism," *Annual Review of Economics*, 13 (2021).

第10回 : 通貨

教科書第5章

Barry Eichengreen, "Hegemonic Stability Theories of the International Monetary System." In Richard Cooper *et al.*, *Can Nations Agree?* Brookings Institution, 1989, pp. 255-298.

第11回 : 金融

教科書第5章

David Singer, "Capital Rules: The Domestic Politics of International Financial Harmonization," *International Organization*, 58, 4 (2004), pp. 531-65.

第 12回 : 開発

教科書第6章

Ken Masujima, "Development and Strategic Competition: Toward Polarisation?" *International Relations of the Asia-Pacific*, Vol. 21, No. 1 (January 2021), pp. 91-120.

第13回 : 環境

教科書第6章

Isao Sakaguchi, *et al.* "Japan's Environmental Diplomacy and the Future of Asia-Pacific Environmental Cooperation," *International Relations of the Asia-Pacific*, Vol. 21, No. 1 (January 2021), pp. 121-156.

第14回：移民

教科書第7章

James Hollifield and Michael Sharpe, "Japan as an 'Emerging Migration State.'" *International Relations of the Asia Pacific*, 17 (2017).

第15回：第2部総括

[授業外学修]

リーディングを事前に読んで理解しておくことと、疑問があれば、授業で質問できるようにしておく。復習は、各セッションの理解ができたかを確認する。

3. 成績の評価方法：

平常点(ミニットペーパー) (50%)

レポートおよび口頭発表 (50%)

[成績評価基準]

A: 到達目標を高い水準で達成している

B: 到達目標を満足できる水準で達成している

C: 到達目標を概ね達成している

D: 到達目標を最低限の水準で達成している

E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

飯田敬輔『国際政治経済』（東京大学出版会、2007年）

4-2:その他

その他の文献については開講後配布する。

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

特になし

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV2230E
Course Name	Japanese Foreign Policy
Instructor	PRESSELLO Andrea
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Wed 水/5
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

The purpose of this course is to provide a basic understanding of Japanese foreign policy in the period between the end of World War II and today. Particular attention will be paid to the relationship between foreign policy and domestic politics. Among the topics to be discussed in class are: the process of building postwar Japanese relations with the United States and Asia, Japan's Official Development Assistance, and Japan's tackling of new foreign and security policy challenges. No background knowledge on these issues is required. Through this course, students can develop their understanding of issues and concepts in Japanese foreign policy and acquire the ability to identify and explain factors shaping Japan's foreign policy choices. Students from different countries are highly encouraged to register for this course: the diverse perspectives that they can contribute is expected to enrich the discussion of Japan's relations with the world. During the course, some videos will be shown and one class might be held in the form of a visit to a site related to the contents of the course.

[Course Goals]

Students can:

- understand issues and concepts in Japanese foreign policy.
- develop the ability to identify and explain factors shaping Japan's foreign policy choices and their implications.

[Related Diploma Policy (DP)]

Ability to build and develop friendly relations with Japan—and mutual understanding between Japan and other countries—based on a deep understanding of Japan and its behavior in international relations. The knowledge and ability to analyze international relations and specific foreign policy issues, identify opportunities for improvement in the areas of foreign policy, formulate policy recommendations on them, and present them.

公共政策プログラム地域政策コース(2)

公共政策プログラムインフラ政策コース(2), (4)

公共政策プログラム医療政策コース(2)

公共政策プログラム科学技術イノベーション政策コース(2)

公共政策プログラム国際協力コース(2), (3)

公共政策プログラムまちづくり政策コース(2)

公共政策プログラム地域創造・金融コース(2)

公共政策プログラム文化産業・地域創造コース(2)

戦略研究プログラム (1), (2), (3)

Young Leaders Program (2) (3)

One-year Master's Program of Public Policy (MP1) (4)

2. Course Outline :

- Introduction
- Japan's defeat in World War II. Occupation and reforms
- Cold War and the San Francisco treaties
- After independence: Japan's relations with Asia
- Revision of the US-Japan Security Treaty
- Reversion of Okinawa and "Nixon shocks": the foreign policy of the Satō administration
- After Vietnam: Approaches to Southeast Asia
- New Cold War and Japan's foreign policy in the 1980s
- Changing Official Development Assistance (ODA) policy
- The early post-Cold War era
- Historical memory and reconciliation in Japan's foreign relations
- Field trip (TBC)
- New challenges for Japan's diplomacy
- Japan's security policy
- Wrap-up

* This course outline is subject to change.

[Out-of-class Learning]

In preparation for class, students should read the materials distributed by the instructor and write short comments on them. Details on how to write the comments will be provided in class by the instructor. After class, students should review the contents of the lecture. They are also encouraged to do further readings on specific topics of their interest that were discussed in class.

3. Grading :

Term paper: 60%

Weekly reaction comments and contribution to class discussions: 40%

[Grading Criteria]

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Unsatisfactory: E

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

There is no specific textbook required for this course. Reading materials (such as journal articles, book chapters, other) will be provided by the instructor during the course drawing from a variety of sources, among which:

Kitaoka, Shinichi. The Political History of Modern Japan: Foreign Relations and Domestic Politics, Routledge, 2018.

Iokibe, Makoto, ed. The Diplomatic History of Postwar Japan, Routledge, 2010.

4-2:Others

5. Software Used in Lectures :

The use of generative artificial Intelligence is not allowed when writing weekly assignments and the term paper. Software that provide support with English grammar and spelling can be used.

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7 . Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GOV2520J
授業名	行政の改革・革新と政策評価
担当者	KOMORI Toshiya／小森 敏也
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

〔本授業の概要〕

本授業は、中央省庁の改革・革新と政策評価を主題とする。過去から政府で取り組まれている行政改革の全体の流れ・内容とともに行政改革の各分野の取組を取り上げる。行政改革は、政府全体の取組として行われ、政府全体に共通する制度を対象とすることが多いことから、行政改革の各分野として、行政機構・定員や独立行政法人、公務員、政策評価などについて、その基本的な仕組みとともに制度・運用の改善の取組について取り上げる。行政改革は行政をより良いものにしていく取組である一方、政策評価は政策をより良いものにしていくための取組と言え、近年注目されているEBPMや行政事業レビューと密接に関係するため、これらと併せて取り上げる。これらにより、行政・政策をよくしていくための政府全体の取組、行政全体に共通する各制度の基本的内容とその改善に向けた取組を理解し、今後の行政における様々な課題を改善・解決していくために踏まえておくべき実務的な基礎知識を得ることを目標とする。

〔到達目標〕

- ・行政改革の大きな流れについて、歴史的に理解し、説明できる。
- ・行政全体に共通する制度の基本的仕組みとその改革の概要について、理解し、説明できる。
- ・行政の改革・革新のための実務的な基礎知識を得て、各行政課題の改善・解決のための方針の企画立案に活かすことができる。

〔関連するディプロマ・ポリシー〕

公共政策プログラム地域政策コース②、インフラ政策コース②、防災・危機管理コース④⑤、医療政策コース①②、農業政策コース①②、科学技術イノベーション政策コース②、国際協力コース②、まちづくり政策コース②、地域創造・金融コース②、文化産業・地域創造②、総合政策コース②

2. 各授業のテーマ：

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 行政改革の歴史（第二次臨調、中央省庁等改革など）①
- 第3回 行政改革の歴史（第二次臨調、中央省庁等改革など）②
- 第4回 行政機構と定員①
- 第5回 行政機構と定員②
- 第6回 独立行政法人その他の法人（特殊法人等）①
- 第7回 独立行政法人その他の法人（特殊法人等）②
- 第8回 国家公務員制度とその改革
- 第9回 政策評価（EBPM、行政事業レビューを含む）①
- 第10回 政策評価（EBPM、行政事業レビューを含む）②
- 第11回 政策評価（EBPM、行政事業レビューを含む）③
- 第12回 統計制度とその改革
- 第13回 その他の行政改革（規制改革、共通法制度(行政手続等)等）①
- 第14回 その他の行政改革（規制改革、共通法制度(行政手続等)等）②
- 第15回 デジタル×行政改革（ゲストスピーカー：政府関係者）※

※ゲストスピーカーによる第15回については、変更の恐れ（他の回への変更を含む）があります。変更の際は、授

業内にてお知らせします。

[授業外学修]

授業で用いる資料は2日前までにTeamsにuploadする予定であり、あらかじめ目を通しておくこと。講義後は、授業で示した内容を担当する政府部局のHPIに当たるとともに、各回で示す参考文献や、法令、閣議決定、報告書等の原典をなるべく読むなどにより、内容をより定着させること。

3. 成績の評価方法：

期末レポート 100%

[成績評価基準]

- A: 到達目標を高い水準で達成している
- B: 到達目標を満足できる水準で達成している
- C: 到達目標を概ね達成している
- D: 到達目標を最低限の水準で達成している
- E: 到達目標を達成していない

事務局コメント：期末レポート提示についての記載なし、なくてもいいですが、テーマ提示時期、提出時期など記載があるとよりいいです。講師の先生に見直しを依頼しますか。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

本講義は、近年の行政改革等の動きを実務的観点から説明するものであり、教科書に沿って進めるものではない。毎回、担当教員が準備するハンドアウトを基本素材とする。

(参考書)

OECD Government at a Glance 2023

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV2580E
Course Name	Structure and Process of Government
Instructor	TAKADA Hirofumi／高田 寛文
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Mon 月／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course is intended to provide students with the understanding of the systems and operations of structures and processes of government from comparative perspective so that students can contribute to the reform of government and public administration. Major issues of administrative system and management will be discussed from theoretical as well as practical viewpoints.

While the cases in Japan will be dealt with in detail, students are also expected to make a contribution to the discussion by infusing their first-hand information and analyses on the topics of discussion.

[Course Goals]

- Students can understand the uniqueness of political and administrative system and the trends in public management reform of each country
- Students are able to identify and evaluate public policy problems, and formulate policy implications in the government structure and processes, from a comparative perspective with Japan.
- Students can apply and adapt relevant policy tools to address problems and challenges in government structure and processes

[Related Diploma Policy (DP)]

Young Leaders Program

2. Ability to acquire extensive knowledge on public policy that is necessary to generate effective solutions to policy problems

One-year Master's Program of Public Policy (MP1)

4. Ability to analyze international relations theories from the political and administrative perspectives and to make practical policy recommendations based on the analysis

5. Ability to analyze interdisciplinary and broad public policies and make practical policy recommendations based on the analysis

Two-year Master's Program of Public Policy (MP2)

4. Ability to analyze international relations theories from the political and administrative perspectives, and to make practical policy recommendations based on the analysis

5. Ability to analyze interdisciplinary and broad public policies and make practical policy recommendations based on the analysis

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP)

2. Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of theory and practice

3. Ability to analyze related data, etc. on an issue, using tools in economics, politics, administration, etc., to compile and present research papers and policy proposals

ASEAN Initiative Program (AIP)

1. Ability to make practical policy recommendations to solve administrative and diplomatic problems
4. Ability to build and develop friendly relations between Japan and ASEAN

2. Course Outline :

1: Introduction and basic structure of the State

Vertical and horizontal relations

Central government and local government

2: Executive government

Parliament and administration

Political parties

3: Organizations for public administration and public services (1)

Cabinet and Ministers

Other organizations: public and non-public organizations

4: Organizations for public administration and public services (2)

Organization management

Regulation of public organizations

Control and coordination

NPM (New Public Management)

5: Civil service system and personnel management

Minister and mandarin relations

Civil service system and personnel management

6: Government and citizen relations

Administrative procedure

Complaints and grievances

Citizen participation

7: Information disclosure and personnel information protection

Transparency and privacy in public administration

8: Administrative Reforms (1)

Privatization

Reform of ministries and agencies

9: Administrative Reform (2)

Personnel management reforms

Digitalization

10: Policy process

Policy formulation

Implementation

Evaluation

11: Work-style reform

Work-life balance of public officials

12: Cases of local government

Chief executive and assembly

Relations with residents

13: Budget Process

Financial situation

Budgeting schedule

Basic policy on economic and fiscal management and reform

14: Contemporary issues in Government

15: Review of lectures and wrap-up

[Out-of-class Learning]

Handout will be distributed prior to class, and students must read it and understand the core of its

content.

After each class, students have to review the class contents and, when necessary, refer to the additional materials to deepen the understanding of structure and process in public sector of Japan.

Students are also advised to consider the applicability and adaptability of structural and procedural reforms of Japan to the context of their respective countries.

3. Grading :

Contribution to class discussion (20%)

Term paper (80%) : The topics of the term paper and the deadline of submission will be announced in the class.

[Grading Criteria]

Grade criteria are as follows;

A: Having acquired sufficient knowledge and concepts of policy problems and tools in government structure and processes at a high level; and is able to clearly present issues and challenges together with their highly effective solutions.

B: Having acquired knowledge and concepts of policy problems and tools in government structure and processes at a satisfactory level; and is able to present issues and challenges together with their effective solutions.

C: Having acquired knowledge and concepts of policy problems and tools in government structure and processes in general; and is able to present issues and challenges together with their solutions at a generally acceptable degree.

D: Having acquired the minimum knowledge and concepts of policy problems and tools in government structure and processes; and is able to present issues and challenges together with their solutions at the lowest acceptable degree.

E: Not acquire knowledge and concepts of policy problems and tools in government structure and processes; and cannot present issues and challenges together with their solutions. Rejection.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1: Required

No required textbook.

Handouts will be distributed.

4-2: Others

Christopher Pollitt and Geert Bouckaert, Public Management Reform: A Comparative Analysis (4th ed.), Oxford University Press, 2017

Mieko Nakabayashi & Hideaki Tanaka (eds.), Handbook of Japanese Public Administration and Bureaucracy, Amsterdam University Press, 2024

Koichiro Agata, Hiroaki Inatsugu, Hideaki Shiroyama (eds.), Public Administration in Japan, Palgrave Macmillan, 2024 (open access: <https://link.springer.com/book/10.1007/978-3-031-58610-1>)

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV3280E
Course Name	Analysis of Great Power Politics
Instructor	IWAMA Yoko, et al./岩間 陽子、外部講師
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Thu 木/5
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This lecture will deal with the rise of China and how the Great Powers have till now tried to deal with this challenge. We will invite leading experts of each region to speak about the perspectives from the regions point of view regarding this monumental power shift that is taking place before our eyes.

[Course Goals]

Students will be introduced to the basic theories of International Relations at the beginning of the course. In each session, they will be asked to look at the reactions of the major powers to the rise of China and look for similarities and differences. They will consider which theory offers better explanation in analyzing the reactions of the major powers. They will acquire the ability to think about the strength and weaknesses of major IR theories in explaining these behaviors and obtain the ability to imagine different future scenarios.

[Related Diploma Policy (DP)]

公共政策プログラム地域政策コース② ;
 公共政策プログラムインフラ政策コース②④ ;
 公共政策プログラム医療政策コース② ;
 公共政策プログラム科学技術イノベーション政策コース② ;
 公共政策プログラム国際協力コース②③④ ;
 公共政策プログラムまちづくり政策コース② ;
 公共政策プログラム地域創造・金融コース② ;
 公共政策プログラム文化産業・地域創造コース② ;
 公共政策プログラム地域政策コース② ;
 戦略研究プログラム①⑤ ;

MP1①④ ;

MP2④ ;

Maritime Safety and Security Policy Program① ;

GRIPS Global Governance Program (G-cube)①② ;

2. Course Outline :

Instructors and reading materials from sessions 2 to 14 will be given at the first session.

1. Orientation, IR Theories and the rise of China (April 10, Prof.Iwama)

How have the IR scholars reacted to the emergence of China as a huge economic and military power? Students will be given a brief introduction to the major IR theories. They will then examine different perspectives and discuss how they relate to the reality.

<Readings>

*John J. Mearsheimer, *The Tragedy of Great Power Politics*, updated edition (W.W.Norton & Co, 2014)

Preface to the updated version, Preface, Chapter 1, Chapter 10.

*John M. Owen, "Ikenberry, international relations theory, and the rise of China," *The British Journal of Politics and International Relations*, 2019, Vol. 21(1) 55-62.

*M. Taylor Fravel, "International Relations Theory and China's Rise: Assessing China's Potential for Territorial Expansion," *International Studies Review* (2010) 12, 505-532.

*Jonathan Kirshner, "The tragedy of offensive realism: Classical realism and the rise of China," *European Journal of International Relations*, 18(1)53-75.

2. History of the Rise of China part 1 (April 17)

How have the Chinese risen from a relatively poor status to the World power status in half a century?

Part 1 will deal with China under Mao Tse Tsung. How he established the one- party system and defined the goals of this country and gave structure to its political and military apparatus.

3. History of the Rise of China part 2 (April 24)

Part 2 will deal with the reform of the Chinese economy and political system under Deng Xia Ping. How has Deng changed the system inherited from Mao? How have the leaders that succeeded him reformed this system?

4. History of the Rise of China part 3 (May 1)

Part 3 will deal with China under Xi Ji Ping. How has Xi changed the tradition of the CCP ruling system to his own ambitions? How has that affected the future prospect of China?

5. China and the World (May 8)

How is China trying to consolidate its leading position in the world?

6. China and the World (May15)

How is China trying to challenge the system defined by the US after the end of WWII?

7. The US Foreign Policy Tradition (May 22)

This session will look at the different trends in US foreign policy. This will help the students to look at US foreign policy from multiple angles and assess the current situation objectively.

8. The US-China Relationship: History (May 29)

This session will explore how US and China meet each other and how the history has developed until the early 21st century.

9. The US-China Relationship: The Future (June 5)

This session will discuss how US has been reacting to the challenge of China most recently and try to analyze what future is likely to bring.

10. Interim Discussion (June 12, Prof. Iwama)

In this session, students will discuss what they have learnt through the previous sessions and go back to the literature of the first session and discuss how their perceptions have changed. They will also bring the ideas about which country they intend to take up in their final term paper, and do a short presentation about the structure of their paper.

11. Europe (June 12)

In this session, Europe's reluctant and slow reaction to the rise of China will be discussed. How is Europe likely to react to the new situation, where China is increasingly aligning itself to both Russia and North

Korea?

12. Russo-Chinese relationship: History (June 19)

How has Russia related to this giant neighbor historically? What were the relationship between the two after the Bolshevik Revolution and during the Soviet Era?

13. Russo-Chinese relationship: Current challenges (June 26)

What were the relationship between China and Russia after the Cold War? How has the War in Ukraine changed Sino-Russian relationships?

14. Japan (July 3)

15. Final Discussion (July 10)

Students are asked to bring their final proposal for the term paper. They will each be asked to do a short presentation about their intended country and how it has reacted to the rise of China. We will also go back to the initial session and talk about the relevance of IR theories and the rise of China.

[Out-of-class Learning]

- Students are expected to read the listed reading materials before each class. There may also be some assignments given as preparations for the class.
- After each session, students are required to read through the materials and send in reactions and several questions they have concerning the content. Instructions will be given through Teams system.

3. Grading :

Grading will be based on active participation in class discussions and a term paper after the completion of the course. Students will be asked to choose a country and look at its policies and perspectives concerning the rise of China and think about its theoretical implications. They will also be asked to imagine several future scenarios and make policy recommendations. Grading will be based on (1)attendance and discussions during the 15 sessions (15%) (2) regarding the term paper, how well they have been able to research the reactions of the chosen country (30%); (2)how they have been able to discuss the theoretical implications(25%): and (3)what kind of future scenarios and policy recommendations they have been able to discuss (30%).

[Grading Criteria]

A 90-100: Pass; Achieved the goal at a high level

B 80-89: Pass, Achieved the goal at a satisfactory level

C 70-79: Pass; Achieved the goal at an acceptable level

D 60-69: Pass; Achieved the goal at a minimum acceptable level

E 0-19: Fail; Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

There will be no fixed textbook for the entire course. Reading materials will be specified by each lecturer.

4-2:Others

5 . Software Used in Lectures :

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Since the lecturers of each session is not yet determined at the point of the making of this syllabus, students will only be given the full list of lecturers and the syllabus at the beginning of the lecture.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV3400E
Course Name	International Relations in Europe
Instructor	IWAMA Yoko／岩間 陽子
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Thu 木／3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course is intended to provide basic knowledge about the history, the structure and the working of the European Union and NATO, which are the cornerstones of the stability of post WWII Europe. We will also try to discuss actual problems Europe is facing currently. Students are welcome to bring their own interest and actively participate in the class.

[Course Goals]

- Students are expected to acquire basic knowledge about the history and evolution of both EU and NATO, as well as the problems they are facing currently.
- Students will also learn various theoretical aspects of both EU and NATO in order to better understand future regional integration process in their region.
- Students will practice and acquire skills to make presentations effectively and concisely in a given time frame.
- Upon completing the course, students are expected to be able to formulate policies regarding the problems that Europe is facing using these institutions as at least part of their tools.

[Related Diploma Policy (DP)]

MP1/MP2④

2. Course Outline :

1. Orientation, Choices of the Post-war years; Institutions of EU and NATO (10 April)

Students will be introduced to the major textbooks and the requirements of the course. Students will look back to the situation after WWII and look at the choices that were then available. They will also learn about the basic institutions of both the European Union and NATO.

<Reading materials>

- *Hellen Wallace, Mark A. Pollack, and Alasdair R. Young, *Policy-Making in the European Union*, chapter 4.
- *Jeremy Richardson (ed.), *European Union: Power and Policymaking*, 4th edition, Routledge: 2015.
- *NATO website

2. History of the European Integration: the beginnings (17 April)

European Integration is often said to be a “peace project.” Why is it so? What lies at the root of the integration process and how does it relate to security?

<reading material>

- * Dinan, *Origins and Evolution of the European Union*
Chapter 2: Dividing Europe: the Cold War and European Integration pp.35-59.

Chapter 3, The German Problem and European Integration pp.60-90.

* McCormick, *Understanding the European Union*, Chapter 1~Chapter 3

* Gilbert, *European Integration: A Political History*, Chapter 2 and 3

3. Beginning of the Cold War: NATO in its early days (24 April)

How did NATO come about? What did Europe and the US want in the beginning?

<reading materials>

* Timothy Ashton Sayle, *Enduring Alliance: A History of NATO and the Postwar Global Order*, Cornell University Press, 2019, Chapters 1~4

* Lawrence S. Kaplan, *The Long Entanglement: NATO's First Fifty Years*, (Praeger, 1999)
Chapters 1~4

* Sten Rynning, *NATO*, Ch. 1 and 2.

4. Early Years of European Integration: Rome Treaty, Common Market and Common Agricultural Policy, (May 1)

How did the initial European project change in the course of 1950s? What did the signing of the Rome Treaty mean for the nature of the European integration? Why was agriculture so important for the European project?

<reading material>

* Dinan, *Origins and Evolution of the European Union*, Chapter 4 Liberalization, Convertibility, and the Common Market

Chapter 8 European integration in the Image and Shadow of Agriculture

* Gilbert, *European Union*, Chapter 4

* Wallace, *Policy-Making in the European Union*, Chapter 8 The Common Agricultural Policy: The Fortress Challenged

5. Europe 1958-1968: de Gaulle's challenge, Making of the European and global nuclear order and the German question. (May 8)

How did the French President Charles de Gaulle try to challenge the American designs about post-war Europe? What was UK's role in the ensuing drama that unfolded? Was nuclear weapons an important element in this?

<Reading material>

Sayle, Ch. 4~7

Rynning, Ch. 3 and 4.

Dinan, Chapter 6 Charles de Gaulle's Uncertain Idea of Europe

Gilbert, Chapter 5, In the shadow of the General: Charles de Gaulle and the EEC, 1958-1966

Chapter 6, Weathering Storms, 1967-74

6. Europe in the 1970s (May 15)

The 1970s was a turbulent decade: the oil shock, the US in relative decline because of the Vietnam war and the Sino-American détente. How did Europe try to cope with these turbulent incidents?

<Reading Material>

Wallace, Chapter 5 The Single Market: From Stagnation to Renewal?

Dinan, Chapter 7 Under the Shadow of Stagflation: European Integration in the 1970s.

---, Chapter 9 From Deadlock to Dynamism: The European Community in the 1980s

Gilbert, Chapter 6 Weathering Storm, 1967-74

Chapter 7 Consolidation and Innovation, 1974-1979

7. Europe in the 80s: From stagnation to prosperity (May 22)

From the stagnation of 1970s, Europe burst into energy in the 1980s thanks to the reviving economy and also brilliant ideas of Jacques Delors. Why were his ideas so successful?

<reading material>

*Wallace, Chapter 5 The Single Market: From Stagnation to Renewal?

Chapter 7 Policy-Making under Economic and Monetary Union

*Gilbert, Chapter 8, 1992 Initiative and the relaunch of the Community

*Dinan, Chapter 9 From Deadlock to Dynamism: The European Community in the 1980s

8. NATO in the 1980s: From double track decision to the INF treaty (May 29)

The Euro-missile crisis was probably the most acute crisis of NATO. Although it led to the INF treaty after Gorbachev became USSR president, it almost tore NATO apart. How should we evaluate the crisis from today's point of view?

<reading material>

Sayle, Chapter 8 Busting Europe

Chapter 9 Leaderless Men

Rynning, Chapter 5 and 6.

Kaplan, *The Long Entanglement*, Chapter 7~9

9. Single Market and Single European Currency (June 5)

The Cold War ended in a way nobody had expected. The EU had embarked on its way to single market and single currency even before this epochal turn. Why did they take this course and what were the consequences?

<reading material>

*Dinan, Chapter 10 from Single Market to the Single Currency.

Chapter 11 The European Union, the Soviet Union, and the End of the Cold War

*Gilbert, Chapter 9 and 10

10. EU enlargement after the End of the Cold War (June 12)

How was the decision to enlarge EU taken and how did it relate to the NATO enlargement? What were the reactions in the new member countries? Was it the right time for the right countries given what happened since then?

<reading material>

*Dinan Chapter 12 The Enlarging European Union

*Cini & Borragan, Chapter 18

*Rhinard/Nugent/Paterson, *Europe in Crisis*, Chapter 2, European Integration theory and Crisis.

11. NATO Enlargement; NATO in the 1990s (CFE/START/New START) (June 19)

NATO's cold war mission was complete. How did NATO survive into the 21st century? Did it react appropriately to the new era?

<reading material>

Rynning, Chapter 7~9.

Mary E. Sarotte, *Not One Inch*.

12. EU in crisis, Part I (June 26)

In the 12th and 13th sessions, the class will take up several of the recent crisis of the EU and discuss them in class. Possible topics are: Euro crisis, Migration crisis, Brexit, COVID 19.

<reading material>

*Cini and Borragan, Part 5 Issues and Debates,

*Gilbert, Chapter 11 the challenge of the political

* *Rhinard/Nugent/Paterson, *Europe in Crisis*

13. EU in Crises, Part II (July 3)

Second part of the discussion of recent EU crisis.

14. Europe in Crisis: Russian invasion of Ukraine and the European institutions (July 10)

How is the invasion of Ukraine affecting both EU and NATO? Did EU and NATO enlargement “force” President Putin to invade Ukraine? What are his likely aims?

<Reading material>

Rynning, Chapter 10~11.

15. Final discussion: Future of Europe (July 17)

The ongoing NATO Washington Summit 9-11 July and NATO’s relationship with Indo-Pacific will be discussed. How will EU and NATO come out of current crisis?

Students will also be asked to make a short presentation about the topic of their final term paper.

[Out-of-class Learning]

- Students will be asked to read the listed materials before the class.
- One student will prepare a short presentation with power point slides for each session. Each student will have the opportunity to present several times during the course, according to the size of the class.
- After the class, students are expected to read through the class material and send in questions before the next class.

3. Grading :

Assessment will be based on discussions in class, several presentations (depending on the size of the class) (50%), and a term paper (50%). Students will select a topic of their interest and do background research as well as suggesting policy options for the future.

[Grading Criteria]

A 90-100: Pass; Achieved the goal at a high level

B 80-89: Pass; Achieved the goal at a satisfactory level

C 70-79: Pass; Achieved the goal at an acceptable level

D 60-69: Pass; Achieved the goal at a minimum acceptable level

E 0-19: Fail; Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1: Required

(Not all textbooks will be used every session. Refer to the reading list of each session.)

* Michelle Cini and Nieves Pérez-Solórzano Borragán, *European Union Politics*, 7th edition, Oxford U.P, 2019.

* Desmond Dinan (ed), *Origins and Evolution of the European Union*, 2nd edition, Oxford University Press, 2014.

* Mark Gilbert, *European Union: A Political History*, 2nd edition, Rowman & Littlefield 2021.

*Lawrence S. Kaplan, *The long entanglement: NATO's first fifty years*, Westport, Conn. : Praeger, 1999, 319.53 Ka61

*Lawrence S. Kaplan, *NATO Divided, NATO United: The Evolution of an Alliance*, (Praeger, 2004)

- * John McCormick, *Understanding the European Union: A Concise Introduction* (The European Union Series) (Red Globe Press, 2021)
- * Sten Rynning, *NATO: from Cold War to Ukraine, a history of the world's most powerful alliance*, Yale University Press, 2024
- * Jeremy Richardson (ed.), *European Union: Power and Policymaking*, 4th edition, Routledge: 2015.
- * Mark Rhinard, Neill Nugent and William Paterson, *Crises and challenges for the European Union*, Bloomsbury Academic, 2023
- * Sten Rynning, *NATO: From Cold War to Ukraine, a history of world's most powerful alliance*, Yale University Press, 2024.
- * Mary E. Sarotte, *Not one Inch: America, Russia and the Making of the Post-Cold War Stalemate*, Yale University Press, 2021.
- * Timothy Andrew Sayle, *Enduring Alliance: A History of NATO and the Postwar Global Order*, Cornell University Press, 2019
- * Hellen Wallace and William Wallace (eds.) *Policy-Making in the European Union*, 7th edition, 2015, Oxford University Press.

4-2: Others

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Since the lecturers of each session is not yet determined at the point of the making of this syllabus, students will only be given the full list of lecturers and the syllabus at the beginning of the lecture.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV5910E
Course Name	Leadership and Knowledge Creation
Instructor	HIROSE Ayano／廣瀬 文乃
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／1
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This is an active learning course using the case method and group project where students will a) learn the theory and concepts of leadership, knowledge creation and innovation, b) understand the theory and concepts through case studies and c) try applying them to the real situation in a group project. Students are encouraged to use their knowledge and experience from other courses and past experiences and actively participate in the case discussion and the group project. Please note that: 1) the cases listed are tentative and subject to change; 2) guest speakers may be arranged; and 3) details of the contents may be updated based on the request and discussions with the students.

[Course Goals]

In today's VUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity) world, it is increasingly important to create new knowledge for innovation with wise leadership. Accordingly, leadership and knowledge creation have become the key drivers for creating new and sustainable values for society. In such a context, by completing this course a) students obtain the understanding of the theory and practice of leadership, knowledge creation and innovation, and b) students are able to apply them to the actual situation as the next generation of young leaders.

[Related Diploma Policy (DP)]

Young Leaders Program :①Ability to play an active role as a national leader in Asian countries.

AIP:②Ability to play an active role as a national leader in their country and ASEAN

2. Course Outline :

1. Course orientation and introduction

Introduce course objectives, goals, and settings, and introduce everyone in the class

2. Knowledge Creation Theory: Knowledge

Introduce the concept of knowledge (tacit and explicit) and why it is important today

3. Knowledge Creation Theory: SECI model

Introduce the SECI model which is the basic process of organizational knowledge creation

4. Guest Speaker

Invite a guest speaker from Hofstede Insights Japan to introduce the concept of six dimensions of culture

5. Knowledge Creation Theory: Ba and Knowledge Ecosystem

Introduce the concept of "ba" and knowledge ecosystem in which the knowledge creation occurs

6. Knowledge Creation Theory: Dynamic Model

Introduce the dynamic model which explains the seven factors which promote knowledge creation

7. Concept Creation Workshop 1

Introduce what concept is, and do a workshop on creating new concept

8. Knowledge Creation Theory: Wise Leadership 1

Introduce the concept of wise leadership and its six abilities using a case study

9. Knowledge Creation Theory: Wise Leadership 2

Introduce the concept of wise leadership and its six abilities using a case study

10. Guest Speaker

Invite a guest speaker from public or private sector and discuss the case

11. Knowledge Creation Theory: Social Innovation 1

Introduce the concept of social innovation and the roles of leaders using a case study

12. Knowledge Creation Theory: Social Innovation 2

Introduce the concept of social innovation and the roles of leaders using a case study

13. Concept Creation Workshop 2

Do another workshop with more focus on leadership styles and innovation processes

14. Preparation for the final presentation

Work with group members to prepare for the final presentation

15. Final Presentation and Wrap-up

Present final presentation, listen to the other groups' final presentation and ask questions

Students need to submit the final report within one week after the session 15.

[Out-of-class Learning]

Students are requested to watch a video and/or read article before coming to the class.

Students are requested to make comments on lesson learned on Teams after each class.

Students need to work with group members to prepare for the final presentation.

Students need to write up a final report individually to be submitted one week after the 15th session.

3. Grading :

Class contribution (20%) , Reaction and mini presentation (20%), Final Presentation (30%), Final report (30%)

Missing more than four sessions will regrettably result in receiving a "E" grade.

Evaluation criteria: 1) understanding of the theory and concepts; 2) being able to apply them to the actual situation.

[Grading Criteria]

A: Achieved the goal at a high level

B: Achieved the goal at a satisfactory level

C: Achieved the goal at a generally acceptable level

D: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

To be advised in class.

4-2:Others

Knowledge Creation in Public Administrations: Innovative Government in Southeast Asia and Japan

Knowledge Creation in Community Development: Institutional Change in Southeast Asia and Japan

Ikujiro, N., & Takeuchi, H. (1995). The knowledge-creating company: How Japanese companies create the dynamics of innovation. Oxford University Press.

Nonaka, I., & Takeuchi, H. (2019). The wise company: How companies create continuous innovation. Oxford University Press.

Nonaka, I., Toyama, R., & Hirata, T. (2008). Managing flow: A process theory of the knowledge-based firm. Springer.

Takeuchi, H., & Nonaka, I. (1986). The new new product development game. Harvard business review, 64(1), 137-146.

Nonaka, I., & Takeuchi, H. (1991). The knowledge-creating company. Harvard business review, November-December 1991.

Nonaka, I., & Konno, N. (1998). The concept of "Ba": Building a foundation for knowledge creation. California management review, 40(3), 40-54.

Nonaka, I., Toyama, R., & Konno, N. (2000). SECI, Ba and leadership: a unified model of dynamic knowledge creation. Long range planning, 33(1), 5-34.

Nonaka, I., & Toyama, R. (2003). The knowledge-creating theory revisited: knowledge creation as a synthesizing process. Knowledge Management Research & Practice, 1(1), 2-10.

Nonaka, I., & Toyama, R. (2005). The theory of the knowledge-creating firm: subjectivity, objectivity and synthesis. Industrial and corporate change, 14(3), 419-436.

Nonaka, I., & Toyama, R. (2007). Strategic management as distributed practical wisdom (phronesis). Industrial and corporate change, 16(3), 371-394.

Nonaka, I., & Takeuchi, H. (2011). The wise leader. Harvard business review, 89(5), 58-67.

Nonaka, I., & Hirose, A. (2015). Practical strategy as a co-creating collective narrative: A perspective of organizational knowledge-creating theory. Kindai Management Review, 3, 9-24.

Further supplement readings will be introduced in class

5. Software Used in Lectures :

Use if generative AI tools will be instructed in the first and second sessions and as needed. In general, students are expected to use the generative AI only when they wish to test their hypothesis or to gain a basic understanding of the topic; copying and pasting from generative AI are strictly prohibited.

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

As for Auditing: need to participate as much as possible. If possible, join the group presentation

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GOV6100J
授業名	政策過程論特別演習
担当者	IIO Jun／飯尾 潤
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

〔本授業の概要〕

政策過程論特別演習は、主として博士課程の学生を念頭においたフィールド・セミナーであって、政策過程論に関する文献（主として英語文献）を読破し、それを前提に討論を行い、政策過程論の考え方を身につけることを目的とする。受講生は、この授業に参加することで、政策過程論についての基本的な考え方を深く理解するとともに、自ら研究を進めるための分析枠組みなどを作り出す能力をつけることを目指している。

なお、SDGsに関して、目標16あるいは目標17が関係している。

〔到達目標〕

- （1）政策過程論に関係する理論的文献を精密に読解する能力を身につける。
- （2）政策過程論に関わる概念や分析枠組みを幅広く理解して、それぞれの使い道を理解する。
- （3）既存の分析手法を習得することで、自らの関心に沿った分析を遂行する能力を身につける。

〔関連するディプロマ・ポリシー〕

政策プロフェッショナルプログラムDP①③

2. 各授業のテーマ：

受講者のこれまでの学習経験や、今後の研究計画を考慮して、適宜変更を加える可能性がある（初回に相談する）が、標準的な構成は次の通りである。

第1回：科目の狙いや授業の進め方（レポート作成の仕方など）を示すとともに、政策過程論の分析手法の概要について講義する。また、受講者の関心に応じて、取り上げる課題や文献を調整する予定である。

第2回から第4回 欧米で比較的人気があり、受講者の関心を引くと思われる代表的な著作を取り上げ、それを精読することで、分析枠組みの具体的な使い方を学ぶ

第5回から第12回までは、具体的な分析枠組みについて順を追って、検討していく。

第5回 複数の流れ枠組み (The Multiple Streams Framework)

第6回 断続均衡理論 (Punctuated Equilibrium Theory)

第7回 政策フィードバック理論 (Policy Feedback Theory)

第8回 唱道連合枠組 (The Advocacy Coalition Framework)

第9回 ナラティブ政策枠組み (The Narrative Policy Framework)

第10回 制度的分析発展枠組み (The Institutional Analysis and Development Framework)

第11回 政策拡散と革新 (Policy Diffusion and Innovation)

第12回 ゲームのエコロジー枠組み (The Ecology of Games Framework)

第13回から第15回までは、応用研究として、受講者の関心や必要性に応じて、上記の分析枠組みを深めるか、あるいは別の理論的な文献を取り上げて、分析手法の習得・拡大に努めるので、授業のなかで相談しながら、決定する。

〔授業外学修〕

第2回以降は、適宜講義を織り込みながら、課題文献を配当し、受講者が毎回それに関するレジュメやペーパーを提出し、それをもとに質疑応答や討論を行うことで進行する。そこで、事前に文献を読み込んで、その内容を要約するか、予め指定された課題について検討した結果をレポートにまとめる作業が必須である。また、授業のあとは、議論の結果を復習して、理論的把握を深めることが求められる。

3. 成績の評価方法：

成績の評価方法は、第2回以降毎回提出が求められているレジюмеやレポートあるいは報告に対する評価点を80%、期末の課題に対するレポートの評価点を20%として、合算して評価する。

[成績評価基準]

A: 取り上げた文献から政策過程論の考え方をよく理解し、分析枠組みの使い方に習熟して、自らの関心に応じて使うことができる。

B: 取り上げた文献から政策過程論の基本的な考え方を理解し、分析枠組みのあり方をよく理解している。

C: 取り上げた文献から政策過程論の基本的な考え方を理解し、分析枠組みのあり方についてもある程度理解してそれを表現できる。

D: 取り上げた文献で得た政策過程論の基本的な考え方は概ねりかいしている。

E: レポートの内容が不十分で、政策過程論の基本的な考え方を習得したとはいえない。不合格。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

* Christopher M. Weible, eds., *Theories of The Policy Process 5th ed.*, Routledge, 2023

4-2:その他

その他参照すべき文献は、折に触れて紹介するが、次の文献は、それらを通じて有益である。

* Christopher M. Weible and Samuel Workman eds. *Methods of Policy Process*, Routledge, 2022

* John Kingdon, *Agendas, Alternatives, and Public Policy 2nd ed.*, Pearson Pub., 2011 (ジョン・キングダム『アジェンダ・選択肢・公共政策』勁草書房、2017)

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

聴講は場合により可（ただし少人数授業のため、初回に参加して可否を担当教員と相談すること）。

博士課程の在籍する学生を主な対象としているが、特にこの分野を深く掘り下げて勉強したいという修士課程の学生の参加を認めることがあるので、希望者は、初回に出席して申し出ること。また、参加者は原則として、政策過程論の講義を受講する（した）ことが求められる。なお、少人数講義であるために、参加者の都合を聞いたうえで、週によって授業時間を変更することがある。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV6220E
Course Name	Strategic Studies Research Seminar
Instructor	MICHISHITA Narushige／道下 徳成
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Tue 火／5
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

This course is designed to allow students to better understand methods for conducting a doctoral-level study in security issues. In addition, students will be asked to participate in a crisis simulation game designed to enhance their understanding of the difficulties involved in security decision-making.

In this course, students should acquire abilities to:

- (a) find and use various source materials appropriately
- (b) use various analytical tools effectively
- (c) understand policy issues, all related to strategic affairs
- (d) conduct rigorous research, write academically solid works with policy implications, and communicate their findings effectively.

Related DP: Strategic Studies Program2,3,4,5

2. Course Outline :

Session 1: Introduction

Session 2: Writing a Good Political Science Dissertation

Required reading.

Stephen Van Evera, *Guide to Methods for Students of Political Science* (Cornell University Press, 1997), all chapters [311.16 V26].

Required work

Make a 15-minute presentation in the class on your dissertation discussing the following issues.

- Q1. What is/are the laws, hypotheses, theories, and explanations that you are to prove?
- Q2. What are the independent and dependent variables as well as intervening/condition variables if any?
- Q3. Do you have a good hypothetical theory, tested against the seven attributes listed on pp. 17-21?
- Q4. Which of the nine theory types does your theory fall into?
- Q5. Is your dissertation going to be a large-N "statistical" analysis or case-study analysis, or a combination of the two?
- Q6. If you are using cases, which of the following do they fall into, a) controlled comparison, b) congruence procedures, or c) process tracing? In each case, what will your cases prove?
- Q7. Which of the ten types of case studies does yours fall into?
- Q8. Which of the eight types of the dissertation does yours fall into?

What is Academic Contribution?

- a) New facts, new materials, and sources (Declassified documents, archival discoveries, foreign language

materials)

b) New interpretation (replacement or supplement) based on the same available information

c) New subject/topic/issue

*If you have all of them, it is going to be a great dissertation!

Session 3: Source Materials - Archival Materials, Official Documents, Diaries, Memoirs, Oral History, and Interviews

Required reading

Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008* (London: Routledge, 2009), ch. 3 "The Pueblo Incident." [392.21 Mi13]

U.S. Department of State, *Foreign Relations of the United States, 1964-1968*, vol. 29, part 1, Korea (Washington, D.C., U.S. Government Printing Office, 2000)

<<https://history.state.gov/historicaldocuments/frus1964-68v29p1>>, document nos. 217, 218, 220, 221, 223, 225, 226, 235, 237, 247, 256.

Central Intelligence Agency, Center for the Study of Intelligence, "Looking for the *Pueblo*,"

<<https://www.cia.gov/library/center-for-the-study-of-intelligence/csi-publications/books-and-monographs/a-12/finding-a-mission.html>>.

"On the current problems of the international situation and on the struggle of the CPSU for the unity of the international communist movement," Excerpt from a speech by Leonid Brezhnev at the April (1968) CC CPSU Plenum, April 9, 1968, in Sergey S. Radchenko, "The Soviet Union and the North Korean Seizure of the USS *Pueblo*: Evidence from Russian Archives," Cold War International History Project, Woodrow Wilson International Center for Scholars, Working Papers Series #47, pp. 61-68

<https://www.wilsoncenter.org/sites/default/files/CWIHP_WP_47.pdf>.

Kim Il Sung, "On Making Good Preparations for War so as to Cope with the Prevailing Situation," March 21, 1968, in *Kim Il Sung Works*, vol. 22, 2d ed. (Pyongyang: Foreign Languages Publishing House, 1992) [available at Moodle].

Christian F. Ostermann and James F. Person, eds., *Crisis and Confrontation on the Korean Peninsula, 1968-1969: A Critical Oral History* (Woodrow Wilson International Center for Scholars, 2011)

<http://www.wilsoncenter.org/sites/default/files/NKIDP_Critical_OralHist_textL_0.pdf>, pp. 17-59.

Recommended reading

"Findings of Fact, Opinions and Recommendations of a Court of Inquiry, Convened by Order of Commander in Chief, United States Pacific Fleet to Inquire into the Circumstances relating to the Seizure of USS *Pueblo* (AGER-2) by North Korean Naval Forces which Occurred in the Sea of Japan on 23 January 1968 and the Subsequent Detention of the Vessel and the Officers and Crew," from Harold G. Bowen, Jr. to Commander in Chief, U.S. Pacific Fleet, April 9, 1969; U.S. Congress, House, Hearings before the Special Subcommittee on the U.S.S. *Pueblo* of the Committee on Armed Services, *Inquiry into the U.S.S. Pueblo and EC-121 Plane Incidents*, 91st Congress, First Session, March 4, 5, 6, 10, 14, 17, 19, 20, April 25, and 28, 1969, H.A.S.C. no. 91-101 (Washington, D.C.: U.S. Government Printing Office, 1969), pp. 669-672, 790-791.

Required work

Make a 10-minute presentation on the following questions.

Q1. How do you evaluate the relative strengths and weaknesses of different source materials?

Q2. Discuss two important discrepancies between different sources.

Q3. Discuss what kind of materials you are planning to use in your dissertation. (It would be nice if you could come up with preliminary bibliography.) What are the strengths and weaknesses?

Session 4: Assessing Military Crises

Required reading

Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008* (London: Routledge, 2009), pp. 145-162.

(If you can read Japanese or Korean, better read the following: 道下徳成『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史、1966～2012年』ミネルヴァ書房、2013年、プロローグ、第8章 or 『북한의 버랑 끝 외교사, 1966-2013년』이원경 옮김, 한울, 2014년, 제8장, 토론)

Recommended reading

ROK Ministry of National Defense, "Naval Campaigns in the Northern Limit Line (NLL) Waters," "Attack against the ROKS Cheonan," and "Artillery Firing at Yeonpyeongdo [Island]," in *2010 Defense White Paper* (Seoul: Ministry of National Defense, 2010), pp. 314-336.

Required work in the class

No presentation is required. Participate in class discussions.

Session 5: Negotiating Nuclear Deals – Comparing the 1994 Agreed Framework and the 2007 Action Plan

Required reading

Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008* (London: Routledge, 2009), chapters 6 and 9.

(If you can read Japanese or Korean, better read the following: 『北朝鮮 瀬戸際外交の歴史、1966～2012年』ミネルヴァ書房、2013年、第6章、第9章, or 『북한의 버랑 끝 외교사, 1966-2013년』이원경 옮김, 한울, 2014년, 제6장, 제9장.)

For the 1994 nuclear deal, read:

Don Oberdorfer, *The Two Koreas: A Contemporary History* (Addison-Wesley, 1997), pp. 281-368.

For the 2007 nuclear deal, read:

Mike Chinoy, *Meltdown: The Inside Story of the North Korean Nuclear Crisis* (St. Martin's Press, 2010), pp. 305-366.

Recommended reading

Joel S. Wit, Daniel B. Poneman, and Robert L. Gallucci, *Going Critical: The First North Korean Nuclear Crisis*, Brookings Institution Press, 2004.

Yoichi Funabashi, *The Peninsula Question: A Chronicle of the Second Korean Nuclear Crisis* (Brookings Institution, 2007). (or 船橋洋一『ザ・ペニンシュラ・クエスチョン——朝鮮半島第二次核危機』朝日新聞社、2006年。)

ケネス・キノネス『北朝鮮——米國務省担当官の交渉秘録』伊豆見元監修、山岡邦彦・山口瑞彦訳、中央公論新社、2000年。

Required work in the class

One person makes a 10-minute presentation on the 1994 nuclear deal and another person on the 2007 deal.

Session 6: Simulation Game "A Mouse that Roared" (1)

Session 7: Simulation Game "A Mouse that Roared" (2)

Required reading

Fact sheets will be distributed.

Recommended reading

Required work in the class

Participate in the simulation game and try to outdo the other team.

Session 8: Consequences of Power Shift

Required reading

Paul Kennedy, *The Rise and Fall of the Great Powers: Economic Change and Military Conflict from 1500 to 2000* (Random House, 1987), chapter 5 [332 Ke48].

Aaron Friedberg, *The Weary Titan: Britain and the Experience of Relative Decline, 1895-1905* (Princeton University Press, 1988), all chapters [319.33 F47].

Stephen R. Rock, *Why Peace Breaks Out: Great Power Rapprochement in Historical Perspective* (University of North Carolina Press, 1989), chapters 1, 2, and 6 [319.8 R57].

Recommended reading

Robert Ross, "The 1996 Taiwan Strait Confrontation: Coercion, Credibility and Use of Force," *International Security*, Vol. 25, No. 2 (Fall 2002), pp. 87-123.

Thomas J. Christensen, "Fostering Stability or Creating a Monster? The Rise of China and U.S. Policy toward East Asia," *International Security*, Vol. 31, No. 1 (Summer 2006), pp. 81-126.

Aaron L. Friedberg, "The Future of U.S.-China Relations: Is Conflict Inevitable?" *International Security*, Vol. 30, No. 2 (Fall 2005), pp. 7-45.

G. John Ikenberry, *After Victory: Institutions, Strategic Restraint, and the Rebuilding of Order after Major Wars* (Princeton University Press, 2001), chapters 1-3, 6-8.

Michael E. Brown, et al., ed., *The Rise of China* (International Security Readers) (The MIT Press, 2000)

Michael E. Brown, Sean M. Lynn-Jones, and Steven E. Miller, eds., *East Asian Security* (An International Security Reader) (The MIT Press, 1996).

Jessica T. Mathews, "Power Shift," in Robert J. Art and Robert Jervis, eds., *International Politics: Enduring Concepts and Contemporary Issues* (New York: HarperCollins, 2000), pp. 534-546.

Gordon A. Craig and Alexander L. George, *Force and Statecraft* 3rd ed. (New York: Oxford University Press, 1995)

Robert J. Art and Robert Jervis, editors, *International Politics: Enduring Concepts and Contemporary Issues* 5th ed. (New York: Longman, 2000)

Stephen Walt, "Alliances: Balancing and Bandwagoning," in Art & Jervis, *International Politics*, pp. 110-117.

Robert O. Keohane, "Big Influence of Small Allies," *Foreign Policy* no. 2 1971, pp. 161-82.

Glen Snyder, *Alliance Politics* (Ithaca: Cornell University Press, 1997)

Gerald Segal, "East Asia and the 'Containment of China,'" Michael Brown, ed., *East Asian Security* (Cambridge: MIT Press, 1996), pp. 159-187.

Robert S. Ross, "Engagement in US China Policy," in Robert S. Ross, ed., *Engaging China: The Management of an Emerging Power* (London: Routledge, 1999), pp. 176-206.

Robert J. Art, "The Four Functions of Force," Thomas Schelling, "The Diplomacy of Violence," Robert O. Keohane and Joseph S. Nye, "Complex Interdependence and the Role of Force" in Art & Jervis, pp. 156-183, 229-244.

The rise of China and regional response

Michael Sheehan, *Balance of Power* (Routledge, 1995).

Required work

Make a 10-minute presentation on the following questions.

Q1. How do Kennedy, Friedberg, and Rock agree or disagree as to how the United States successfully

took over supremacy from Britain in a relatively peaceful manner? Whose work do you like best and why?

Q2. In your opinion, what kind of factor(s) made the successful power shift possible?

Q3. Does any of the materials have any implication and/or relevance for your dissertation? If so, what is it?

Session 9: Utility of International Regimes and Institutions

Required reading

Etel Solingen, *Nuclear Logics: Contrasting Paths in East Asia and the Middle East* (Princeton Studies in International History and Politics) (Princeton University Press, 2007), pp. 1-53, 249-299, and case study chapters on Japan, South Korea, and North Korea [319.8 So33].

Recommended reading

Michael E. Brown, et al., ed., *Going Nuclear: Nuclear Proliferation and International Security in the 21st Century* (International Security Readers) (The MIT Press, 2010).

Keohane, Robert O. *After Hegemony: Cooperation and Discord in the World Political Economy*. Princeton: Princeton University Press, 1984.

Krasner, Stephen D., ed. *International Regimes*. Ithaca and London: Cornell University Press, 1983.

Required work

Make a 10-minute presentation on the following questions.

Q1. How does Solingen explain the non-nuclear policy of Japan and South Korea? How does she explain North Korea's decision to go nuclear?

Q2. Where does her argument fit in the spectrum of international relations theories?

Q3. Are you going to use some of the methods and approaches that Solingen used in her book? If so, what are they and how would you operationally incorporate them in your dissertation?

Q3. What are the weaknesses of her argument? If you are asked to challenge her argument, how would you do that?

Q4. How would it be possible to improve her argument?

Session 10: Perception and Norms in International Politics

Required reading

Jacques E. C. Hymans, *The Psychology of Nuclear Proliferation: Identity, Emotions and Foreign Policy* (Cambridge University Press, 2006), pp. 1-84, 204-235, and one case study chapter [319.8 H99].

Nina Tannenwald, *The Nuclear Taboo: The United States and the Non-Use of Nuclear Weapons Since 1945* (Cambridge Studies in International Relations) (Cambridge University Press, 2007), pp. 1-72, 327-396, and one case study chapter [392.53 Ta88].

Recommended reading

Chapter 9 "Securitization," in Alan Collins, *Contemporary Security Studies*, 2nd ed. (Oxford University Press, 2010).

Robert Jervis, *Perception and Misperception in International Politics* (Harvard University Press, 1976).

Robert Jervis, "Hypotheses on Misperception," *World Politics* (April 1968)

Required work

Read one of the required books and make a 10-minute presentation on the following questions.

Q1. What does the book say?

Q2. What are the strengths and weaknesses of the argument?

Q3. Does this book have any implication and/or relevance for your dissertation? Does your dissertation

deal with the issue of perception? If so, what is that and what is your methodology to analyze that?

Nuclear taboo

Security communities = Variant of constructivism

"Securitization/de-securitization" = More a policy action/measure than an analytical tool. How are they different from "vital national security interest/issue"?

Session 11: Bringing Area Studies Back In

Required reading

Hans Kristensen, "Japan Under the US Nuclear Umbrella,"

<http://oldsite.nautilus.org/archives/library/security/papers/Nuclear-Umbrella-1.html>.

Byung-Kook Kim, ed., *The Park Chung Hee Era: The Transformation of South Korea* (Harvard University Press, 2011), chapter 17 [312.21 Ki31].

Narushige Michishita, *North Korea's Military-Diplomatic Campaigns, 1966-2008* (London: Routledge, 2009), ch. 9 "Nuclear Diplomacy, Round Two, 2002-2008." [392.21 Mi13]

Recommended reading

John B. Hattendorf and Peter M. Swartz, eds., *U.S. Naval Strategy in the 1980s: Selected Documents* (Naval War College Newport Papers, 2008) <<http://www.usnwc.edu/Publications/Naval-War-College-Press/Newport-Papers/Documents/33-pdf.aspx>>, pp. 45-104.

Kent E. Calder, *Embattled Garrisons: Comparative Base Politics and American Globalism* (Princeton University Press, 2008), chaps. 1-5 [392.53 C13].

Paul Collier, *The Bottom Billion: Why the Poorest Countries Are Failing and What Can Be Done About It* (Oxford University Press, 2007).

Zbigniew Brzezinski, *The Grand Chessboard: American Primacy And Its Geostrategic Imperatives* (Basic Books, 1998).

John M. Collins, *Military Geography for Professionals and the Public* (Brassey's, 1998).

Katsuhisa Furukawa, "Nuclear Option, Arms Control, and Extended Deterrence: In Search of a New Framework for Japan's Nuclear Policy," in Benjamin L. Self and Jeffrey W. Thompson, eds., *Japan's Nuclear Option: Security, Politics, and Policy in the 21st Century* (The Henry L. Stimson Center, December 2003) [Obtain this from the instructor].

Required work

Make a 10-minute presentation on the following questions.

Q1. How do you compare Solingen's analysis of Japan, South Korea, and North Korea cases with the area-studies-based explanations provided by Kristensen, Hong, and Michishita?

Q2. What are the strengths and weaknesses of the area-studies approach?

Q3. Does any of the materials have any implication and/or relevance for your dissertation? If so, in what way?

Session 12: Country Security Policy (1) Presentation

Required reading

Recommended reading

Required work in the class

A designated presenter will make a 20-minute presentation on the session topic in the class and participate in discussions.

Session 13: Country Security Policy (2) Presentation

Required reading.

Required work in the class

A designated presenter will make a 20-minute presentation on the session topic in the class and participate in discussions.

Session 14: Country Security Policy (3) Presentation

Required reading.

Presenters must identify books and articles, and notify the instructor and other students ASAP.

Required work in the class

A designated presenter will make a 20-minute presentation on the session topic in the class and participate in discussions.

Session 15: Wrap-up

3. Grading :

Requirements

Presentations (50%)

Contribution to discussions (40%)

Performance in simulation games (10%)

Evaluation Scale

A Outstanding

B Superior

C Satisfactory

D Minimum acceptable

E Below the acceptable level

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Getting in Touch with the Instructor

Students may contact the instructor either by simply talking to him after class or by sending e-mails to bya04745@nifty.com. If urgent, you can call me at 090-5491-0170.

Students interested in taking this course are requested to send via e-mail his/her name, affiliation, and e-mail address to the instructor.

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV6300E
Course Name	State and Governance
Instructor	TAKAGI Yusuke／高木 佑輔
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

In an age of globalization and information technology, states may experience economic growth without functional institutional arrangements to mitigate the byproducts of growth, such as income gap and environmental deterioration. Meanwhile, no regime is free from pressures from society or neglect of the expectations of the population for long, though it may choose or even shape the vital groups whose voice the regime listens to the most. How do we govern the growth of complex state-society relations? What kinds of state and state systems do we have? In this course, we go back to history to understand the origin of the modern nation-state and state system in the current developed economy and the development of state and state systems in the rest of the world. The course aims to show a clearer picture of state and governance in the world.

[Course Goals]

Students can

- 1) gain the existing knowledge about the development of the state and state systems.
- 2) describe the state and governance in the world with their own understanding.

[Related Diploma Policy (DP)]

GRIPS Global Governance Program (G-cube) 1 and 2

2. Course Outline :

Week 1: Organizational Meeting

Introduction to reading academic literature and to preparing critical and constructive questions and comments

Out-of-class learning

Before class: Prepare a short self-introduction to explain what you have learned from your working experiences and what you expect from this course.

After class: Reflect on the instructions and prepare for critical questions and constructive comments.

Week 2: Reading Seminar (hereafter RS) I; State and State System

Tilly, Charles. 1992. *Coercion, Capital, and European States, AD 990-1992*, Rev. ed. Cambridge: Blackwell. (Chap. 1, 3, 5)

Out-of-class learning (This is applicable to all the following RS)

Before class: read the assignments and prepare for feedback to explain what you agree, do not agree, and do not understand with reasons.

After class: reflect on what you have learned and consider the linkage between what you have learned and what you like to present in your final presentation

Week 3: RS II; State and Political Development

Fukuyama, Francis. 2014. *Political Order and Political Decay*. London: Profile Books. (Introduction, Chap. 1, 35 and 36).

Week 4: RS III; State and Nationalism

Anderson, Benedict. 1991. *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*, Rev. ed. London: Verso. (Chap. 3 to 6)

Week 5: RS IV; State and Economic Development

Evans, Peter. 1995. *Embedded Autonomy: States and Industrial Transformation*. Princeton: Princeton UP. (Chap. 1 to 3)

Week 6: RS V; State and Social Development

Putnam, Robert. 1993. *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*. Princeton: Princeton UP. (Chap. 1, 3, 4 and 6)

Week 7: RSVI; State and Local Development

Sinha, Aseema. 2005. *The Regional Roots of Developmental Politics in India: A Divided Leviathan*. Bloomington: Indianapolis UP. (Chap. 1, 2, 8, and 9)

Week 8: Mid-term presentation and consultation

Out-of-class learning

Before class: Prepare questions and comments on the previous weeks and possible topics that you would like to present at the end of this class.

After class: Reflect on the classroom discussion and prepare for your final presentation.

Week 9: RS VII; Varieties of Regions

Katzenstein, Peter J. 2005. *A World of Regions: Asia and Europe in the American Imperium*. Ithaca: Cornell UP. (Ch. 1, 2, and 4)

Week 10: RS VIII; Authoritarianism

Frantz, Erica. 2018. *Authoritarianism: What Everyone Needs to Know*. Oxford: Oxford UP. (Ch. 1, 5, 6, and 8)

Week 11: RS IX; Varieties of State Capacity

Centeno, M. A., Atul Kohli, and Deborah J. Yashar. eds. 2017. *States in the Developing World*. Cambridge: Cambridge UP. (Chap. 1, 5, 14, and 15)

Week 12: RS X; Varieties of liberalization

Thelen, Kathleen. 2014. *Varieties of Liberalization and the New Politics of Social Solidarity*. Cambridge: Cambridge UP. (Chap. 1, 5, and 6)

Week 13: RS XI; Varieties of social policy

Haggard, Stephen and Robert R. Kaufman. 2008. *Development, Democracy and Welfare States: Latin America, East Asia, and Eastern Europe*. Princeton: Princeton UP, (Introduction, Chap. 1 and 5)

Week 14: RS XII; Developmental State Building

Baldwin, Richard. 2016. *The Great Convergence*. Harvard University Press. (Ch. 5 and 9)

Week 15: Final Presentation and consultation

Out-of-class learning

Before class: Prepare questions and comments on the previous weeks and the topics that you would work for in your term paper.

After class: Reflect on the classroom discussion and prepare for your term paper.

3. Grading :

Classroom discussion in general (40%)

Students are required to read a certain portion of a book in each class (approximately 2 to 3 chapters) and to kick off classroom discussion by asking questions or criticizing the reading. The instructor mainly plays the role of a facilitator of the discussion, though he gives them guiding questions to understand each reading's main points, weaknesses, or strengths.

*Tips to make questions and comments

1. Sort out the reading to figure out the topic, research questions, argument/hypothesis, methodology/data, and academic contribution.
2. Think about the points you find interesting or not interesting and don't understand why you see them in particular ways.
3. Ask if the structure and case/data selection are supportive or counter-supportive. What would you do if you were the author?
4. To structure your statement with CCF/NLC: Conclusion Comes First / Numbering, Labeling, and Contents.

Presentation (20%)

In weeks 8 and 15, students are required to present their research (15 minutes), which has something to do with the course. Topic, research questions, argument/hypothesis, methodology/data, and academic contribution are to be clearly presented.

Term paper (40%)

A week after the final meeting, students are required to submit their term paper (no less than 2000 words). Topic, research questions, argument/hypothesis, methodology/data, and academic contribution are to be clearly written.

[Grading Criteria]

A: Achieved the goal at a high level

B: Achieved the goal at a satisfactory level

C: Achieved the goal at a generally acceptable level

D: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

There are no required textbooks other than the materials assigned above.

4-2:Others

Read the other chapters of the materials assigned above.

5. Software Used in Lectures :

Microsoft Teams

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

The topics and schedules above are subject to change.

[Back](#)

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV6640E
Course Name	State and Politics in Emerging Economies
Instructor	AIZAWA Nobuhiro／相澤 伸広
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Tue 火／5
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

Course Description:

The course discusses the theme of purpose of politics and the changes in the role of state in emerging economies. Key concepts such as economic development, science & Tech Innovation, productivity, migration, nationalism, independence for purpose of politics and state building, political order, developmental state, market state, pre-state and colonial state would be highlighted in understanding the theme. Listed readings for every class either focuses on thematic topic or a focused analysis of select countries. This course emphasizes discussion based on the assigned reading to understanding theoretical and conceptual tools and to utilize in understanding contemporary challenges where geopolitical and technological premise of politics and states changes rapidly.

[Course Goals]

The goals of this course is to enable students to (1) understand theoretical and conceptual tools in analyzing purpose of politics and statehood and (2) to utilize in understanding contemporary challenges where geopolitical and technological premise of politics and states changes rapidly.

Assigned readings mostly are chosen among the historical study of the key concepts as we focus on the establishments, changes and it helps understanding the current in the context and in comparison, to the past. Readings are substantial but appropriate for Graduate School, especially for Doctorate students.

During the discussion in class, we use a two-fold approach. Reading materials focused on history to review the concepts and narratives, supplemented by contemporary articles and materials for discussion. Reference on contemporary issues would be shared within class.

Related DP: G-cube1,2,4

2. Course Outline :

Each class discusses the following major themes. Students must prepare a 2-3 pages length essay before every class summarizing the gist of the assigned text as well as to raise a critical question that derives from it in applying to the contemporary context of politics and policy making. Essay needs to be submitted by Monday evening 11:30 pm.

1. Introduction and Guidance. (Online)

<https://us06web.zoom.us/j/86755053593?pwd=gEOc8lcqx4jkdgAoIuTNsWrBdlvikD.1>

2. Purpose of Government 1

Japan, Society 5.0, in 5th Science and Technology Basic Plan, the 6th Science, Technology, and Innovation Basic Plan (Cabinet decision of March 26, 2021)

https://www8.cao.go.jp/cstp/english/society5_0/index.html

Indonesia, Golden Vision 2045

<https://web.archive.org/web/20191105175050/https://indonesiadevelopmentforum.com/2019/article/142-the-vision-of-indonesia-2045-millennials-opportunity-for-a-more-inclusive-development>

- Tilly, Charles. War Making and State Making as Organized Crime in Peter Evans, Dietrich Rueschemeyer, and Theda Skocpol eds. *Bringing the State Back In*. Cambridge University Press, 1985.
3. Purpose of Government 2
Taylor, Brian D., and Roxana Botea. "Tilly Tally: War-Making and State-Making in the Contemporary Third World." *International Studies Review*, vol. 10, no. 1, 2008, pp. 27–56.
Huntington, Samuel P. *Political Order in Changing Societies*. Yale University Press, 1996
 4. The Hidden Development State
Block, F., Keller, M. R., & Negoita, M.. 'Revisiting the Hidden Developmental State'. *Politics & Society*, 52(2), 2023, pp208-240.
<https://journals.sagepub.com/doi/full/10.1177/00323292231152061>
 5. Invention of Economic Growth and its measurement 1
Coyle, Diane. *GDP: A Brief but Affectionate History*. Princeton University Press, 2014.
 6. Invention of Economic Growth and its measurement 2
Susskind, Daniel. *Growth: A History of Reckoning*. The Belknap Press of Harvard University Press, 2024.
 7. Modern State and Purpose of Geopolitics
Maier, Charles S. *In Search of Stability: Explorations in Historical Political Economy*. Cambridge University Press; 1988.
 8. The Project State 1
Maier, Charles S. *The Project State and Its Rivals: A New History of The Twentieth and Twenty First Centuri*
 9. The Project State 2
Freddy Orchard, *Bold vision: the untold story of Singapore's reserves and its sovereign wealth fund*, Epigrar Books, 2021
 10. The Mafia State
Magyar, Bálint. *Post-Communist Mafia State: The Case of Hungary*. Central European University Press, 2016.
 11. The Knowledge Economy 1
Roberto Mangabeira Unger, *The Knowledge Economy: A Critique of the Dominant View*, *American Affairs* Volume IV, Number 3 (Fall 2020), pp48–76.
<https://americanaffairsjournal.org/2020/08/the-knowledge-economy-a-critique-of-the-dominant-view/>
 12. The Knowledge Economy 2
Walt Bogdanich, Michael Forsythe. *When McKinsey Comes to Town: The Hidden Influence of the World's Most Powerful Consulting Firm*. Penguin Random House, 2022.
John Micklethwait , Adrian Wooldridge *The Fourth Revolution: The Global Race to Reinvent the State*. 2014
 13. Migration and Statehood
Yossi Shain and Aharon Barth. 'Diasporas and International Relations Theory', *International Organization* 57 Summer 2003, pp. 449—479.
 14. Migration and Statehood Biao Xiang, Brenda S. A. Yeoh, Mika Toyota eds. *Return: Nationalizing Transnational Mobility in Asia*. Duke University Press, 2013.
<https://read.dukeupress.edu/books/book/334/ReturnNationalizing-Transnational-Mobility-in-Asia>
 15. Multiple faces of Surveillance State and its networks (Southeast Asia)
WHO News release, 'WHO South-East Asia Region enhancing multi-source surveillance to strengthen response to health emergencies' 13 March 2025.
<https://www.who.int/southeastasia/news/detail/13-03-2025-who-south-east-asia-region-enhancing-multi-source-surveillance-to-strengthen-response-to-health-emergencies>
ADB - Asia Regional Integration Center Website, 'ASEAN Surveillance Process (ASP)',
(<https://aric.adb.org/initiative/asean-surveillance-process>)
FAO and the Pandemic Fund
<https://www.fao.org/one-health/partners/projects/pf-south-east-asia-region/en>
Digital Authoritarianism in Southeast Asia
<https://kyotoreview.org/issue-33/from-the-editor-the-spectre-of-digital-authoritarianism-for-southeast-asia>

3. Grading :

Grading will be measured 50% by the submitted Essay and 50% by the discussion within class.

[Grading Criteria]

A: Achieved the goal at a high level

B: Achieved the goal at a satisfactory level

C: Achieved the goal at a generally acceptable level

D: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

Books/articles listed in the course outline

4-2:Others

Will be shared in class

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Auditing ; *Allowed with Consultation*

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GOV6930J
授業名	社会科学方法論＝量的分析 (Social Science Methodology for Quantitative Analysis)
担当者	MASUYAMA Mikitaka／増山 幹高
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Thu 木／4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

このクラスでは、社会現象の実証的な分析方法を習得し、履修者各自の問題意識から、政策的に効果のある提案をいかに実現していくかという実践的な研究を行います。とくに履修者独自の研究企画を策定し、仮説を実際のデータから検証し、分析結果を取りまとめることに重点を置きます。

このクラスは社会科学における計量分析の入門的な演習として、社会現象を計量的に分析するにあたって、いかなる方法論的問題があり、それらがどのように対処されるのかを検討します。また、そうしたトレーニングを通じて、公共政策や政策形成に関する実証的な分析を実施するうえでの方法論的課題を理解し、計量分析の応用可能性を探ります。

[到達目標]

三つの目標があります。第一の目標は計量分析の基礎的手法の習得にあり、履修者自身に基礎的な分析事例を追体験してもらいます。統計学的な知識は必ずしも必要ではありませんが、表計算ソフトや統計ソフトを操作することに履修者自身が積極的に取り組むことが条件となります。第二に、社会現象を計量的に分析した実例をとりあげ、それらで扱われている方法論的問題を浮き彫りにし、その対処方法について評価する能力を培います。第三の目標は、こうした分析実習などを通じて、履修者が進める政策分析に関して計量分析的にアプローチする独自の方法を考案・実施します。

[ディプロマポリシー]

学生が身に着けるべき資質・能力の目標は次の通りです：

政策プロフェッショナルプログラム

② 社会科学の方法論を用いて、厳密な研究手法を身に付け、高度な研究活動を遂行することのできる能力

2. 各授業のテーマ：

履修者の関心や希望に応じて、基礎的な統計数理から具体的な応用分析まで、1～2週毎に取り上げていきます。

[事前事後学習]

履修者は各週の参考文献の該当箇所を事前に読み、授業後には各週で学んだ内容について各自で再検証することが求められます。

3. 成績の評価方法：

授業における報告内容（60％）、議論への貢献度（40％）で評価します。

【成績評価基準】

A: 到達目標について高い水準で達成している

B: 到達目標について満足できる水準で達成している

C: 到達目標について概ね達成している

D: 到達目標について最低限の水準は達成している

E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

参考文献：

増山・山田著『計量政治分析入門』東京大学出版会（2004年）

Brady, Henry E., 2009. Causation and Explanation in Social Science. in Goodin, Robert Edward (ed.) *The Oxford Handbook of Political Science*. New York: Oxford University Press, 1054-1107.

King, Gary, Robert O. Keohane, and Sidney Verba. 1994. *Designing Social Inquiry: Scientific Inference in Qualitative Research*. Princeton Univ Press.

Alexander L. George. 2005. *Case Studies and Theory Development in the Social Sciences*. The MIT Press.

Henry E. Brady. 2010. *Rethinking Social Inquiry: Diverse Tools*. Rowman & Littlefield Publishers.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

MS Excel, SPSS, STATA, R

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

スケジュールの詳細は初回のクラスで相談します。

この科目は政策プロフェッショナルプログラムのために開講されているものです。政策プロフェッショナルプログラムの履修者がいない場合、内容を統計数理や応用分析の詳細に変更することがあります。

この科目はデータサイエンス関連科目に指定されています。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	GOV7101J
授業名	政策過程論 (Policy Process)
担当者	IIO Jun／飯尾 潤
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Thu 木／2
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

政策過程論は、政策が発案され、決定されて、それが実施に移され、さらに見直されるという一連の過程を解明することにより、政策のあり方そのものを研究する分野である。この講義は、政策過程論において蓄積されてきた多様な知見を提供し、現代日本の政策過程を参照しつつ、現実的・具体的な政策課題について、広く考察するための基盤となる知識を提供することを目指している。そして実地に即した理論理解を進め、受講者が政策過程論関連の知識を吸収するだけでなく、自らの課題について構想力を養うことが最終的な目的である。講義形式が基本となるが、受講者とのやりとりができるように配慮して、授業を進めていく予定である。

なお、本講義は、SDGsに関しては、目標16あるいは目標17が関係しているが、具体例の中には、それ以外の目標に関連するものも含まれている。

【到達目標】

- （１）政策過程論の基礎的概念やさまざまな分析枠組みを習得する。
- （２）概念や分析枠組みが、具体的な場面にそれらがどのように適用されるのかを学ぶことで、政策あるいは政策過程を理解する能力を身につける。
- （３）自らの関心のある政策問題について政策過程の観点から理解を深め、政策問題を多面的に把握する能力を付ける。
- （４）独自の切り口で政策に関わる事象を把握し、代替案を考えるための枠組みを身につける。
- （５）政策過程論の分析枠組みを用いて、政策過程に関する詳細な分析を行う能力を身につける。

【関連するディプロマ・ポリシー】

政策プロフェッショナルプログラムDP①③

2. 各授業のテーマ：

第1回：政策研究と政策過程論の意義

政策研究の発展経路を回顧するなかで、政策の概念を確認し、政策過程を研究することがいかなる意味を持つのかを検討し、政策過程論の意義を検討する。

第2回：政策類型論と政策循環（ポリシー・サイクル）論

政治制度論・政策類型論などを検討したうえで、政策過程を簡明に枠づける思考法としての政策循環論を包括的に論じ、次回以降の講義の構成について説明する。

第3回：政策課題の発見とアジェンダ設定

政策循環が開始される段階であるアジェンダ設定について論じ、争点の設定と隠れた権力あるいは価値観と政策などの問題を検討する。

第4回：政策立案Ⅰ（社会集団と政策ネットワーク）

政策の具体的な内容を作成する段階としての政策立案に関連して、政策を取り巻くネットワークの重要性と、その具体的なあり方を紹介する。

第5回：政策立案Ⅱ（政策立案における政策分析）

政策立案における思考法に関して専門家の役割を検討し、行政官および政策研究者にとっての政策立案に関する課題を具体的に検討する

第6回：政策決定Ⅰ（合理性に基礎をおく枠組み）

政策決定は、政策を正統化し確定する段階であり、長らく政策過程論の中心的研究対象であった、この段階に関する古典的な理論として合理的決定論と漸变的決定論を検討する。

第7回：政策決定Ⅱ（合理性を前提にしない枠組み）

歴史的記述やゴミ缶モデルの系譜にある政策の窓モデルなど、アクターの合理性を前提にしない枠組みを検討する。

第8回：政策決定Ⅲ（理念や言説に基づく枠組み）

理念や人々の信条の変化を基礎にして政策の変化を理解しようとする枠組みについて検討を加える。

第9回：政策実施の諸条件

政策を実際に実現する段階（政策実施）において生じる問題を、理論の発展に沿って紹介し、政策実施現場の問題を検討する。

第10回：政策実施と多様な組織

政策実施と密接に関係する中央地方関係、新公共経営論、ガバナンス論などの問題を議論する。

第11回：政策評価と政策転換・終了

政策評価の概念の検討とともに、評価に関わる政策過程参加者の動機を検討し、さらに政策が終了するメカニズムについて検討する。

第12回：政権運営Ⅰ（政策の統合と運営）

個別の政策過程を統合する主体として政権の役割を検討し、その課題について論じる中で、総合的に政策過程のあり方を検討する。

第13回：政権運営Ⅱ（政治制度と政策過程）

政策を支える制度の類型を紹介したうえで、政権のあり方を中心に政策過程と制度との関係を説明し、日本における具体的な制度運用を検討する。

第14回：政権運営Ⅲ（民主政と政策転換）

政権への評価を出発点に、政策の正統化という民主政の課題をめぐる問題をまとめて議論し、意識的変革としての政策と民主政の関係を検討する。

第15回：政策関連知識の総合：政策的構想力論

政策に関わる政策分析や政策規範論、執務知識の役割を検討したうえで、政策過程の研究が、政策にとっていかなる意味を持つのかを考察し、政策的構想力の可能性について論じる。

[授業外学修]

受講生は、あらかじめ配布するテキストや資料を一読し、講義を受ける前に概要を把握した上で、積極的に授業に参加し、授業後にはテキストを精読するとともに、指定した参考文献等を読んで、さらに理解を深めることが求められる。博士課程の受講者には、参考文献を追加で指定するので、それらも読了する。具体的な学習方法については、初回に説明する。

3. 成績の評価方法：

成績は、レポートに関する評価点を基準に算定する。レポートは、修士課程と共通の小課題を2回出題する（合計70%）ほか、博士課程用の別の課題（30%）を出題し、それぞれの点数を合計したうえで評価する。課題の締め切りは、ほかの授業との関係もあるので、講義中で支障を確認した上で、最終決定して通知する。受講者は、積極的に授業に参加することが求められているので、4回以上の欠席は特別の事情がある限り認められない。特別の事情のある場合には代替課題を課すので、担当教員と相談すること。

[成績評価基準]

A: 政策過程論の基礎概念や分析枠組みについて十分に理解し、関係事象を構造化して理解するとともに、独自の切り口で表現するなど、自らの分析能力を示すことができる。

B: 政策過程論の基礎概念や分析枠組みを理解し、それを自ら関心のある事例に適用して、それに関する基礎的な分析を展開することができる。

C: 政策過程論の基礎概念や分析枠組みを概ね理解し、具体的な場面での適用例をある程度示すことができる。

D: 政策過程論の基礎概念や分析枠組みについて最低限の習得をしている。

E: 政策過程論の基礎概念や分析枠組みを理解して、それを説明することができない。不合格。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

担当者が執筆した独自のテキストは、毎回事前に入手できるように、配布する

4-2:その他

参考文献は、毎回の講義で紹介して、参照を求める。しばしば言及するのは、次の書籍である。

* Michael Howlett, M. Ramesh, and A. Perl, *Studying Public Policy 4th ed.*, Oxford University Press, 2020

* Christopher M. Weible, eds., *Theories of The Policy Process 5th ed.*, Routledge, 2023

* John W. Kingdon, *Agendas, Alternatives, and Public Policy 2nd ed.*, Pearson Education, inc.,2011,

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

聴講の際、資料を入手したい場合には、予め教員に連絡すれば、提供方法を考える

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV7231E
Course Name	Politics and Diplomacy in Postwar Japan
Instructor	PRESSELLO Andrea
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Wed 水/5
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

The purpose of this course is to provide a basic understanding of Japanese foreign policy in the period between the end of World War II and today. Particular attention will be paid to the relationship between foreign policy and domestic politics. Among the topics to be discussed in class are: the process of building postwar Japanese relations with the United States and Asia, Japan's Official Development Assistance, and Japan's tackling of new foreign and security policy challenges. No background knowledge on these issues is required. Through this course, students can develop their understanding of issues and concepts in Japanese foreign policy and acquire the ability to identify and explain factors shaping Japan's foreign policy choices. Students from different countries are highly encouraged to register for this course: the diverse perspectives that they can contribute is expected to enrich the discussion of Japan's relations with the world. During the course, some videos will be shown and one class might be held in the form of a visit to a site related to the contents of the course.

[Course Goals]

Students can:

- understand issues and concepts in Japanese foreign policy.
- develop the ability to identify and explain factors shaping Japan's foreign policy choices and their implications.

[Related Diploma Policy (DP)]

GRIPS Global Governance Program (G-cube)

Growth and Governance Studies Concentration & International Development Studies Concentration

1. Ability to plan, formulate, implement, and analyze policies from a broad perspective, based on expert knowledge in economics and politics, while referring to history and field senses

2. Ability to explore solutions to a variety of policy issues from a long-term, multi-faceted perspective

Security and International Studies Concentration

1. Ability to plan, formulate, implement, and analyze policies from a broad perspective, based on expert knowledge in economics and politics, while referring to history and field senses

2. Ability to explore solutions to a variety of policy issues from a long-term, multifaceted perspective

政策プロフェッショナル

3. 研究テーマに関連する公共政策に関する研究成果に基づいて、広く次の課題や政策を構想することのできる能力

2. Course Outline :

- Introduction
- Japan's defeat in World War II. Occupation and reforms
- Cold War and the San Francisco treaties
- After independence: Japan's relations with Asia
- Revision of the US-Japan Security Treaty

- Reversion of Okinawa and “Nixon shocks”: the foreign policy of the Satō administration
- After Vietnam: Approaches to Southeast Asia
- Field trip (TBC)
- New Cold War and Japan’s foreign policy in the 1980s
- The early post-Cold War era
- Historical memory and reconciliation in Japan’s foreign relations
- Changing Official Development Assistance policy
- Japan’s security policy
- Wrap-up
- Presentations on the Term Paper

* This course outline is subject to change.

[Out-of-class Learning]

In preparation for class, students should read the materials distributed by the instructor and write short comments on them. Details on how to write the comments will be provided in class by the instructor. After class, students should review the contents of the lecture. They are also encouraged to do further readings on specific topics of their interest that were discussed in class.

3. Grading :

Term paper: 60%

Weekly reaction comments and contribution to class discussions: 40%

[Grading Criteria]

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Unsatisfactory: E

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

There is no specific textbook required for this course. Reading materials (such as journal articles, book chapters, other) will be provided by the instructor during the course drawing from a variety of sources, among which:

Kitaoka, Shinichi. The Political History of Modern Japan: Foreign Relations and Domestic Politics, Routledge, 2018.

Iokibe, Makoto, ed. The Diplomatic History of Postwar Japan, Routledge, 2010.

4-2:Others

5. Software Used in Lectures :

The use of generative artificial Intelligence is not allowed when writing weekly assignments and the term paper. Software that provide support with English grammar and spelling can be used.

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

[Back](#)

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV8281E
Course Name	Analysis of Great Power Politics
Instructor	IWAMA Yoko, et al./岩間 陽子、外部講師
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Thu 木/5
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This lecture will deal with the rise of China and how the Great Powers have till now tried to deal with this challenge. We will invite leading experts of each region to speak about the perspectives from the regions point of view regarding this monumental power shift that is taking place before our eyes.

[Course Goals]

Students will be introduced to the basic theories of International Relations at the beginning of the course. In each session, they will be asked to look at the reactions of the major powers to the rise of China and look for similarities and differences. They will consider which theory offers better explanation in analyzing the reactions of the major powers. They will acquire the ability to think about the strength and weaknesses of major IR theories in explaining these behaviors and obtain the ability to imagine different future scenarios.

[Related Diploma Policy (DP)]

G-cube Master DP1,3

G-cube PhD DP3

2. Course Outline :

Instructors and reading materials from sessions 2 to 14 will be given at the first session.

1. Orientation, IR Theories and the rise of China (April 10, Prof.Iwama)

How have the IR scholars reacted to the emergence of China as a huge economic and military power? Students will be given a brief introduction to the major IR theories. They will then examine different perspectives and discuss how they relate to the reality.

<Readings>

*John J. Mearsheimer, *The Tragedy of Great Power Politics*, updated edition (W.W.Norton & Co, 2014)

Preface to the updated version, Preface, Chapter 1, Chapter 10.

*John M. Owen, "Ikenberry, international relations theory, and the rise of China," *The British Journal of Politics and International Relations*, 2019, Vol. 21(1) 55-62.

*M. Taylor Fravel, "International Relations Theory and China's Rise: Assessing China's Potential for Territorial Expansion," *International Studies Review* (2010) 12, 505-532.

*Jonathan Kirshner, "The tragedy of offensive realism: Classical realism and the rise of China," *European Journal of International Relations*, 18(1)53-75.

2. History of the Rise of China part 1 (April 17)

How have the Chinese risen from a relatively poor status to the World power status in half a century?

Part 1 will deal with China under Mao Tse Tsung. How he established the one- party system and defined the goals of this country and gave structure to its political and military apparatus.

3. History of the Rise of China part 2 (April 24)

Part 2 will deal with the reform of the Chinese economy and political system under Deng Xia Ping. How has Deng changed the system inherited from Mao? How have the leaders that succeeded him reformed this system?

4. History of the Rise of China part 3 (May 1)

Part 3 will deal with China under Xi Ji Ping. How has Xi changed the tradition of the CCP ruling system to his own ambitions? How has that affected the future prospect of China?

5. China and the World (May 8)

How is China trying to consolidate its leading position in the world?

6. China and the World (May15)

How is China trying to challenge the system defined by the US after the end of WWII?

7. The US Foreign Policy Tradition (May 22)

This session will look at the different trends in US foreign policy. This will help the students to look at US foreign policy from multiple angles and assess the current situation objectively.

8. The US-China Relationship: History (May 29)

This session will explore how US and China meet each other and how the history has developed until the early 21st century.

9. The US-China Relationship: The Future (June 5)

This session will discuss how US has been reacting to the challenge of China most recently and try to analyze what future is likely to bring.

10. Interim Discussion (June 12, Prof. Iwama)

In this session, students will discuss what they have learnt through the previous sessions and go back to the literature of the first session and discuss how their perceptions have changed. They will also bring the ideas about which country they intend to take up in their final term paper, and do a short presentation about the structure of their paper.

11. Europe (June 12)

In this session, Europe's reluctant and slow reaction to the rise of China will be discussed. How is Europe likely to react to the new situation, where China is increasingly aligning itself to both Russia and North Korea?

12. Russo-Chinese relationship: History (June 19)

How has Russia related to this giant neighbor historically? What were the relationship between the two after the Bolshevik Revolution and during the Soviet Era?

13. Russo-Chinese relationship: Current challenges (June 26)

What were the relationship between China and Russia after the Cold War? How has the War in Ukraine changed Sino-Russian relationships?

14. Japan (July 3)

15. Final Discussion (July 10)

Students are asked to bring their final proposal for the term paper. They will each be asked to do a short presentation about their intended country and how it has reacted to the rise of China. We will also go back to the initial session and talk about the relevance of IR theories and the rise of China.

[Out-of-class Learning]

- Students are expected to read the listed reading materials before each class. There may also be some assignments given as preparations for the class.
- After each session, students are required to read through the materials and send in reactions and several questions they have concerning the content. Instructions will be given through Teams system.

3. Grading :

Grading will be based on active participation in class discussions and a term paper after the completion of the course. Students will be asked to choose a country and look at its policies and perspectives concerning the rise of China and think about its theoretical implications. They will also be asked to imagine several future scenarios and make policy recommendations. Grading will be based on (1)attendance and discussions during the 15 sessions (15%) (2) regarding the term paper, how well they have been able to research the reactions of the chosen country (30%); (2)how they have been able to discuss the theoretical implications(25%): and (3)what kind of future scenarios and policy recommendations they have been able to discuss (30%).

[Grading Criteria]

A 90-100: Pass; Achieved the goal at a high level

B 80-89: Pass, Achieved the goal at a satisfactory level

C 70-79: Pass; Achieved the goal at an acceptable level

D 60-69: Pass; Achieved the goal at a minimum acceptable level

E 0-19: Fail; Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

There will be no fixed textbook for the entire course. Reading materials will be specified by each lecturer.

4-2:Others

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Since the lecturers of each session is not yet determined at the point of the making of this syllabus, students will only be given the full list of lecturers and the syllabus at the beginning of the lecture.

[Back](#)

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	GOV8401E
Course Name	Advanced International Relations in Europe
Instructor	IWAMA Yoko／岩間 陽子
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Thu 木／3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course is intended to provide basic knowledge about the history, the structure and the working of the European Union and NATO, which are the cornerstones of the stability of post WWII Europe. We will also try to discuss actual problems Europe is facing currently. Students are welcome to bring their own interest and actively participate in the class.

[Course Goals]

- Students are expected to acquire basic knowledge about the history and evolution of both EU and NATO, as well as the problems they are facing currently.
- Students will also learn various theoretical aspects of both EU and NATO in order to better understand future regional integration process in their region.
- Students will practice and acquire skills to make presentations effectively and concisely in a given time frame.
- Upon completing the course, students are expected to be able to formulate policies regarding the problems that Europe is facing using these institutions as at least part of their tools.

[Related Diploma Policy (DP)]

GRIPS Global Governance Program (G-cube)

Growth and Governance Studies Concentration ①②

International Development Studies Concentration ①②

Security and International Studies Concentration ①②

政策プロフェッショナルプログラム③

2. Course Outline :

1. 1. Orientation, Choices of the Post-war years; Institutions of EU and NATO (10 April)

Students will be introduced to the major textbooks and the requirements of the course. Students will look back to the situation after WWII and look at the choices that were then available. They will also learn about the basic institutions of both the European Union and NATO.

<Reading materials>

*Hellen Wallace, Mark A. Pollack, and Alasdair R. Young, *Policy-Making in the European Union*, chapter 4.

*Jeremy Richardson (ed.), *European Union: Power and Policymaking*, 4th edition, Routledge: 2015.

*NATO website

2. History of the European Integration: the beginnings (17 April)

European Integration is often said to be a “peace project.” Why is it so? What lies at the root of the integration process and how does it relate to security?

<reading material>

* Dinan, *Origins and Evolution of the European Union*

Chapter 2: Dividing Europe: the Cold War and European Integration pp.35-59.

Chapter 3, The German Problem and European Integration pp.60-90.

* McCormick, *Understanding the European Union*, Chapter 1~Chapter 3

* Gilbert, *European Integration: A Political History*, Chapter 2 and 3

3. Beginning of the Cold War: NATO in its early days (24 April)

How did NATO come about? What did Europe and the US want in the beginning?

<reading materials>

* Timothy Ashton Sayle, *Enduring Alliance: A History of NATO and the Postwar Global Order*, Cornell University Press, 2019, Chapters 1~4

* Lawrence S. Kaplan, *The Long Entanglement: NATO's First Fifty Years*, (Praeger, 1999)
Chapters 1~4

* Sten Rynning, *NATO*, Ch. 1 and 2.

4. Early Years of European Integration: Rome Treaty, Common Market and Common Agricultural Policy, (May 1)

How did the initial European project change in the course of 1950s? What did the signing of the Rome Treaty mean for the nature of the European integration? Why was agriculture so important for the European project?

<reading material>

* Dinan, *Origins and Evolution of the European Union*, Chapter 4 Liberalization, Convertibility, and the Common Market

Chapter 8 European integration in the Image and Shadow of Agriculture

* Gilbert, *European Union*, Chapter 4

* Wallace, *Policy-Making in the European Union*, Chapter 8 The Common Agricultural Policy: The Fortress Challenged

5. Europe 1958-1968: de Gaulle's challenge, Making of the European and global nuclear order and the German question. (May 8)

How did the French President Charles de Gaulle try to challenge the American designs about post-war Europe? What was UK's role in the ensuing drama that unfolded? Was nuclear weapons an important element in this?

<Reading material>

Sayle, Ch. 4~7

Rynning, Ch. 3 and 4.

Dinan, Chapter 6 Charles de Gaulle's Uncertain Idea of Europe

Gilbert, Chapter 5, In the shadow of the General: Charles de Gaulle and the EEC, 1958-1966

Chapter 6, Weathering Storms, 1967-74

6. Europe in the 1970s (May 15)

The 1970s was a turbulent decade: the oil shock, the US in relative decline because of the Vietnam war and the Sino-American détente. How did Europe try to cope with these turbulent incidents?

<Reading Material>

Wallace, Chapter 5 The Single Market: From Stagnation to Renewal?

Dinan, Chapter 7 Under the Shadow of Stagflation: European Integration in the 1970s.

---, Chapter 9 From Deadlock to Dynamism: The European Community in the 1980s

Gilbert, Chapter 6 Weathering Storm, 1967-74

Chapter 7 Consolidation and Innovation, 1974-1979

7. Europe in the 80s: From stagnation to prosperity (May 22)

From the stagnation of 1970s, Europe burst into energy in the 1980s thanks to the reviving economy and also brilliant ideas of Jacques Delors. Why were his ideas so successful?

<reading material>

*Wallace, Chapter 5 The Single Market: From Stagnation to Renewal?

Chapter 7 Policy-Making under Economic and Monetary Union

*Gilbert, Chapter 8, 1992 Initiative and the relaunch of the Community

*Dinan, Chapter 9 From Deadlock to Dynamism: The European Community in the 1980s

8. NATO in the 1980s: From double track decision to the INF treaty (May 29)

The Euro-missile crisis was probably the most acute crisis of NATO. Although it led to the INF treaty after Gorbachev became USSR president, it almost tore NATO apart. How should we evaluate the crisis from today's point of view?

<reading material>

Sayle, Chapter 8 Busting Europe

Chapter 9 Leaderless Men

Rynning, Chapter 5 and 6.

Kaplan, *The Long Entanglement*, Chapter 7~9

9. Single Market and Single European Currency (June 5)

The Cold War ended in a way nobody had expected. The EU had embarked on its way to single market and single currency even before this epochal turn. Why did they take this course and what were the consequences?

<reading material>

*Dinan, Chapter 10 from Single Market to the Single Currency.

Chapter 11 The European Union, the Soviet Union, and the End of the Cold War

*Gilbert, Chapter 9 and 10

10. EU enlargement after the End of the Cold War (June 12)

How was the decision to enlarge EU taken and how did it relate to the NATO enlargement? What were the reactions in the new member countries? Was it the right time for the right countries given what happened since then?

<reading material>

*Dinan Chapter 12 The Enlarging European Union

*Cini & Borragan, Chapter 18

*Rhinard/Nugent/Paterson, *Europe in Crisis*, Chapter 2, European Integration theory and Crisis.

11. NATO Enlargement; NATO in the 1990s (CFE/START/New START) (June 19)

NATO's cold war mission was complete. How did NATO survive into the 21st century? Did it react appropriately to the new era?

<reading material>

Rynning, Chapter 7~9.

Mary E. Sarotte, *Not One Inch*.

12. EU in crisis, Part I (June 26)

In the 12th and 13th sessions, the class will take up several of the recent crisis of the EU and discuss them in class. Possible topics are: Euro crisis, Migration crisis, Brexit, COVID 19.

<reading material>

*Cini and Borragan, Part 5 Issues and Debates,

*Gilbert, Chapter 11 the challenge of the political

* *Rhinar/Nugent/Paterson, *Europe in Crisis*

13. EU in Crises, Part II (July 3)

Second part of the discussion of recent EU crisis.

14. Europe in Crisis: Russian invasion of Ukraine and the European institutions (July 10)

How is the invasion of Ukraine affecting both EU and NATO? Did EU and NATO enlargement “force”

President Putin to invade Ukraine? What are his likely aims?

<Reading material>

Rynning, Chapter 10~11.

15. Final discussion: Future of Europe (July 17)

The ongoing NATO Washington Summit 9-11 July and NATO’s relationship with Indo-Pacific will be discussed. How will EU and NATO come out of current crisis?

Students will also be asked to make a short presentation about the topic of their final term paper.

[Out-of-class Learning]

- Students will be asked to read the listed materials before the class.
- One student will prepare a short presentation with power point slides for each session. Each student will have the opportunity to present several times during the course, according to the size of the class.
- After the class, students are expected to read through the class material and send in questions before the next class.

3. Grading :

Assessment will be based on discussions in class, several presentations (depending on the size of the class) (50%), and a term paper (50%). Students will select a topic of their interest and do background research as well as suggesting policy options for the future.

[Grading Criteria]

A 90-100: Pass; Achieved the goal at a high level

B 80-89: Pass, Achieved the goal at a satisfactory level

C 70-79: Pass; Achieved the goal at an acceptable level

D 60-69: Pass; Achieved the goal at a minimum acceptable level

E 0-19: Fail; Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1: Required

(Not all textbooks will be used every session. Refer to the reading list of each session.)

* Michelle Cini and Nieves Pérez-Solórzano Borragán, *European Union Politics*, 7th edition, Oxford U.P, 2019.

* Desmond Dinan (ed), *Origins and Evolution of the European Union*, 2nd edition, Oxford University Press, 2014.

* Mark Gilbert, *European Union: A Political History*, 2nd edition, Rowman & Littlefield 2021.

*Lawrence S. Kaplan, *The long entanglement: NATO's first fifty years*, Westport, Conn. : Praeger, 1999,

319.53 Ka61

*Lawrence S. Kaplan, *NATO Divided, NATO United: The Evolution of an Alliance*, (Praeger, 2004)

* John McCormick, *Understanding the European Union: A Concise Introduction* (The European Union Series) (Red Globe Press, 2021)

* Sten Rynning, *NATO: from Cold War to Ukraine, a history of the world's most powerful alliance*, Yale University Press, 2024

* Jeremy Richardson (ed.), *European Union: Power and Policymaking*, 4th edition, Routledge: 2015.

* Mark Rhinard, Neill Nugent and William Paterson, *Crises and challenges for the European Union*, Bloomsbury Academic, 2023

*Sten Rynning, *NATO: From Cold War to Ukraine, a history of world's most powerful alliance*, Yale University Press, 2024.

*Mary E. Sarotte, *Not one Inch: America, Russia and the Making of the Post-Cold War Stalemate*, Yale University Press, 2021.

* Timothy Andrew Sayle, *Enduring Alliance: A History of NATO and the Postwar Global Order*, Cornell University Press, 2019

* Hellen Wallace and William Wallace (eds.) *Policy-Making in the European Union*, 7th edition, 2015, Oxford University Press.

4-2: Others

5 . Software Used in Lectures :

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	LAN0320E
Course Name	Policy Paper Tutorial
Instructor	PETCHKO Katerina, et al.
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春
Credits	1

1. Course Description and the Learning Objectives :

This course is designed to support master's students in the culminating writing task that they must undertake at the end of their study at GRIPS. The main objective of the course is to ensure that each student produces a high-quality academic paper that meets the requirements of their program. To that end, PPT will guide students through the key academic writing competencies needed to complete the final paper according to the discourse conventions in their field and/or the requirements of their specific program.

Achievement Goals

Students will have an opportunity to acquire the fundamental graduate academic writing skills necessary for preparing a research paper and to learn how to

- Structure and organize an academic paper
- Prepare a literature review
- Write an introduction
- Present and discuss findings
- Prepare an abstract
- Use the academic tone
- Edit and finalize a draft
- Document sources
- Describe visuals

Relevant DP

All international master's programs

2. Course Outline :

PPT **does not** have any lectures. Rather, students will be assigned a writing instructor who will work with them **individually** to provide guidance on final paper writing and feedback on interim drafts. Instructors will contact their students at the start of the term to set up a first meeting in order to discuss each student's writing needs and set up a schedule of individual consultations.

An equivalent of eight class sessions will be given in individual consultations, which will be arranged in a flexible manner to accommodate each student's schedule and writing progress.

For convenience, consultations can be arranged in person, by email, or via Zoom. Students will receive one credit for this course.

Below is a sample list of topics that may be covered in individual consultations.

- Formatting Your Paper for GRIPS
- Writing Your Introduction: Establishing the Need for Your Paper
- Writing Your Literature Review: Defending Your Paper and Your Choices

- Writing Your Methodology: Establishing Validity
- Presenting Your Results: Analyzing Your Data
- Writing Your Discussion and Conclusion: Putting Your Research in Context
- Creating Effective Visuals: Formatting Tables and Figures
- Preparing an Abstract or a Summary
- Preparing the Final Draft: Formatting Citations and References

Out-of-class Learning

Students are expected to work on their drafts based on the advice and feedback received in consultation sessions.

Exemptions

Exemptions from the course are possible. Please follow the procedure outlined in the accompanying email.

3. Grading :

Students are required to submit two interim drafts for feedback, at the end of June and at the end of July. The specific submission dates and the content of each submission should be discussed with the writing instructor.

Grading: Pass/Fail.

Pass: Submission of drafts demonstrating adequate understanding of academic writing fundamentals as explained in the individual consultations.

Fail: Failure to demonstrate adequate understanding of academic writing fundamentals as explained in the individual consultations or failure to attend consultations.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

Petchko, K. (2018). *How to write about economics and public policy*. Academic Press.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Students who have been granted an exemption from the course but who would still like to receive feedback on their draft should register as **auditors**. Auditing students may be able to request feedback on their draft, depending on CPC instructor availability.

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	MOR1100J
授業名	政策科学のためのデータサイエンスと情報数理 I
担当者	TSUCHIYA Takashi, TAKENOUCHI Takashi／土谷 隆, 竹之内 高志
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

行政により膨大なデータが蓄積され、そしてそれ以外にも多様なデータがインターネットを通じて手軽に得られる現在、目的に応じてこれらのデータを統合して自ら解析し、政策立案に役立てる能力はこれからの行政官にとって習得すべき重要な技の一つである。本講義では、世界中で使われているデータサイエンスのためのデファクトスタンダードであるR言語（無料ソフト）によりデータの可視化や線形回帰モデル等を実習しつつデータサイエンスとためのプログラミングの基本を習得する。高校までの数学の知識に基づいて講義する。

[到達目標]

R言語によるデータの可視化や線形回帰モデル等による初等的な解析ができるようになる。

データサイエンスのための基本的なプログラミングができる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

公共政策プログラム 地域政策コース：2

インフラ政策コース：2

防災・危機管理コース：4,5

医療政策コース：2

農業政策コース：5

科学技術イノベーション政策コース：3

国際協力コース：2,4

まちづくり政策コース：2,3

地域創造・金融コース：2

文化産業・地域創造コース：2

科学技術イノベーション政策プログラム（博士）：3

国際的指導力育成プログラム：3,4

2. 各授業のテーマ：

第1回 Rによるプログラミング入門

第2回 データの扱い方（データの読み込みやデータの種類等）

第3回 アルゴリズムの考え方

第4回 データの可視化（図の書き方等）

第5回 回帰モデルと最尤法

第6回 モデル選択

第7回 クロスバリデーション・検定

第8回 クラスタリング

第9回 主成分分析

第10回 ロジスティック回帰と決定木

第11回 分割表

第12回 機械学習概観

第13回 ニューラルネットワーク

第14回 ランダムフォレスト

第15回 データリテラシー

[授業外学修]

Rの使い方を各自復習しておく。
出される課題へのレポート作成。

3. 成績の評価方法：

レポート 100%

【成績評価基準】

- A 90-100 合格 到達目標を高い水準で達成している
- B 80-89 合格 到達目標を満足できる水準で達成している
- C 70-79 合格 到達目標を概ね達成している
- D 60-69 合格 到達目標を最低限の水準で達成している
- E 0-59 不合格 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

特に指定しない。ただし各授業ごとに適宜資料(pdf)を配布する。

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

RおよびR studio

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	MOR2000J
授業名	計画と評価の数理
担当者	MOROHOSI Hozumi／諸星 穂積
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

政策の企画立案に資する、数理的な計画手法と評価手法について学ぶ。計画手法としては、線形計画法、ネットワーク計画法、整数計画法、動的計画法などの最適化モデルと、待ち行列、確率シミュレーションなどを学習する。評価手法としては、包絡分析法（DEA）、階層的意思決定手法（AHP）、ランキング手法などについて学習する。Excelやその他のソフトを用いた演習により、手法への理解深める。

【到達目標】

- ・政策課題解決に対する数理的なモデルを用いたアプローチをすることができるようになる。
- ・課題の分析のための数理的評価手法を適用することができるようになる。
- ・計画立案の適切な数理的手法を案出し適用することができるようになる。

【関連するディプロマ・ポリシー】

公共政策プログラム：

地域政策コース2

インフラ政策コース2、

防災・危機管理コース4， 5

医療政策コース2、

農業政策コース5

科学技術イノベーション政策コース2, 3

国際協力コース2

まちづくり政策コース2, 3

地域創造・金融コース1,2

文化産業・地域創造コース2

2. 各授業のテーマ：

第1回 授業概要を説明する。数理的な計画手法とは何か、評価手法とは何か、について考え方を学ぶ。

【予習】特になし。

【復習】配布資料を見直す。関連する文献に目を通す。

第2回 線形計画法の問題定式化について、例題を通して学ぶ。Excelを用いて例題を解く方法を学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第3回 線形計画法の理論的な面について学習する。双対性の概念を学ぶ。Excelを用いて例題を解いて、双対性についての理解を深める。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第4回 最適化問題を解くためのソフトウェアについて、Excel以外にどのようなソフトがあるかを学ぶ。問題のサイズに応じて適切なソフトを利用することの重要性を学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第5回 整数計画法について学ぶ。例題を通して整数条件を用いた問題の定式化を学ぶ。Excelによる解法を学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第6回 整数計画法で定式化できる問題にどのようなものがあるかを、例題を通して学ぶ。Excelによる解法の技法を学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第7回 ネットワーク計画法について学ぶ。ネットワークを数学的に表現するためのグラフ理論の基本的なところを学習する。ネットワーク最適化の例である最短路問題について学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第8回 ネットワーク最適化問題である、最大流問題と最少費用流問題を学ぶ。Excelを用いた解法を学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第9回 数理最適化問題における確率の取り扱いについて、news vendor problemを例題にして学ぶ。問題の定式化と確率の役割について学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第10回 確率計画法、特に2段階確率計画法について学ぶ。Excelをもちいた解法を学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第11回 包絡分析法について学ぶ。基本的な考え方を学習したのち、基本的なモデルであるCCRモデルを学習する。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第12回 包絡分析法の進んだモデルであるBCCモデルについて学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第13回 投票力指数について学ぶ。Shapley指数やBanzhaf指数を学び、投票における影響力の測り方の概念を学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第14回 議席配分問題について学ぶ。社会における公平性の概念をどのようにして数学的に表現するかを学ぶ。具体的な例を通して、何が問題になるかを理解する。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

第15回 投票における諸問題を数理的にどう表現するか、またどのように解決したらよいかを、例題を通して学ぶ。

【予習】事前に配布した資料に目を通し、用語等の確認をする。

【復習】授業でやった演習問題をもう一度見直して復習する。

[授業外学修]

授業でとりあげた例題について、参考になる事例を探索して活用性を探る。

3. 成績の評価方法：

期末試験50%，毎回の授業における演習問題の達成度50%。

[成績評価基準]

A: 到達目標を高い水準で達成している

B: 到達目標を満足できる水準で達成している

- C: 到達目標を概ね達成している
D: 到達目標を最低限の水準で達成している
E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

特になし.

4-2:その他

- ・ 藤澤 克樹, 後藤 順哉, 安井 雄一郎：エクセルで学ぶOR. オーム社, 2011.
- ・ 大野勝久, 逆瀬川浩孝, 中出康一：Excelで学ぶオペレーションズリサーチ, 近代科学社, 2014.
- ・ Pollock, S.M., M.H. Rothkopf and A. Barnett (eds.): Operations Research and the Public Sector, Handbooks in Operations Research and Management Science, Vol. 6, North-Holland, 1994. (大山達雄監訳：「公共政策ORハンドブック」, 朝倉書店, 1998.)
- ・ W. L. Winston and S. C. Albright: Practical Management Science, 6th ed., South-Western Pub, 2018
- ・ L. A. Wolsey: Integer Programming, 2nd ed., Wiley, 2020.
- ・ W. W. Cooper, L. M. Seiford, and K. Tone: Introduction to Data Envelopment Analysis and Its Uses with DEA-Solver Software and References, Springer, 2006.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

MS Excel

参考としてMATLAB, python など.

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	MOR2500E
Course Name	Quantitative Social Systems Analysis
Instructor	TSUCHIYA Takashi, MOROHOSI Hozumi and TAKENOUCHI Takashi／土谷 隆, 諸星 穂積, 竹之内 高志
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Fri 金／3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course focus on development of skills on handling mathematical/statistical models and computer programming for those who are conducting their research on social systems analysis based on quantitative methods.

[Course Goals]

Students will be able to gain the skills on handling mathematical/statistical models and software.

[Related Diploma Policy (DP)]

One-year Master's Program of Public Policy (MP1) : 5

Two-year Master's Program of Public Policy (MP2) : 5

2. Course Outline :

The style of course is mixture of lectures and presentations by students. Each student is asked to make a 30 to 45 minutes presentation twice on their research in the beginning and at the end of the course. The first 5 lectures are assigned to the first presentations, and students are asked to explain their research topic and data with hypothesis in view of social system and quantitative analysis. Based on their presentation, the instructors give advices on modeling and computer software they can use for their quantitative analysis. The possible models treated in the course include well-known models such as difference-in-difference and instrument variable in econometric, regression and time-series in statistics, linear and quadratic programming and network models in operations research, and neural network, deep learning, decision tree and random forests in machine learning. Then in the middle 5 lectures, the instructors give lectures on selected relevant topics based on the first presentations. Finally, students are asked to make final presentations in the last 5 lectures showing their progress on research.

[Out-of-class Learning]

To review the class contents after each class and visit instructors for advice if necessary.

To prepare the presentation.

3. Grading :

Presentation 100%

The level of achievement of the learning objectives should be specified in accordance with the following evaluation criteria from GRIPS Assessment Policy.

A 90-100 Pass: Achieved the goal at a high level

B 80–89 Pass: Achieved the goal at a satisfactory level
C 70–79 Pass: Achieved the goal at an acceptable level
D 60–69 Pass: Achieved the goal at a minimum acceptable level
E 0–59 Fail: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

References will be given in class, depending upon the topics and issues.

5. Software Used in Lectures :

R Studio and R

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

— —

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	MOR6300E
Course Name	Mathematical Modeling Analysis / 数理モデル分析
Instructor	TSUCHIYA Takashi, MOROHOSI Hozumi and TAKENOUCHI Takashi / 土谷 隆, 諸星 穂積, 竹之内 高志
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Tue 火/3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Main objective of this course is to provide knowledge and solution techniques for mathematical modeling analysis including data collection, model building, formulation, computation, solution methods and sensitivity analysis. Topics will be selected from various types of mathematical models shown below depending upon student needs, preferences and academic backgrounds. Lectures will be given with many examples, not only theory itself, so that the students can understand even though they do not have enough mathematical backgrounds. Recitation class will be added if necessary. Students are required to present their research outputs, then will have comments, suggestions and discussion.

[Course Goals]

Students will gain the basic knowledge and solution techniques for mathematical modeling analysis including data collection, model building, formulation, computation, solution methods and sensitivity analysis.

[Related Diploma Policy (DP)]

Policy Professionals Policy DP : 2

2. Course Outline :

Main objective of this course is to provide knowledge and solution techniques for mathematical modeling analysis including data collection, model building, formulation, computation, solution methods and sensitivity analysis. Topics will be selected from various types of mathematical models shown below depending upon student needs, preferences and academic backgrounds. Lectures will be given with many examples, not only theory itself, so that the students can understand even though they do not have enough mathematical backgrounds. Recitation class will be added if necessary. Students are required to present their research outputs, then will have comments, suggestions and discussion.

3. Grading :

Presentation techniques

Reports and drafts distribution in the class 100%

The level of achievement of the learning objectives should be specified in accordance with the following evaluation criteria from GRIPS Assessment Policy.

A 90-100 Pass: Achieved the goal at a high level

B 80-89 Pass: Achieved the goal at a satisfactory level

C 70-79 Pass: Achieved the goal at an acceptable level

D 60-69 Pass: Achieved the goal at a minimum acceptable level

E 0-59 Fail: Did not achieve the goal

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

References will be given in class, depending upon the topics and issues.

4-2 W.L.Winston, "Operation Research: Applications and Algorithms" (2004), Brooks/Cole

5 . Software Used in Lectures :

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	MOR6300J
授業名	Mathematical Modeling Analysis / 数理モデル分析
担当者	TSUCHIYA Takashi, MOROHOSI Hozumi and TAKENOUCHI Takashi／土谷 隆, 諸星穂積, 竹之内 高志
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／3
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

最適政策策定、最適意思決定を目的とする種々の数理モデル分析の理論とその応用を中心に紹介する。本講では、コンピュータの統計ソフトウェア、最適化ソフトウェア、シミュレーションソフトウェアを用いた分析方法について実例データを用いた応用例を取り上げつつ紹介する。データベースの作成、コンピュータソフトの利用とシミュレーション計算、最適化計算によって得られた解の解釈、感度分析、パラメトリック分析、等を中心として、シミュレーション、数理計画法の理論と応用全般を紹介、解説する。学生諸君が数理的解析手法、応用確率理論、応用統計理論、最適化理論に関する解析手法の理論の理解と実際の応用方法になじみ、数理モデル解析手法の各自の研究分野における適用可能性について考慮する契機を作ることを目的とする。

授業は前半は主として講義形式で行うが、後半は実際のデータを用いた演習形式、何らかの政策課題を対象とする数理モデル分析関連の研究論文、文献の講読輪講形式も取り入れる。

[到達目標]

数理的解析手法を各自の研究において実際に役立てることができるようになる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

政策プロフェSSIONALプログラム：2

2. 各授業のテーマ：

第1回—第8回：数理モデル分析の概要

数理モデル分析の中でも頻繁に用いられる一般的なモデルを例示、解説する。主要課題は、労働力配分モデル、産業構造モデル、人口構造モデル、高齢化予測モデル、ポアソンモデル、マルコフモデル、最適投資決定の待ち行列モデル、設備更新モデル、待ち行列ネットワークモデル、確定的・確率的在庫モデル、グラビティーモデル、購買行動モデル、対数正規モデル、人口移動モデル、職住通勤モデル、物資流動モデル、貨物輸送モデル、旅客輸送モデル、情報エントロピーモデル、銘柄選択エントロピーモデル、制約付きエントロピーモデル、反復尺度法、空間相互作用モデル、通話量流動モデル、情報サービス流動モデル、物資流動モデル、貨物輸送モデル、購買行動モデル、等の理論と適用事例を紹介する。政策諸問題の定式化と解法になじむことを当初の目的とするが、さらには実際の政策課題を対象とするモデル分析例として、交通流最適化モデル、2酸化炭素排出モデル、地球環境モデル、最適施設配置モデル、電気事業の最適投資計画モデル、電気事業の限界費用計測モデル、施設設備の最適運用スケジューリングモデル、最適列車スケジューリングモデル、議員定数配分モデル、最適資源配分モデル、配置配分モデルの一般形、ごみ処理施設の最適配備・運用モデル、公共施設配置モデル、行政施設配置モデル、等についても可能な限り解説する。

第9回—第15回

各学生の関心に合わせて、ゼミ形式あるいは演習形式に基づいて、データの収集、加工処理を行い、適切な数理モデルを選択、決定したうえで定式化、数値実験、出力結果分析、感度分析を行なう。成果の発表、レポート作成をゼミあるいは演習を通して行う。

[授業外学修]

授業で示したモデルを復習する。

授業で示したモデルを用い、研究計画と関連付けた発表の準備をする。

レポートの作成を行う。

3. 成績の評価方法：

セミナー発表 100%

【成績評価基準】

- A 90-100 合格 到達目標を高い水準で達成している
- B 80-89 合格 到達目標を満足できる水準で達成している
- C 70-79 合格 到達目標を概ね達成している
- D 60-69 合格 到達目標を最低限の水準で達成している
- E 0-59 不合格 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

参考文献として

1. 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」、東京大学出版会、1991.
2. 森雅夫、森戸晋、鈴木久敏、山本芳嗣：「オペレーションズリサーチ I, II」、朝倉書店、1994.
3. 大山達雄：「最適化モデル分析」、日科技連出版、372p. 1993.
4. 大山達雄, 末吉俊幸.「公共政策とOR」, 朝倉書店, 271p, 2002.
5. 伊理正夫、古林 隆：「ネットワーク理論」, 日科技連出版, 1976
6. 大山達雄：「パワーアップ離散数学」, 共立出版, 183p, 1997.
7. 大鹿 譲、一森哲男：「オペレーションズリサーチ ―モデル化と最適化―」、共立出版、174p, 1993.
8. Pollock, S.M., M.H. Rothkopf and A. Barnett (eds.), 1994. Operations Research and The Public Sector, Handbooks in Operations Research and Management Science, Vol.6, North-Holland.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	MSP2030E
Course Name	Introduction to Oceanography
Instructor	HORIUCHI Daishi／堀内 大嗣
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春
Credits	1

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course is designed so that students understand the true condition of the ocean as a natural phenomenon, and its mechanisms.

[Course Goals]

- (1) Students study the mechanisms that cause tides and ocean circulation, which have a strong impact on ship operations, and will develop the ability to appropriately determine the timing of ship entry and departure, as well as the route for ocean voyages.
- (2) Students study the chemical structure of seawater and its sound velocity. Students will understand how the water depth on nautical charts is measured and the uncertainty of the measured water depth. Acquire the ability to avoid risks such as running aground, and operate the ship safely.
- (3) Students study the mechanisms of natural hazards such as earthquakes, tsunamis, volcanic eruptions, etc. Acquire the ability to evaluate the risks of natural hazards in their home country, and plan countermeasures against natural hazards.

[Related Diploma Policy (DP)]

Maritime Safety and Security Policy Program DP1, DP2

DP1. The knowledge and analytical ability to understand problems and challenges, and to identify opportunities for improvement in the areas of maritime safety and security.

DP2. The knowledge, analytical ability, creativity, and leadership to formulate policies and take necessary actions to tackle problems and improve the safety and security environment at sea.

2. Course Outline :

1: Tides (2 times)

The basic knowledges of tide which are required for all maritime-related activities in coastal areas.

Review: Review the characteristics of the tide in your home city.

2: Wind and Ocean Circulation

The basic knowledges of ocean circulations or currents which are necessary for ocean-policy maker and coast-guard's operations.

Review: Explain the simple mechanism of ocean circulation in the subtropics

3: The Properties of Seawater (2 times)

Understanding of acoustic propagation in the ocean which is vital for naval operation such as detection of a target.

Review: Calculate the speed of sound in sea-water using a simple equation.

4: Plate Tectonics

The basic knowledges of "why natural disasters occur in the plate boundary?"

Review: Review major natural phenomena (disasters) occurring at plate boundary.

5: Natural hazards

The basic knowledge of Tsunami which causes a serious disaster in coastal area.

Review: Review major sources generating a Tsunami.

6: Marine scientific research

The basic knowledges that you can guess what kind of survey or research are conducting by survey vessels from their outward appearance.

[Out-of-class Learning]

As an out-of-class study, students should investigate the oceanographical characteristics of their hometown, and verify it by comparing with the lecture content.

Examinations will be held after each class, so review them as an out-of-class study.

3. Grading :

Reports: 25%

Examinations of every topic: 75%

[Evaluation Criteria]

A: Acquire sufficient basic knowledge and concepts of Oceanography, and can explain how it works.

B: Acquire basic knowledge and concepts of Oceanography, and can explain how it works.

C: Acquire basic knowledge and concepts of Oceanography in general, and can explain how it works.

D: Acquire the minimum basic knowledge and concepts of Oceanography, and can explain how it works.

E: Not acquire the basic knowledge and concepts of Oceanography, and cannot explain how it works.

Rejection.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1: Required

Paul R. Pinet (2014) Invitation to Oceanography, Jones and Bartlett Publishers, Inc.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	MSP2040E
Course Name	Marine Environment and Pollution
Instructor	KAWAMURA Noriko／川村 紀子
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春
Credits	1

1. Course Description and the Learning Objectives :

The sources of marine pollutions are not only from lands, but also coastal sea areas. Pollution from vessels can take the form of oil, chemicals, and invasive exotic species. The pollutions are occurred by crime, accidents, tsunamis, and floods. In order to detect the pollutions, the investigation methods and basic technique of monitoring of the marine environments are introduced.

[Course Goals]

At the end of this course, you will be able to choose effective methods in detecting pollution sources.

[Related Diploma Policy]

Maritime safety and security program

DP1 "The knowledge and analytical ability to understand problems and challenges, and to identify opportunities for improvement in the areas of maritime safety and security"

DP2 "The knowledge, analytical ability, creativity, and leadership to formulate policies and take necessary actions to tackle problems and improve the safety and security environment at sea".

2. Course Outline :

A lecture in classroom

2-1. Introduction to Ocean environment

Oceanographic Environmental Diagnosis through chemical experiments

2-2. Basic knowledge of seawater profiles

You can learn how to measure the density and salinity of seawater.

2-3. Ocean acidification

You can use pH meter and detect the acidification in ocean.

2-4. Pollutions of seawater detected using spectroscopic analysis

Basic drainage analysis is introduced.

2-5. Chromatography and oil absorptions

You can learn how to detect type of floating oil on sea surface.

2-6. Plankton and plastic observation

You collect planktons and micro-plastic fragments using by a net, and observe them under a microscope.

2-7. Pollution by tsunamis

Tsunami deposit observation under a microscope.

2-8. Sediment observations as proxy of marine environments and disaster records
Tsunami and flood deposit observations under a microscope.

[Out-of-class learning]

Students need to read the references and understand the terminology as an out-of-class study, and think the research topic for the report.

3. Grading :

Contribution to class is 20% and the report is 80 %.

You must write a report of A1 size, 2-3 pages (ca. 1000 words), and submit it. The topics of the report will be given in the lectures. You can choose the issue that you think most important in marine environment. If your report is well summarized and point out new opinions, and will be acceptable.

Evaluation Criteria:

A: Acquire sufficient basic knowledge of effective methods in detecting pollution sources.

B: Acquire basic knowledge of effective methods in detecting pollution sources.

C: Acquire basic knowledge of effective methods in detecting pollution sources.

D: Acquire the minimum basic knowledge of effective methods in detecting pollution sources.

E: Not acquire the basic knowledge of effective methods in detecting pollution sources.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

References will be introduced as appropriate.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Basic chemistry and oceanography are essential to understand the lecture.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	MSP3020E
Course Name	Policy for Search & Rescue, Salvage and Maritime Disaster Prevention
Instructor	YAMAJI Tetsuya／山地 哲也
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

On the field of Search & Rescue, salvage and maritime prevention disaster, following the acquisition of the specialized knowledge of the international direction and system concerned and the better or best practice in the past, the trainees will be able to compare them with their own systems to each country and organization in order to deal with accidents at sea effectively.

[Related Diploma Policy (DP)]

Maritime Safety and Security Policy Program (MSP)

DP1. The knowledge and analytical ability to understand problems and challenges, and to identify opportunities for improvement in the areas of maritime safety and security.

DP2. The knowledge, analytical ability, creativity, and leadership to formulate policies and take necessary actions to tackle problems and improve the safety and security environment at sea.

[Course Goals]

On the field of Search & Rescue, salvage and maritime prevention disaster, following the acquisition of the specialized knowledge of the international direction and system concerned and the better or best practice in the past, the trainees will be able to compare them with their own systems to each country and organization in order to deal with accidents at sea effectively.

2. Course Outline :

In the lecture, the issue of Places of Refuge is put into the main topic in order to develop Search & Rescue, salvage and maritime prevention disaster. The subjects are as follows:

- 1 The issue of Places of Refuge (week 1)
- 2 Search and Rescue (week 2)
- 3 International response to Places of Refuge (1) (week 3)
- 4 International response to Places of Refuge (2) (week 4)
- 5 National response (i.e. in the UK) to Places of Refuge (1) (week 5)
- 6 National response (i.e. in the UK) to Places of Refuge (2) (week 6)
- 7 Regional Response (i.e. in the EU) to Places of Refuge (1) (week 7)
- 8 Regional Response (i.e. in the EU) to Places of Refuge (2) (week 8)
- 9 Regional Seas Programs Response to Places of Refuge (1) (week 9)
- 10 Regional Seas Programs Response to Places of Refuge (2) (week 10)
- 11 International Convention (1) (week 11)
- 12 International Convention (2) (week 12)
- 13 Case Study (1) (week 13)
- 14 Case Study (2) (week 14)
- 15 Comparative Study (week 15)

[Out-of-class Learning]

Before or after lectures, the trainees are instructed to read the related materials to understand the contents of the issues.

3. Grading :

Contribution to class is 20% and the report is 80 %.

A: Acquire the sufficient knowledge.

B: Acquire the knowledge.

C: Acquire the knowledge in general.

D: Acquire the minimum knowledge.

E (Rejection): Not acquire the knowledge.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

Handouts by the Instructor

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7. Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	MSP3030E
Course Name	International Comparative Criminal Law
Instructor	SHINTANI Kazuaki／新谷 一朗
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

Course Description: In today's highly globalized society, where cross-border traffic has become a daily occurrence, conventional domestic measures alone are no longer sufficient, even when dealing with crime that occurs within one's own country. This means that criminals are prepared to flee across borders, and there is no end to the number of criminals who prepare their crimes abroad and then come to the home country. Students will acquire knowledge of basic international criminal law in this course in order to acquire the competences to tackle the issues related to maritime safety and security, as stated in the Diploma Policy. To this end, the specific topics of extradition, money laundering, piracy, terrorism and trafficking in persons will be dealt with, and lectures will be given on what Japan (and other countries where necessary) are doing on the basis of the conventions in this regard, with the aim of gaining a deep understanding of the position of international criminal law in maritime law enforcement. The aim is to gain a deep understanding of the position of international criminal law in maritime law enforcement.

Learning Objectives:

Understanding the basic principles of international criminal law and gaining knowledge of the treaties relating to the main topics to be able to explain the position and legal effect of national laws based on such treaties.

2. Course Outline :

Lessons 1-2: Basic structure of international criminal law

To gain a basic understanding of the relationship between national and international law.

After mentioning the position of the International Criminal Court, an explanation of the scope of application of national law, i.e. the principle of territoriality, the principle of flag states, the principle of territoriality, the principle of protectionism and the principle of globalism, will be given.

Lecture 3-4: Extradition of fugitive offenders and international criminal assistance (comparison with the EU)

Extradition of criminals will be explained, classifying cases in which a foreign state requests extradition to its own country and cases in which a home state requests extradition to a foreign state, taking into account concepts such as duality of punishment, the pre-treaty principle and reciprocity.

Lectures 5-6: The law against money laundering and terrorism

This course also deals with the law of money laundering and counter-terrorism as specific issues relating to international criminal law.

The treaties on these issues will be explained, followed by an explanation of how Japan has domesticized them into law.

Lectures 7-8: International and domestic legal issues relating to the attack on the Guanabara

The specific case of piracy is discussed and the relevant conventions are explained, followed by an

explanation of domestic law in the light of these conventions and their legal effects.

Lectures 9-10: Dealing with Sea Shepherds and treatment of foreign criminals

As a specific case study, the issue of Sea Shepherd in Japan will be discussed. The treatment of foreign offenders in Japan will also be explained as a basis for the prison visits scheduled in the following lectures.

Lectures 11-12: Visit to Hiroshima Prison

The students will gain knowledge of international initiatives from the aspect of execution by actually visiting a prison and receiving an explanation.

Lecture 13-14: Presentation of draft reports

Based on the previous lectures, each student will be given the opportunity to present a draft report on a topic of their choice. Here, advice is given on the direction of the report.

Lecture 15: Issues related to international trafficking in persons

The last specific topic dealt with is trafficking in persons. The conventions on this will be explained, the legal effect of national laws will be introduced and knowledge of the subject as a possible maritime crime will be acquired.

* Out-of-class learning

The course is designed to provide students with an overview of the legal aspects of maritime law and to give them an insight into possible maritime crimes.

For each class, relevant materials will be provided ahead of time. Students are expected to thoroughly review these materials and conduct additional research on how the issue is addressed in their own country. This includes analyzing their national legal system's approach to the topic. By doing so, students will be better prepared to engage in discussions, compare different legal frameworks, and contribute meaningfully to class debates.

3. Grading :

Report: 80%, contribution to the lecture through remarks and questions in class: 20%.

A: Acquire sufficient basic knowledge and concepts of international criminal law, and can explain specific issues.

B: Acquire basic knowledge and concepts of international criminal law, and can explain specific issues.

C: Acquire basic knowledge and concepts of international criminal law, in general, and can explain specific issues.

D: Acquire the minimum basic knowledge and concepts of international criminal law, and can explain how it works.

E: Not acquire the basic knowledge and concepts of international criminal law, and cannot explain specific issues. Rejection.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1: Handouts will be provided by the instructor

4-2:

Sieber, U. / Forster, S. / Jarvers, K. (eds.), National Criminal Law in a Comparative Legal Context: General limitations on the application of criminal law, Vol. S 128.2.1. Berlin, 2011

Sieber, U. / Forster, S. / Jarvers, K. (eds.), National Criminal Law in a Comparative Legal Context: Defining criminal conduct, Vol. S 128.3.1. Berlin, 2011

5 . Software Used in Lectures :

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Not Allow

7 . Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	PAD2000J
授業名	気候変動と地域社会
担当者	TAKAHASHI Kazuaki／高橋 一彰
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本講義の概要】

気候変動対策については、その国際的な枠組みであるパリ協定のルールブックが合意され、交渉から行動に軸足が移っている。日本でも2050年までの脱炭素社会実現を目指す旨が宣言（2020年）されて以降、取組が加速されている中、脱炭素を成長の機会と捉える時代の地域の成長戦略ととらえ、地域課題の解決や地方創生への貢献も併せて目指すべく、「地域脱炭素ロードマップ」が2021年に策定された。

本講義では、気候変動対策をめぐる国内外の動向や省エネ・再エネに関する技術などについて学ぶとともに、地域社会での気候変動対策推進に関する意義・課題・方向性について考える。また、地域に根差した気候行動の具体化を念頭としたグループワークを行う。これらの学習を通じて、脱炭素社会実現後の持続可能で魅力的な経済・暮らしの構築、ひいては地域政策、イノベーションに関する政策の形成のあり方について深い理解を得ることを目標とする。

関連するDPIは、

公共政策プログラム：地域政策コースディプロマポリシー②、
 インフラ政策コースディプロマポリシー②、
 防災・危機管理コースディプロマポリシー①②⑤、
 医療政策コースディプロマポリシー②、
 科学技術イノベーション政策コースディプロマポリシー①②③、
 まちづくり政策コースディプロマポリシー②⑤、
 地域創造・金融コースディプロマポリシー①②③、
 文化産業・地域創造コースディプロマポリシー②

2. 各授業のテーマ：

【到達目標】

- 気候変動対策をめぐる動きについて理解し、論理的に説明できる。
- 地域社会での気候変動対策推進に関する課題を把握・分析することができる。
- 地域に根差した気候行動の具体化・イノベーションに向けた効果的方策を構築することができる。

2. 各授業のテーマ

第1回	イントロダクション 地球環境の状況	本授業で扱う内容の全体像やねらいを概観するとともに、気候変動に関する状況について学ぶ。
第2回	気候変動対策に関する動向	気候変動枠組条約のもとでの気候変動対策（緩和・適応）の国内外での動向について、経緯と現状、今後の方向性を学ぶ。
第3回	エネルギー情勢と日本	国際社会におけるエネルギー情勢の現状と今後の方向性について学ぶ。
第4回	気候変動と暮らし	市民の暮らしに関わる温室効果ガス削減や気候変動影響への対応に関し、取組の動向・可能性について学ぶ。
第5回	地域課題への対応	グループワークを念頭に、モデル地域の特徴、課題やその解決策等について学ぶ。

第6回	2050年の「ありうる未来」を考える（グループワーク）	脱炭素社会実現の目標年度である2050年について、どのような社会情勢を想定すべきか考える。
第7回	気候変動と産業	産業における気候変動リスクへの対応や持続可能な経営（緩和・適応）を行うための取組の現状と動向について学ぶ。
第8回	気候変動と地域	地域における気候変動対策の動向について学ぶ。
第9回	脱炭素社会実現後の経済・暮らしを考える（グループワーク）	気候変動対策を地域で実施するための課題や方策、地域に残したもののについて考える。
第10回	省エネ・再エネ技術	省エネルギー・再生可能エネルギーに関する技術の動向と今後の方向性、課題について学ぶ。
第11回	2050年の「ありたい未来」を考える（グループワーク）	脱炭素社会実現後（2050年以降）の「ありたい未来」について、地域の特徴等をもとに考える。
第12回	地域脱炭素	脱炭素社会のモデルとして国が選定している「脱炭素先行地域」の特徴について学ぶとともに、脱炭素と地域課題の統合的解決の可能性について考える。
第13回	ケーススタディ	脱炭素と地域課題の統合的解決を目指した取組の事例について学ぶ。
第14回	2050年の「ありたい未来」を考える（発表）	脱炭素社会実現後（2050年以降）の「ありたい未来」について、グループワークの成果を発表する。
第15回	総括	本授業で学んだことを通じて、地域社会における気候変動対策の意義、地域に根差した気候行動の具体化等について総合的に学習する。

※期末レポートは最終回後に提出すること。

【授業外学習】

6回目、9回目、11回目、14回目の講義でグループワーク、15回目の講義でディスカッションを行うため、授業外学修として、グループワーク及びディスカッションのための準備・まとめをすること。

3. 成績の評価方法：

各回のコメント(30%)、プレゼンテーション(20%)、期末レポート(50%)で評価。評価の目安は下記の通り。

A：地域社会での気候変動対策推進に関する課題を把握・分析するとともに、地域に根差した気候行動の具体化・イノベーションに向け、優れた方策を構築することができる。

B：地域社会での気候変動対策推進に関する課題を把握・分析するとともに、地域に根差した気候行動の具体化・イノベーションに向け、一定の方策を構築することができる。

C：地域社会での気候変動対策推進に関する課題を把握・分析することができる。

D：地域社会での気候変動対策推進に関する課題を把握することができる。

E：地域社会での気候変動対策推進に関する課題を把握することができない。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

4-2:その他

- 地球温暖化対策計画（令和3年10月22日閣議決定）
- エネルギー基本計画（令和3年10月22日閣議決定）
- 気候変動影響評価報告書（令和2年12月17日、環境省）
- 地域脱炭素ロードマップ（令和3年6月9日、国・地方脱炭素実現会議）

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	PAD2040J
授業名	中小企業経営と地域経済
担当者	HASHIMOTO Hisayoshi／橋本 久義
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Mon 月／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

日本の中小企業は日本経済を活性化させ発展させる重要な役割を果たしてきた。しかし、一口に中小企業といっても、業種により、規模により、時代背景により様々であるため、経営実態は、実際の経営者の話から学ぶことが重要と考えられる。

本講義は 有名中小企業経営者等の連続講演会（担当教授である橋本久義も数回 日本の中小企業経営について講義する）という形式であり、日本の中小企業・ベンチャービジネス経営者自身に創業の歴史、経営上の苦労等経験を語っていただいて、中小企業経営の実際を学ぶとともに、地域経済を支える中小企業の為の施策あるいは、創業援助のための施策のあり方について考察を深めるものである。講義後の活発な質疑の中で、多くの「気付き」が期待される。

講師には選りすぐりの中小企業経営者、ベンチャービジネス創業者等を招聘し、現場の実体験に基づいた講義をおこない、バラエティー豊かで、深い内容のものとする。なお講義日が月曜日で、国民の祝日が多く、講義日数が不足することから、最終講義日である、7月29日には大田区に行き、午前、午後工場を訪問して講義を受ける。

【学生の到達目標】

中小企業経営の実際を学ぶとともに、地域経済を支える中小企業のための施策あるいは、創業援助のための施策のあり方についての考察を深め、中小企業施策の課題を把握することができる。

【関連するディプロマ・ポリシー】

【公共政策プログラム】

- ・地域政策コース②
- ・インフラ政策コース②
- ・防災・危機管理コース①②
- ・医療政策コース②
- ・農業政策コース②
- ・科学技術イノベーション政策コース②
- ・国際協力コース①、
- ・まちづくり政策コース②
- ・地域創造・金融コース①②③
- ・文化産業・地域創造コース②

【科学技術イノベーション政策プログラム】②

2. 各授業のテーマ：

- 1回:4.07 地域経済と技術革新1 橋本久義 大丈夫か？日本のものづくり
- 2回:4.14 地域経済と技術革新2 橋本久義 日本のモノ作りは中小企業が支えている
- 3回:4.21 伊藤麻美（日本電鍍工業社長：埼玉）細腕で瀕死の会社を立て
- 4回:4.28 地域経済と技術革新3 橋本久義 世界のものづくり大国へ！！
- 5回:5.12 山本昌作（ヒルトップ会長：京都）「遊ぶ鉄工所」のユニーク経営
- 6回:5.19 中巳出理（アンテ社長：石川）心血注いで能登に新たな息吹を吹き込む
- 7回5.26 浜野慶一（浜野製作所社長）どん底から、世界企業へ！ベンチャーを育てる

8回:6.02 平賀基督(モルフォ社長:東京)東京大学発ベンチャー1号が世界No1へ
9回:6.09 松橋卓司(メトロール社長:東京) 新しい人材育成法でニッチトップへ
10回:6.16 多田智基(AIメディカルサービス社長:東京) 開業医がAIベンチャーに
11回:6.23 川合基之(元シリコンバレー駐在) シリコンバレーの若者たちの考え方
12回:6.30 筒井宣政(東海メディカル会長:岐阜) 愛娘の遺志を継いで革新的医療器開発
13回:7.07 井上裕子(井上製作所社長:埼玉) まごころと辛抱で苦境を乗り越える
14回:7.14 内原康雄(NCネットワーク社長:東京) ネットワークが未来を拓く
15回:7.28 10:00-15:00 大田区訪問 がんばれ日本の中小企業!!

[授業外学修]

各授業の振り返りを行うとともに、課された小論文を作成する。

3. 成績の評価方法:

討議への貢献、随時おこなう小論文で総合的に評価する。

[成績評価基準]

P: 到達目標を達成している(合格・不合格を指定する授業科目の場合)

F: 到達目標を達成していない(合格・不合格を指定する授業科目の場合)

4. テキスト、参考文献等:(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

日本の産業政策 小宮隆太郎他 東京大学出版会

「中小企業白書」2020年版 経済産業省 財務省出版局

空洞化を超えて 関満博著 中公新書

Alfred Marshall, Principles of Economics, (1890)

Alfred Marshall, Industry and Trade (1919)

Paul Anthony Samuelson "Economics, An Introductory Analysis, McGraw-Hill

Joseph Alois Schumpeter, "Theorie der Wirtschaftlichen Entwicklung"

5. 授業で使用するソフトウェアについて:

6. 聴講の可否:

否

7. 履修上の注意:

特になし

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	PAD2560E
Course Name	Human Resources Management
Instructor	TAKADA Hirofumi／高田 寛文
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Fri 金／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

During this course, students will be provided with an understanding of frameworks and practices in human resources management (HRM) through learning its academic frameworks and practical experiences in the Japanese national and local governments.

As the needs for sophisticated government administration grow, the knowledge of HRM has become critically important for the leaders and managers of the public sector organizations.

Students will get to know about current situation and challenges in HRM of Japanese public employees, and become able to apply HRM tools to real organizational challenges.

[Course Goals]

- Students are able to identify and evaluate public policy problems, and formulate policy implications in the HRM field, from a comparative perspective with Japan.
- Students can apply and adapt relevant policy tools to address problems and challenges in HRM.

[Related Diploma Policy (DP)]

Young Leaders Program

2. Ability to acquire extensive knowledge on public policy that is necessary to generate effective solutions to policy problems

3. Ability to build a strong foundation of relationship with Japan based on a deep understanding of Japan Public Finance Program (PF)

2. The ability to identify problems and evaluate public policies, customs and tax policies in particular, using various qualitative and statistical techniques, so as to make policy implications

5. The ability to have a deep understanding of different values and systems in a global society and to play an active role as a balanced leader

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP)

2. Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of theory and practice

3. Ability to analyze related data, etc. on a issue, using tools in economics, politics, administration, etc., to compile and present research papers and policy proposals

ASEAN Initiative Program (AIP)

1. Ability to make practical policy recommendations to solve administrative and diplomatic problems

4. Ability to build and develop friendly relations between Japan and ASEAN

2. Course Outline :

1: Introduction

2: Human resources planning and recruitment

3: Selection and placement

4: Engagement and retention

- 5: Separation and turnover
- 6: Pay and rewards
- 7: Development and training
- 8: Performance management
- 9: Diversity and inclusion (1)
- 10: Diversity and inclusion (2)
- 11: Organizational change and leadership
- 12: Work-style reform in Japan
- 13: Contemporary issues in HRM
- 14: Demographic issues
- 15: Wrap up

[Out-of-class Learning]

Handout will be distributed prior to class, and students must read it and understand the core of its content.

After each class, students have to review the class contents and, when necessary, refer to the additional materials to deepen the understanding of HRM in public sector of Japan.

Students are also advised to consider the applicability and adaptability of HRM systems and practices of Japan to the context of their respective countries

3. Grading :

Contribution to class discussion (20%)

Term paper (80%) : The topics of the term paper and the deadline of submission will be announced in the class.

[Grading Criteria]

Grade criteria are as follows;

- A: Having acquired sufficient knowledge and concepts of policy problems and tools in HRM at a high level; and is able to clearly present issues and challenges together with their highly effective solutions.
- B: Having acquired knowledge and concepts of policy problems and tools in HRM at a satisfactory level; and is able to present issues and challenges together with their effective solutions.
- C: Having acquired knowledge and concepts of policy problems and tools in HRM in general; and is able to present issues and challenges together with their solutions at a generally acceptable degree.
- D: Having acquired the minimum knowledge and concepts of policy problems and tools in HRM; and is able to present issues and challenges together with their solutions at the lowest acceptable degree.
- E: Not acquire knowledge and concepts of policy problems and tools in HRM; and cannot present issues and challenges together with their solutions. Rejection.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1: Required

No required textbook.

Handouts will be distributed.

4-2: Others

• Derek Torrington, Laura Hall, Stephen Taylor and Carol Atkinson, Human Resource Management (11th edition), Pearson Education Limited, 2020

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	PAD2560J
授業名	社会保障総論
担当者	ONO Taichi／小野 太一
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／1
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

この講義では、社会保障を取り巻く状況やその歴史、現行制度の基本的な知識を教授しながら、各制度ごとの今日的課題について論点を紹介します。それにより、①社会保障に係る基本的な知識を習得すること、②社会保障の多元性と学際性について認識を深め、知的好奇心を喚起するとともに、社会保障の魅力と困難、奥深さ等に関し考察を深めること、また③社会保障各分野ごとの主要なステークホルダーについて理解するとともに、政策形成にかかる政治過程について知見を深め、政策形成に係る現実的センスを身につけることを目指します。

社会保障制度はあらゆる人の日々の生活に密接にかかわるものであり、それだけに体系的で正確な理解が必要となります。また安定的・継続的に提供されてこそ初めてその役割を果たすことができるものですが、身近なものであり、かつ膨大な社会資源を調達するものである以上政治との関わりを強く持たざるを得ないものでもあります。学生の皆さんには、そうした社会保障制度への興味・関心と正確な知識を持っていただくとともに、実際の政策に関しては様々な角度からの見方、考え方があり得るということを学んでいただきたいと思います。この講義を通じて、社会保障制度の奥深さを感じ取っていただければ幸いです。

[到達目標]

- 社会保障全般、及び各分野に係る問題点を抽出すること。
- 課題解決に向けた政策分析ができること。
- 問題点と課題解決について、自らの言葉で論理的に説明し、議論することができるようになること。

[関連するディプロマ・ポリシー]

[公共政策プログラム]

医療政策コース①、②、③、⑤ですが、ディプロマ・ポリシーに関わらず、すべての学生の積極的な参加をお待ちします。

2. 各授業のテーマ：

まずは社会保障が現実社会で果たしている役割について認識を持つとともに、人口・家族・少子化等について全体状況を把握します（1-2）。次いで社会保障制度の形成の歴史について議論し（3）、その後社会保障政策の各論に関し、「医療」「介護」「所得保障・福祉」について、それぞれ制度の概要と今日的な論点について理解を深めたいと思います（4～15）。

以下、各講義の予定です。適宜変更があり得ます。

第1回 導入、人口、家族（社会保障の意義や価値について、及び少子高齢化や家族構造の変化等の現状について学びます。）

第2回 社会保障総論1（歴史・機能。世界と日本の社会保障の創設から発展に係る歴史と、社会保障が経済社会において果たしている種々の機能について学びます。）

第3回 社会保障総論2（財政・近年の改革。社会保障と経済、財政を巡る状況、及び近年の改革の概要について学びます。）

第4回 医療政策1（供給・人材。医療をめぐるヒト・モノ・カネを巡る基本的な構図、医療の供給サイドの政策（病院・診療所、医療計画など）及び人材（医師、看護師等）を巡る政策について学びます。）

第5回 医療政策2（保険財政。国民皆保険の基本構造、及び各保険制度（健康保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度）の現状と課題について学びます。）

第6回 医療政策3（診療報酬。医療の供給と財政の接点にある診療報酬制度について、その基本構造や政策形成

過程、医薬品の価格等をめぐる現状と課題について学びます。)

第7回 介護政策1 (成り立ちと制度のあらまし。介護保険制度の成立経緯と制度の概要、主な制度改正の内容について学びます。)

第8回 介護政策2 (今日的課題。介護保険制度における今日的な課題(地域包括ケアの確立等)について学びます。)

第9回 福祉1 (福祉一般・障害・生活保護。社会福祉制度の基本的な構造とともに、障害者福祉、生活保護制度等の基本を学びます。)

第10回 福祉2 (今日的課題・人材。生活困窮者支援や孤独・孤立対策等の今日的な課題や福祉人材確保に係る課題について学びます。)

第11回 所得保障(年金1。公的年金制度の存在意義や制度の概要について、及び年金財政に係る基本的な考え方(賦課/積立、マクロ経済スライド等)について学びます。)

第12回 所得保障(年金2。被用者年金制度の一元化について学ぶとともに、いわゆる「年収の壁」問題(パート労働者や非正規雇用に係る厚生年金の適用拡大)の課題について学びます。)

第13回 所得保障(年金3。高齢者雇用と公的年金制度の関係、制度的課題について学びます。)

第14回 福祉3 (社会的養護、子ども・子育て支援。社会的養護の仕組みに係る基礎と、子ども・子育て支援をめぐる現状と課題、政策対応について学びます。)

第15回 福祉4 (ひとり親、児童手当、まとめ。ひとり親家庭に対する福祉及び児童手当制度について現状と課題を学んだうえで、講義全体のまとめを行います。)

[授業外学修]

各講義後、参加学生には毎回、講義の感想と質問を書いて提出してもらいます。全員の感想と質問への講師のリプライを講義数日後に毎回配布しますので、それを読み復習をお願いします。

3. 成績の評価方法：

講義への参画と感想・質問の提出(30%)、期末レポート(70%)。

期末レポートでは、まずは社会保障制度自体及び講義内容に係る正確な理解があることを合格(A~D)、不合格(E)の判断基準とします。

その上で、合格者に関し、自身の関心をもって課題について調査、分析を行い、幅広い視野で課題について考察を行っているか、また自身の言葉でその解決方法等について論理的に論じることができているかについて、

A: 高い水準で達成している

B: 満足できる水準で達成している

C: 概ね達成している

D: 最低限の水準は達成している

E: 達成していない

といった視点での評価を行います。

講義の感想と質問の提出はturnitinにて管理します。

なお4回以上の欠席があれば成績評価の対象としません。

やむを得ない事情により講義への参画や感想・質問の提出ができない場合に関しては、事前の連絡があれば配慮します。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

特にありません。(毎回teamsを用い事前配布します。)

4-2:その他

小野太一「戦後日本社会保障の形成－社会保障制度審議会と有識者委員の群像－」(東京大学出版会)

香取照幸「社会保障論Ⅰ」(東洋経済)

権丈善一「ちょっと気になる社会保障 V3」(および他の「ちょっと気になる」シリーズ)(勁草書房)

Global social security and economic development: Retrospect and prospect (Zheng Gongcheng and Wolfgang Scholz, ILO Asia-Pacific Working Paper Series, September 2019)

World Social Protection Report 2024-26 – Universal social protection for climate action and a just

transition (International Labour Organization)

なお社会保障の初学者は、講義の予習復習に際し、厚生労働省ホームページ掲載の「令和6年版厚生労働白書」の関連箇所を適宜ご参照いただければと思います。また「国民衛生の動向」「国民の福祉と介護の動向」2024／25年版（厚生労働統計協会）には、関連制度の直近データ等が掲載されています。

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

特にありません。

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

2024-25冬学期「Social Security System In Japan」を履修された方で、本科目の履修を希望される方は事前にご相談ください。

その他ご質問等がある場合には、お気軽にお尋ねください。

（大学ホームページにメールアドレスがあります。また研究室をおたずねいただいてもかまいませんが、確実に会いたい場合には事前にアポを申し込んで下さい。）

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	PAD2570J
授業名	医療政策論
担当者	SHIMAZAKI Kenji／島崎 謙治
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Thu 木／1
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

医療制度は医療提供制度と医療財政制度の2つのサブシステムから成る。この講義では、日本の医療制度の歴史分析および諸外国の医療制度との比較分析を踏まえ、医療制度・政策についての体系的な講義を通じ、医療制度に関する深い理解を得ることを目標とする。本講義はテキストを基に講義形式で進めるが、質疑の時間を多くとる。また、現在進行中の医療制度改革の解説等も適宜行う。

今日、医療制度および医療政策に関する知識は、国や自治体の職員をはじめ多くの人々にとって必須といっても過言ではないほど重要である。本講義の到達目標は、医療政策の記事等を読んだ際、単なる感想ではなく根拠に基づいて論評できるようになることである。これまで医療に関する実務経験がなくとも、本講義の終了時にはそのレベルに十分到達できる。

なお、国立社会保障・人口問題研究所の副所長を務めた経験を活かし、初回の授業では、あらゆる政策の基礎となる人口問題の解説を行う。少子高齢化や人口減少はもう聞き飽きたと思われるかもしれないが、正確に理解している人は非常に少ない。したがって、医療政策コース以外の学生も初回だけでも聴講することを強くお勧めする。

※医療政策コースで求めるDPのすべてに関連を有するが、特にこの講義に関連するDPは①及び②である。

※SDGsとの関連：この講義はSDGsの目標の1（貧困撲滅）、3（健康・福祉）、10（平等実現）等と関連する。

2. 各授業のテーマ：

- 第1回：ガイダンスと人口問題：講義の目的・進め方等の概説および人口問題の解説を行う。
- 第2回：医療制度・政策とは何か：問題の本質、分析方法について解説する。
- 第3回：日本の医療制度と政策の沿革（1）：制度基盤形成期、制度発展期について解説する。
- 第4回：日本の医療制度と政策の沿革（2）：制度見直し期について解説する。
- 第5回：外国の医療制度と政策（1）：総論およびドイツの医療制度改革について解説する。
- 第6回：外国の医療制度と政策（2）：米国の医療制度改革について解説する。
- 第7回：外国の医療制度と政策（3）：スウェーデンの医療制度改革について解説する。
- 第8回：医療保険制度・政策論（1）：社会保険の意義、国民皆保険について解説する。
- 第9回：医療保険制度・政策論（2）：医療保険の財源、混合診療問題について解説する。
- 第10回：医療保険制度・政策論（3）：健康保険、国民健康保険について解説する。
- 第11回：医療保険制度・政策論（4）：高齢者医療制度について解説する。
- 第12回：医療供給制度・政策論（1）：医療機関の機能分化と連携、家庭医問題について解説する。
- 第13回：医療供給制度・政策論（2）：医師偏在是正、医師の働き方改革、公立病院改革について解説する。
- 第14回：医療供給制度・政策論（3）：診療報酬による改革手法について解説する。
- 第15回：医療供給制度・政策論（4）：地域医療構想など診療報酬以外による改革手法について解説する。

なお、授業外学修については、学生は毎回の講義の前にテキスト（4の文献）の関係部分を読み理解できない点をチェックするとともに、講義後は復習を行い、講義の要点を整理すること。

3. 成績の評価方法：

レポート（課題は講義後半に指示する）80%、講義への参加態度20%とする。

なお、授業の欠席が4回以上ある場合は成績評価の対象としない。

レポートの評価に関しては、まずは医療政策に係る正確な基礎知識を有しているかを合格、不合格の判断とし、合格者の評価は、レポートのテーマとした医療政策の課題に関し、①論点の提示の的確性、②論評に際しての調査・分析・考察の深度、③文献の引用の適切性、④論述の練度・論理性、を基準に評点をつける。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

テキストは、島崎謙治（2020）『日本の医療一制度と政策〔増補改訂版〕』（東京大学出版会）を用いる予定である（ただし、初回時に購入方法等を具体的に指示するので慌てて購入しないこと）。

参考文献は、島崎謙治（2025）『日本の国民皆保険』（ちくま新書）。その他の参考文献は講義の都度、指示する。なお、英語の参考文献は次のとおり。

Shimazaki, Kenji (2013) The Path to Universal Health Coverage : Experiences and Lessons from Japan for Policy Actions, JICA

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

聴講について、つまみ食いの聴講は好ましくないので、聴講の理由等は確認する。

履修を希望する者（履修するかどうか迷っている者を含む）は、必ず第 1 回目の授業に出席すること。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	PAD2670E
Course Name	Public Expenditure Management
Instructor	TANAKA Hideaki／田中 秀明
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Thu 木／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

This course is intended to provide a framework for thinking about how governments can attain sound fiscal performance and to give guidance on the key elements of a well-performing public expenditure management (PEM). PEM is concerned with the planning, management, control and accountability of public financial resources and typically includes budgeting, financial management, accounting and auditing. The course presents the theoretical and practical setting for the management of financial resources in the government sector. Students can learn best practices on PEM around the world. Across the world, recent reforms have seen the transfer of management authority from central government to line agencies, and budget and accounting systems adopt more commercially focused models. It is so called, "New Public Management". The course will also examine the idea of NPM critically, and discuss the transformation of public sector and public governance in the wider sense. The course will focus on not only experiences in developed countries including Japan but also those in developing countries. Students will be encouraged to discuss and analyze issues and problems in their own countries.

[Course Goals]

Students can learn best practices on PEM around the world, and how to apply them for their country.

[Related Diploma Policy (DP)]

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy):2

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Economics):2

Macroeconomic Policy Program (MEP2):2

Public Finance Program (PF):3

Economics, Planning and Public Policy Program (EPP):2,3

AIP:1,4

2. Course Outline :

This course is aimed at officials in the public sector and those who are interested in managing government finances and improving government finances actually. Students can acquire skills to solve problems in the public sector through short exercise.

The first part (class No.1-2) introduces the framework of public expenditure management. The second part (class No.3-13) discusses specific issues on expenditure management, budgeting and accounting.

The last part (class No.14 -15) covers wider issues of public sector reform.

[Week 1] Introduction

Objective and outline of course, Scope of government, public financial management, Budget and political institutions.

[Week 2] Political economy of public finance and budget system

Nature and problems of government finance including common pool problem, budget and fiscal

institutions, political institutions and electoral system, determination of deficit and debt, legal framework of budget, budget systems, coverage and classification of budget, budget process, cash management
[Week 3-5] Evaluation and performance
Theories of evaluation and performance measurement, logic model and short exercise, strategic plan and management
[Week 6] Performance budgeting
Theories and practices of performance budgeting, how to link evaluation and resource allocation
[Week 7] State-owned enterprise and privatization
Nature and classification of goods and services, pros and cons of SOE and government corporations, development of privatization
[Week 8-9] Agency, outsourcing and PFI/PPP
Unbundle of government services, alternatives to provide public services, Private Finance Initiative (PFI) / Public Private Partnership (PPP)
[Week 10] Procurement and corruption
Some countries have been reforming procurement system in terms of VFM, privatization and decentralization are likely to cause corruption, so the importance of protecting public money should be strengthened.
[Week 11] Public sector accounting and audit
Role of accounting, budgetary accounting and financial accounting, activity-based cost management, accounting system and standard, cash and accrual accounting
[Week 12] Fiscal policy and rules
Overall fiscal trend in OECD (general government balance and debt), macroeconomic framework of government finance, fiscal policy and roles of fiscal rules, good and bad rules, conditions for making fiscal rules effective in keeping fiscal discipline
[Week 13] Medium-term fiscal framework
How to manage medium-term fiscal framework (MTFF)
[Week 14] New public management and public sector governance
Theories and ideas of NPM, pros and cons of NPM, understanding public administration and civil service system, relevance of other countries' reform to your countries, public governance and accountability, beyond NPM and agenda for modernizing government, promote fiscal responsibility, assessing budgetary institutions, transparency, citizens participation, legislature and independent fiscal institutions
[Week 15] Conclusion
Summary and conclusion of the course

[Out-of-class Learning]

Each class is basically organized as follows.

1. All of students are expected to read some of references before a class and are required to have short presentations on a few references from the list or other research questions except the first few classes.
2. The instructor makes comments on students' presentation and provides further information and knowledge, in particular actual examples and experiences. Students are expected to contribute to each session through discussing issues and problems on each topic.

3. Grading :

Assessment for the course is based on contribution to the class (30%), oral presentation at the class (30%), and a term paper (40%).

A presentation summarizes the content of references in which a student is interested. Score of presentation depends on the following criteria.

- (1) Are major points summarized clearly?
- (2) A longer presentation may lose points for score. It should be completed within 20 minutes in principle.

A term paper will be due on a date after the week 15, which will be suggested later. Students are

recommended to turn in a paper which describes an outline they are going to write by the end of June in order to direct them to a term paper.

A student is suggested to choose a theme from the following examples.

- (1) To assess PEM, fiscal transparency and other fiscal or budget institution of your country with a standard which international organizations provided.
- (2) To describe the nature and characteristics of one or a few of following areas in your country and analyze major problems of it; budgeting, resource allocation, accounting, audit, financial management, privatization and outsourcing.
- (3) To describe a NPM-type reform in your country and assess it critically.
- (4) To compare your country's budgeting and financial management with Japanese or other countries' one.

Score of a term paper depends on the following criteria.

- (1) Are an objective and theme clearly addressed?
- (2) Are issues and problems explained and analyzed with a theoretical framework?
- (3) Is what you learned at classes referred?
- (4) Is a conclusion consistent to main explanations and analysis?
- (5) Are references quoted precisely?

The deadline of a term paper will be informed later.

[Grading Criteria]

Based on the total score derived from the assessment above, the final grade is decided as follows;

- A: Achieved the goal at a high level: score 90-100
- B: Achieved the goal at satisfactory level: score 80-89
- C: Achieved the goal at generally acceptable level: score 70-79
- D: Achieved the goal at minimum acceptable level: score 60-69
- E: Did not achieve the goal: score 0-59

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

World Bank, 1998, Public Expenditure Management Handbook
Richard Allen, Salvatore Schiavo-Campo and Thomas Columkill Garrity, 2004, Assessing and Reforming Public Financial Management: A New Approach, The World Bank
Anwar Shah, 2007, Budgeting and Budgetary Institutions, World Bank
World Bank, 2011, Public Financial Management: Performance Measurement Framework
Marco Cangiano, Teresa Curristine and Michel Lazare, 2013, Public Financial Management and Its Emerging Architecture, International Monetary Fund
Richard Allen, Richard Hemming and Barry H. Potter, 2013, The International Handbook of Public Financial Management, Palgrave Macmillan
Salvatore Schiavo-Campo, 2017, Government Budgeting and Expenditure Management: Principles and International Practice, Routledge
OECD, 2019, Budgeting and Public Expenditures in OECD Countries 2019
OECD, 2019, Government at a Glance Southeast Asia
IMF, 2022, PIMA Handbook: Public Investment Management Assessment

4-2:Others

Alberto Alesina and Roberto Perotti, 1995, "The Political Economy of Budget Deficits", IMF Staff Paper, 42(1)
Alberto Alesina and Roberto Perotti, 1996, "Fiscal Discipline and the Budget Process", American Economic Review, 86(2)

Holger Gleich, 2003, Budget Institutions and Fiscal Performance in Central and Eastern European Countries, European Central Bank Working Papers, No.215
Ian Lienert and Israel Fainboim, 2010, Reforming Budget Systems Laws, IMF Technical Notes and Manual
Ian Lienert, 2010, Role of the Legislature in Budget Processes, IMF Technical Notes and Manuals
Ian Lienert, 2010, Should Advanced Countries Adopt a Fiscal Responsibility Law?", IMF Working Paper, WP/10/254
Era Dabla-Norris and others, 2010, Budget Institutions and Fiscal Performance in Low-Income Countries, IMF Working Paper, WP/10/80
Sanjeev Gupta and Sami Ylaoutinen, 2014, Budget Institutions in Low-Income Countries: Lessons from G-20, IMF Working Paper, WP/14/164
IMF, 2014, Update on the Fiscal Transparency Initiative, IMF Policy Paper
OECD, 2015, Principles for Independent Fiscal Institutions and Country Notes, 7th Annual Meeting of OECD Parliamentary Budget Officials and Independent Fiscal Institutions, Vienna, 16-17 April 2015
Chunsoon Kim, 2015, "A study on Compilation and Improvement of Indices for Legislative Budgetary Institutions – With Focus on Comparative Analysis of Current Institutions in 60 Countries", OECD Journal on Budgeting, Volume 2014/3
OECD, 2017, OECD Budget Transparency Toolkit
Vitor Gaspar, Sanjeev Gupta and Carlos Mulas-Granados, 2017, Fiscal Politics, IMF
Joseph Mawejje and Nicholas M. Odhiambo, 2020, The Determinants of Fiscal Deficits: A Survey of Literature, International Review of Economics
International Budget Partnership, 2021, Open Budget Survey 2021

More references are suggested at the first class.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	PAD2690E
Course Name	Modernization of Financial Sector: Lessons from Recent Financial Crises
Instructor	NUNAMI Tadashi／沼波 正
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Tue 火／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

The purpose of this course is to discuss current policy issues regarding monetary policy, financial markets, financial system as a whole, and bank supervision and regulation. One of the main topics is the global financial crisis, the worst economic crisis since the Great Depression in the 1930s, which started in 2007. What happened, what were the root causes of the crisis, and what kind of lessons we should learn from the experiences will be fully explained. In this connection, Japanese painful experiences after the burst of asset price bubbles in 90s and 00s will be reviewed. Then unconventional monetary policy measures introduced by major central banks after the crisis and again during the Covid-19 pandemic, and their costs and benefits will be discussed. Especially the Bank of Japan's QQE(Quantitative and Qualitative Easing) with negative interest rate and yield curve control under former Governor Kuroda will be comprehensively reviewed and criticized. And how major central banks have addressed, or have failed to address, global high inflation since 2021 will be discussed. In addition, new global financial regulations which have been introduced after the crisis, such as BaselⅢ, will be explained. Furthermore, hot issues regarding digital currencies, such as crypto asset including Bitcoin, stable coins, and CBDC(central bank digital currency), will be explained in detail.

The instructor expects that his experiences of 35 years as a central banker at the Bank of Japan will help students gain practical insight into those policy issues and believes that they will learn something which they can't usually find in standard textbooks, which, from the instructor's point of view, are sometimes out of touch with the real world of policy making.

[Course Goals]

Students can:

- (1) understand how central banks can achieve both price stability and financial stability
- (2) understand what were root causes when they failed to achieve those stabilities, especially at the time of Global Financial Crisis after 2007
- (3) find policy challenges regarding monetary policy and prudential policy in their own country
- (4) propose specific and practical policy recommendations to address those challenges)

[Related Diploma Policy (DP)]

Macroeconomic Policy Program (MEP1, Master of Public Policy)②③

(MEP1, Master of Public Economics)②③

(MEP2)②③

2. Course Outline :

The following is a tentative course outline. Final schedule of the course and issues to be discussed will be presented at the first lecture in April.

1.Introduction and course outline

2. An overview of financial system – Function of financial markets and financial institutions
3. An overview of financial system (cont'd)
4. Basic functions of central banking
5. Market operations by central banks and how they work
6. Financial crisis in Japan after the burst of asset price bubbles
7. The global financial crisis 1 – What happened and how policy makers responded to the crisis
8. The global financial crisis 2 – What were the root causes of the crisis?
9. Lessons from the global financial crisis 1 – How should central banks deal with asset price bubbles ?
10. Lessons from the global financial crisis 2 – New international financial architecture after the crisis
11. Unconventional monetary policy by major central banks
12. Unconventional monetary policy 2--QQE by the Bank of Japan
13. Why did major central banks fail to control inflation after the pandemic ?
14. Digital currencies--Cyptoassets such as Bitcoin, stable coins, and CBDC(central bank digital currency),
15. Inconvenient truth about Japanese economy

[Out-of-class Learning]

Students should read lecture materials (Power Point slides) distributed by email one day before each class and think of questions they will ask during class.

If they find technical terms in the materials which they are not familiar with, they should try to find what they mean in advance.

3. Grading :

80 % for term paper to be submitted at the end of the term and 20 % for comments and questions during each class

Regarding the term paper, what students are required to do is NOT to review of the past performance of their country's economy and financial system, but to figure out challenges in future which their policy makers, including central banks and bank supervisors, will have to address and propose specific recommendations based on what they will have learned from this course.

[Grading Criteria]

- A: Achieved the goal at a high level
- B: Achieved the goal at a satisfactory level
- C: Achieved the goal at a generally acceptable level
- D: Achieved the goal at a minimum acceptable level
- E: Did not achieve the goal
- F: Failed to submit the term paper by the deadline

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

Students are **not** required to purchase any textbooks. Lecture materials for each class will be provided in Power Point slides before every class.

4-2:Others(Referencies)

Mishkin, Frederic S. (2022): "The Economics of Money, Banking and Financial Markets", 13th edition, Prentice Hall

Bernanke, Ben S. (2015): "The Courage to Act: A Memoir of Crisis and Its Aftermath", W.W. Norton & Company

(2022): "21st Century Monetary Policy", W.W. Norton & Company

King, Mervin (2016): "The End of Alchemy--Money, Banking, and the Future of the Global Economy",

W.W. Norton &Company

Reghuram Rajan(2023): "Monetary Policy and Its Unintended Consequences", The MIT Press

Shirakawa, Masaki (2021): "Tumultuous Times--Central Banking in an Era of Crisis", Yale University Press

White,R. William (2006), Is Price Stability Enough?, <https://www.bis.org/publ/work205.htm>

(2009), Should Monetary Policy Lean or Clean?,

<https://www.dallasfed.org/~media/documents/institute/wpapers/2009/0034.pdf>

Financial Crisis Inquiry Commission(2010), The Financial Crisis Inquiry Report--Final Report of the National Commission on the Causes of the Financial and Economic Crisis in the United States,

http://fcic-static.law.stanford.edu/cdn_media/fcicreports/fcic_final_report_full.pdf

BIS(Bank for International Settlements) (2018):Central bank digital currencies

<https://www.bis.org/cpmi/publ/d174.pdf>

IMF(International Monetary Fund): Global Financial Stability Report www.imf.org

Bank of Japan: Financial System Report www.boj.or.jp

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Somes students without background of economics and/or finance might be afraid that this course must be too difficult or too technical for them to understand and might hesitate to attend this course even if they feel some interest in it.

Please do not worry.! Below is feedback on my course from a student of non-economics background who attended it the year before last. Now you can see how valuable my course could be for you.

"Throughout the course, I found your lectures to be engaging, insightful, and highly informative. Your expertise in the subject matter shone through, and your ability to share real-world examples and practical insights enriched my understanding of the subject.

As a student coming from a non-economics background, your teaching style and approachability made the learning experience enjoyable and accessible for me.

Once again, thank you for your exceptional way of sharing your knowledge and expertise."

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	PAD4000J
授業名	地域創生・地域金融特論Ⅱ
担当者	TAKEGAHARA Keisuke, ADACHI Shinichiro, HOSOE Nobuhiro and TANIMOTO Hideyuki／竹ヶ原 啓介, 足立 慎一郎, 細江 宣裕, 谷本 英行
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring through Fall 春～秋／Thu 木／5
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

地域創生・地域金融特論Ⅱは、地域創造・金融コースを履修する学生がリサーチペーパーの執筆に取り組むにあたり、助言・指導を行う目的で開設するものである。春学期は、定期的な合同セッションを持ち、テーマ選定とリサーチ方法に関する指導を行う。併せて、夏学期に予定するエクスカージョンの準備作業を行う。夏学期は、地方自治体と地域金融の協働の好事例を学ぶためのエクスカージョンを実施し、実際のプロジェクトに触れることで研究への示唆をえる機会とする。秋学期は、主・副指導教官の指導を受けつつ、中間発表会、最終論文発表会を行う。

【到達目標】

- ・リサーチクエスションの設定、研究手法、論文執筆方法など一連の流れを理解し、分かりやすく説明することができる。
- ・金融との連携を通じた地域課題の解決に向けて、適格なリサーチクエスションを設定し、リサーチすることで、問題解決方法を提示することができる。
- ・自らが見出した問題解決方法を他者にコミュニケーションするために論文をまとめ、論理的に説明することができる。

【関連するディプロマ・ポリシー】

公共政策プログラム地域創造・金融コース①②③

2. 各授業のテーマ：

（春学期）

第1回 インTRODクションとして、各自がこれまでの業務経験、現在の課題認識を紹介、共有する。 4/10

（5/17日（土）ローカルガバナンス系前年度ポリシー・ペーパー発表会オンライン聴講予定）

第2－3回 初期段階のテーマ設定の共有と議論。 6/26, 7/3

【事前準備】この時点での課題認識をPPT5枚程度にまとめ所定期日までに提出。

【発表会】学生は10分以内のプレゼンテーションを行い、指導教官、学生を交えて議論。

【事後作業】指導教官と協議し、指摘事項を踏まえた修正を行う。

（夏学期）

第4－7回 エクスカージョン（2泊3日） 10/1～10/3

【事前準備】訪問先事業に関する情報収集を行い、問題意識とこれに基づく質問を準備

【訪問先】現地実査、インタビュー等を通じて理解を深める。今回の訪問で得たインプリケーションの発表会を最終日に行う。

【事後作業】得られた成果を自らの研究に活かせるか検討し、必要な修正を行う。

（秋学期）

第8－11回 中間段階の進捗報告会 10/9,10/16,10/23,11/6

【事前準備】所定の期日までにドラフトを提出する。また、その概要をパワーポイント10枚以内にまとめ、所的期日までに提出する。

【発表会】学生は15分以内のプレゼンテーションを行い、指導教官、学生を交えて議論。

【事後作業】指導教官と協議し、指摘事項を踏まえた修正を行う。

第12－15回 最終段階の進捗報告会 12/11,12/18,1/8,1/15

【事前準備】所定の期日までにドラフトを提出する。また、その概要をパワーポイント10枚以内にまとめ、所的期日までに提出する。

【発表会】学生は15分以内のプレゼンテーションを行い、指導教官、学生を交えて議論。

【事後作業】指導教官と協議し、指摘事項を踏まえた修正を行う。

※日程は変更の可能性がある。

[授業外学修]

・授業外学習として研究方法論や論文の書き方に関する書籍等を読み、研究の進め方について検討し、その成果を論文としてまとめる方法について学んでおくこと。

・各段階での発表に先立ち、論文草稿、配布資料（パワーポイント）を用意し、自らの問題意識を理解してもらい、有益なコメントを引き出せるように備えること。

・質疑を受けた追加の調査・研究、エクスカージョンからの示唆を活かすことなど、不断の研究改善に努力すること。

3. 成績の評価方法：

執筆した論文や口頭での報告等の成果を審査し、それらが到達目標に照らして、

A：到達目標を高い水準で達成している

B：到達目標を満足できる水準で達成している

C：到達目標を概ね達成している

D：到達水準を最低限の水準で達成している

E：到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第4版」慶応義塾大学出版会

4-2:その他

伊藤修一郎（2022）「政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法」増補版東京大学出版会

Creswell, J. W. (2003) Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches, Thousand Oaks: Sage.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	PPP1000J
授業名	研究技法基礎
担当者	HOSOE Nobuhiro／細江 宣裕
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring through Fall 春～秋
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

本講義の目的は、学生が本学の修士課程において必要とされる基礎的な研究活動に関する知識と技能を身につける機会を提供することである。とくに、修士論文・特定課題研究論文の執筆のために、どのようにしてテーマを見つけ、そのテーマを研究として実行可能な形に落とし込み、分析に必要なデータや資料を収集し、最終的に論文としてまとめる方法論を提供する。(分析手法については各分野、科目履修において個別に習得するものであるのでここでは扱わない。)最後に、研究内容を口頭発表するための技法とその練習機会を実地に提供する。これらを通じて、学生が自らの力で研究を計画・実施することができるようになることを目指す。

この講義は、SDGsの目標3(健康と福祉), 4(教育), 8(経済成長), 17(パートナーシップ)等に関連する。

[到達目標]

学生が以下の目標を達成するものとする。

- (1)研究活動の基礎的な知識を獲得し、それを利用して研究の実施計画を作ることができる。
- (2)研究倫理について理解し、それに沿った研究活動を実施できる。
- (3)研究成果を論文や口頭報告といった形で人に伝えることができる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

[公共政策プログラム]

- ・地域政策コースDP(3)
- ・インフラ政策コースDP(2)
- ・防災・危機管理コースDP(4, 5)
- ・医療政策コースDP(1,2,3,4,5)
- ・農業政策コースDP(1,2,4)
- ・科学技術イノベーション政策コースDP(1,3,4,5)
- ・国際協力コースDP(14)
- ・まちづくり政策コースDP(2, 3, 4)
- ・地域創造・金融コースDP(1, 2)
- ・文化産業・地域創造コースDP(2, 3)

2. 各授業のテーマ：

本講義で解説されるモデルの内容と各回の内容は以下の通りである。ただし、スケジュール上の都合により、必ずしも番号通りに講義するとは限らない。

1. イントロ：研究の進め方(1年間の流れ)
2. 研究の進め方(テーマ選定、資料・情報収集、論文執筆、プレゼンテーション等)
3. 研究の進め方・論文の書き方：政治学編(飯尾先生)
4. 研究の進め方・論文の書き方：行政学編(高田先生)
5. 研究の進め方・論文の書き方：データサイエンス編(土谷先生)
6. 研究技法(先行研究探索、データ収集技法)(後藤先生)

7. 研究倫理(eL CoRE, Turnitin)
8. 社会調査手法1(統計数理研究所朴先生)
9. 社会調査手法2(統計数理研究所朴先生)
10. 論文の書き方: 研究内容がだいたい固まって、さあ書こうとする前に
- 11-15. 論文発表演習

(各コースの論文発表会の時期に合わせて設定し、希望者のみ口頭報告。希望者数によって全員は口頭報告する機会を得られないかもしれないが、その場合は聴衆として出席する。)

開講時間は原則として春・秋学期は月曜5限(16:40-18:10)でGRIPSフォーラムのない日時であるが、スケジュール上の問題から夏学期のどこかの時間帯に開講する可能性もある。また、秋学期に行われる論文発表演習については、発表希望者の都合がつけばほかの曜日・時間帯に開催することもあり得る。

[授業外学修]

- ・以下のオンライン講義をあらかじめ受講しておく(必須)

研究倫理eラーニングコース(e-Learning Course on Research Ethics)

<URL: <https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx> >

- ・以下のオンライン講義・セミナー等に出席ないし、録画を視聴しておくことが望ましい。
- 図書館による「文献探索の基礎」等のオンライン講習会
Turnitinオンライン説明会

そのほか、該当する箇所に関するテキスト、参考書に事前に目を通す。講義中で提供された資料を利用して振り返りをし、講義で示された技法やデータベースを自らの研究のために実際に利用する前にそれらに習熟しておく。

3. 成績の評価方法:

評価は、(A)講義のあとのリアクションペーパー(Teams上で課題として提出)(60%)、(B)期末に提出するプレゼンテーション・スライド(Turnitin経由で提出)(40%)によって判断する。

(A)については、講義で得られた各自の学びの要点や感想、疑問等について短く書き出す(A4で1/4ページ程度)。

(B)の課題は、各自が論文の口頭報告に用いたスライド(ゼミ、中間報告でも、最終報告でも、また、それらのために用意した草稿でも)を提出する。

[成績評価基準]

P: 到達目標を達成している

F: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等: (4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

指定しないが、それぞれのテーマについて以下の参考書籍のうちの1つは手元に置いておいた方がよい。

4-2:その他(参考書籍)

- ・研究一般

石黒圭(2021)『文系研究者になる』, 研究社.

(目次を見て、自分の問題解決に役に立ちそうと思ったらその箇所を読んでみる。)

伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門』, 東京大学出版会.

(研究内容について一番身近な書籍。)

- ・論文の書き方

明石芳彦(2018)『社会科学系論文の書き方』, ミネルヴァ書房.

(とりあえず何を読んだらいいかわからなかったら、第1-4章をざっと読んでみる。)

木下是雄(1981)『理科系の作文技術』, 中公新書.

(1冊読み通してみると有益)

杉原厚吉(1994)『理科系のための英文作法: 文章をなめらかにつなぐ四つの法則』, 中公新書.
(英語という日本語と異なる言語を通して自らの日本語の文章を見つめ直す。)

・研究倫理

日本学術振興会『科学の健全な発展のために』編集委員会編(2015)『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』, 丸善出版株式会社. <URL: <https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf> からダウンロード>
真嶋俊造ほか(2015)『人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック』, 慶應義塾大学出版会.
(関連しそうな章・コラムを適宜読む。)

・社会調査

盛山和夫(2004)『社会調査法入門』, 有斐閣.
金井雅之, 小林盾, 渡邊大輔(編)『社会調査の応用』, 弘文堂.
Salant, P., Dillman, D. A. (1994) *How to Conduct Your Own Survey*, Wiley.
De Vaus, D. (2014) *Surveys in Social Research*, Routledge.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

講義資料等はTeamsで共有する。

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

プレゼンテーション練習で教室備え付けPCではなく自分のPCを利用したい場合には持参する。
上でも書いたように、開講日時が一定しない可能性が高いので講義日に注意すること。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	REG1000J
授業名	地方行政論
担当者	YOKOMICHI Kiyotaka／横道 清孝
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Fri 金／4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

地方自治法を中心に、我が国の地方自治制度及びその運用、その問題点及びその改革の方向等について、歴史的・国際的な視野も含めて学ぶ。現行地方自治制度を理解するとともに、社会経済が変化していく中で、地方自治制度はどうあるべきかを深く考える力を得ることを目的とする。

[到達目標]

- ・我が国地方自治制度について理解し、説明できる。
- ・我が国地方自治制度の歴史的発展について理解し、説明できる。
- ・我が国地方自治制度の特色について理解し、説明できる。
- ・我が国地方自治制度の課題及びそれに対する解決策を提示できる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

地域政策コースディプロマポリシー①、②

2. 各授業のテーマ：

第1回：オリエンテーション・序論

本授業の位置づけ・目的等、自治体が抱える課題、自治体職員に求められる能力等

第2回：憲法による地方自治の保障

憲法第8章の地方自治条項、地方自治条項を巡る論議

第3回：国際的視野からみた我が国の地方自治

地方自治の国際的保障、国際的水準からみた我が国地方自治、多様な地方自治と我が国地方自治の特色

第4回：我が国の地方自治の歴史

戦前の地方自治制度、戦後の地方自治制度、分権一括法（1999年）後の地方自治制度

第5回：最近における地方分権改革

第1次分権改革、第2次分権改革、民主党政権の地域主権改革、自公政権の分権改革

第6回：地方自治体の種類（普通地方公共団体）

普通地方公共団体と特別地方公共団体、都道府県（広域自治体）と市町村（基礎自治体）、大都市制度

第7回：地方自治体の種類（特別地方公共団体）

特別区、組合（一部事務組合と広域連合）、財産区、合併特例区、2種類の広域連携の仕組み

第8回：地方自治体の区域

沿革的な自治体の区域、都道府県の区域変更、市町村の区域変更、市町村合併の特例制度

第9回：地方自治体の事務・権限

憲法・自治法上の規定、都道府県の事務と市町村の事務、事務と財政措置との関係

第10回：地方自治体の自治立法

自治立法権の主体、条例、規則、自治立法の課題

第11回：地方自治体の議会

議会の設置、議会の権限、議会の運営、議会の課題

第12回：地方自治体の長、議会と長の関係

長（知事・市町村長）の設置、長の権限、長の組織、長と議会の関係、自治体の政府形態のあり方

第13回：地方自治体の執行機関

執行機関の多元主義、長と委員会の関係、委員会の種類、委員会制度の見直し

第14回：地方自治体の住民

住民とは、住民の把握、住基ネットとマイナンバー、住民の権利、住民運動から住民協働へ

第15回：国と地方自治体との関係

行政統制から立法・司法統制へ、国（行政機関）の関与、国の関与に対する係争処理、新たな「機能分担論」

[授業外学修]

各回の授業後、授業内容を復習するとともに、関係資料にも当たって理解を深めておくこと。

3. 成績の評価方法：

- ・我が国地方自治制度及びその課題に対する理解度、課題に対する解決案の提示能力を測定するため、毎回コメントを求め、期末にターム・ペーパーの提出を求める。
- ・ターム・ペーパー 80%、各回のコメントシート 20%
- ・4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

[成績評価基準]

- A: 我が国地方自治制度について、その歴史的発展や特色も含めて十分理解し、その課題や解決策を提示できる。
B: 我が国地方自治制度について、その歴史的発展や特色も含めて理解し、その課題や解決策を提示できる。
C: 我が国地方自治制度について、その歴史的発展や特色も含めて概ね理解し、その課題や解決策を提示できる。
D: 我が国地方自治制度について、その歴史的発展や特色も含めて最低限理解し、その課題や解決策を提示できる。
E: 我が国地方自治制度について、その歴史的発展や特色も含めて理解できていない、または、理解しているが、その課題や解決策を提示できない。不合格。

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

毎回レジュメを配布

4-2:その他

地方自治小六法/地方自治制度研究会/学陽書房/令和6年版

新版逐条地方自治法（第9次改訂版）/松本英昭/学陽書房/2017年

これからの地方自治の教科書（改訂版）/大森弥・大杉寛/第一法規/2021年

地方制度改革/横道清孝/ぎょうせい/2004年

Local Government in Japan 2020(2023 Revised Edition)/自治体国際化協会（CLAIR）/2024

Historical Development of Japanese Local Governance(Vol.1-10)/GRIPS比較地方自治研究センター(The Institute for Comparative Studies in Local Governance)/2010-2011

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	REG2030J
授業名	食料・農業・農村政策特論Ⅰ
担当者	AMOU Takashi／天羽 隆
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Fri 金／5
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

「食料・農業・農村政策概論」と連携し、わが国の食料・農業・農村政策の変遷とともに、農地政策やコメ政策といった特定の政策分野についてより深く学びます。また、これを踏まえながら、今日の政策の特徴、課題などについて、受講生が考えて発言する機会を設けて、議論します。受講生は他の受講生の発言を傾聴し、発言や議論の機会を通じて気付きを深めます。

また、地方行政、農業技術、政治過程、食料・農業・農村政策等についての知見を有する外部講師を招いて講義を受け、議論を行います。

[到達目標]

- 各受講生の関心分野を踏まえつつ、自分に政策の決定権限があったとして、与件の下で状況を俯瞰する習慣、また、どのように判断・行動するべきかについて考える習慣を身につけます。
- 我が国の食料・農業・農村政策の変遷、農地政策や米政策といった特定の政策分野の知識を理解・習得し、今日の状況に照らして政策について考えます。

この講義は、SDGsの以下の目標に関連します。

2 飢餓、3 健康な生活、6 水、7 エネルギー、8 雇用、9 インフラ、11 安全な都市、12 持続可能な生産、13 気候変動、15 生態系・森林

[関連するディプロマ・ポリシー]

関連するDPは、農業政策コースディプロマポリシー①②③⑤です。

2. 各授業のテーマ：

以下の内容を取扱う予定です。初回のオリエンテーションにおける受講生の関心分野や要望、外部講師との日程調整等により、内容や順序を変更する可能性があります。

第1・2回オリエンテーション、「食べる」ということ ①②

第3回 民意・世論・輿論、社会的課題 ①

第4回 日本の経済社会、日本人の意識の推移 ①

第5～7回 農政の変遷 ①～③

第8・9回 農地政策 ①②

第10・11回「コメ」政策 ①②

第12・13回 農業団体 ①②

第14回 畜産政策、「肉を食べる」ということ ①

第15回 消費者政策（食料の安定供給、和食）①

【中間レポート】第8回（頃）授業の際に、中間レポートの提出を指示します。

[授業外学修]

授業の2～3日前までにレジュメを送付するので、概観されたい。また、授業前・中に関心・興味を覚えた文献について授業後に原本を学修されたい。

3. 成績の評価方法：

[成績の評価方法]

成績評価は、授業中の議論への参加又は建設的な議論への貢献（50%）と中間レポート（50%）を合計して行います。

なお、特段の事情がない限り、3回以上欠席した場合には不合格とします。

[成績評価基準]

A 90-100:合格 到達目標について高い水準で達成している

B 80-89 :合格 到達目標について満足できる水準で達成している

C 70-79 :合格 到達目標について概ね達成している

D 60-69 :合格 到達目標について最低限の水準は達成している

E 0-59:不合格 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

特になし

4-2:その他

- ・ 荒幡克己『減反廃止－農政大転換の誤解と真実』日本経済新聞出版社
- ・ 立花隆『農協－巨大な挑戦』朝日文庫

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

特になし

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

特になし

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	REG2310J
授業名	地方自治と行政学
担当者	YAMASAKI Shigetaka／山崎 重孝
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Tue 火／4
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

行政学一般及び行政法一般の基礎知識を基盤として、国と地方公共団体をトータルに捉えることができるようにする。わが国の統治機構の現状その基本原理について、歴史的、国際的な視点も含めて論じる。その際、行政法全般、行政学及び政治学的なアプローチについても基礎的なところから理解できるような講義を行う。憲法、内閣法、国家行政組織法、各省設置法及び地方自治法の基本的な部分について、既修者でない者にも一定の理解ができるように解説する。

このような講義とこれを踏まえた討議を通じて、現在の地方公共団体の置かれている立ち位置、今後の国と地方公共団体の役割分担について論じることができる力を身に着けることを目標とする。

担当教員は、旧自治省昭和58年入省の元官僚。自治省、愛知県庁、北九州市、総務省、内閣官房及び内閣府において長年勤務した経験に基づいて講義を行う。これまで、東京大学公共政策大学院において行政組織法、上智大学法学部において地方自治法を講義してきた。これらの講義経験も踏まえて、わが国の統治機構について幅広く論じていく。政治学、行政学及び公法についての基本的な理解ができるような講義を目指す。法律や政治学等の未履修者であっても理解できるよう、既修者にあっては統治機構の実態が理解できるように講義を進めていく。クエスチョンタイムを毎回設ける予定であり、受講者の積極的な参画を期待する。

到達目標

- ・内閣と各府省のあり方について、その根拠と現状について理解し、説明できる。
- ・わが国の地方公共団体の歴史的な経緯について理解し、説明できる。
- ・地方公共団体の権能及び事務について理解し、説明できる。
- ・首長と議会との役割、その関係について理解し、説明できる。
- ・国と地方公共団体との関係について理解し、説明できる。

関連するディプロマ・ポリシー

公共政策プログラム地域政策コース DP ①②
 公共政策プログラムインフラ政策コースDP②
 公共政策プログラム防災・危機管理コースDP①②
 公共政策プログラム医療政策コース DP②
 公共政策プログラム農業政策コース DP ②
 公共政策プログラム科学技術イノベーション政策コース DP②
 公共政策プログラム国際協力コース DP①
 公共政策プログラムまちづくり政策コース DP②
 公共政策プログラム地域創造・金融コース DP①②③
 公共政策プログラム文化産業・地域創造コース DP②
 公共政策プログラム総合政策コースDP②

2. 各授業のテーマ：

第1回 4月8日 イントロダクション

教員の自己紹介、講義の進め方、講義の全体像

第2回 4月15日 行政組織法の基本原理

第3回 4月22日 内閣と内閣総理大臣

第4回 5月13日 内閣補助事務と内閣官房、内閣府

第5回 5月20日 国家行政組織法と各省設置法

第6回 5月27日 国会

第7回 6月3日 国の予算

第8回 6月10日 国家公務員の人事

第9回 6月17日 地方公共団体Ⅰ
都道府県と市町村の起源と歴史的経緯

第10回 6月24日 地方公共団体Ⅱ
日本国憲法と地方自治法における地方公共団体の位置づけ

第11回 7月1日 地方公共団体Ⅲ
地方公共団体の統治構造

第12回 7月8日 国と地方公共団体の関係Ⅰ
国の役割
法定受託事務、自治事務
関与の基本

第13回 7月15日 国と地方公共団体の関係Ⅱ
関与の手続
国地方係争処理委員会
関与に関する訴え

第14回 7月22日 国と地方公共団体の関係Ⅲ
不作為に関する国の訴え
国と普通地方公共団体との関係等の特例
今後の国と地方の関係

第15回 7月29日 ディスカッション
これまでの授業を踏まえた今後の国と地方を通じた統治機構のあり方について自由に議論する。

各回の授業後、授業内容をレジュメに基づいて復習すること。

次回の授業の冒頭に、前回の授業における未消化部分についての質問をまず受け付けるので、復習した上で積極的に発言すること。

3. 成績の評価方法：

筆記試験70%、各授業への参画状況（質問、発言等）30%

7月29日講義終了後、7月31日に筆記試験を行うものとする。ただし、受講生確定の後、相談により日時の変更も検討する。

* 講義の進捗状況、履修状況等を踏まえ、筆記試験によらずレポートとするかについても、今後検討する。試

験（あるいはレポート提出）した段階で総合的に評価を行う。

[成績評価基準]

- A: 到達目標を高い水準で達成している
- B: 到達目標を満足できる水準で達成している
- C: 到達目標を概ね達成している
- D: 到達目標を最低限の水準で達成している
- E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

講義のベースは、毎回配布するレジュメによる。

参考文献（講義で直接触れることはないが、自学のために読むこともお勧めする。）

西尾勝「行政学（新版）」有斐閣

「地方分権改革」東京大学出版会

伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔「はじめての行政学」有斐閣

曾我謙悟「行政学（新版）」有斐閣

高橋和之「立憲主義と日本国憲法（第6版）」有斐閣

塩野宏「行政法Ⅲ（第5版）行政組織法」有斐閣

宇賀克也「地方自治法概説（第11版）」有斐閣

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

毎回、講義のはじめにレジュメを配布。

適宜、質問の時間を設けますので、名前と学籍番号を述べた上で、発言すること。

内容の如何によらず、発言したこと自体も評価の対象とする。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	REG2930J
授業名	地方財政特論
担当者	INOUE Yasurou and et al./井上 靖朗, 外部講師
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Thu 木／5 6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

人口減少、高齢化等による人口構成の変化に伴い、社会保障、公共インフラの適正管理など地方公共団体が直面する政策課題は大きく変化している。また、大規模・複雑化する災害の多発や新型コロナウイルス感染症の拡大等により社会構造の大きな変革も予想される。今後、地方公共団体がこれらに的確に対応するためには、既存の地方行政運営のあり方を見直し、新たな構想、知見を築き上げていくことが喫緊の課題である。

本講義では、総務省自治財政局・自治税務局の行政官や政策立案に携わる地方税財政の研究者等から、地方公共団体が行う様々な政策分野に通じる、地方税財政に関する最新の知見及び実例等について講義を受けたのち意見交換等を行い、我が国の地方税財政制度や地方行政運営のあり方等についてより深い認識と実践的な思考能力を養うことを目標とする。

【到達目標】

- ・我が国の地方税財政制度の現状及び特色について理解し、説明できる。
- ・我が国の地方税財政制度の課題を把握、分析し、それに対する解決策を提示できる。

【関連するディプロマ・ポリシー】

公共政策プログラム地域政策コースディプロマポリシー①、②

- ① 自治体経営や地域活力の維持発展等に関して必要な専門的知識を有し、課題を分析して対処することができる能力
- ② 公共政策に係る幅広い知識を持ち、その活用によつて的確な分析、総合的な判断、効果的な実践を行うことができる能力

2. 各授業のテーマ：

各回のテーマ及び講師は下記のとおりである。

回	日程	テーマ	講 師
1	4月10日	ガイダンス・イントロダクション	（井上が担当する）
2	4月17日	地方財政をめぐる諸課題	総務省大臣官房審議官（財政制度・財務担当） 須藤 明裕
3	4月24日	地方交付税制度の現状と課題	同 交付税課長 村上 浩世
4	5月8日	各府省の主要施策等と地方財政	同 調整課長 梶 元伸
5	5月15日	地方債制度と市場化	同 地方債課長 森川 世紀
6	5月22日	地方公営企業等の現状と課題	同 公営企業課長 赤岩 弘智
7	5月29日	自治体の資金調達－地方創生／自治体SDGs時代の地方公共団体の資金調達等の在り方	野村資本市場研究所野村サステナビリティ研究センター長 江夏 あかね
8	6月5日	地方税制の現状と課題	総務省自治税務局長 寺崎 秀俊
9	6月12日	都道府県税をめぐる諸課題	同 都道府県税課長 市川 靖之
10	6月19日	市町村税をめぐる諸課題	同 市町村税課長 水野 敦志
11	6月26日	固定資産税をめぐる諸課題	同 固定資産税課長 池田 敬之

12	7月3日	社会構造変革下における地方財政	横浜国立大学教授 伊集 守直
13	7月17日	地方分権改革と税財政制度改革	地方財政審議会会長 小西 砂千夫

※ テーマ・講師・日程等は変更の可能性がある。

※ 本講義は木曜日第5・6限の開講であるが、授業時間は17時～19時（全13回予定）である。

[授業外学修]

・勤務又は居住している等の自治体を選定し、当該自治体の財政状況について資料を収集し理解を深めておくこと。

（参考）決算カード（総務省「地方財政状況調査」）

<https://www.soumu.go.jp/iken/zaisei/card.html>

財政分析チャート New Octagon（地方公共団体金融機構）※市町村のみ

<https://octagon.jfm.go.jp/>

・各回の授業後、授業内容を復習するとともに、関係資料（選定団体に関するものを含む）にも当たって理解を深めておくこと。

3. 成績の評価方法：

- ・各講義を踏まえた最終レポート 60%、授業への参加状況（質問、意見交換等）40%による。
- ・4回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

[成績評価基準]

- A：到達目標について高い水準で達成している（90-100）
- B：到達目標について満足できる水準で達成している（80-89）
- C：到達目標について概ね達成している（70-79）
- D：到達目標について最低限の水準で達成している（60-69）
- E：到達目標について達成していない（0-59）不合格

4. テキスト、参考文献等：（4-1:必携のテキスト 4-2:その他）

4-1:必携のテキスト

特になし。毎回の授業においてレジュメを配布する。

4-2:その他

“White Paper on Local Public Finance, 2024 -Illustrated- ” / 総務省（Ministry of Internal Affairs and Communications） / 2024

https://www.soumu.go.jp/iken/zaisei/r06data/chihouzaisei_2024_en.pdf

その他の参考文献等については、授業の中で適宜紹介する。

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

・本講義の理解をより深める上で、基礎となる「地方財政論」（春前期（月4・水4）、REG1010J）を併せて履修することが望ましい。

・貴重な機会であるので、学生には意見交換への積極的な参加が特に求められる。

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	REG2950J
授業名	食料・農業・農村政策概論
担当者	MIZOROKI Yusuke／溝呂木 佑典
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Wed 水／5 6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

地域で独自性の高い食料・農業・農村に関する政策を企画・立案するとともに、効果的に実践するための知識・技能を修得することを目的とする。このため、我が国の食料・農業・農村をめぐる事情に関する基礎的な情報を入手するとともに、食料・農業・農村に関する最新の政策に就いて研究するための授業を行う。食と農をはじめ地域資源を活用した地域振興は、日本各地の地域で重要な課題となっており、農業政策コース以外の学生の受講も歓迎する。

[到達目標]

- 我が国の食料・農業・農村に関する基礎的な知識を修得できる。
- 上記知識を前提とし、ディスカッション等を通じて我が国の食料・農業・農村が抱える問題等を理解し、説明できる。
- 上記知識及び理解を前提として、自らが想定する地域の課題を抽出し、その解決策を提示できる。

この講義は、SDGsの以下の目標に関連する。

2 飢餓、3 健康な生活、6 水、7 エネルギー、8 雇用、9 インフラ、11 安全な都市、12 持続可能な生産、13 気候変動、15 生態系・森林

[関連するディプロマ・ポリシー]

公共政策プログラム農業政策コース

ディプロマポリシー

- ① 農林水産業に関する専門知識を持ち、地域の実情に合わせて課題を多角的な視点から分析し、問題点を抽出できる能力
- ② 農林水産政策にかかる幅広い知識を持ち、多角的な視野から学術的な分析に基づいた課題解決に向けた政策分析ができる能力
- ③ コミュニケーター、コーディネーターとして現場の状況を理解して、課題抽出をサポートし、幅広いネットワークで専門性の高い関係者をつなげていくことにより、農業者、食品事業者等による課題解決をサポートできる能力
- ⑤ 地域社会の事情に合わせ、異なる価値観に対して深い理解をもち、地域のコーディネーターとして活躍することができる能力

2. 各授業のテーマ：

以下の内容を取り扱う予定である（ガイダンスを除き全8回、1回90分×2）。具体的な政策に関する講義では、1回につき各政策のうち2テーマ（例えば、知的財産とフードテックなど）の講義の後、ディスカッションを行う予定であるが、初回のガイダンスにおける受講者の要望確認や、農林水産省からのゲストスピーカーの調整等により、内容・順序を変更する可能性がある。評価はディスカッション等授業への貢献とともに、全講義修了後に提出されるレポートによる。

- ガイダンス
- 公共政策としての食料・農業。農村政策と歴史的変遷
- 食料産業政策①（知的財産、フードテック）
- 食料産業政策②（輸出促進、食農分野の標準・認証）
- 農業生産・技術政策①（水田農業、畜産）
- 農業生産・技術政策②（園芸、スマート農業）

- 農業生産・技術政策③（動植物検疫）
- 農業経営政策（人と農地、就農・人材育成等）
- 農村政策（農村活性化、農業・農村の多面的機能と日本型直接支払等）

[授業外学修]

- 各授業前に授業資料を配布するので、それを読んでゲストスピーカーへの質問事項等を考えておくこと。
- 授業後は、最終的に提出するレポートの作成に向けて、授業資料を再度読み直し、必要に応じ参考資料を読むなどして理解を深めること。
- 最終講義は、各自がレポート案を発表しディスカッションを行うので、その発表のための準備をすること。

3. 成績の評価方法：

- 成績評価は、ディスカッション等授業への貢献（50%）、レポート（50%）で行う。
- 特段の事情なく3回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない。

[成績評価基準]

- A: 到達目標を高い水準で達成している
- B: 到達目標を満足できる水準で達成している
- C: 到達目標を概ね達成している
- D: 到達目標を最低限の水準で達成している
- E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

テキストはなく、各回、授業資料を配布するとともに、参考文献についても適宜授業の中で紹介する。

4-2:その他

- 令和5年度 食料・農業・農村白書（令和6年5月31日公表）
https://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/r4/index.html
- 食料・農業・農村基本計画（令和2年3月31日閣議決定）
(https://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/attach/pdf/index-13.pdf)
- 生源寺眞一『農業と人間－食と農の未来を考える』岩波書店

また、特に関心のある政策分野については、以下の文献を参照することをお勧めする。

- 荏開津典生・鈴木宣弘『農業経済学 第4版(岩波テキストボックス)』岩波書店
- 生源寺眞一編著『改革時代の農業政策－最近の政策研究レビュー』農林統計出版
- 高橋正郎編著『食料経済－フードシステムからみた食料問題』オーム社
- 生源寺眞一『続・農業と農政の視野－論理の力と歴史の重み』農林統計出版
- 小田切徳美編『農山村再生に挑む－理論から実践まで』岩波書店
- 本間正義『現代日本農業の政策過程（総合研究現代日本経済分析 3）』慶應義塾大学出版会
- Knutson, R.D. et al. (2007). Agricultural and Food Policy. Pearson Prentice Hall.
- Colman, D., & Young, T. (1989). Principles of agricultural economics. Cambridge University Press.
- Ellis, F. (1992). Agricultural policies in developing countries. Cambridge University Press.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

特になし

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	REG3010E
Course Name	Local Governance in the Changing World
Instructor	TAKADA Hirofumi／高田 寛文
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Tue 火／5 6
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Through this course, students will be furnished with a deep understanding and practical knowledge of local governance and intergovernmental relationship in a comparative perspective.

Firstly, students will be provided with idea and knowledge on how it is important to have comparative viewpoints in studying local governance of different countries.

Students will then learn from lecture series of external lecturers who are experts in local politics, administration and finance of selected countries such as France, United Kingdom, United States of America, Germany, as well as Indonesia, the Philippines and Thailand.

These lectures by external experts will be held for two consecutive class hours each week.

[Course Goals]

- Students can understand and analyze local governance of different countries, both developed and developing, from a comparative perspective.
- Students can propose reforms on local governance based on lessons learned from other countries.

[Related Diploma Policy (DP)]

Young Leaders Program

2. Ability to acquire extensive knowledge on public policy that is necessary to generate effective solutions to policy problems

Economics, Planning and Public Policy Program

2. Ability to make policy recommendations for practical solutions based on a deep understanding of the current state of theory and practice

3. Ability to analyze related data, etc. on an issue, using tools in economics, politics, administration, etc., to compile and present research papers and policy proposals

2. Course Outline :

April 8: Introduction (only in the 5th class period)

April 15: United States of America

April 22: United Kingdom

May 13: Indonesia

May 20: Philippines

June 3: Thailand

June 10: France

In addition to the above, there will be a class on Germany (the date will be fixed later).

No classes on April 29 and May 6 (both are national holidays), May 27, June 17 and the following weeks.

[Out-of-class Learning]

Handout will be distributed prior to class, and students must read it and understand the core of its content.

After each class, students have to review the class content and, when necessary, refer to additional materials to deepen their understanding on local governance of the countries discussed in the class. Students are also advised to consider the applicability and adaptability of the local government system and finance of the said countries to the context of their respective countries.

3. Grading :

Contribution to class discussion (20%)

Term paper (80%) : The topics of the term paper and the deadline of submission will be announced in the class.

[Grading Criteria]

A: Having acquired sufficient knowledge and concepts of local governance in other countries at a high level; and is able to clearly present practical and effective reform proposals.

B: Having acquired knowledge and concepts of local governance in other countries at a satisfactory level; and is able to present practical and effective reform proposals.

C: Having acquired knowledge and concepts of local governance in other countries in general; and is able to present reform proposals at a generally acceptable degree.

D: Having acquired the minimum knowledge and concepts of local governance in other countries; and is able to present reform proposals at the lowest acceptable degree.

E: Not acquire knowledge and concepts of local governance in other countries; and cannot present reform proposals. Rejection.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1: Required

No textbook will be used.

Handouts will be distributed.

4-2: Others

Reference books will be introduced during the classes.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI1090E
Course Name	Politics of Innovation
Instructor	BRUMMER Matthew
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Wed 水/6
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

How do politics affect science, technology, and innovation? This is the primary question we will seek answers to in this course. Additionally, how do science, technology, and innovation (STI) affect politics? This is a secondary question that we will consider, in that the relationship between politics and STI is an endogenous one: they simultaneously affect each other, over geographic space, in a wide variety of ways, all of the time.

This course aims to provide students with an introduction to essential concepts and terms of art for the study of the relationship between politics on the one hand and science, technology, and innovation (STI) on the other. The course primarily explores the role of international politics in the study of STI. We will seek to communicate the character of politics from diverse perspectives, with an emphasis on relating theory to questions of public policy concern. Thus, the course is both macro-theory and micro-policy focused.

The course will draw on core texts in both political science and STI to provide students with a firm grounding from which to think about a range of critical issues at the nexus of politics and STI. By the end of the course, students will: have developed a broad understanding of the relationship between politics and STI; be able to assess and apply different theories to specific issues related to STI; be able to identify and develop their own inquiries into the core debates surround the politics of STI; and have developed skills needed to undertake advanced social science research.

The course requires students to be committed to learning and to come prepared to class, having read the assigned texts in advance. The course will be taught over 15 classes and students are expected to attend all sessions. Most classes will be divided into a lecture and a seminar. The course instructor will lead the lecture at the beginning of each class, after which we will turn to a seminar-based discussion where students will present and discuss the assigned reading for that day.

Related DP: STI1

2. Course Outline :

The detailed course outline will be presented during the first class. The course is roughly divided into three modules. In the first, we will examine the core theories of International Relations, including Realism, Liberalism, and Constructivism, and their treatment of STI. In the second phase, we examine core theories of domestic politics including in the defense sector and their treatment of STI. In the third phase, we will apply theory to current affairs in STI, including the contemporary yet enduring issues of climate change (e.g., renewable energy technologies), pandemics (e.g., Covid-19), and paradigm shifts (e.g., artificial intelligence). On occasion, outside expert speakers may be brought in to provide guest lectures on specific topics of interest.

3. Grading :

- Participation (20%). All students are expected to actively participate in class discussion and attendance will be taken. Participation includes but is not limited to asking questions of the instructor and of other students, as well as offering descriptive and/or analytical feedback on readings and classroom discussion. Additionally, each student will serve as a Presenter and as a Discussant for at least one of the weekly reading assignments during the semester. The role of the Presenter is to critically review the weekly reading in a concise manner while the role of the Discussant is to critique the Presenter's review, pose questions to the Presenter, and facilitate discussion with the class.
- Presentations (20%). Students are required to present both the final paper topics and the results of their final term papers. The first presentation introducing the topic will be approximately 10 minutes, followed by 15 minutes of discussion and feedback. The second presentation on the results of the final paper research will be approximately 15 minutes, followed by 15 minutes Q&A. Students will be assessed on the professionalism and content of their presentations.
- Final Term Paper (60%). Students will write a final term paper on a topic of their choosing and in consultation with the course instructor. Papers will be approximately 3,000 words (6,000 words maximum) in length. The term paper is a research essay on a topic related to the politics of innovation broadly defined. Essays will be graded on: quality of writing (precise and concise research question, argument, and evidence to answer the question in support of the argument); demonstrated applicability of theory and concepts covered in the course or beyond to the research question etc.; quality of analysis (persuasiveness of supporting evidence, consideration of counterarguments, etc.), and appropriate reference to academic and policy literature. Term papers are designed to contribute to the learning objectives of understanding theories in relation to specific issues in politics and innovation while developing one's own inquiries into the core debates in the discipline and developing skills necessary to undertake social science research.

Extra credit can be earned by publishing in newspapers, magazines, or journals on a topic related to the politics of STI. Explanation of this will be provide on the first day of class.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

There are no required textbooks for this course. The instructor will provide all reading materials.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Disclaimer: This syllabus is subject to change. This syllabus is not a static, fixed document.

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI2020J
授業名	科学技術イノベーション政策史
担当者	ARIMOTO Tateo, AKAIKE Shinichi／有本 建男, 赤池 伸一
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Mon 月／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

（1）講義の概要

AI、量子、半導体、バイオ等の先端科学技術は近年急速に発達するとともに、内外の政治・行政・産業・安全保障・市民と構造を急速に変化させて、大きなインパクトを与えている。それに伴って、科学技術政策の目的と範囲は、従来の科学政策（policy for science）から、気候変動、健康、食料、エネルギー、都市などの社会課題解決と産業競争力と安全保障の両方（science for policy）へと大きく広がっている（科学技術イノベーション（STI）政策、science for policy）。また、STI活動は、世界、地域（フリカ等）、国、地方の境界を越えて競争と協調の相互作用が深まっている。

「第4次産業革命」（WEF、ダボス会議）、「Industry 4.0」（独、工学アカデミー）、「Society 5.0」（日本）、「向イノベーション政策（MOIP）」（EU、OECD）、「STI for SDGs」（国連）など、STI政策の新しいコンセプトと方向性が提案されている。科学と政治と社会のインターフェース（科学的助言）と科学技術外交の強化は、先進国だけでなく途上国でも注目が高まり、G-7、G-20、OECD等で大きな議題になっている。こうした情勢を反映して、わが国でも2020年に科学技術基本法が改正され、これに基づいて現在第7期科学技術・イノベーション基本計画（2026-2030）策定が進められている。2015年に国連全加盟国が一致して決議した「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs、2030年までに達成）」は、コロナパンデミックによる停滞はあったものの、21世紀人類と地球の共通ビジョンになっており、気候変動、食料、エネルギー、水、都市、大規模災害など具体的なSDGsゴール達成のためにSTIへの期待は大きい。現在、2030年以降の持続可能な開発目標達成に向けて国際的な議論が進められている。

一方で、最近の米中摩擦の激化とロシアによるウクライナ侵攻によって、各国、同志国群、権威主義国群、グローバル化の中で、先端科学技術の国際競争と協調、推進(Promoting)と保護(Protecting)と国際協力(Partnering)の3“P”と、サステナビリティの確保が、国策の最重要政策となっている。OECDはこの状況を、「STIの安全保障化(Securitization of STI)」と称し(STI Outlook 2023)、STI政策と産業政策と安全保障政策と外交政策の相互作用の急拡大と国際的な調整の必要性を強調し、持続可能な開発目標達成に向けて、STI政策の目的とシステムの変革(transformation)をハイレベルで議論するOECD・STI閣僚級会合が2024年4月に開催された。この成果に基づいて2025年夏に、“STI Outlook 2025”として具体的アクションが公表される見込みである。

各国にとって今や、STI政策の変革とシステムの強化は国益をかけた競争であり、AI、量子、半導体、バイオの先端科学技術が「国力の源泉」と位置付けられている。STI政策の策定と実行における、政産学官市民の境界を越えた仕組みの構築とマシンの基礎研究と技術基盤の強化、ファンディングと評価、ミッション志向と学際共創アプローチ、研究セキュリティ、スタートアップ、多様な人材の育成確保、国際連携とインテリジェンス機能の強化などSTIエコシステム全般の再設計と強化が必須に。本コースでは、まず、日本を含めて内外のSTI政策とシステムの歴史と最新動向について概観する。次に、現在の大転換期でレジリエントな社会と安全保障を実現するために必要となる、STI政策とエコシステムの変革について、各国の状況と国際連携について、モビリティ、半導体、都市、食糧など具体例を挙げて議論する。また、米中摩擦の激化とロシア戦争で明らかになった、先端技術と安全保障の関係についても議論する。必要に応じて外部から専門家を招聘する。

（2）コース全体での受講生の到達目標

受講生は、世界的な政治経済、安全保障上の大きな転換期に、個人として組織として対応するために、STI政策についての多様な関係組織の動向について理解を深める。さらに、STIシステムと政策手段の変革の方向性を分析(analysis)し、総合(synthesis)し、実践的な政策提言を行う能力を涵養する。

STI政策について多角的な知識や、関係する分野や政産学官市民の動向と課題に深い理解をもち、視野の広いリーダーと関係者と信頼の下にコミュニケーションできる能力の獲得をめざす。

【関連するディプロマポリシー(DP)】

特に強く関連するDP：

① 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識と関連する内外の動向をタイムリーに把握しそれらを政策課用することができる能力

一部関係するDP：

- ② 公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力
- ③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・質的等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力
- ④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力
- ⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションの姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

各回（15コマ）の講義のポイントと順番、到達目標を以下に示すが、受講生と協議し適宜変更する。

（第1回）現代社会とSTI政策の役割と課題（有本と赤池）

（目標）受講生の問題意識、今後の講義日程等について意見交換する。SciREX(STI政策科学プログラム)のコア・コンテントとする。受講生は、政治経済安全保障など変化の激しい時代の科学技術の役割と多様な政策手段について理解を深め、今後の研究の方向を考える。

（第2回）先端科学技術とインパクトとガバナンス（有本と赤池）

（目標）これは、AI、半導体、量子技術、バイオ技術などの先端科学技術が、安全保障・軍事にくわえて、経済、環境、格差拡大、交通、水など、国内外の危機に対してソフトとハードの両面で解決に大きく寄与する政治的戦略性が強くなる。OECDはこのSTI政策の大きな転換を「Securitization of STI」と命名し、STI政策と産業政策と安全保障政策と外資として相互作用が大きくなっていると分析している。本講義では、先端科学技術の発達と社会へのインパクト、規制などを具体例を挙げて紹介する。受講生は先端科学技術の発達とSTI政策の将来方向を理解し、自らの学習と研究の方向と方針を深める

（第3回）STI政策の構造と機能（赤池）

（目標）現在世界標準となっている科学技術イノベーション政策の構造・体制と機能を紹介する。外形的な共通性とともに関国の歴史・文化・社会システム等に応じた特徴もあることを理解する。また政治・経済・安全保障環境の大転換の中で、近年、STI政策の目的と範囲が急速に変化し、他の公共政策(産業政策、安全外交政策等)との相互作用が大きくなっている現状を紹介する。受講生は、現在起こっているダイナミズムを理解し、自職業等との関係を思考する能力を身に着ける。

（第4回）日本のSTI基本法体系と政策動向（赤池）

（目標）2020年に日本の科学技術基本法は25年振りに大きく改正された。その背景と新しい基本法・基本計画の体紹介する。受講生は、日本のSTI政策の動向と課題を理解し、今後の学習・研究の方向を検討する知識と能力を涵養する「第7期科学技術・イノベーション基本計画(2026-2030)」の検討の佳境に当たり、その状況を的確に把握する。

（第5回）日本の発展とSTI（赤池）

（目標）日本の経済、産業、科学技術等の現状について悲観的な見方があるが、江戸、明治期以来の近代化の歴史の中で、STIに関連して多くの政策と活動事例が蓄積されてきた。また日米経済技術摩擦などの厳しい教訓もある。これら日本の歴史的経験を事例を挙げて紹介する。受講生は、自らの分野の変遷について過去・現在・未来を俯瞰分析し未来をデザインする能力の基盤を身に着ける。

（第6回）STI政策・システムの各国比較（赤池）

（目標）世界の大転換期に、先進国だけでなく途上国、いわゆる民主主義国、権威主義国、グローバルサウスの国々策と実行の強化を進めている。個々の国だけでなく、2国間、多国間の連携深化、OECD、国連、ASEAN等の国際組織である。講義では、この世界のダイナミックな動向を紹介する。受講生は、自らの研究・職業等に引き付けて、世界の位置を認識し、活動の質の向上と海外とのコミュニケーション能力を涵養する。

(第7回) 研究開発ファンディングとマネジメント (有本)

(目標) STI政策を研究開發生産の現場で実行し成果を得るためには、公民の様々な手段の組み合わせが必要になる。ファンディング(研究資金配分)は重要な役割を果たす。ファンディングは、研究の上流から市場社会のアウトカムまでの設定から研究開発体制の形成、マネジメント、評価など、時間的経路に沿って複雑な構造と機能から構成される。その具体例を挙げて紹介し課題を議論する。受講生は、テーマの設定から成果を生み出す過程において、ファンディング等相段の組み合わせの重要性を認識し、自らの分野・研究・ビジネス等の実践活動へ反映する能力を涵養する。

(第8回) term paperの発表と議論 (有本と赤池)

(目標) 受講生のSTI政策に対する問題意識と自らの分野・職業等との関係について、数ページの小論文(学術論文の形式は要求しない)を作成、プレゼンし学生間で議論する。各受講生は、今後の学習・研究の視座、方法、目標等について思考を深め、その成果を最終回(15回目)で紹介し議論する。

(第9回) フォーサイトと政策策定 (有本)

科学技術の政治経済、社会、安全保障へのインパクトが急速に大きくなる中で、未来予測が重要になっており、国際的に多くの方法が開発・実践されている。この内外の状況を紹介します。受講生は、STI政策について、過去・現在・未来のダイナミズムを理解し、思考の軸と深みを涵養する。

(第10回) ミッション志向イノベーション政策の内外動向 (有本)

(目標) 社会課題解決、経済価値創出のために科学技術の政策手段を動員することは従来から各国で進められてきた。OECD、EUを中心に、それらの経験を踏まえて、「ミッション志向イノベーション政策」として概念化され方法論が定まり、内外の動向、事例(例:日本の内閣府のSIP各省連携プログラム・自動運転プロジェクト等)を紹介する。受講生は「ミッション志向イノベーション」という概念と方法の重要性を認識し、今後の研究・職業等に反映させる能力を涵養する。

(第11回) STIの制度体制の世界的変遷 (有本)

(目標) 世界経済フォーラムの第4次産業革命、日本のSociety5.0、ドイツのIndustry4.0、OECDのSTIの変革(Transformation)など、大転換期の現在、世界史の中でSTI政策の変遷と歴史観、日本と未来が盛んに議論されており、この動向を紹介する。受講生はこの歴史的ダイナミズムを理解し、視野の広い形で、自らの分野・職業等とSTIの関係について、内外の政産学官民と信頼の下にストーリーをもってコミュニケーションを涵養する。

(第12回) 持続可能な社会の実現SDGsとSTI (有本)

(目標) 2015年に国連全加盟国が一致して合意したSDGsは、コロナパンデミックによる停滞はあったが、21世紀の人類と地球のビジョンとして位置づけられている。2024年からは、2030年以後のいわゆる「ポストSDGs」の対応について国際的議論が始まっている。SDGsのゴールを如何にどうやって達成するか(5W1H)、科学技術への期待は大きい。国連を中心とした、STI for SDGs活動を紹介し議論する。受講生は、SDGsの視座と学際共創的アプローチの重要性を認識し、自らの研究・職業等において反作用とデザイン力を涵養する。

(第13回) 科学的助言と科学技術外交 (有本)

(目標) コロナパンデミックは、各国において、科学と政治の関係性、証拠に基づく政策決定と社会経済へのインパクトのためのデータ収集分析の基盤(科学的助言システムと行動規範)の脆弱性を露呈した。同様に、東北大震災における福島、地球温暖化とIPCC、COPなどの国境を越える問題での経験と教訓も重要であり、これら内外の事例を具体的に紹介する。外交のコンセプトも、ソフトパワーに加えてハードパワーへ大きく変化しつつある。各界のリーダーをめざす受講生は、科

社会の関係について、思考と行動規範の基盤を涵養する。

（第14回）経済安全保障と研究セキュリティと科学技術系人材（有本）

—STI政策と産業政策と安全保障政策と外交政策の重畳—

OECDは、STIの現状を「Securitization of STI（STI政策の安全保障化）」と命名した。科学技術が、安寧、経済、エネルギー環境、交通、水など、国内外の危機と国益に大きく寄与する政治的戦略性が強くなったのである。研究成果に対するリスク低減措置—研究セキュリティの強化が欠かせない。最近の急速な内外の動向について具体的な紹介する。

くわえて、STI政策は、国益、同志国益、世界益とめざす価値が多様化している。21世紀の科学技術系人材の視点から、激変する環境に戦略的柔軟に対応するには、従来の研究者、エンジニアとしての素養・能力にくわえて、知るデザイナー、政治との仲介役など、多彩な人材の育成確保が必要になっており、世界の動向を紹介する。受講生、STI動向を理解し、自らの学習と研究の方向と方法について思考深める。また、自らの研究テーマの深化、キャリアパスについて素養・能力を涵養する。

（第15回）受講生の発表と議論のまとめ（有本と赤池）

（目標）授業を終えるにあたり、受講生にピッチ方式で今後の論文作成の方向、自らのキャリアパス等について質問してもらい、相互に意見交換する。受講生の視座と規範、学びと研究の方向について基盤を固める。

.....

3. 授業外学修・履修方法等

（1）講義の各回に、事前/事後学修として関係する資料などを指示するため確認しておくこと。各回毎の授業・学習のため、事前学習として、シラバスに示した参考文献の概観を掴んでおくことを薦める。事後には、STI政策全体の中での自らの関心事項の位置付けと今後の方向を明確に認識する。

（2）第8回および第15回は受講生による発表を行うため、事前準備しておくこと。

（3）その他、必要に応じ、受講生の意見を踏まえて講義の中で示す。

3. 成績の評価方法：

議論への参加と貢献の度合い、小論文(term paper)の作成と発表、意見交換能力などで評価する。

【成績評価基準】

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

参考文献：日本語

(1)「科学技術イノベーション政策の科学(SciREX)：コアコンテンツ」、SciREXコアコンテンツ編集委員会。<https://score.grips.ac.jp/>

(2)「第6期科学技術・イノベーション基本計画」、内閣府、2021年3月閣議決定。

<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index6.html>。

「第7期STI基本計画」の議論状況、内閣府科学技術総合イノベーション会議・基本政策専門調査会の審議状況（HPで）

(3)「科学技術基本法体系の変容：1995から2020-理念と現実と実行の課題-」、

有本建男、「学術の動向」日本学術協力財団、2021年5月。https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/26/5/26_5_4

- (4)「主要国・地域の科学技術・イノベーション政策動向2024」、科学技術振興機構（JST）・研究開発戦略センター 2024年3月。 <https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2023-FR-01.html>
- (5)「科学技術イノベーション政策に関する世界の潮流（2024年）」、JST/CRDS、2024年3月。
<https://www.jst.go.jp/crds/pdf/2023/RR/CRDS-FY2023-RR-07.pdf>
- (6)「科学技術・イノベーション政策におけるEBPM 科学技術・イノベーション政策におけるEBPMの現状と課題」、研究画 vol.38 No.4、赤池伸一、2024年2月 https://doi.org/10.20801/jsrpim.38.4_378
- (7)「科学技術外交の近年の動向と今後の課題」、有本建男、浅野佳奈、SciREXコアコンテンツ、2024年2月。 <https://core.grips.ac.jp/1/1.5.3/main.pdf>
- (8)「米国における研究セキュリティの取組み－研究の開放性と安全の両立に向けて」、JST/CRDS、2024年3月。
<https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2023-RR-08.html>。「グローバルな研究エコシステムにおけるインテグリティ：日本語仮訳」、OECD、JST/CRDS、2022年11月。 <https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2023-RR-01.html>
- (9)「科学技術・イノベーション白書－AIがもたらす科学技術・イノベーションの変革」（令和6年版）、文部科学省、2024年3月。
- (10)「ミッション志向型科学技術・イノベーション政策と研究開発ファンディングの推進」、JST/CRDS、2022年3月。
<https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2022-SP-01.html>
- (11)「トランスディシプリナリー研究（学際共創研究）の活用による社会的課題解決の取組み：日本語仮訳」、OECD、JST/CRDS、2022年3月。 <https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2020-XR-01.html>
- (12)「SDGs達成に向けた科学技術イノベーションの実践」、科学技術振興機構、2021年3月。
<https://www.jst.go.jp/report/2021/210405.html>
- (13)「海外の「総合知」事例－社会課題解決に向けた研究・イノベーションにおける知の融合－」、JST-CRDS、2023年3月。
<https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2023-RR-09.html>
- (14)「人文・社会科学の知に着目した国際比較－社会課題解決型の研究・イノベーションに向けた基礎的調査」、JST/CRDS、2023年3月。「海外の「総合知」事例－社会課題解決に向けた研究・イノベーションにおける知の融合－」、JST-CRDS、2023年3月。
<https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2023-RR-09.html>
- (15)「科学技術・イノベーション基本法と第6期科学技術・イノベーション基本計画」、研究・技術・計画 vol.36 No.1、赤池伸一、研究イノベーション学会、2021年9月、https://doi.org/10.20801/jsrpim.36.3_345
- (16)「デジタルトランスフォーメーションに伴うSTIの変容」、JST/CRDS、2020年4月。
<https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2020-RR-01.html>
- (17)「特集・新型コロナウイルス感染症と科学的助言」、研究・技術・計画、vol.36 No.2 2021、研究イノベーション学会、2021年7月。
- (18)「科学技術基本計画の変遷と次期への展望」研究・技術・計画 vol.34 No.3、小林 信一、赤池 伸一、林 隆之、富澤 志、宮林 正恭、研究イノベーション学会、2019年10月、https://doi.org/10.20801/jsrpim.34.3_190
- (19)「科学技術政策の歴史と今後の課題－次期科学技術基本計画の策定に向けて」、情報の科学と技術 Vol.69 No.8、2019年9月、https://doi.org/10.18919/jkg.69.8_358
- (20)「科学的助言－21世紀の科学技術と政策形成」、有本建男、佐藤靖、松尾敬子、吉川弘之。東京大学出版会、2016年8月。
- (21)「科学技術イノベーション人材」、SciREXコアコンテンツ1.4、富澤宏之、2022年12月。
https://scirex.grips.ac.jp/news/archive/230104_2914.html

参考文献：英語

- (22) “Strategic Foresight Toolkit for Resilient Public Policy Strategic Foresight Toolkit for Resilient Public Policy January 2025, https://www.oecd.org/en/publications/foresight-toolkit-for-resilient-public-policy_bcdd9304-e1
- (23) “Transformation of science, technology and innovation (STI) policy in Japan”, Tateo Arimoto, in “Special Reforming Japanese Capitalism”, Asian Pacific Business Review (APBR), Feb. 2024, Routledge.
<https://www.tandfonline.com/doi/pdf/10.1080/13602381.2024.2320539>
- (23) OECD Science, Technology and Innovation Outlook 2023 – STI Policies as Enablers of Transitions”, OECD, 2023. <https://www.oecd.org/sti/science-technology-innovation-outlook/>
- (24) OECD, CSTP, Ministerial Meeting ; “Declaration on Transformative Science, Technology and Innovation for a Sustainable and Inclusive Future”,

<https://www.oecd-events.org/mm24/en/content/test>, <https://legalinstruments.oecd.org/en/instruments/OE0501>.

(25) “ OECD Agenda for Transformative Science, Technology, and Innovation Policies”, April 2024, [https://www.oecd-ilibrary.org/docserver/ba2aaf7b-en.pdf?](https://www.oecd-ilibrary.org/docserver/ba2aaf7b-en.pdf?expires=1726462688&id=id&accname=guest&checksum=2064F784AF45BDD16F3CC0488D10590C)

[expires=1726462688&id=id&accname=guest&checksum=2064F784AF45BDD16F3CC0488D10590C](https://www.oecd-ilibrary.org/docserver/ba2aaf7b-en.pdf?expires=1726462688&id=id&accname=guest&checksum=2064F784AF45BDD16F3CC0488D10590C)

(26)“ OECD Framework for the Anticipatory Governance of Emerging Technologies”, April 2024, <file:///C:/Userarimoto/Downloads/Framework%20for%20Anticipatory%20Governance%20of%20Emerging%20Technologie>

(27) “Global Sustainable Development Report (GSDR) 2019”, July 2019, The United Nations. <https://sdgs.un.org/gsdrgsd2019>. “Global Sustainable Development Report(GSDR) 2023 - Times of Times of Change: Science for Accelerating Transformations to Sustainable Development”, July 2023, The United Nations. <https://sdgs.un.org/gsdrgsd2023>

(28) Guidebook for the preparation of STI for SDGs Roadmaps”, UN Inter-Agency Task Team on STI for SDGs 2021.

https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/26937Guidebook_STI_for_SDG_Roadmaps_final

(29) “Transforming Science, Technology, and Innovation (STI) for a Sustainable and Resilient Society”, M.Nakamura, T.Arimoto et al, Science & Diplomacy, 11/02/2021.

<https://www.sciencediplomacy.org/article/2021/transforming-science-technology-and-innovation-sti-for-sustainable-and-resilient>

(30) “The Design and Implementation of mission-oriented Innovation Policies – A New Systemic Policy Approach to Address Social Challenges”, OECD Science, Technology and Industry, Policy Paper 2021.

https://www.oecd-ilibrary.org/science-and-technology/the-design-and-implementation-of-mission-oriented-innovation-policies_3f6c76a4-en. “Mission-oriented innovation policy in Japan - challenges, opportunities and future options”, OECD Science, Technology and Industry, Policy Paper, April 2021. <https://www.oecd.org/japan/mission-oriented-innovation-policy-in-japan-a93ac4d4-en.htm>

(31) “Science for Policy Handbook”, EU, Joint Research Center (JRC), 28 July, 2020.

<https://www.sciencedirect.com/book/9780128225967/science-for-policy-handbook>

(32) “Strategy guidance note on science-policy interface”, United Nations, Committee on Experts of Public Administration (CEPA)”, 15.04.2021.

<https://informedfutures.org/strategy-guidance-note-on-the-science-policy-interface/>

(33) “The Oxford Handbook of Innovation”, edited by Jan Fagerberg, David Mowery and Richard Nelson, Oxford University Press, 2005 .

5. 授業で使用するソフトウェアについて :

6. 聴講の可否 :

否

7. 履修上の注意 :

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI2030J
授業名	ビブリオメトリクスとその応用
担当者	HAYASHI Takayuki／林 隆之
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Fri 金／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

科学技術政策の推進や評価のためにはエビデンスに基づいた分析が求められる。分析の中でも、論文や特許などの情報を対象にして科学技術活動やその成果を分析する方法が、ビブリオメトリクス（計量書誌学）またはサイエントメトリクス（科学計量学）と呼ばれる方法である。1960年代以降、分析のためのデータインフラが形成されるとともに、様々な分析手法が開発されてきた。さらに近年はウェブサイトやSNSにおける情報を含めた新たな指標や分析方法も開発されている。これらは、国の科学技術の生産性の分析、大学や研究機関の特徴把握や評価、研究の最前線のテーマの理解、産学連携の測定などに使用されている。本コースでは、学生はビブリオメトリクスの知識とスキルを習得し、自ら論文・特許のデータを用いた分析を行えるようになることが期待される。

[到達目標]

- (1) ビブリオメトリクスの概念と方法を理解し、自ら説明することができる。
- (2) 関心のある分野についてビブリオメトリクス分析を行うことができる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

特に強く関連するDP：

- ① 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

一部関係するDP：

- ② 公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力
- ③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力
- ④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力
- ⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

以下の授業計画で行う。学生の興味関心や基礎能力により一部を変更することもありうる。

1. はじめに：ビブリオメトリクスの歴史と概要
2. 論文データベースの使用方法
3. 科学研究の生産性の分析（1）：基礎的な指標と国の比較
4. 科学研究の生産性の分析（2）：大学の分析
5. 学生によるプレゼンテーション（1）
6. 引用分析
7. 書誌結合、共引用、科学の地図
8. 語の分析、共語分析
9. 共著分析
10. 研究資金と研究成果の関係の分析：謝辞

11. 人文・社会科学の分析
12. オルトメトリクス(SNS等を対象とする分析)、学際性の分析
- 13.特許の分析とサイエンスリンケージ(1) (外部講師:文部科学省科学技術・学術政策研究所 富澤宏之・総括主任研究官)
- 14.特許の分析とサイエンスリンケージ(2) (外部講師:文部科学省科学技術・学術政策研究所 富澤宏之・総括主任研究官)
- 15.学生によるプレゼンテーション(2)

[授業外学修]

講義の各回について、事前学修として関係する参考文献を確認しておくこと。

事後学修として、講義内容を復習するとともに、講義で用いられた資料・参考文献を確認しておくこと。

第5回、15回は学生発表を行うため、それまでの授業内容を復習した上で、指示する内容について発表資料の準備を事前に行っておくこと。

3. 成績の評価方法:

中間プレゼンテーションとレポート(50%)、最終プレゼンテーションとレポート(50%)

[成績評価基準]

- A: 到達目標を高い水準で達成している
- B: 到達目標を満足できる水準で達成している
- C: 到達目標を概ね達成している
- D: 到達目標を最低限の水準で達成している
- E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等: (4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

なし(各回で、授業資料を配付)

4-2:その他

藤垣裕子, 平川秀幸, 富沢宏之, 調麻佐志, 林隆之, 牧野淳一郎, 2004. 研究評価・科学論のための科学計量学入門, 丸善.

Glanzel, W. Moed, H.F., Schmoch, U., Thelwall, M. (eds.), 2019. *Springer Handbook of Science and Technology Indicators*. Springer.

Moed, H.F., Glanzel, W., Schmoch U., 2004. *Handbook of Quantitative Science and Technology Research: The Use of Publication and Patent*. Kluwer Academic Publishers.

Andres, A., 2009. *Measuring Academic Research: How to Undertake a Bibliometric Study*. Elsevier Science. Chandos Publishing.

Cronin, B., Sugimoto, C.R. (eds.), 2014. *Beyond Bibliometrics: Harnessing Multidimensional Indicators of Scholarly Impact*, The MIT Press.

5. 授業で使用するソフトウェアについて:

MS Excel、VOSviewer、R -Bibliometrixパッケージ、KHcoder

関心のある人はPythonを利用。

6. 聴講の可否:

可

7. 履修上の注意:

各自のパソコンが必要。エクセルは必須。

できればWindowsが望ましいが、Macでも可。Macでは授業にて紹介する一部のフリーソフトウェアが動かない場合があるが、代替的な分析方法も紹介する。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI2060E
Course Name	Policy for Higher Education and University-Industry Cooperation
Instructor	SUMIKURA Koichi／隅藏 康一
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／5
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Academic or scientific research in universities and public research institutions (PRIs) can be a source of innovation in industry if properly managed. In order to promote science-driven innovation, an intermediate organization to link academic research with industrial development of novel products and services is required. This lecture reviews how a policy for promotion of university-industry cooperation was designed in Japan and other countries, by indicating concrete successful or failure cases.

[Course Goals]

Students can understand how a policy for promotion of university-industry cooperation was designed in Japan and other countries.

[Related Diploma Policy (DP)]

Science, Technology and Innovation (STI) Policy Program (Master's Program) Highly related DPs:

(1) Academic knowledge of STI and its policy, and the ability to apply this knowledge to policy issues. Partially related DPs: (2) Knowledge of public policy and the ability to view and analyze STI policy in the context of public policy. (3) The ability to formulate a problem, construct a hypothesis, analyze it using quantitative and qualitative data, summarize it as a policy proposal, and present and communicate it to policy makers based on a scientific approach to STI policy issues (4) Understanding of the practical aspects of STI policy formation and implementation, and the ability to make practical policy recommendations that bridge theory and practice. (5) Respect for different values and systems in a global society, and the ability to understand and communicate STI policy within that context, and to be aware of one's role as a leader and follower.

科学技術イノベーション政策プログラム

特に強く関係するDP:

(1) 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

一部関連するDP:

(2) 公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力

(3) 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

(4) 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

(5) グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. Course Outline :

1. Introduction: types of university-industry cooperation (UIC); History of UIC in Japan.
2. Issues on Ph.D. holders.
3. Japanese Science and Technology Indicators; Intellectual Property Strategic Program; Science, Technology and Innovation (STI) Basic Law and STI Basic Plan.
4. University patents; effects of corporatization of national universities in Japan.
5. Bayh-Dole Act in US; Tech transfer activity by Niels Reimers.
6. Public universities and regional growth: insights from the University of California.
7. Economic contribution of university inventions.
8. University start-ups and start-up ecosystem.
9. University Research Administrators (URA); UIC statistics in Japan.
10. Conflict of interest; Research integrity.
11. Japan's university fund.
12. Pharmaceutical innovation from academia.
13. Management of research data, information and secrecy in laboratory.
14. Prior academic papers on UIC.
15. Wrap-up, conclusion.

[Out-of-class Learning]

Students have to read the materials suggested in the class and grasp the contents. Students have to prepare for in-class presentation.

3. Grading :

The following points will be evaluated.

- Participation in discussion in classes: 50%
- Presentation & Submission of presentation materials: 50%

[Grading Criteria]

Student's achievement of the Course Goals is:

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Below the acceptable level: E

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

"Public universities and regional growth: insights from the University of California"

(Electric books can be found at GRIPS Library.)

Koichi Sumikura (2022) "Mission-oriented Innovation Policies in Japan: focusing on function of intellectual property and technology transfer," Asian Research Policy, Vol.13, December 2022, 84-91.

[https://www.kistep.re.kr/arpIssue.es?](https://www.kistep.re.kr/arpIssue.es?act=content_view&list_no=215&act=content_view&mid=a20802000000)

[act=content_view&list_no=215&act=content_view&mid=a20802000000](https://www.kistep.re.kr/arpIssue.es?act=content_view&list_no=215&act=content_view&mid=a20802000000)

4-2:Others

The Emerald Handbook of Research Management and Administration Around the World

<https://www.emerald.com/insight/publication/doi/10.1108/9781803827018>

5. Software Used in Lectures :

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Each student has to make at least two presentations in the class.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI2170E
Course Name	Energy and Environmental Science&Technology
Instructor	TAKAHASHI Kazuaki and Shibata Yoshiaki／高橋 一彰, 柴田 善朗
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Fri 金／3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Energy is essential for living standards in the modern economy. Energy policy should take balance between energy security, economy and environmental concern for deploying variable energy resources. Science and technology are a crucial element in securing energy resources. More recently, innovation in energy and environmental technologies has also been central to meeting climate change targets while supporting economic and energy security goals.

The main aim of the course is to understand the history and current situation of science and technology in the energy field, and to discuss how they can be used and developed to meet energy and environmental policy objectives.

This course is developed jointly with the Institute of Energy Economics, Japan (IEEJ). It also provides lectures on various energy technologies by the experts of relevant research institutes.

This course is related to the following SDGs:

7 (Energy), 8 (Economic Growth), 13 (Climate Action)

[Related Diploma Policy (DP)]

科学技術イノベーション政策プログラム ①②③④⑤

[Course Goals]

Students can:

- (1) identify the current situations and challenges of science and technology in the energy field
- (2) discuss the challenges and potential solutions to deploy/develop science and technology in the energy field
- (3) raise the issues that need to be studied in more detail to get meaningful policy framework to energy and environmental policy objectives

2. Course Outline :

Week 1	Introduction (Takahashi, Shibata)	Basic framework of energy policy (3E) and relationship between energy policy and technology development.
Week 2	Energy and Environmental Technologies (Takahashi, Shibata)	Basic framework of energy and environmental technology development in Japan
Week 3	Energy Technology Policy in Japan (Nei)	Overview of energy-related technology development policies in Japan
Week 4	Energy and Environmental	Major technology development after oil crisis in Japan

	Technology Development	
Week 5	Nuclear Reactor Technologies	History and roadmap of nuclear power reactor development in Japan (an expert will be invited as a speaker)
Week 6	Science & Technology-related Policies	Overview of science and technology policy in the energy and environment field in Japan (an expert will be invited as a speaker)
Week 7	International Activities (Shibata)	Major energy and environmental technology development plan in the world and latest movement under the energy transition.
Week 8	Resource Development Technology mainly in the Field of Oil & Gas	Technologies in oil and gas upstream industry (an expert will be invited as a speaker)
Week 9	Energy Conservation Technology	R&D activities in Japan for energy conservation technology to build a sustainable society (an expert will be invited as a speaker)
Week10	Renewable Energy Technology	R&D activities in Japan for renewable energy technology to build a sustainable society (an expert will be invited as a speaker)
Week11	Radioactive Waste Management and Back End Fuel Cycle Technology	Overview of the back-end of the nuclear fuel cycle (an expert will be invited as a speaker)
Week12	Distributed Energy	Distributed energy resources and their management (an expert will be invited as a speaker)
Week13	Future Prospect (Shibata)	Current challenges and future perspectives in energy and environmental science and technology
Week14	Field Trip (Takahashi, Shibata)	Site visit to learn more about technology for natural resource development including CCS (Carbon dioxide Capture and Storage) , carbon recycling and hydrogen The field trip is arranged together with the class of "Energy Security".
Week15	Discussion (Takahashi, Shibata)	Comprehensive discussion of energy policy based on what has been learnt in this course

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students.

※Term papers should be handed in after Week 7 and after the last class.

[Out-of-class Learning]

Students are expected to be active participants and to develop a mutual understanding of each country's situation through discussion.

Students should review the contents of the lecture, make comments for each day and prepare for discussion/term paper.

3. Grading :

Two term papers 60%, Comment sheet for each day 40%

A: Acquire sufficient knowledge of science and technology in the energy field and can identify challenges and propose solutions to energy and environmental policy objectives

B: Acquire basic knowledge of science and technology in the energy field and can identify challenges and propose solutions to energy and environmental policy objectives

C: Acquire basic knowledge of science and technology in the energy field and can identify challenges to energy and environmental policy objectives

D: Acquire basic knowledge of science and technology in the energy field

E: Not acquire basic knowledge of science and technology in the energy field and cannot explain what it is.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:必携のテキスト/Required

4-2:その他/Others

① Energy Technology Perspectives 2024

<https://www.iea.org/reports/energy-technology-perspectives-2024>

② World Energy Outlook 2024, International Energy Agency(IEA)

<https://www.iea.org/reports/world-energy-outlook-2024>

③ White Paper of Energy in Japan 2024 (Japanese)

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2024/pdf/>

④ 6th Strategic Energy Plan, Government of Japan, 2021

https://www.enecho.meti.go.jp/en/category/others/basic_plan/pdf/6th_outline.pdf

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI2200J
授業名	科学技術とアントレプレナーシップ
担当者	SUMIKURA Koichi, MAKI Kanetaka／隅藏 康一, 牧 兼充
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Wed 水／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

春前期 水 7:30PM-9:00PM

[本授業の概要]

大学や公的研究機関で生み出された科学技術研究の成果は、新たなビジネス創出の礎となります。

この講義では、（1）知識はどのように生み出されるか、（2）知識はどのように商業化されるか、について、定量的データによるエビデンスを含む学術論文に基づいて議論します。

この講義では、科学技術イノベーション研究の代表的な学術論文を読みこなす力をつけることを目的としています。

原則として、1つの講義につき3つの論文が提示され、受講者はそのうちの指定された1つを読んで概要をまとめてくることが求められます。

受講者は、指定された論文について、内容解説のプレゼンテーションを行うことが求められます。

また、受講者は、それとは別に、自身で学術論文を選び、内容解説のプレゼンテーションを行うことが求められます。

[到達目標]

科学技術とアントレプレナーシップに関する論文を読み解く力をつける。特に、定量的な分析を行ってその結果を記載している論文を読み、的確に理解する力をつける。

[関連するディプロマ・ポリシー]

科学技術イノベーション政策プログラム（修士課程）

特に強く関係するDP：

③科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

関係するDP：

①科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

一部関係するDP：

④科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

⑤グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

1. Class 01 講義の全体像、科学的思考法の基礎
2. Class 02 実証分析について、論文の読み方について
3. Class 03 イノベーションは誰が担うのか？：大企業vs小企業
4. Class 04 起業家はどこから生まれるのか？
5. Class 05 なぜ科学技術の値は特定の地域に集積するのか？
6. Class 06 スター・サイエンティストはなぜ重要なのか？

7. Class 07 なぜアントレプレナーの活動は特定の地域に集積するのか？
8. Class 08 アントレプレナーの活動を促進するものは何か？
9. Class 09 ベンチャー・キャピタルはなぜ重要か？
10. Class 10 インセンティブはイノベーションにどの程度重要なのか？
11. Class 11 大学発ベンチャーを育む仕組み
12. Class 12 研究者のキャリアとインセンティブ
13. 受講者プレゼンテーション（１）
14. 受講者プレゼンテーション（２）
15. まとめ：スター・サイエンティスト研究と政策への社会実装

[授業外学修]

その週の課題となっている１つの論文を読み、サマリーシートにまとめる。
発表者として割り当てられている場合は、その発表の準備をする。

３．成績の評価方法：

講義における議論への貢献：25%
課題となった論文のまとめの提出：25%
担当となった論文についての発表：25%
自身で選んだ論文についての発表：25%

[成績評価基準]

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

４．テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

講義では以下の学術論文を扱う予定です。（講義で配布します）

4-1:必携のテキスト

第3回: イノベーションは誰が担うのか?: 大企業 vs 小企業

- J. Acs, Audretsch, D.B. 1988. Innovation in large and small firms: an empirical analysis. The American economic review 678-690.
- Haltiwanger, et al. 2013. Who creates jobs? Small versus large versus young. Review of Economics and Statistics. 95(2) 347-361.
- Guzman, Stern, S. 2015. Nowcasting and Placecasting: Entrepreneurial Quality and Performance. University of Chicago Press.

第4回: 起業家はどこから生まれるのか?

- Giannetti, Simonov, A. 2009. Social interactions and entrepreneurial activity. Journal of Economics & Management Strategy. 18(3) 665-709.
- Lerner, Malmendier, U. 2013. With a little help from my (random) friends: Success and failure in post-business school entrepreneurship. Review of Financial Studies hht024.
- Azoulay, P., C. C. Liu, and T. E. Stuart. 2017. Social influence given (partially) deliberate matching: Career imprints in the creation of academic entrepreneurs. American journal of sociology 122:1223-1271.

第5回: なぜ科学技術の知は特定の地域に集積するのか?

- G. Zucker, Darby, M.R., Brewer, M.B. 1998. Intellectual human capital and the birth of US biotechnology enterprises. Am Econ Rev. 88(1) 290-306.

- G. Zucker, Darby, M.R., Armstrong, J.S. 2002. Commercializing knowledge: University science, knowledge capture, and firm performance in biotechnology. *Management Science*. 48(1) 138-153.
- G. Zucker, Darby, M.R. 2001. Capturing Technological Opportunity Via Japan's Star Scientists: Evidence from Japanese Firms' Biotech Patents and Products. *The Journal of Technology Transfer*. 26(1/2) 37-58.

第6回: スター・サイエンティストはなぜ重要なのか?

- Azoulay, Graff Zivin, J., Wang, J. 2010. Superstar extinction. *Quarterly Journal of Economics*. 25 549-589.
- Oettl. 2012. Reconceptualizing stars: Scientist helpfulness and peer performance. *Management Science*. 58(6) 1122-1140.
- Azoulay, Pierre, Christian Fons-Rosen, and Joshua S. Graff Zivin. "Does science advance one funeral at a time?." *American Economic Review* 109.8 (2019): 2889-2920.

第7回: なぜアントレプレナーの活動は特定の地域に集積するのか?

- Agrawal, Cockburn, I., Galasso, A., Oettl, A. 2014. Why are some regions more innovative than others? The role of small firms in the presence of large labs. *Journal of Urban Economics*. 81 149-165.
- Fallick, B., Fleischman, C.A., Rebitzer, J.B. 2006. Job-hopping in Silicon Valley: some evidence concerning the microfoundations of a high-technology cluster. *The Review of Economics and Statistics*. 88(3) 472-481.
- Casper. 2007. How do technology clusters emerge and become sustainable?: Social network formation and inter-firm mobility within the San Diego biotechnology cluster. *Research Policy*. 36(4) 438-455.

第8回: アントレプレナーの活動を促進するものは何か?

- Yu, Sandy. "How do accelerators impact the performance of high-technology ventures?." *Management Science* (2019).
- K. Agrawal, Catalini, C., Goldfarb, A. 2011. The geography of crowdfunding. *National bureau of economic research*.
- Di Gregorio, Shane, S. 2003. Why do some universities generate more start-ups than others? *Research Policy*. 32(2) 209-227.

第9回: ベンチャー・キャピタルはなぜ重要か?

- N. Kaplan, Sensoy, B.A., Strömberg, P. 2009. Should investors bet on the jockey or the horse? Evidence from the evolution of firms from early business plans to public companies. *The Journal of Finance*. 64(1) 75-115.
- Hellmann, Schure, P., Vo, D. 2013. Angels and Venture Capitalists: Complements or Substitutes? *NBER Working Paper*.
- Ewens, M., Nanda, R., Rhodes-Kropf M. 2018. Cost of Experimentation and the Evolution of Venture Capital. *NBER WORKING PAPER* 24523.

第10回: インセンティブはイノベーションにどの程度重要なのか?

- Azoulay, Graff Zivin, J.S., Manso, G. 2011. Incentives and creativity: evidence from the academic life sciences. *The RAND Journal of Economics*. 42(3) 527-554.
- Ederer, F., and G. Manso. 2013. Is pay for performance detrimental to innovation? *Management Science* 59:1496-1513.
- Graff-Zivin, Joshua, and Elizabeth Lyons. The Effects of Prize Structures on Innovative Performance. No. w26737. *National Bureau of Economic Research*, 2020

第11回: 大学発ベンチャーを育む仕組み

- Shane, Stuart, T. 2002. Organizational endowments and the performance of university start-ups. Management Science. 48(1) 154-170.
- Lerner. 1996. The government as venture capitalist: The long-run effects of the SBIR program. National Bureau of Economic Research.
- Howell, S. T. 2017. Financing innovation: evidence from R&D grants. American Economic Review 107:1136-1164.

第12回: 研究者のキャリアとインセンティブ

- Thursby, Fuller, A.W., Thursby, M. 2009. US faculty patenting: Inside and outside the university. Research Policy. 38(1) 14-25.
- Roach, Sauermann, H. 2010. A taste for science? PhD scientists' academic orientation and self-selection into research careers in industry. Research Policy. 39(3) 422-434.
- Singh, J. and L. Fleming (2010) "Lone inventors as sources of breakthroughs: myth or reality?", Management Science, Vol.56, No.1, pp.41-56.

4-2:その他

森田果『実証分析入門』（日本評論社）

牧兼充『イノベーターのためのサイエンスとテクノロジーの経営学』（東洋経済新報社）

牧兼充『科学的思考トレーニング』（PHPビジネス新書）

5. 授業で使用するソフトウェアについて :

6. 聴講の可否 :

可

7. 履修上の注意 :

イントロダクションが終了した後の10回の講義において、受講者は、指定された論文を読んで、その内容を、指定されたフォーマットにまとめ、提出することが求められます。それにより、論文を読む力を身に付けます。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI2270J
授業名	知的財産マネジメント I
担当者	SUMIKURA Koichi／隅藏 康一
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Sat 土／3 4 5
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

知的財産保護法制、産官学それぞれにおける知的財産戦略、ならびに産学連携施策等を主要なテーマとする、オープンなセミナーに参加し、多様なバックグラウンドの講師や参加者とともに議論し相互に学びあう。

【到達目標】

科学技術イノベーション政策、ならびにナショナル・イノベーション・システムにおける知的財産の役割について理解し、その戦略的活用のための知見を修得する。

【関連するディプロマ・ポリシー】

科学技術イノベーション政策プログラム

特に強く関連するDP：

① 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

一部関係するDP：

② 公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力

③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

4/26（土）13:00-18:30 講義ならびに、知的財産マネジメント研究会への参加

5/17（土）13:00-18:30 講義ならびに、知的財産マネジメント研究会への参加

6/21（土）13:00-18:30 講義ならびに、知的財産マネジメント研究会への参加

7/12（土）15:00-21:00 講義ならびに、知的財産マネジメント研究会への参加

※知的財産マネジメント研究会 <https://www.smips.jp/>には、学外の一般参加者の方々とともにご参加いただきます。

※詳細な内容については、講義内で連絡いたします。

【授業外学修】

講義で示された参考資料・参照先ウェブサイトについて各自で参照し、理解を深めること。

3. 成績の評価方法：

講義・セミナーにおける議論への貢献 50%

レポートの提出あるいはプレゼンテーション 50%

[成績評価基準]

Pass: 到達目標について達成している Fail: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

Koichi Sumikura (2022) "Mission-oriented Innovation Policies in Japan: focusing on function of intellectual property and technology transfer," Asian Research Policy, Vol.13, December 2022, 84-91.

[https://www.kistep.re.kr/arpIssue.es?](https://www.kistep.re.kr/arpIssue.es?act=content_view&list_no=215&act=content_view&mid=a20802000000)

[act=content_view&list_no=215&act=content_view&mid=a20802000000](https://www.kistep.re.kr/arpIssue.es?act=content_view&list_no=215&act=content_view&mid=a20802000000)

4-2:その他

講義内で指示する

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

この講義は、科学技術イノベーション政策プログラムの修士課程（2年制）あるいは博士課程の方々については、2年目以降の方々が受講することを想定しています。

科学技術イノベーション政策プログラムの修士課程（2年制）あるいは博士課程の、1年目の方々は、土曜日に開講される他の講義を受講してください。

本学の修士課程を修了後に博士課程に進学した方などで、すでにそれらの科目の単位を取得済みの場合は、その限りではありません。

科学技術イノベーション政策プログラム以外のプログラムの方々は、1年目から受講していただくことが可能です。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI3050E
Course Name	Energy Security
Instructor	NEI Hisanori, TAKAHASHI Kazuaki and KUTANI Ichiro／根井 寿規, 高橋 一彰, 久谷 一朗
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Fri 金／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Energy is essential for living standards in the modern economy. Each country conducts its own energy policy for securing energy supply sufficient to increasing demand by the economic growth, maintaining the cost within affordable levels and considering environmental concern simultaneously.

This course aims to deepen the knowledge of energy security and how to review energy security policy measures to develop policy recommendations to improve security conditions. In the first half of the course, students will understand key issues related to energy security based on the definition by IEA (International Energy Agency). In the second half, students will learn how to make a preliminary assessment of energy security, particularly in developing countries.

This course is developed jointly with the Institute of Energy Economics, Japan (IEEJ).

This course is related to the following SDGs:

7 (Energy), 8 (Economic Growth), 13 (Climate Action)

[Related Diploma Policy (DP)]

科学技術イノベーション政策プログラム:①,②,③,④,⑤

[Course Goals]

Students can:

- (1) discuss the cause and potential solutions about the conflicts in the Middle East and be aware of the meanings of the global energy market by those conflicts
- (2) discuss the challenges and potential solutions to improve energy security in developing countries
- (3) raise the issues that need to be studied in more detail to get meaningful policy framework for improving energy security

2. Course Outline :

Week 1	Introduction (Nei, Kutani)	Outline of the course, basic concept of energy security
Week 2	Outline of energy policy (Takahashi)	Outline of energy policy including trade-off relationship between energy security, economic way of supply and environmental issues
Week 3	Oil supply security and Middle East (Nei)	History of crude oil supply after the world war II, the way to overcome supply interruption occurred in the era of oil crisis
Week 4	Middle East (Dr. Shigeto Kondo(IEEJ), Nei)	Turmoil in the Middle East & North Africa (MENA) and its affection over energy security, geopolitical risk factors, case study for reducing the risk in the region

Week 5	Middle East (Dr. Shigeto Kondo(IEEJ), Nei)	Presentation based on a brief analysis using data on the economic situation of the MENA countries, etc.
Week 6	Counter measures for short term energy security (Nei)	Management of emergency oil response systems, security management of the choke points, etc.
Week 7	Energy security in non-oil fuel sources (Nei)	Energy supply security issues regarding coal, natural gas and renewables
Week 8	Energy security in developing countries (Kutani)	Fast growing demand and increasing security risk, investment/subsidy
Week 9	Energy security in developing countries (Kutani)	Environmental risks and renewable energy (stabilization, social acceptance)
Week10	Assessment of energy security status (Kutani)	Definition of energy security and security index, international energy governance
Week11	Nuclear Security (Nei)	Cause and consequences of TEPCO Fukushima Nuclear Accident, etc.
Week12	Exercise on Energy security (Kutani, Nei)	Group discussion on energy security risks of a selected country based on statistical data
Week13	Exercise on Energy security (Kutani, Nei)	Group presentation on energy security risks of a selected country including policy recommendation
Week14	Long term energy supply security	Site visit for learning the risk of investment over resource development The field trip is arranged together with the class of " Energy and Environmental Science & Technology ".
Week15	Summary (Nei, Kutani)	Summary discussion of the course and further issues to research

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students.

[Out-of-class Learning]

Students are expected to be active participants in class and to develop a mutual understanding of each country's situation through discussion.

Students should read the materials distributed via teams before the class to grasp the outline and questions to ask in class.

After class, students should review the contents of the lecture and prepare presentations and discussion in the class.

3. Grading :

Two presentations (one for middle east and the other for the security of developing country by the group discussion) (80%), Discussion in the class (20%)

A: Acquire sufficient knowledge about energy security and can identify challenges and propose solutions to improve energy security

B: Acquire basic knowledge about energy security and can identify challenges and propose solutions to improve energy security

C: Acquire basic knowledge about energy security and can identify challenges regarding energy security

D: Acquire basic knowledge about energy security

E: Not acquire basic knowledge about energy security and cannot explain what it is

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:必携のテキスト/Required

4-2:その他/Others

- World Energy Outlook 2024, IEA
- Energy Supply Security: The Emergency Response of IEA Countries 2014, IEA
- Energy and Security: Strategies for a World in Transition, Jan H. Kalicki/David L. Goldwyn
- Energy Security in the Era of Climate Change: The Asia-Pacific Experience, Luca Anceschi/Jonathan Symons

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Students are expected to take the class "Outline of Energy Policy" and/or "Energy and Environmental Science and Technology" in advance.

Students are highly recommended to take the class "Energy Data Analysis" for making exercises more effective.

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI4000J
授業名	科学技術イノベーション政策論文演習Ⅰ
担当者	Various／関係教員
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring, Summer 春、夏
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

※本授業は2024年入学者向けです。通常は「科学技術イノベーション政策論文演習Ⅰ」は修士2年次の春・夏学期に履修します。「演習Ⅰ」で秋・冬学期開講となっているものは、休学して半期ずれているなどの特殊な場合に履修するものです。

科学技術イノベーション政策論文演習ⅠおよびⅡは、科学技術イノベーション政策プログラム（2年制）の修士学生を対象として、修士研究を行う研究能力（研究計画、先行研究の調査、分析等）、ならびに論文執筆やプレゼンテーション能力を身に着けることを目的とする。

科学技術イノベーション政策プログラム（2年制）に入学した修士課程学生は、通常は、入学後1年を経過した2年次春学期に科学技術イノベーション政策論文演習Ⅰを履修し、さらに6か月を経過した2年次秋学期に科学技術イノベーション政策論文演習Ⅱを履修する。ただし、休学などによって個別学生の履修時期が変わることはありうる。

[到達目標]

- (1) 修士論文の執筆を目指して、科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築することができる。
- (2) 量的・定性的データ等を用いた研究計画をたてて、実際に分析を実施することができる。
- (3) 自身の分析結果をまとめ、学術的ならびに政策的な含意を検討するとともに、その結果を他者に示してコミュニケーションできる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

特に強く関連するDP：

- ③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

関係するDP:

- ① 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

一部関係するDP:

- ④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力
- ⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

本授業（ⅠとⅡ）は、学期中の土曜日に複数回の集中講義として実施し、研究方法に関する講義と、学生によるプレゼンテーションとディスカッションを行う。実施日についてはプログラムからの案内を確認すること。

※本授業は、学生の修士研究への準備状況を踏まえ、2年次に先立って授業内容の一部を1年次にプログラムの特別

講義として先取り実施している。プログラムからの案内を確認すること。

科学技術イノベーション政策論文演習ⅠならびにⅡにより以下の内容を教授する。以下の前半1～3を演習Ⅰ、4～6を演習Ⅱで行う予定である。

1) 集中講義第1回

- ・研究テーマの設定
- ・研究の問い（リサーチクエスション）の設定
- ・各学生の研究関心について、発表とディスカッション

2) 集中講義第2回

- ・仮説の検討
- ・先行研究の調査
- ・各学生の研究計画案とリサーチクエスションについて、発表とディスカッション

3) 集中講義第3回

- ・研究方法の検討1（定量的研究手法、定性的研究手法、混合手法）
- ・研究計画の発表とディスカッション

4) 集中講義第4回

- ・研究方法の検討2
- ・研究進捗状況の報告とディスカッション

5) 集中講義第5回

- ・プレゼンテーションの方法
- ・研究進捗状況の報告とディスカッション

他)

上記に加えて大学全体が提供する「論文の書き方講座」（全4回）およびデータサイエンスセンターが行うデータサイエンスの研究手法のワークショップ（5テーマ）について、各人の修士論文テーマ等に応じて本授業の一環としての受講を強く推奨する。主指導教員と相談すること。

なお、指導教官による個別の研究指導は「履修・研究指導計画書」に基づき本授業とは別に実施するため、指導教官と相談すること。

また、本授業とは別に修士論文の最終発表会は2年次の2月に実施する。

[授業外学修]

各回の事前学修として、発表内容を準備すること。

各回の事後学修として、講義内容に係る参考文献の箇所を読んで復習すること。

3. 成績の評価方法：

授業への貢献とプレゼンテーション（pass/fail）

【成績評価基準】

pass: 到達目標について概ね達成している

fail: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：（4-1:必携のテキスト 4-2:その他）

4-1:必携のテキスト

なし（各回で、授業資料を配付）

4-2:その他

- 伊藤修一郎『政策リサーチ入門 増補版: 仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会, 2022年。
- Creswell, J. W. 2003. *Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches*. Thousand Oaks: Sage.
- J.W.クレスウェル、V.L.プラノクラーク著、大谷順子訳『人間科学のための混合研究法：質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン』北大路書房, 2010
- J.W.クレスウェル著、操華子、森岡崇 訳『研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法』2007
- Yin, Robert 2012. *Applications of Case Study Research*, Thousand Oaks: Sage.
- 阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』2024年、光文社

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

なし

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

なし

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI4001J
授業名	科学技術イノベーション政策論文演習Ⅰ
担当者	Various／関係教員
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring, Summer 春、夏
単位数	1

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

※本授業は2025年入学者向けです。通常は「科学技術イノベーション政策論文演習Ⅰ」は修士1年次の秋・冬学期に履修します。「演習Ⅰ」で春・夏学期開講となっているものは、休学して半期ずれているなどの特殊な場合に履修するものです。

科学技術イノベーション政策論文演習Ⅰは、科学技術イノベーション政策プログラム（2年制）の修士学生を対象として、修士研究を行うための研究能力（研究計画、先行研究の調査、分析等）、ならびに論文執筆やプレゼンテーション能力を身に着けることを目的とする。

研究方法についての講義を行うとともに、各回において、全学生が研究関心、リサーチクエスト、仮説などを発表していき、教員・学生と議論を行う。本授業の最後に「修士論文研究計画」を作成して、発表する。

[到達目標]

- (1) 修士論文の執筆を目指して、科学技術イノベーション政策の課題を対象に、問題を設定し、仮説を構築することができる。
- (2) 質的・量的分析方法を理解し、研究計画をたてることができる。
- (3) 自身の研究関心や研究計画を他者に対してわかりやすく説明し、コミュニケーションすることができる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

特に強く関連するDP：

- ③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

関係するDP:

- ① 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

一部関係するDP:

- ④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力
- ⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

本授業は、学期中の土曜日に複数回の集中講義として実施する。研究方法に関する講義と、学生によるプレゼンテーションとディスカッションを行う。実施日についてはプログラムからの案内を確認すること。

1) 集中講義第1回（1年次9月：2コマ）

- ・研究テーマの設定
- ・研究の問い（リサーチクエスト）の設定

- ・各学生の研究関心について、発表とディスカッション

2) 集中講義第2回(1年次11月:2コマ)

- ・仮説の検討
- ・先行研究の調査
- ・各学生の研究計画案とリサーチエスチョンについて、発表とディスカッション

3) 集中講義第3回(1年次2月:4コマ)

- ・研究方法の検討1(定量的研究手法、定性的研究手法、混合手法)
- ・研究計画の発表とディスカッション

[授業外学修]

各回の事前学修として、発表内容を準備すること。

各回の事後学修として、コメントを踏まえて研究計画の検討をさらに進めるとともに、講義内容に関する参考文献の箇所を読んで復習すること。

3. 成績の評価方法:

授業への貢献とプレゼンテーション (pass/fail)

【成績評価基準】

pass: 到達目標について概ね達成している

fail: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等: (4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

なし(各回で、授業資料を配付)

4-2:その他

- ・伊藤修一郎『政策リサーチ入門 増補版: 仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会, 2022年。
- ・Creswell, J. W. 2003. *Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches*. Thousand Oaks: Sage.
- ・J.W.クレスウェル、V.L.ブラノクラーク著、大谷順子訳『人間科学のための混合研究法: 質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン』北大路書房, 2010
- ・J.W.クレスウェル著、操華子、森岡崇 訳『研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法』2007
- ・Yin, Robert 2012. *Applications of Case Study Research*, Thousand Oaks: Sage.
- ・阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』2024年、光文社

5. 授業で使用するソフトウェアについて:

なし

6. 聴講の可否:

否

7. 履修上の注意:

なし

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI4010J
授業名	科学技術イノベーション政策論文演習Ⅱ
担当者	Various／関係教員
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring, Summer 春、夏
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

※本授業は2024年入学者向けです。通常は「科学技術イノベーション政策論文演習Ⅱ」は修士2年次の秋・冬学期に履修します。「演習Ⅱ」で春・夏学期開講となっているものは、休学して半期ずれているなどの特殊な場合に履修するものです。

科学技術イノベーション政策論文演習ⅠおよびⅡは、科学技術イノベーション政策プログラム（2年制）の修士学生を対象として、修士研究を行う研究能力（研究計画、先行研究の調査、分析等）、ならびに論文執筆やプレゼンテーション能力を身に着けることを目的とする。

科学技術イノベーション政策プログラム（2年制）に入学した修士課程学生は、通常は、入学後1年を経過した2年次春学期に科学技術イノベーション政策論文演習Ⅰを履修し、さらに6か月を経過した2年次秋学期に科学技術イノベーション政策論文演習Ⅱを履修する。ただし、休学などによって個別学生の履修時期が変わることはありうる。

【到達目標】

- (1) 修士論文の執筆を目指して、科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築することができる。
- (2) 量的・定性的データ等を用いた研究計画をたてて、実際に分析を実施することができる。
- (3) 自身の分析結果をまとめ、学術的ならびに政策的な含意を検討するとともに、その結果を他者に示してコミュニケーションできる。

【関連するディプロマ・ポリシー】

特に強く関連するDP：

- ③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

関係するDP:

- ① 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

一部関係するDP:

- ④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力
- ⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

本授業（ⅠとⅡ）は、学期中の土曜日に複数回の集中講義として実施し、研究方法に関する講義と、学生によるプレゼンテーションとディスカッションを行う。実施日についてはプログラムからの案内を確認すること。

※本授業は、学生の修士研究への準備状況を踏まえ、2年次に先立って授業内容の一部を1年次にプログラムの特別講義として先取り実施している。プログラムからの案内を確認すること。

科学技術イノベーション政策論文演習ⅠならびにⅡにより以下の内容を教授する。以下の前半1～3を演習Ⅰ、4～6を演習Ⅱで行う予定である。

1) 集中講義第1回

- ・研究テーマの設定
- ・研究の問い（リサーチクエスション）の設定
- ・各学生の研究関心について、発表とディスカッション

2) 集中講義第2回

- ・仮説の検討
- ・先行研究の調査
- ・各学生の研究計画案とリサーチクエスションについて、発表とディスカッション

3) 集中講義第3回

- ・研究方法の検討1（定量的研究手法、定性的研究手法、混合手法）
- ・研究計画の発表とディスカッション

4) 集中講義第4回

- ・研究方法の検討2
- ・研究進捗状況の報告とディスカッション

5) 集中講義第5回

- ・プレゼンテーションの方法
- ・研究進捗状況の報告とディスカッション

他)

上記に加えて大学全体が提供する「論文の書き方講座」（全4回）およびデータサイエンスセンターが行うデータサイエンスの研究手法のワークショップ（5テーマ）について、各人の修士論文テーマ等に応じて本授業の一環としての受講を強く推奨する。主指導教員と相談すること。

なお、指導教官による個別の研究指導は「履修・研究指導計画書」に基づき本授業とは別に実施するため、指導教官と相談すること。

また、本授業とは別に修士論文の最終発表会は2年次の2月に実施する。

[授業外学修]

各回の事前学修として、発表内容を準備すること。

各回の事後学修として、講義内容に関係する参考文献の箇所を読んで復習すること。

3. 成績の評価方法：

授業への貢献とプレゼンテーション（pass/fail）

【成績評価基準】

pass: 到達目標について概ね達成している

fail: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：（4-1:必携のテキスト 4-2:その他）

4-1:必携のテキスト

なし（各回で、授業資料を配付）

4-2:その他

- ・伊藤修一郎『政策リサーチ入門 増補版: 仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会, 2022年。

- Creswell, J. W. 2003. *Research Design: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods Approaches*. Thousand Oaks: Sage.
- J.W.クレスウェル、V.L.プラノクラーク著、大谷順子訳『人間科学のための混合研究法：質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン』北大路書房, 2010
- J.W.クレスウェル著、操華子、森岡崇 訳『研究デザイン—質的・量的・そしてミックス法』2007
- Yin, Robert 2012. *Applications of Case Study Research*, Thousand Oaks: Sage.
- 阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』2024年、光文社

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

なし

6. 聴講の可否：

否

7. 履修上の注意：

なし

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI6091E
Course Name	Politics of Innovation
Instructor	BRUMMER Matthew
Email Address	
Term/Day/Period	Spring 春/Wed 水/6
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

How do politics affect science, technology, and innovation? This is the primary question we will seek answers to in this course. Additionally, how do science, technology, and innovation (STI) affect politics? This is a secondary question that we will consider, in that the relationship between politics and STI is an endogenous one: they simultaneously affect each other, over geographic space, in a wide variety of ways, all of the time.

This course aims to provide students with an introduction to essential concepts and terms of art for the study of the relationship between politics on the one hand and science, technology, and innovation (STI) on the other. The course primarily explores the role of international politics in the study of STI. We will seek to communicate the character of politics from diverse perspectives, with an emphasis on relating theory to questions of public policy concern. Thus, the course is both macro-theory and micro-policy focused.

The course will draw on core texts in both political science and STI to provide students with a firm grounding from which to think about a range of critical issues at the nexus of politics and STI. By the end of the course, students will: have developed a broad understanding of the relationship between politics and STI; be able to assess and apply different theories to specific issues related to STI; be able to identify and develop their own inquiries into the core debates surround the politics of STI; and have developed skills needed to undertake advanced social science research.

The course requires students to be committed to learning and to come prepared to class, having read the assigned texts in advance. The course will be taught over 15 classes and students are expected to attend all sessions. Most classes will be divided into a lecture and a seminar. The course instructor will lead the lecture at the beginning of each class, after which we will turn to a seminar-based discussion where students will present and discuss the assigned reading for that day.

Related DP: STI1

2. Course Outline :

The detailed course outline will be presented during the first class. The course is roughly divided into three modules. In the first, we will examine the core theories of International Relations, including Realism, Liberalism, and Constructivism, and their treatment of STI. In the second phase, we examine core theories of domestic politics including in the defense sector and their treatment of STI. In the third phase, we will apply theory to current affairs in STI, including the contemporary yet enduring issues of climate change (e.g., renewable energy technologies), pandemics (e.g., Covid-19), and paradigm shifts (e.g., artificial intelligence). On occasion, outside expert speakers may be brought in to provide guest lectures on specific topics of interest.

3. Grading :

- Participation (20%). All students are expected to actively participate in class discussion and attendance will be taken. Participation includes but is not limited to asking questions of the instructor and of other students, as well as offering descriptive and/or analytical feedback on readings and classroom discussion. Additionally, each student will serve as a Presenter and as a Discussant for at least one of the weekly reading assignments during the semester. The role of the Presenter is to critically review the weekly reading in a concise manner while the role of the Discussant is to critique the Presenter's review, pose questions to the Presenter, and facilitate discussion with the class.
- Presentations (20%). Students are required to present both the final paper topics and the results of their final term papers. The first presentation introducing the topic will be approximately 10 minutes, followed by 15 minutes of discussion and feedback. The second presentation on the results of the final paper research will be approximately 15 minutes, followed by 15 minutes Q&A. Students will be assessed on the professionalism and content of their presentations.
- Final Term Paper (60%). Students will write a final term paper on a topic of their choosing and in consultation with the course instructor. Papers will be approximately 3,000 words (6,000 words maximum) in length. The term paper is a research essay on a topic related to the politics of innovation broadly defined. Essays will be graded on: quality of writing (precise and concise research question, argument, and evidence to answer the question in support of the argument); demonstrated applicability of theory and concepts covered in the course or beyond to the research question etc.; quality of analysis (persuasiveness of supporting evidence, consideration of counterarguments, etc.), and appropriate reference to academic and policy literature. Term papers are designed to contribute to the learning objectives of understanding theories in relation to specific issues in politics and innovation while developing one's own inquiries into the core debates in the discipline and developing skills necessary to undertake social science research.

Extra credit can be earned by publishing in newspapers, magazines, or journals on a topic related to the politics of STI. Explanation of this will be provide on the first day of class.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

There are no required textbooks for this course. The instructor will provide all reading materials.

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Disclaimer: This syllabus is subject to change. This syllabus is not a static, fixed document.

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI7031J
授業名	ビブリオメトリクスとその応用
担当者	HAYASHI Takayuki／林 隆之
メールアドレス	ta-hayashi@grips.ac.jp
学期／曜日／時限	Spring 春／Fri 金／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

[本授業の概要]

科学技術政策の推進や評価のためにはエビデンスに基づいた分析が求められる。分析の中でも、論文や特許などの情報を対象にして科学技術活動やその成果を分析する方法が、ビブリオメトリクス（計量書誌学）またはサイエントメトリクス（科学計量学）と呼ばれる方法である。1960年代以降、分析のためのデータインフラが形成されるとともに、様々な分析手法が開発されてきた。さらに近年はウェブサイトやSNSにおける情報を含めた新たな指標や分析方法も開発されている。これらは、国の科学技術の生産性の分析、大学や研究機関の特徴把握や評価、研究の最前線のテーマの理解、産学連携の測定などに使用されている。本コースでは、学生はビブリオメトリクスの知識とスキルを習得し、自ら論文・特許のデータを用いた分析を行えるようになることが期待される。

[到達目標]

- (1) ビブリオメトリクスの概念と方法を最新情報を含めて理解し、自ら説明することができる。
- (2) 関心のある分野について複合的なビブリオメトリクス分析を行うことができる。

[関連するディプロマ・ポリシー]

特に強く関連するDP：

- ①科学技術イノベーションとその政策に関する高度な学術的かつ学際的な専門知識を有し、それらを政策課題に対して複合的に応用することができる能力
- ③政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、過去の学術的知見を踏まえて問題を設定し、仮説を構築し、科学技術イノベーションに特有なデータを含めて多様な定量的・定性的データ等を活用して独自の分析を行い、それらを研究論文や政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

2. 各授業のテーマ：

以下の授業計画で行う。学生の興味関心や基礎能力により一部を変更することもありうる。

1. はじめに：ビブリオメトリクスの歴史と概要
2. 論文データベースの使用方法
3. 科学研究の生産性の分析（1）：基礎的な指標と国の比較
4. 科学研究の生産性の分析（2）：大学の分析
5. 学生によるプレゼンテーション（1）
6. 引用分析
7. 書誌結合、共引用、科学の地図
8. 語の分析、共語分析
9. 共著分析
10. 研究資金と研究成果の関係の分析：謝辞
11. 人文・社会科学の分析
12. オルトメトリクス(SNS等を対象とする分析)、学際性の分析
- 13.特許の分析とサイエンスリンケージ（1）（外部講師：文部科学省科学技術・学術政策研究所 富澤宏之・総括主任研究官）
- 14.特許の分析とサイエンスリンケージ（2）（外部講師：文部科学省科学技術・学術政策研究所 富澤宏之・総括主任研究官）
- 15.学生によるプレゼンテーション（2）

[授業外学修]

講義の各回について、事前学修として関係する参考文献を確認しておくこと。

事後学修として、講義内容を復習するとともに、講義で用いられた資料・参考文献を確認しておくこと。

第5回、15回は学生発表を行うため、それまでの授業内容を復習した上で、指示する内容について発表資料の準備を事前に行っておくこと。

3. 成績の評価方法：

中間プレゼンテーションとレポート (50%)、最終プレゼンテーションとレポート (50%)

[成績評価基準]

A: 到達目標を高い水準で達成している

B: 到達目標を満足できる水準で達成している

C: 到達目標を概ね達成している

D: 到達目標を最低限の水準で達成している

E: 到達目標を達成していない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

なし（各回で、授業資料を配付）

4-2:その他

藤垣裕子, 平川秀幸, 富沢宏之, 調麻佐志, 林隆之, 牧野淳一郎, 2004. 研究評価・科学論のための科学計量学入門, 丸善.

Glanzel, W. Moed, H.F., Schmoch, U., Thelwall, M. (eds.), 2019. *Springer Handbook of Science and Technology Indicators*. Springer.

Moed, H.F., Glanzel, W., Schmoch U., 2004. *Handbook of Quantitative Science and Technology Research: The Use of Publication and Patent*. Kluwer Academic Publishers.

Andres, A., 2009. *Measuring Academic Research: How to Undertake a Bibliometric Study*. Elsevier Science. Chandos Publishing.

Cronin, B., Sugimoto, C.R. (eds.), 2014. *Beyond Bibliometrics: Harnessing Multidimensional Indicators of Scholarly Impact*, The MIT Press.

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

MS Excel、VOSviewer、R -Bibliometrixパッケージ、KHcoder

関心のある人はPythonを利用。

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

各自のパソコンが必要。エクセルは必須。

できればWindowsが望ましいが、Macでも可。Macでは授業にて紹介する一部のフリーソフトウェアが動かない場合があるが、代替的な分析方法も紹介する。

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI7061E
Course Name	Policy for Higher Education and University-Industry Cooperation
Instructor	SUMIKURA Koichi／隅藏 康一
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Wed 水／5
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Academic or scientific research in universities and public research institutions (PRIs) can be a source of innovation in industry if properly managed. In order to promote science-driven innovation, an intermediate organization to link academic research with industrial development of novel products and services is required. This lecture reviews how a policy for promotion of university-industry cooperation was designed in Japan and other countries, by indicating concrete successful or failure cases.

[Course Goals]

Students can understand how a policy for promotion of university-industry cooperation was designed in Japan and other countries.

[Related Diploma Policy (DP)]

Science, Technology and Innovation (STI) Policy Program (Master's Program) Highly related DPs:

(1) Academic knowledge of STI and its policy, and the ability to apply this knowledge to policy issues. Partially related DPs: (2) Knowledge of public policy and the ability to view and analyze STI policy in the context of public policy. (3) The ability to formulate a problem, construct a hypothesis, analyze it using quantitative and qualitative data, summarize it as a policy proposal, and present and communicate it to policy makers based on a scientific approach to STI policy issues (4) Understanding of the practical aspects of STI policy formation and implementation, and the ability to make practical policy recommendations that bridge theory and practice. (5) Respect for different values and systems in a global society, and the ability to understand and communicate STI policy within that context, and to be aware of one's role as a leader and follower.

科学技術イノベーション政策プログラム

特に強く関係するDP:

(1) 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力

一部関連するDP:

(2) 公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力

(3) 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

(4) 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

(5) グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. Course Outline :

1. Introduction: types of university-industry cooperation (UIC); History of UIC in Japan.
2. Issues on Ph.D. holders.
3. Japanese Science and Technology Indicators; Intellectual Property Strategic Program; Science, Technology and Innovation (STI) Basic Law and STI Basic Plan.
4. University patents; effects of corporatization of national universities in Japan.
5. Bayh-Dole Act in US; Tech transfer activity by Niels Reimers.
6. Public universities and regional growth: insights from the University of California.
7. Economic contribution of university inventions.
8. University start-ups and start-up ecosystem.
9. University Research Administrators (URA); UIC statistics in Japan.
10. Conflict of interest; Research integrity.
11. Japan's university fund.
12. Pharmaceutical innovation from academia.
13. Management of research data, information and secrecy in laboratory.
14. Prior academic papers on UIC.
15. Wrap-up, conclusion.

[Out-of-class Learning]

Students have to read the materials suggested in the class and grasp the contents. Students have to prepare for in-class presentation.

3. Grading :

The following points will be evaluated.

- Participation in discussion in classes: 50%
- Presentation & Submission of presentation materials: 50%

[Grading Criteria]

Student's achievement of the Course Goals is:

Outstanding: A

Superior: B

Satisfactory: C

Minimum acceptable: D

Below the acceptable level: E

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:Required

"Public universities and regional growth: insights from the University of California"

(Electric books can be found at GRIPS Library.)

Koichi Sumikura (2022) "Mission-oriented Innovation Policies in Japan: focusing on function of intellectual property and technology transfer," Asian Research Policy, Vol.13, December 2022, 84-91.

[https://www.kistep.re.kr/arpIssue.es?](https://www.kistep.re.kr/arpIssue.es?act=content_view&list_no=215&act=content_view&mid=a20802000000)

[act=content_view&list_no=215&act=content_view&mid=a20802000000](https://www.kistep.re.kr/arpIssue.es?act=content_view&list_no=215&act=content_view&mid=a20802000000)

4-2:Others

The Emerald Handbook of Research Management and Administration Around the World

<https://www.emerald.com/insight/publication/doi/10.1108/9781803827018>

5. Software Used in Lectures :

6 . Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7 . Note :

Each student has to make at least two presentations in the class.

Back

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI7171E
Course Name	Energy and Environmental Science&Technology
Instructor	TAKAHASHI Kazuaki and Shibata Yoshiaki／高橋 一彰, 柴田 善朗
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Fri 金／3
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Energy is essential for living standards in the modern economy. Energy policy should take balance between energy security, economy and environmental concern for deploying variable energy resources. Science and technology are a crucial element in securing energy resources. More recently, innovation in energy and environmental technologies has also been central to meeting climate change targets while supporting economic and energy security goals.

The main aim of the course is to understand the history and current situation of science and technology in the energy field, and to discuss how they can be used and developed to meet energy and environmental policy objectives.

This course is developed jointly with the Institute of Energy Economics, Japan (IEEJ). It also provides lectures on various energy technologies by the experts of relevant research institutes.

This course is related to the following SDGs:

7 (Energy), 8 (Economic Growth), 13 (Climate Action)

[Related Diploma Policy (DP)]

科学技術イノベーション政策プログラム ①②③④⑤

[Course Goals]

Students can:

- (1) identify the current situations and challenges of science and technology in the energy field
- (2) discuss the challenges and potential solutions to deploy/develop science and technology in the energy field
- (3) raise the issues that need to be studied in more detail to get meaningful policy framework to energy and environmental policy objectives

2. Course Outline :

Week 1	Introduction (Takahashi, Shibata)	Basic framework of energy policy (3E) and relationship between energy policy and technology development.
Week 2	Energy and Environmental Technologies (Takahashi, Shibata)	Basic framework of energy and environmental technology development in Japan
Week 3	Energy Technology Policy in Japan (Nei)	Overview of energy-related technology development policies in Japan
Week 4	Energy and Environmental Technology Development	Major technology development after oil crisis in Japan

Week 5	Nuclear Reactor Technologies	History and roadmap of nuclear power reactor development in Japan (an expert will be invited as a speaker)
Week 6	Science & Technology-related Policies	Overview of science and technology policy in the energy and environment field in Japan (an expert will be invited as a speaker)
Week 7	International Activities (Shibata)	Major energy and environmental technology development plan in the world and latest movement under the energy transition.
Week 8	Resource Development Technology mainly in the Field of Oil & Gas	Technologies in oil and gas upstream industry (an expert will be invited as a speaker)
Week 9	Energy Conservation Technology	R&D activities in Japan for energy conservation technology to build a sustainable society (an expert will be invited as a speaker)
Week10	Renewable Energy Technology	R&D activities in Japan for renewable energy technology to build a sustainable society (an expert will be invited as a speaker)
Week11	Radioactive Waste Management and Back End Fuel Cycle Technology	Overview of the back-end of the nuclear fuel cycle (an expert will be invited as a speaker)
Week12	Distributed Energy	Distributed energy resources and their management (an expert will be invited as a speaker)
Week13	Future Prospect (Shibata)	Current challenges and future perspectives in energy and environmental science and technology
Week14	Field Trip (Takahashi, Shibata)	Site visit to learn more about technology for natural resource development including CCS (Carbon dioxide Capture and Storage) , carbon recycling and hydrogen The field trip is arranged together with the class of "Energy Security".
Week15	Discussion (Takahashi, Shibata)	Comprehensive discussion of energy policy based on what has been learnt in this course

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students.

※Term papers should be handed in after Week 7 and after the last class.

[Out-of-class Learning]

Students are expected to be active participants and to develop a mutual understanding of each country's situation through discussion.

Students should review the contents of the lecture, make comments for each day and prepare for discussion/term paper.

3. Grading :

Two term papers 60%, Comment sheet for each day 40%

A: Acquire sufficient knowledge of science and technology in the energy field and can identify challenges and propose solutions to energy and environmental policy objectives

B: Acquire basic knowledge of science and technology in the energy field and can identify challenges and propose solutions to energy and environmental policy objectives

C: Acquire basic knowledge of science and technology in the energy field and can identify challenges to energy and environmental policy objectives

D: Acquire basic knowledge of science and technology in the energy field

E: Not acquire basic knowledge of science and technology in the energy field and cannot explain what it is.

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:必携のテキスト/Required

4-2:その他/Others

1. Energy Technology Perspectives 2024
2. World Energy Outlook 2024, International Energy Agency(IEA)
3. White Paper of Energy in Japan 2024 (Japanese)
<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2024/pdf/>
4. 6th Strategic Energy Plan, Government of Japan, 2021
https://www.enecho.meti.go.jp/en/category/others/basic_plan/pdf/6th_outline.pdf

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Back

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI7201J
授業名	科学技術とアントレプレナーシップ
担当者	SUMIKURA Koichi, MAKI Kanetaka／隅藏 康一, 牧 兼充
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Wed 水／6
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

〔本授業の概要〕

大学や公的研究機関で生み出された科学技術研究の成果は、新たなビジネス創出の礎となります。

この講義では、（1）知識はどのように生み出されるか、（2）知識はどのように商業化されるか、について、定量的データによるエビデンスを含む学術論文に基づいて議論します。

この講義では、科学技術イノベーション研究の代表的な学術論文を読みこなす力をつけることを目的としています。

原則として、1つの講義につき3つの論文が提示され、受講者はそのうちの指定された1つを読んで概要をまとめてくることが求められます。

受講者は、指定された論文について、内容解説のプレゼンテーションを行うことが求められます。

また、受講者は、それとは別に、自身で学術論文を選び、内容解説のプレゼンテーションを行うことが求められます。

〔到達目標〕

科学技術とアントレプレナーシップに関する論文を読み解く力をつける。特に、定量的な分析を行ってその結果を記載している論文を読み、的確に理解する力をつける。

〔関連するディプロマ・ポリシー〕

科学技術イノベーション政策プログラム（博士）

特に強く関係するDP：

③科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、過去の学術的知見を踏まえて問題を設定し、仮説を構築し、科学技術イノベーションに特有なデータを含めて多様な定量的・定性的データ等を活用して独自の分析を行い、それらを研究論文や政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションでできる能力

関係するDP:

①科学技術イノベーションとその政策に関する高度な学術的かつ学際的な専門知識を有し、それらを政策課題に対して複合的に応用することができる能力

一部関係するDP:

④科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する高度な理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

⑤グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

1. Class 01 講義の全体像、科学的思考法の基礎
2. Class 02 実証分析について、論文の読み方について
3. Class 03 イノベーションは誰が担うのか？：大企業vs小企業
4. Class 04 起業家はどこから生まれるのか？
5. Class 05 なぜ科学技術の値は特定の地域に集積するのか？
6. Class 06 スター・サイエンティストはなぜ重要なのか？
7. Class 07 なぜアントレプレナーの活動は特定の地域に集積するのか？

8. Class 08 アントレプレナーの活動を促進するものは何か？
9. Class 09 ベンチャー・キャピタルはなぜ重要か？
10. Class 10 インセンティブはイノベーションにどの程度重要なのか？
11. Class 11 大学発ベンチャーを育む仕組み
12. Class 12 研究者のキャリアとインセンティブ
13. 受講者プレゼンテーション（１）
14. 受講者プレゼンテーション（２）
15. まとめ：スター・サイエンティスト研究と政策への社会実装

[授業外学修]

その週の課題となっている１つの論文を読み、サマリーシートにまとめる。
発表者として割り当てられている場合は、その発表の準備をする。

３．成績の評価方法：

講義における議論への貢献: 25%
課題となった論文のまとめの提出: 25%
担当となった論文についての発表: 25%
自身で選んだ論文についての発表: 25%

[成績評価基準]

- A: 到達目標について高い水準で達成している
- B: 到達目標について満足できる水準で達成している
- C: 到達目標について概ね達成している
- D: 到達目標について最低限の水準は達成している
- E: 到達目標について達成できていない

４．テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

講義では以下の学術論文を扱う予定です。（講義で配布します）

4-1:必携のテキスト

第3回: イノベーションは誰が担うのか?: 大企業 vs 小企業

- J. Acs, Audretsch, D.B. 1988. Innovation in large and small firms: an empirical analysis. The American economic review 678-690.
- Haltiwanger, et al. 2013. Who creates jobs? Small versus large versus young. Review of Economics and Statistics. 95(2) 347-361.
- Guzman, Stern, S. 2015. Nowcasting and Placecasting: Entrepreneurial Quality and Performance. University of Chicago Press.

第4回: 起業家はどこから生まれるのか?

- Giannetti, Simonov, A. 2009. Social interactions and entrepreneurial activity. Journal of Economics & Management Strategy. 18(3) 665-709.
- Lerner, Malmendier, U. 2013. With a little help from my (random) friends: Success and failure in post-business school entrepreneurship. Review of Financial Studies hht024.
- Azoulay, P., C. C. Liu, and T. E. Stuart. 2017. Social influence given (partially) deliberate matching: Career imprints in the creation of academic entrepreneurs. American journal of sociology 122:1223-1271.

第5回: なぜ科学技術の知は特定の地域に集積するのか?

- G. Zucker, Darby, M.R., Brewer, M.B. 1998. Intellectual human capital and the birth of US biotechnology enterprises. Am Econ Rev. 88(1) 290-306.

- G. Zucker, Darby, M.R., Armstrong, J.S. 2002. Commercializing knowledge: University science, knowledge capture, and firm performance in biotechnology. *Management Science*. 48(1) 138-153.
- G. Zucker, Darby, M.R. 2001. Capturing Technological Opportunity Via Japan's Star Scientists: Evidence from Japanese Firms' Biotech Patents and Products. *The Journal of Technology Transfer*. 26(1/2) 37-58.

第6回: スター・サイエンティストはなぜ重要なのか?

- Azoulay, Graff Zivin, J., Wang, J. 2010. Superstar extinction. *Quarterly Journal of Economics*. 25 549-589.
- Oettl. 2012. Reconceptualizing stars: Scientist helpfulness and peer performance. *Management Science*. 58(6) 1122-1140.
- Azoulay, Pierre, Christian Fons-Rosen, and Joshua S. Graff Zivin. "Does science advance one funeral at a time?." *American Economic Review* 109.8 (2019): 2889-2920.

第7回: なぜアントレプレナーの活動は特定の地域に集積するのか?

- Agrawal, Cockburn, I., Galasso, A., Oettl, A. 2014. Why are some regions more innovative than others? The role of small firms in the presence of large labs. *Journal of Urban Economics*. 81 149-165.
- Fallick, B., Fleischman, C.A., Rebitzer, J.B. 2006. Job-hopping in Silicon Valley: some evidence concerning the microfoundations of a high-technology cluster. *The Review of Economics and Statistics*. 88(3) 472-481.
- Casper. 2007. How do technology clusters emerge and become sustainable?: Social network formation and inter-firm mobility within the San Diego biotechnology cluster. *Research Policy*. 36(4) 438-455.

第8回: アントレプレナーの活動を促進するものは何か?

- Yu, Sandy. "How do accelerators impact the performance of high-technology ventures?." *Management Science* (2019).
- K. Agrawal, Catalini, C., Goldfarb, A. 2011. The geography of crowdfunding. *National bureau of economic research*.
- Di Gregorio, Shane, S. 2003. Why do some universities generate more start-ups than others? *Research Policy*. 32(2) 209-227.

第9回: ベンチャー・キャピタルはなぜ重要か?

- N. Kaplan, Sensoy, B.A., Strömberg, P. 2009. Should investors bet on the jockey or the horse? Evidence from the evolution of firms from early business plans to public companies. *The Journal of Finance*. 64(1) 75-115.
- Hellmann, Schure, P., Vo, D. 2013. Angels and Venture Capitalists: Complements or Substitutes? *NBER Working Paper*.
- Ewens, M., Nanda, R., Rhodes-Kropf M. 2018. Cost of Experimentation and the Evolution of Venture Capital. *NBER WORKING PAPER* 24523.

第10回: インセンティブはイノベーションにどの程度重要なのか?

- Azoulay, Graff Zivin, J.S., Manso, G. 2011. Incentives and creativity: evidence from the academic life sciences. *The RAND Journal of Economics*. 42(3) 527-554.
- Ederer, F., and G. Manso. 2013. Is pay for performance detrimental to innovation? *Management Science* 59:1496-1513.
- Graff-Zivin, Joshua, and Elizabeth Lyons. The Effects of Prize Structures on Innovative Performance. No. w26737. *National Bureau of Economic Research*, 2020

第11回: 大学発ベンチャーを育む仕組み

- Shane, Stuart, T. 2002. Organizational endowments and the performance of university start-ups. Management Science. 48(1) 154-170.
- Lerner. 1996. The government as venture capitalist: The long-run effects of the SBIR program. National Bureau of Economic Research.
- Howell, S. T. 2017. Financing innovation: evidence from R&D grants. American Economic Review 107:1136-1164.

第12回: 研究者のキャリアとインセンティブ

- Thursby, Fuller, A.W., Thursby, M. 2009. US faculty patenting: Inside and outside the university. Research Policy. 38(1) 14-25.
- Roach, Sauermann, H. 2010. A taste for science? PhD scientists' academic orientation and self-selection into research careers in industry. Research Policy. 39(3) 422-434.
- Singh, J. and L. Fleming (2010) "Lone inventors as sources of breakthroughs: myth or reality?", Management Science, Vol.56, No.1, pp.41-56.

4-2:その他

森田果『実証分析入門』（日本評論社）

牧兼充『イノベーターのためのサイエンスとテクノロジーの経営学』（東洋経済新報社）

牧兼充『科学的思考トレーニング』（PHPビジネス新書）

5. 授業で使用するソフトウェアについて :

6. 聴講の可否 :

可

7. 履修上の注意 :

イントロダクションが終了した後の10回の講義において、受講者は、指定された論文を読んで、その内容を、指定されたフォーマットにまとめ、提出することが求められます。それにより、論文を読む力を身に付けます。

戻る

開講年度（4月-3月）	2025
科目番号	STI7271J
授業名	知的財産マネジメント I
担当者	SUMIKURA Koichi／隅藏 康一
メールアドレス	
学期／曜日／時限	Spring 春／Sat 土／3 4 5
単位数	2

1. 本授業の概要及び到達目標：

【本授業の概要】

知的財産保護法制、産官学それぞれにおける知的財産戦略、ならびに産学連携施策等を主要なテーマとする、オープンなセミナーに参加し、多様なバックグラウンドの講師や参加者とともに議論し相互に学びあう。

【到達目標】

科学技術イノベーション政策、ならびにナショナル・イノベーション・システムにおける知的財産の役割について理解し、その戦略的活用のための知見を修得する。

【関連するディプロマ・ポリシー】

[科学技術イノベーション政策プログラム（博士）]

特に強く関連するDP：

① 科学技術イノベーションとその政策に関する高度な学術的かつ学際的な専門知識を有し、それらを政策課題に対して複合的に応用することができる能力

一部関係するDP：

② 公共政策に係る幅広い知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、多角的な視野から分析ができる能力

③ 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、過去の学術的知見を踏まえて問題を設定し、仮説を構築し、科学技術イノベーションに特有なデータを含めて多様な定量的・定性的データ等を活用して独自の分析を行い、それらを研究論文や政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力

④ 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する高度な理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力

⑤ グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーとしての役割を自覚して活躍できる能力

2. 各授業のテーマ：

4/26（土）13:00-18:30 講義ならびに、知的財産マネジメント研究会への参加

5/17（土）13:00-18:30 講義ならびに、知的財産マネジメント研究会への参加

6/21（土）13:00-18:30 講義ならびに、知的財産マネジメント研究会への参加

7/12（土）15:00-21:00 講義ならびに、知的財産マネジメント研究会への参加

※知的財産マネジメント研究会 <https://www.smips.jp/>には、学外の一般参加者の方々とともにご参加いただきます。

※詳細な内容については、講義内で連絡いたします。

【授業外学修】

講義で示された参考資料・参照先ウェブサイトについて各自で参照し、理解を深めること。

3. 成績の評価方法：

講義・セミナーにおける議論への貢献 50%
レポートの提出あるいはプレゼンテーション 50%

[成績評価基準]

Pass: 到達目標について達成している Fail: 到達目標について達成できていない

4. テキスト、参考文献等：(4-1:必携のテキスト 4-2:その他)

4-1:必携のテキスト

Koichi Sumikura (2022) "Mission-oriented Innovation Policies in Japan: focusing on function of intellectual property and technology transfer," Asian Research Policy, Vol.13, December 2022, 84-91.
https://www.kistep.re.kr/arpIssue.es?act=content_view&list_no=215&act=content_view&mid=a20802000000

4-2:その他

講義内で指示する

5. 授業で使用するソフトウェアについて：

6. 聴講の可否：

可

7. 履修上の注意：

この講義は、科学技術イノベーション政策プログラムの修士課程（2年制）あるいは博士課程の方々については、2年目以降の方々が受講することを想定しています。

科学技術イノベーション政策プログラムの修士課程（2年制）あるいは博士課程の、1年目の方々は、土曜日に開講される他の講義を受講してください。

本学の修士課程を修了後に博士課程に進学した方などで、すでにそれらの科目の単位を取得済みの場合は、その限りではありません。

科学技術イノベーション政策プログラム以外のプログラムの方々は、1年目から受講していただくことが可能です。

戻る

Academic Year (April - March of the next year)	2025
Course Number	STI8051E
Course Name	Energy Security
Instructor	NEI Hisanori, TAKAHASHI Kazuaki and KUTANI Ichiro／根井 寿規, 高橋 一彰, 久谷 一朗
Email Address	
Term／Day／Period	Spring 春／Fri 金／2
Credits	2

1. Course Description and the Learning Objectives :

[Course Description]

Energy is essential for living standards in the modern economy. Each country conducts its own energy policy for securing energy supply sufficient to increasing demand by the economic growth, maintaining the cost within affordable levels and considering environmental concern simultaneously.

This course aims to deepen the knowledge of energy security and how to review energy security policy measures to develop policy recommendations to improve security conditions. In the first half of the course, students will understand key issues related to energy security based on the definition by IEA (International Energy Agency). In the second half, students will learn how to make a preliminary assessment of energy security, particularly in developing countries.

This course is developed jointly with the Institute of Energy Economics, Japan (IEEJ).

This course is related to the following SDGs:

7 (Energy), 8 (Economic Growth), 13 (Climate Action)

[Related Diploma Policy (DP)]

Science, Technology and Innovation Policy Program (STI)①②③④⑤

科学技術イノベーション政策プログラム（博士）①②③④⑤

[Course Goals]

Students can:

- (1) discuss the cause and potential solutions about the conflicts in the Middle East and be aware of the meanings of the global energy market by those conflicts
- (2) discuss the challenges and potential solutions to improve energy security in developing countries
- (3) raise the issues that need to be studied in more detail to get meaningful policy framework for improving energy security

2. Course Outline :

Week 1	Introduction (Nei, Kutani)	Outline of the course, basic concept of energy security
Week 2	Outline of energy policy (Takahashi)	Outline of energy policy including trade-off relationship between energy security, economic way of supply and environmental issues
Week 3	Oil supply security and Middle East (Nei)	History of crude oil supply after the world war II, the way to overcome supply interruption occurred in the era of oil crisis
Week 4	Middle East (Dr. Shigeto Kondo(IEEJ), Nei)	Turmoil in the Middle East & North Africa (MENA) and its affection over energy security, geopolitical risk factors, case study for reducing the risk in the region

Week 5	Middle East (Dr. Shigeto Kondo(IEEJ), Nei)	Presentation based on a brief analysis using data on the economic situation of the MENA countries, etc.
Week 6	Counter measures for short term energy security (Nei)	Management of emergency oil response systems, security management of the choke points, etc.
Week 7	Energy security in non-oil fuel sources (Nei)	Energy supply security issues regarding coal, natural gas and renewables
Week 8	Energy security in developing countries (Kutani)	Fast growing demand and increasing security risk, investment/subsidy
Week 9	Energy security in developing countries (Kutani)	Environmental risks and renewable energy (stabilization, social acceptance)
Week10	Assessment of energy security status (Kutani)	Definition of energy security and security index, international energy governance
Week11	Nuclear Security (Nei)	Cause and consequences of TEPCO Fukushima Nuclear Accident, etc.
Week12	Exercise on Energy security (Kutani, Nei)	Group discussion on energy security risks of a selected country based on statistical data
Week13	Exercise on Energy security (Kutani, Nei)	Group presentation on energy security risks of a selected country including policy recommendation
Week14	Long term energy supply security	Site visit for learning the risk of investment over resource development The field trip is arranged together with the class of " Energy and Environmental Science & Technology ".
Week15	Summary (Nei, Kutani)	Summary discussion of the course and further issues to research

※Contents of the Course might be changed due to inquiries or expectations of students.

[Out-of-class Learning]

Students are expected to be active participants in class and to develop a mutual understanding of each country's situation through discussion.

Students should read the materials distributed via teams before the class to grasp the outline and questions to ask in class.

After class, students should review the contents of the lecture and prepare presentations and discussion in the class.

3. Grading :

Two presentations (one for middle east and the other for the security of developing country by the group discussion) (80%), Discussion in the class (20%)

A: Acquire sufficient knowledge about energy security and can identify challenges and propose solutions to improve energy security

B: Acquire basic knowledge about energy security and can identify challenges and propose solutions to improve energy security

C: Acquire basic knowledge about energy security and can identify challenges regarding energy security

D: Acquire basic knowledge about energy security

E: Not acquire basic knowledge about energy security and cannot explain what it is

4. Textbooks : (4-1:Required 4-2:Others)

4-1:必携のテキスト/Required

4-2:その他/Others

1. World Energy Outlook 2024, IEA
2. Energy Supply Security: The Emergency Response of IEA Countries 2014, IEA
3. Energy and Security: Strategies for a World in Transition, Jan H. Kalicki/David L. Goldwyn
4. Energy Security in the Era of Climate Change: The Asia-Pacific Experience, Luca Anceschi/Jonathan Symons

5. Software Used in Lectures :

6. Auditing ; Allow or Not Allow :

Allow

7. Note :

Students are expected to take the class "Outline of Energy Policy" and/or "Energy and Environmental Science and Technology" in advance.

Students are highly recommended to take the class "Energy Data Analysis" for making exercises more effective.

Back
